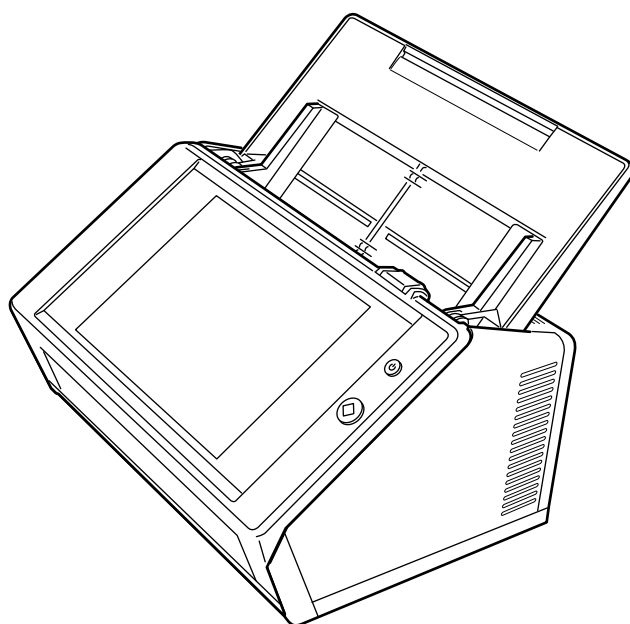


RICOH

N7100E

オペレーターガイド



目次

はじめに	15
■ マニュアル	16
■ 本書の読み方	17
■ 注意事項	20
第 1 章 概要	21
1.1 スキャナの特長	22
■ 読み取った画像の簡単活用	22
■ 簡単設定・簡単管理	23
■ 高度なセキュリティ対策	25
1.2 各部の名称と働き	26
■ 前面	26
■ 背面	27
■ 取り外し可能部品	28
1.3 ログイン別操作一覧	29
1.3.1 管理者権限でできる操作	30
1.3.2 利用者権限でできる操作	34
1.4 機能別の設定項目（管理者）	35
1.5 動作環境	40
1.5.1 Admin Tool・User Editor の動作環境	40
1.5.2 連携するサーバの動作環境	42
1.5.3 使用するポート番号一覧	47
第 2 章 スキャナの基本的な使い方	49
2.1 電源の投入 / 切断	50
2.1.1 電源を投入する	50
2.1.2 電源を切断する	51
2.2 スキャナのボタンの使い方	52
■ 電源ボタンの使い方	52
■ Scan ボタンの使い方	54
2.3 タッチパネルの使い方	55

2.4	ソフトキーボードの使い方	56
■	ソフトキーボードの表示 / 非表示の方法	56
■	ソフトキーボードのキーの使い方	57
■	文字入力	57
第 3 章	ソフトウェアのインストール	58
3.1	Internet Explorer を設定する	59
■	Internet Explorer のキャッシュを確認する	59
■	Internet Explorer の信頼済みサイトを設定する	60
3.2	ソフトウェアのダウンロード画面を表示する	61
3.3	Admin Tool をインストールする	63
3.4	Admin Tool をアンインストールする	65
3.5	Central Admin Console・Central Admin Server をインストールする	66
第 4 章	管理者の操作（タッチパネル・Admin Tool）	67
4.1	画面	68
4.1.1	タッチパネル（管理者）の画面	68
4.1.2	Admin Tool の画面	69
4.2	ログインする	71
4.2.1	管理者がスキャナからログインする	71
■	自動ログインしない場合	71
■	自動ログインする場合	72
4.2.2	管理者が Admin Tool からログインする	73
4.3	動作環境を設定する	76
4.3.1	動作モードを設定する	76
4.3.2	インストールウィザードで環境設定をする	77
4.4	システムを設定する	79
4.4.1	スキャナ名を設定する	79
4.4.2	タイムゾーンを設定する	81
4.4.3	日時を設定する	82
4.4.4	キーボードを設定する	83
4.4.5	証明書を管理する	84
■	証明書をインポートする	84
■	証明書を削除する	85

4.5	読み取りに関する設定をする	86
4.5.1	マルチフィードの検出条件を設定する	86
4.5.2	読み取り開始位置を調整する（オフセット / 倍率）	88
4.5.3	スキャナの詳細設定をする	89
4.6	ログインに関する設定をする	90
4.6.1	ログイン設定をする	90
4.6.2	ログイン設定（詳細）をする	93
4.6.3	省電力モード・自動ログアウトを設定する	95
4.6.4	管理者パスワードを変更する	97
4.6.5	LAN Manager 認証レベルを設定する	98
4.7	ネットワークを設定する	99
4.7.1	IP アドレス /DHCP を設定する	99
4.7.2	DNS サーバを設定する	101
4.7.3	WINS サーバを設定する	102
4.7.4	NTP サーバを設定する	103
4.7.5	プロキシサーバを設定する	104
4.7.6	SNMP 連携を設定する	105
4.7.7	SMB 1.0/CIFS を設定する	106
4.7.8	ネットワークの詳細設定をする	107
4.8	ネットワーク状態を確認する	108
4.8.1	Ping でネットワークへの接続状態を確認する	108
4.8.2	ネットワークの動作状態を確認する	109
4.9	ネットワーク管理を設定する	110
4.9.1	接続設定をする	110
4.9.2	Central Admin Server を設定する	111
4.9.3	Central Admin Server（詳細）を設定する	113
4.10	認証サーバを設定する	114
4.10.1	ログイン LDAP サーバを設定する	114
■	LDAP 検索の対象	116
4.10.2	メールアドレス LDAP サーバを設定する	120
4.10.3	スキーマを設定する	121
4.10.4	LDAP 検索条件を設定する	122
4.11	メールを設定する	124
4.11.1	SMTP サーバを設定する	124
4.11.2	SMTP サーバ（拡張）を設定する	125
4.11.3	メール送信時の動作を設定する	126
4.11.4	添付ファイル名を設定する	127

4.12 FAX サーバを設定する	128
4.13 保存先とするフォルダーを設定する	129
4.13.1 ネットワーク共有フォルダーを設定する.....	129
■ ネットワーク共有フォルダーを登録する（ツリー選択）	130
■ ネットワーク共有フォルダーを登録する（直接入力）	132
■ ネットワーク共有フォルダー名を変更する	133
■ ネットワーク共有フォルダーを削除する	133
■ ネットワーク共有フォルダーの詳細情報を参照する	134
4.13.2 FTP フォルダーを設定する.....	135
■ FTP フォルダーを登録する	136
■ FTP フォルダーの設定を変更する	137
■ FTP フォルダーを削除する	137
■ FTP フォルダーの詳細情報を参照する	138
4.13.3 SharePoint フォルダーを設定する.....	139
■ SharePoint フォルダーを登録する	139
■ SharePoint フォルダーの設定を変更する	141
■ SharePoint フォルダーを削除する	141
■ SharePoint フォルダーの詳細情報を参照する	142
4.13.4 保存ファイル名を設定する	143
4.14 ネットワーク共有プリンターを設定する	145
■ プリンタードライバを確認する	148
■ プリンターのプロパティを設定する（プリントサーバ経由の場合）	149
■ プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認する （直接印刷の場合）	151
■ プリンターのドライバ名称を確認する（直接印刷の場合）	151
■ ネットワーク共有プリンターを登録する（ツリー選択） （プリントサーバ経由の場合）	152
■ ネットワーク共有プリンターを登録する（直接入力）	154
■ ネットワーク共有プリンターの設定を変更する	155
■ ネットワーク共有プリンターを削除する	156
■ ネットワーク共有プリンターの詳細情報を参照する	157
4.15 スキャナに関する情報を参照する	158
4.15.1 装置情報を参照する	158
4.15.2 消耗品統計情報を参照する	159
■ 消耗品の状態を参照する	159
■ カウンターをリセットする	159
4.15.3 オプション機能の適用状況を参照する	160
4.15.4 ユーザーログを管理する	161
■ ユーザーログの詳細情報を参照する	161

■ ユーザーログを CSV 形式でダウンロードする	162
■ ユーザーログをすべて削除する	162
4.15.5 システムログを管理する	163
■ システムログの詳細情報を参照する	163
■ システムログを CSV 形式でダウンロードする	164
■ システムログをすべて削除する	164
4.16 資源を管理する	165
4.16.1 ユーザー情報をメンテナンスする	165
■ ユーザー情報を退避する	167
■ ユーザー情報を復元する	168
■ ユーザー情報をすべて削除する	168
4.16.2 システム設定情報の保守を行う	169
■ システム設定情報を CSV 形式で保存する	169
■ システム設定情報を退避する	170
■ システム設定情報を復元する	171
■ 工場出荷時の状態に戻す	172
4.17 保守を行う	173
4.17.1 アップデートする	173
4.17.2 アップデートの公開をチェックする	175
■ 今すぐにアップデートの公開をチェックする	175
■ スキャナの起動時にアップデートの公開をチェックする	176
■ アップデートの公開を管理者にメール通知する	176
4.17.3 Add-in を管理する	177
■ Add-in をインストールする	177
■ Add-in をアンインストールする	178
■ Add-in 情報を参照する	178
■ Add-in 設定情報をアップロードする	179
■ Add-in 実行時のキーボードのアイコン表示を設定する	179
4.17.4 保守情報の採取レベルを設定する	180
4.17.5 保守情報を採取する	181
4.17.6 異常通知先を設定する	182
4.17.7 タッチパネルに表示されている画面を採取する	184
4.18 ジョブを設定する	186
4.18.1 ジョブ設定の流れ	188
4.18.2 ジョブを設定する	190
■ ジョブを追加する	190
■ ジョブを参照して追加する	196
■ ジョブを編集する	196
■ ジョブを削除する	197

■ ジョブを絞り込む	197
■ LDAP 一覧を絞り込む	198
■ 出力ファイルを分割する	199
4.18.3 ジョブメニューを設定する	200
■ ジョブメニューを追加する	200
■ ジョブメニューを参照して追加する	203
■ ジョブメニューを編集する	203
■ ジョブメニューを削除する	204
■ ジョブメニューの詳細設定を参照する	204
4.18.4 ジョブグループを設定する	205
■ ジョブグループを追加する	205
■ ジョブグループを参照して追加する	208
■ ジョブグループを編集する	208
■ ジョブグループを削除する	209
■ ジョブグループの詳細設定を参照する	209
■ ジョブグループに属していないユーザーにジョブメニューを設定する	210
■ LDAP 一覧を絞り込む	211
4.19 メッセージ一覧	212
4.19.1 管理者の画面のメッセージ	213
第 5 章 利用者の操作	214
5.1 原稿をセットする	215
5.1.1 一般的な原稿をセットする	215
5.1.2 A3 キャリアシートを使用した原稿をセットする	219
5.2 タッチパネル（利用者）の画面	222
5.2.1 「メインメニュー」画面	222
5.2.2 「ジョブメニュー」画面	223
5.2.3 利用者ごとの設定	224
5.3 利用者モードでログインする	225
5.4 スキャン画像をメールで送信する	228
5.4.1 メールアドレス台帳を使ってメールアドレスを入力する	231
5.4.2 メールアドレス台帳にメールアドレスを追加する	235
5.4.3 メールアドレス台帳を編集する	239
5.4.4 メールアドレス台帳からメールアドレスを削除する	241
5.5 スキャン画像を FAX で送信する	242
5.5.1 FAX 番号台帳を使って FAX 送信あて先を入力する	244
5.5.2 FAX 番号台帳に FAX 送信あて先を追加する	246
5.5.3 FAX 番号台帳を編集する	248

5.5.4 FAX 番号台帳から FAX 送信あて先を削除する	249
5.6 スキャン画像を印刷する	250
5.6.1 印刷比率を設定する	254
5.6.2 印刷位置を設定する	258
5.6.3 印刷面を設定する	260
5.7 スキャン画像をフォルダーに保存する	261
5.8 読み取り設定をする	264
5.8.1 読み取り設定項目の影響範囲	265
■ 基本	265
■ ファイル	269
■ 画像	274
■ ページ	275
■ 用紙搬送	276
■ バッチ	276
5.8.2 画像タイプを設定する	277
5.8.3 用紙を設定する	278
5.8.4 出力する解像度を設定する	279
5.8.5 A3 キャリアシートを設定する	280
5.8.6 ファイル形式を設定する	281
5.8.7 PDF パスワードロックを設定する	283
5.8.8 スキャン画像を文字が検索できる PDF ファイルにする	284
5.8.9 PDF ファイルにキーワードを設定する	285
5.8.10 圧縮率を設定する	289
5.8.11 二値化の方法を調整する	291
5.8.12 スキャン画像の画質を調整する（トーン調整）	292
5.8.13 スキャン画像を補正する（クリーンアップ）	293
■ 画像タイプが「カラー」および「グレースケール」の場合	293
■ 画像タイプが「二値白黒」の場合	294
5.8.14 スキャン画像の縦筋を軽減する	295
5.8.15 スキャン画像の色情報を取り除く（ドロップアウトカラー）	296
5.8.16 スキャン画像の向きを補正する	297
5.8.17 スキャン画像の縁消しをする（エッジ補正）	299
5.8.18 スキャン画像から白紙ページを削除する	301
5.8.19 マルチフィードを検出する	302
5.8.20 インデックス情報を出力する	303
■ インデックス情報ファイル形式	304
5.9 「表示&編集」画面の表示を設定する	306

5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する	309
5.10.1 スキャン画像のページを並べ替える	310
5.10.2 スキャン画像を確認する	310
■ スキャン画像の表示を変更する	311
5.10.3 スキャン画像を表示&編集詳細画面で編集する	312
■ スキャン画像を回転する	312
■ スキャン画像を削除する	312
5.10.4 スキャン画像を「アシストスキャン」画面で編集する	313
■ スキャン画像の表示を変更する	314
■ スキャン画像を読み取り直後の状態に戻す	314
■ スキャン画像を1つ前の状態に戻す・やり直す	314
■ スキャン画像を回転する	314
■ スキャン画像の画像タイプを変更する	315
5.10.5 セパレータを編集する	315
5.10.6 セパレータを削除する	316
5.10.7 原稿を追加して読み取る	316
5.10.8 キーワードとして設定するマーカー部分の文字列を編集する	317
5.11 送信動作を参照する	318
5.11.1 完了した送信動作（ユーザーログ）の詳細情報を参照する	318
5.11.2 実行中の送信動作の詳細情報を参照する	319
5.12 メンテナンスする	321
5.13 ジョブを実行する	323
5.13.1 「ジョブメッセージ」画面の表示を設定する	325
5.13.2 メール送信 / ファイル保存するときのファイル名を変更する	327
5.13.3 読み取る枚数を確認する	328
5.13.4 パッチコードを使ってファイルを分割する	331
5.14 ユーザーのパスワードを変更する	333
第6章 スキャナのお手入れ	334
6.1 清掃用品および清掃が必要な場所	335
■ 清掃用品	335
■ 清掃箇所と清掃頻度	336
6.2 スキャナ外部を清掃する	337
■ スキャナ本体の清掃	337
■ タッチパネルの清掃	337
6.3 スキャナ内部を清掃する	338
6.4 A3 キャリアシートを清掃する	344

6.5 消耗品を交換する	345
6.5.1 消耗品の型名と交換周期	345
6.5.2 消耗品の状態を確認する	346
6.5.3 ローラーセットを交換する	347
6.5.4 A3 キャリアシートを購入する	354
6.6 読み取りテストをする	355
■ 利用者の場合	355
■ 管理者の場合	357
6.7 タッチパネルを調整する	358
第7章 困ったときには	359
7.1 原稿づまりが発生したときは	360
7.2 ネットワーク通信ができないときには	363
7.2.1 ネットワーク動作テスト	363
■ Ping によるネットワークの基本動作確認	363
■ ネットワーク動作状態の確認	366
■ 時刻同期による NTP サーバ環境の確認	367
■ テストメールによるメールサーバ環境の確認	368
7.2.2 ネットワーク通信トラブル現象ごとの対処方法	369
■ IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない	369
■ ホスト名または FQDN 名指定で、スキャナから各サーバにネットワーク通信ができない	371
■ ドメインに参加できない、またはドメインへのログインに失敗する	371
■ ネットワーク共有プリンターが追加できない	372
■ ネットワーク共有プリンターから印刷できない	373
■ ネットワーク共有フォルダーが追加できない	373
■ ネットワーク共有フォルダーに保存できない	374
7.2.3 Internet Explorer・Admin Tool・Central Admin Server・User Editor からスキャナにアクセスできない場合の対処方法	375
7.3 スキャナの使用中にトラブルが発生したときには	378
■ 電源が入らない	379
■ スキャナが起動しない	379
■ スキャナを初期状態に戻したい	380
■ 読み取りがうまくできない	380
■ 読み取り結果がおかしい	383
■ ログインできない	385
■ 操作がうまくできない	385

7.4 サービスセンターに連絡する前に	387
7.4.1 概要	387
7.4.2 エラー状況	388
■ コンピュータ接続時の問題	388
■ 搬送系の問題	388
■ 原稿と出力結果の送付	389
7.5 ラベルの確認	390
7.6 スキャナを保守に出すときの処置	391
付録 A 読み取りできる原稿	392
A.1 原稿のサイズ	393
A.2 原稿の紙質	394
A.3 セットできる原稿の枚数	396
A.4 穴を開けてはいけない領域・原稿を貼り付けてはいけない領域	397
A.5 マルチフィードの検出条件	398
A.6 A3 キャリアシートを使用する場合の条件	399
A.6.1 原稿のサイズ	399
A.6.2 原稿の紙質	399
付録 B 設定値と上限値	401
B.1 メールアドレスの設定値	402
B.2 設定項目の上限値	403
付録 C 互換性と接続性	405
C.1 互換性	406
C.1.1 アドイン動作	406
C.1.2 システム設定情報の持ち回り	407
C.1.3 ユーザー情報の持ち回り	407
C.1.4 ユーザー情報の共有	408
C.1.5 ジョブ設定情報の共有	408
C.1.6 Central Admin Server からの配信	409
C.2 接続性	410
C.2.1 Admin Tool との接続性	410
C.2.2 User Editor (AddressBookEditor) との接続性	410
C.2.3 Central Admin Server との接続性	411

C.2.4	ルート証明機関一覧	411
C.2.5	Web メールを使用する場合の SMTP サーバの設定	412
付録 D	本製品の仕様	413
D.1	設置諸元	414
D.2	スキャナ基本仕様	415
D.3	ソフトウェア機能一覧	416
D.4	ソフトキーボードの入力方法の変更	418
D.4.1	キーの配列の変更	418
D.4.2	入力モードの変更	419
D.5	バーコードの種類と検知条件	420
■	1次元バーコード	420
■	1次元バーコードの検知条件	420
付録 E	SNMP 連携	422
E.1	対応 MIB	423
E.2	MIB 情報	424
■	ScannerInfo	424
■	BrakeRoller	424
■	PickRoller	425
■	TrapEvent	425
E.3	SNMP トラップ通知	426
付録 F	User Editor で編集する	427
F.1	User Editor とは	428
F.2	事前設定	429
F.2.1	User Editor をインストールする	429
F.2.2	User Editor をアンインストールする	430
F.3	User Editor の画面	431
F.4	User Editor の起動 / 終了	433
■	User Editor を起動する	433
■	User Editor を終了する	434
F.5	メールアドレス台帳 / ローカルアカウントを開く	435
■	スキャナから開く	435
■	ファイルから開く	436
■	ファイルから開けるメールアドレス台帳のファイル形式	436

■ ファイルから開けるローカルアカウントのファイル形式	437
F.6 メールアドレス台帳を編集する	438
F.6.1 グループを設定する	438
■ グループを追加する	438
■ グループ名を変更する	439
■ グループを削除する	439
F.6.2 同報リストを設定する	440
■ 同報リストを追加する	440
■ 同報リストを変更する	441
■ 同報リストを削除する	441
F.6.3 メールアドレスを設定する	442
■ メールアドレスを追加する	442
■ メールアドレスを変更する	443
■ メールアドレスを削除する	443
F.7 ローカルアカウントを編集する	444
F.7.1 ローカルアカウントを追加する	444
F.7.2 ローカルアカウントを変更する	445
F.7.3 ローカルアカウントを削除する	445
F.8 編集内容を破棄する	446
F.9 メールアドレス台帳 / ローカルアカウントを保存する	447
■ スキャナに保存する	447
■ ファイルに保存する	448
F.10 ユーザーログに表示される User Editor の詳細情報	449
F.11 システムログに表示される User Editor の詳細情報	450
付録 G IPv6 環境設定	451
G.1 本スキャナでの IPv6 対応について	452
■ IPv6 対応されないソフトウェア	452
G.2 本スキャナでの IPv6 環境設定手順	453
G.2.1 IPv6 機能の導入手順	453
■ IPv6 機能を有効にする	453
■ IPv6 通信環境を設定する	453
■ IPv6 でオフィス機能を利用する	454
G.2.2 連携サーバ	454
G.2.3 使用するポート番号一覧	455
G.3 IPv6 通信環境を設定する	456
G.3.1 IPv4 アドレスを設定する	456

G.3.2 IPv6 アドレスを設定する	457
G.3.3 DNS サーバ (IPv4) を設定する	459
G.3.4 DNS サーバ (IPv6) を設定する	460
G.3.5 ネットワークの動作状態を確認する	461
G.4 IPv6 機能の設定情報の持ち回り	462
G.4.1 Central Admin Server からの配信	462
G.4.2 システム設定情報の退避・復元	463
用語解説	464
修理・お問い合わせ	467
■ 修理サービスのご案内	467
■ お問い合わせ窓口	468
■ サプライ用品の購入先	468
ScanAid の購入	469
コピーライト	470
索引	483

はじめに

このたびは、Image Scanner N7100E（以降、スキャナと呼びます）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このスキャナは、ネットワーク接続型イメージスキャナです。ネットワークでつながるオフィスのワークグループで使用し、オフィス業務に最適なワークフローをやさしい操作性で実現します。

商標および登録商標

Microsoft、Internet Explorer、SharePoint、Windows、および Windows Server は、マイクロソフトグループの企業の商標です。

Adobe、Acrobat、および Reader は、米国ならびに他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

Intel は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

Linux[®] は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は米国その他の国で Red Hat, Inc. の登録商標若しくは商標です。

ScanSnap および ScanSnap ロゴは、株式会社 PFU の日本における登録商標です。

その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

開発・販売元

株式会社 PFU

〒220-8567

神奈川県横浜市西区みなとみらい 4-4-5（横浜アイマークプレイス）

© PFU Limited 2019-2026

■ マニュアル

マニュアルの種類

スキャナをお使いになるときは、以下のマニュアルを必要に応じてお読みください。

マニュアル	内容
N7100E スタートアップガイド (紙)	スキャナを安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。 また、スキャナの設置から運用開始までの手順を説明しています。 最初にお読みください。 本書では、「スタートアップガイド」と略記しています。
N7100E オペレーターガイド (本書) (PDF)	スキャナの概要、基本的な操作方法、日常のお手入れ、消耗品の交換、およびトラブルの対処方法を説明しています。 本書では、「オペレーターガイド」と略記しています。
N7100E ヘルプ (HTML)	画面の項目説明、およびメッセージの対処と意味について説明しています。必要に応じてお読みください。
Scanner Central Admin ユーザーズガイド (PDF)	Scanner Central Admin の概要、導入方法、運用方法、保守方法を説明しています。必要に応じてお読みください。

マニュアルの参照方法

- マニュアルは、スキャナからダウンロードして参照できます。
- ヘルプは、操作中に表示される画面の [ヘルプ] ボタンが有効なときは、[ヘルプ] ボタンを押してヘルプを参照できます。

なお、タッチパネルの場合は、 のヘルプボタンが表示されます。

■本書の読み方

本書で使用している警告表示

本書では、使用者および周囲の方の身体や財産に損害を与えないために、警告表示を使用しています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文で構成しています。以下に、警告レベルの記号とその意味について説明します。



警告

この表示は、取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示は、取り扱いを誤った場合、軽傷を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

本書で使用している記号

本書では、警告表示とは別に、説明文中に以下の記号を使用しています。

管理者	管理者を対象読者とした章であることを表しています。さらに、操作方法を以下のように表しています。 ● タッチパネル 管理者がタッチパネルでできる操作です。 ● AdminTool 管理者がネットワーク経由でスキャナと接続して、Network Scanner Admin Tool でできる操作です。 ● Central Admin Console 管理者が Scanner Central Admin Console を使用して、ネットワーク経由でできる操作です。
利用者	利用者を対象読者とした章であることを表しています。

連続する操作の表記

本文中の操作手順で、連続する操作手順を「→」でつなげて記載しています。

例：「スタート」メニュー→「コンピュータ」を選択します。

本書に掲載している画面

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
 オペレーティングシステムによって、表示される画面および操作が異なる場合があります。
 表示された画面が、本書に掲載されている画面と異なる場合は、実際の画面に従って操作してください。
 また、本書に掲載している画面は、基本的に「タッチパネル」を例にしています。
 「Admin Tool」または「Central Admin Console」では、掲載している画面、設定項目、および操作が異なります。画面については、ヘルプを参照してください。

本書での略記

本書では、以下の名称について省略して記載しています。

本文中の表記	名称
Windows	Windows® operating system
Windows 10	Windows® 10 Home operating system (32/64 ビット) Windows® 10 Pro operating system (32/64 ビット) Windows® 10 Enterprise operating system (32/64 ビット) Windows® 10 Education operating system (32/64 ビット)
Windows 11	Windows® 11 Home operating system (64 ビット) Windows® 11 Pro operating system (64 ビット) Windows® 11 Enterprise operating system (64 ビット) Windows® 11 Education operating system (64 ビット)
Windows Server 2012	Windows Server® 2012 Standard (64 ビット)
Windows Server 2012 R2	Windows Server® 2012 R2 Standard (64 ビット)
Windows Server 2016	Windows Server® 2016 Standard (64 ビット)
Windows Server 2019	Windows Server® 2019 Standard (64 ビット)
Windows Server 2022	Windows Server® 2022 Standard (64 ビット)
Windows Server 2025	Windows Server® 2025 Standard (64 ビット)
Exchange	Microsoft® Exchange Server 2010 (64 ビット版 OS でサポート) Microsoft® Exchange Server 2013 (64 ビット版 OS でサポート) Microsoft® Exchange Server 2016 (64 ビット版 OS でサポート) Microsoft® Exchange Server 2019 (64 ビット版 OS でサポート)
.NET Framework	Microsoft® .NET Framework

本文中の表記	名称
SharePoint (*1)	Microsoft® SharePoint® Server 2010 (64 ビット版 OS でサポート) Microsoft® SharePoint® Server 2013 (64 ビット版 OS でサポート) Microsoft® SharePoint® Server 2016 (64 ビット版 OS でサポート) Microsoft® SharePoint® Server 2019 (64 ビット版 OS でサポート)
SharePoint Online (*1)	Microsoft® SharePoint® Online
Solaris	Solaris 10 以降
Red Hat Enterprise Linux	Red Hat® Enterprise Linux® 5 以降
SUSE Linux Enterprise Server	SUSE™ Linux Enterprise Server 10 以降
Internet Explorer	Internet Explorer®
IIS	Microsoft® Internet Information Services 6.0 Microsoft® Internet Information Services 7.0 Microsoft® Internet Information Services 7.5 Microsoft® Internet Information Services 8.0 Microsoft® Internet Information Services 8.5 Microsoft® Internet Information Services 10.0
Adobe Acrobat	Adobe® Acrobat® Adobe® Acrobat® DC
Adobe Reader	Adobe® Reader® Adobe® Acrobat® Reader® DC
RightFax	RightFax Business Server (バージョン 9.3)
Kofax Communication Server	Kofax® Communication Server
WPF	Windows Presentation Foundation
MIB	Management Information Base
N7100E	Image Scanner N7100E
N7100	Image Scanner N7100

本文中の表記	名称
N1800	ScanSnap N1800
fi-6010N	Image Scanner iScanner fi-6010N
スキャナ	N7100E
Admin Tool	Network Scanner Admin Tool
User Editor	Network Scanner User Editor
Central Admin Console	Scanner Central Admin Console
Central Admin Server	Scanner Central Admin Server
SDK	Network Scanner Control SDK
Gmail	Gmail™ ウェブメール サービス
Yahoo! メール	YAHOO!® JAPAN メール
AOL メール	AOL® メール
ネットワーク共有フォルダー	スキャン画像の保存先とするファイルサーバのフォルダー
FTP フォルダー	スキャン画像の保存先とする FTP サーバのフォルダー
SharePoint フォルダー	スキャン画像の保存先とする SharePoint サーバのフォルダー

(*1): SharePoint および SharePoint Online を区別しないで使用する場合は、「SharePoint」と表記しています。

■ 注意事項

スキャナには、ユーザー名やメールアドレスを含む各種設定情報が保存されている場合があります。

スキャナを返却、廃棄、または譲渡されるときは、お客様ご自身でスキャナに保存された情報を削除してください。

削除方法については「[■ 工場出荷時の状態に戻す](#)」(P.172)を参照してください。

第 1 章

概要

管理者

利用者

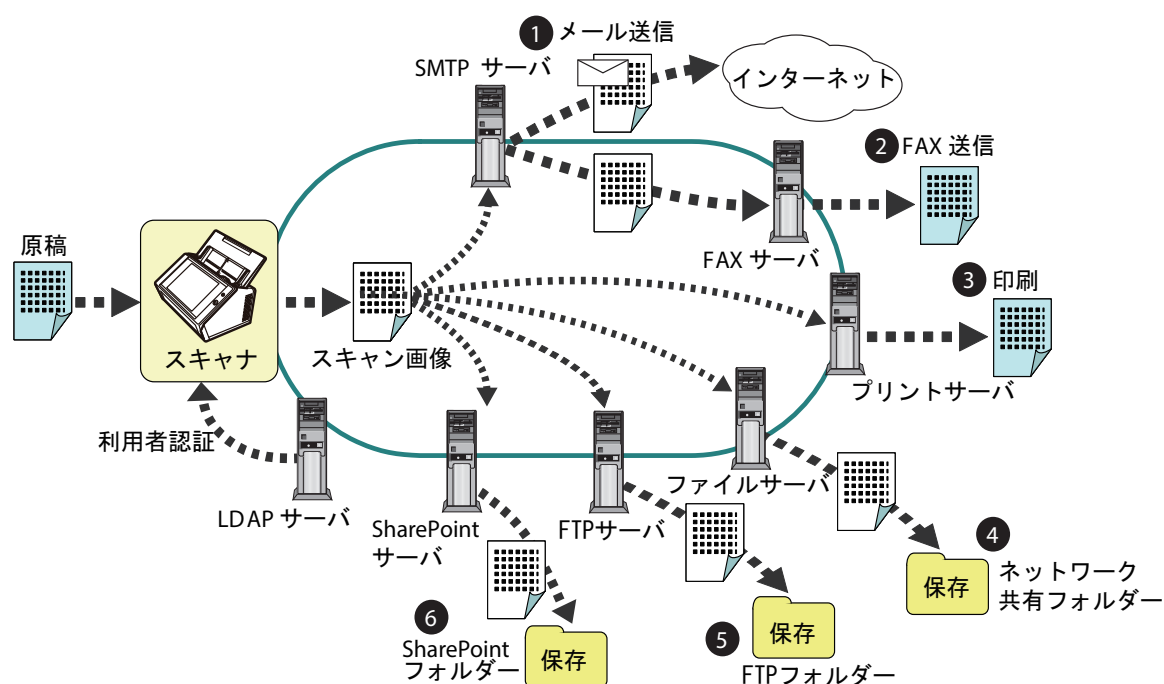
1.1 スキャナの特長	22
1.2 各部の名称と働き	26
1.3 ログイン別操作一覧.....	29
1.4 機能別の設定項目（管理者）.....	35
1.5 動作環境.....	40

1.1 スキャナの特長

■ 読み取った画像の簡単活用

本スキャナは、読み取った画像（スキャン画像）を、簡単に活用できるネットワーク接続型イメージスキャナです。

1. スキャン画像を添付してメール送信できます。
2. スキャン画像を FAX 送信できます。
3. スキャン画像を印刷できます。
4. スキャン画像をネットワーク共有フォルダーに保存できます。
5. スキャン画像を FTP フォルダーに保存できます。
6. スキャン画像を SharePoint フォルダーに保存できます。

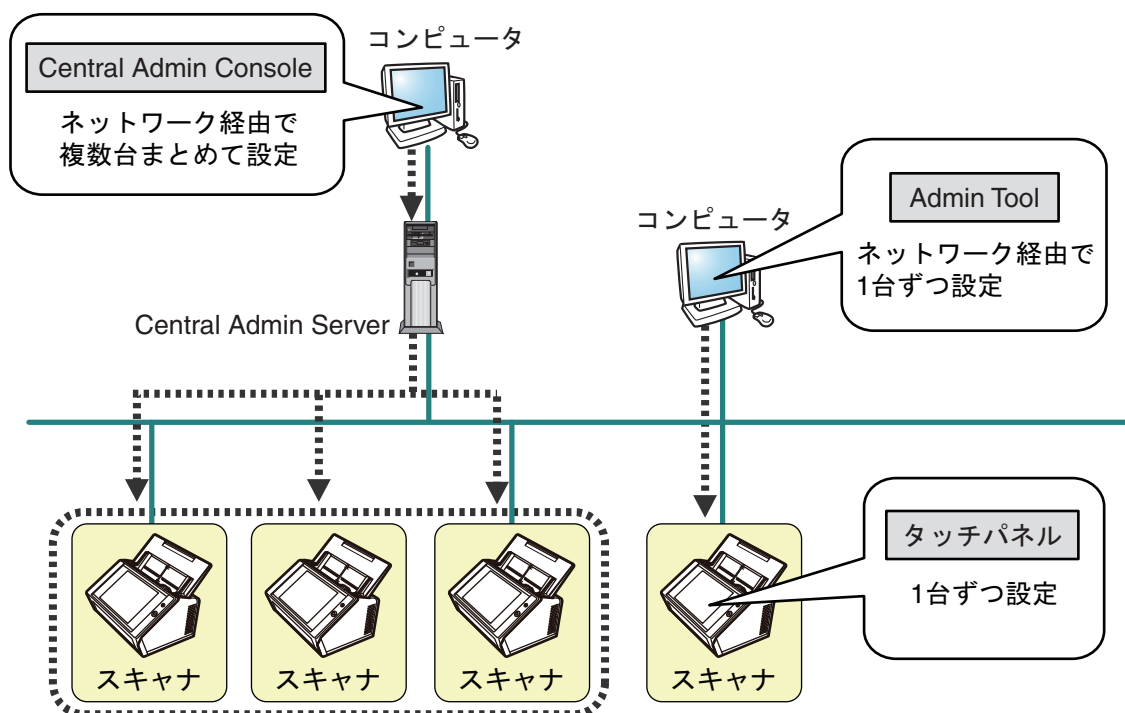


■ 簡単設定・簡単管理

スキャナの実環境設定や管理は、スキャナの「タッチパネル」や、コンピュータにインストールした「Admin Tool」または「Central Admin Console」から簡単にできます。スキャナを利用するときは、管理者権限と利用者権限を持つユーザーでスキャナにログインします。

操作権限については、「[1.3 ログイン別操作一覧](#)」(P.29)を参照してください。

スキャナの実環境設定や管理は、管理者が行います。



● タッチパネル

スキャナのタッチパネルから環境設定や管理を行います。

動作モード

管理者がタッチパネルを使用するときは、以下の動作モードで操作できます。

● Basic モード

コンピュータに関する基本的な知識を持った管理者が操作するときのモードです。

スキャナを使用するために必要な基本的な設定ができます。

● Advanced モード

ネットワークやサーバに関する技術的な知識を持つ管理者が操作するときのモードです。

認証サーバやサーバ環境の設定、読み取りに関する拡張機能といった、Basicモードより高度な設定ができます。

動作モードの設定については、「[4.3.1 動作モードを設定する](#)」(P.76)を参照してください。

また、タッチパネルでは、スキャナを導入するために必要な最小限の環境設定を、インストールウィザードで設定できます。インストールウィザードで設定する項目を絞り込むこともできます。ウィザードの操作方法については、「[4.3.2 インストールウィザードで環境設定をする](#)」(P.77)を参照してください。

- Admin Tool

個々のスキャナに接続して、スキャナの動作環境を設定するアプリケーションです。コンピュータにインストールした Admin Tool から、ネットワーク経由で、環境設定や管理、アップデートができます。
1台ずつスキャナを設定できます。

- Central Admin Console

複数台のスキャナの動作環境の設定や、稼働状況を監視するアプリケーションです。コンピュータにインストールした Central Admin Console から、ネットワーク経由で、環境設定や管理、アップデートができます。

複数台のスキャナをまとめて設定できます。

複数台のスキャナを一元管理する Central Admin Server に接続して運用します。

Central Admin Console で設定した内容は、Central Admin Server を経由してスキャナに適用されます。

Central Admin Console をご利用になるときは、スキャナの電源が投入されている必要があります。

Central Admin Console の詳細は、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。

■ 高度なセキュリティ対策

スキャナは、以下のセキュリティ機能を備えています。

- 利用者認証機能により、利用者を限定できます。
- スキャン画像をパスワード付き PDF として出力できます。
- スキャン画像を保護できます。

複数の利用者がスキャナを共有して利用することが想定されることから、スキャン画像の保護は特に重要です。スキャナは、スキャン画像を保護するために、以下のセキュリティ対策を実施しています。

- 暗号化

スキャン画像は、メール送信 / FAX 送信 / 印刷 / フォルダー保存処理中には、一時的にスキャナに格納されます。

ディスクの内容が解析された場合に備え、このデータは必ず暗号化されてディスクに保存されます。データが暗号化されていれば、データの漏えいが防げます。

- スキャン画像の削除

スキャン画像は、メール送信 / FAX 送信 / 印刷 / フォルダー保存処理が終了したあとに削除されます。スキャナには保存されません。

メール送信 / FAX 送信 / 印刷 / フォルダー保存処理が正常に完了したことをユーザーログで確認してください。異常時は再度読み取ってください。

メール送信 / FAX 送信 / 印刷 / フォルダー保存処理中に、なんらかの異常でスキャン画像が滞留した場合でも、次回、スキャナを起動すると自動的に削除されます。

- 完全消去

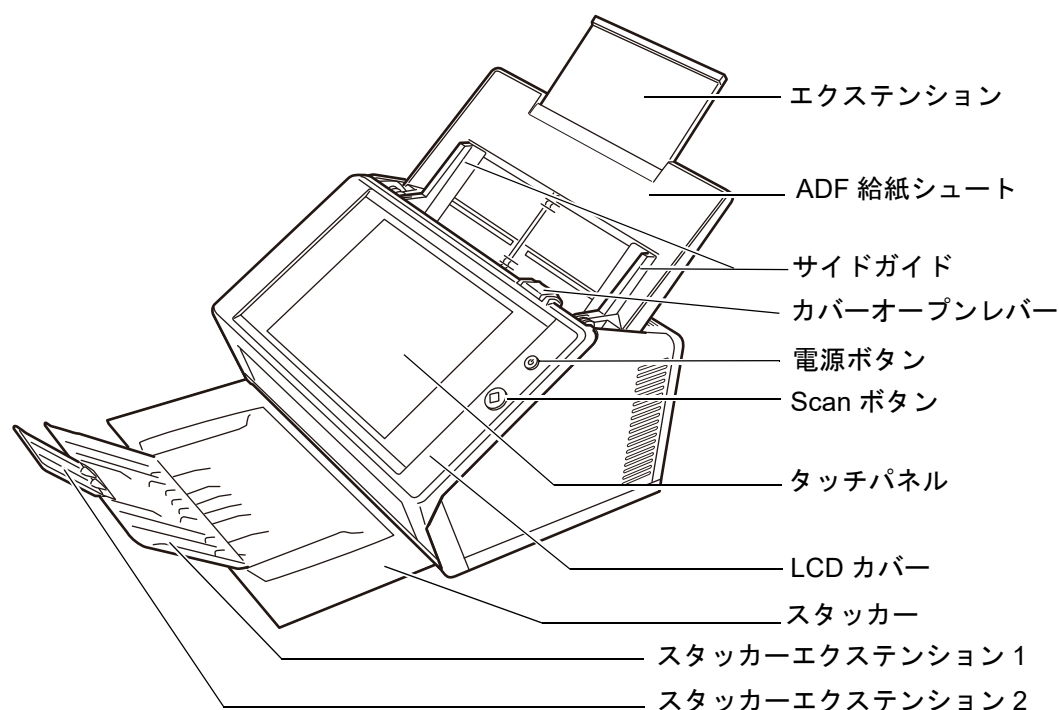
スキャナ内のデータを初期化するとき、空き領域は意味のないランダムなデータで上書きされます。スキャナからユーザー情報が消去されるときに、古い暗号鍵は削除され、新しい暗号鍵が生成されます。

これによって、空き領域に残っているユーザー情報にアクセスされるおそれはなくなります。

また、スキャナは、外部記憶媒体からのファイル流入経路や、ネットワーク経由による外部からのファイル流入経路は最低限に限定しています。さらに、万一のウイルス侵入に備え、セキュリティパッチを随時提供する予定です。これら対策により、ウイルス感染からも保護されています。

1.2 各部の名称と働き

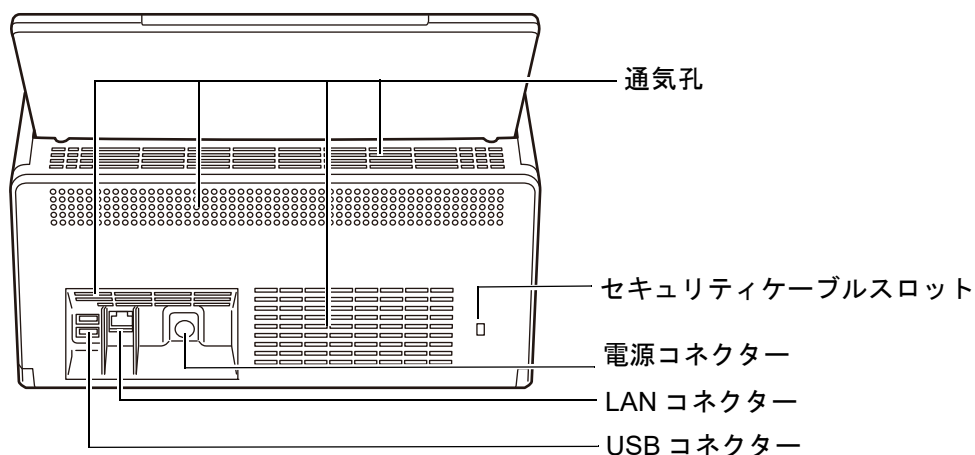
■ 前面



名称	機能
エクステンション	読み取る原稿の長さに合わせて、引き上げて使います。
ADF 給紙シュート	読み取る原稿をセットするための台です。
サイドガイド	原稿の幅に合わせて、ズレを防止します。
カバーオープンレバー	手前に引くと、LCD カバーが開きます。
電源ボタン	電源が入っていない状態または省電力モードの状態から、「ログイン」画面を呼び出します。使い方については、「 電源ボタンの使い方 」(P.52)を参照してください。
Scan ボタン	読み取りを開始します。使い方については、「 Scan ボタンの使い方 」(P.54)を参照してください。
タッチパネル	メニューが表示されます。触れて操作します。使い方については、「 2.3 タッチパネルの使い方 」(P.55)を参照してください。
LCD カバー	消耗品の交換や内部を清掃する場合に、カバーオープンレバーを手前に引きながら、LCD カバーの側面を持って開きます。
スタッカー	引き出して使います。排出された原稿が積み重ねられます。

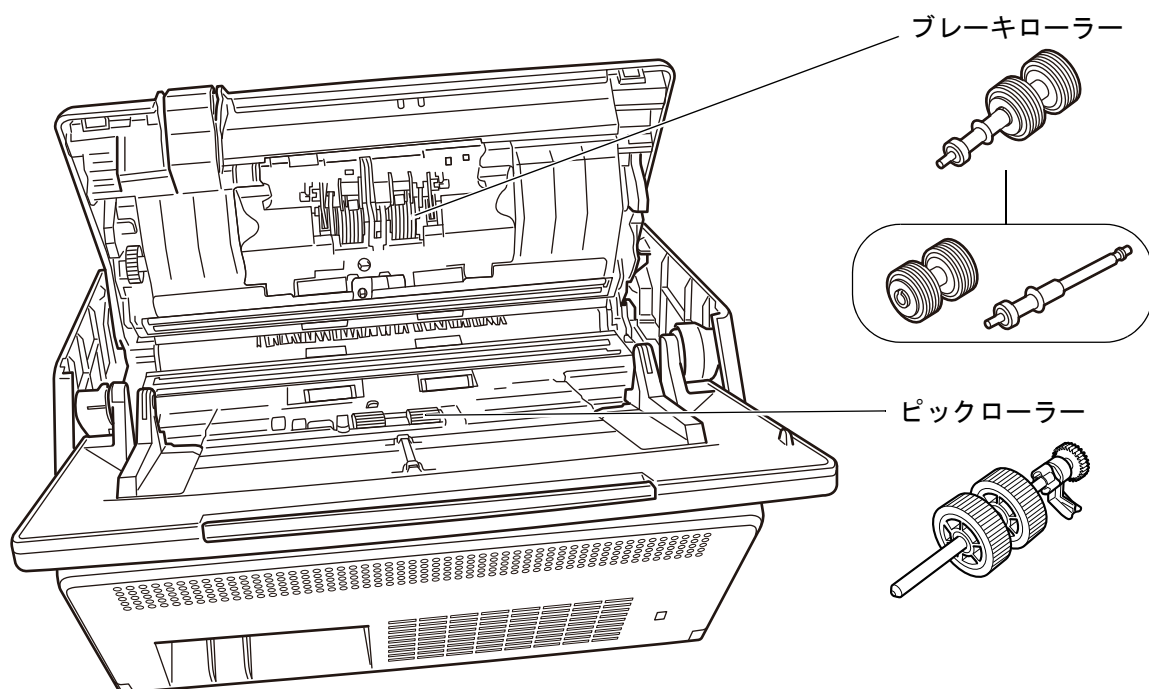
名称	機能
スタッカーエクステンション 1	読み取る原稿の長さに合わせて、手前に起こして使います。
スタッカーエクステンション 2	読み取る原稿の長さに合わせて、手前に起こして使います。

■ 背面



名称	機能
通気孔	スキャナ内部の熱を外部に逃すための開孔部です。
セキュリティケーブルスロット	市販のセキュリティケーブル（盗難防止用）を接続します。 推奨するセキュリティケーブルは以下のとおりです。 シリンダー部（最大）：直径 25mm、全長 50mm ケーブル振出し方向：ライトアングル （ストレートタイプの場合は、ケーブルの屈曲を含める）
電源コネクター	電源ケーブルを接続します。
LAN コネクター	LAN ケーブルを接続します。
USB コネクター	USB 機器を接続します。

■ 取り外し可能部品



名称	機能
ピックアップローラー	ADF 給紙シュートに置かれた原稿をスタッカーへ送ります。
ブレーキローラー	ADF 給紙シュートの原稿から 1 枚だけ分離させます。

1.3 ログイン別操作一覧

スキャナを利用するときは、以下の操作権限を持つユーザーでスキャナにログインします。

- 利用者権限

利用者アカウントでログインしたときの操作権限です。

利用者権限のアカウントには、LDAP アカウント、ローカルアカウント、デフォルト（guest アカウント）を使用できます。

この権限でログインしたときは、スキャナの「利用者」となります。

利用者は、スキャナでの読み取り操作や、スキャン画像の送信、印刷、および保存といった操作ができます。

- 管理者権限

管理者アカウントでログインしたときの操作権限です。

管理者権限のアカウントには、デフォルト（admin アカウント）、ローカルアカウント（管理者）を使用できます。

この権限でログインしたときは、スキャナの「管理者」となります。

管理者は、スキャナの実環境設定や管理ができます。

管理者は、スキャナでの読み取り操作はできません（読み取りテストだけ操作可能）。

ヒント

ローカルアカウントは、User Editor で編集できます。詳細は、「[付録 F User Editor で編集する](#)」（P.427）を参照してください。

なお、操作権限によって、スキャナへのログイン方法が以下のように異なります。

操作権限	ログイン方法		
	タッチパネル	Admin Tool	Central Admin Console
利用者権限	○	—	—
管理者権限	○	○	○

○：利用できます。 —：利用できません。

以降に、管理者および利用者が操作できる項目を一覧で示します。

1.3.1 管理者権限でできる操作

項目	タッチパネル			Admin Tool	Central Admin Console
	ウィザード	Basicモード	Advancedモード		
管理メニュー					
モード選択 (P.76)	—	○	○	—	—
インストールウィザード (P.77)	—	○	○	—	—
装置設定					
スキャナ情報移入 (*1)	—	—	—	—	○
スキャナ名 (P.79)	○	○	○	○	—
タイムゾーン (P.81)	○	○	○	○	○
日付 / 時刻 (P.82)	○	○	○	○	○ (*2)
キーボード設定 (P.83)	—	○	○	○	○
証明書管理 (P.84)	—	—	○ (*3)	○	○
スキャナ設定					
マルチフィード検出設定 (P.86)	—	—	○	○	○
スキャナ調整 (P.88)	—	—	○	○	—
スキャナ詳細設定 (P.89)	—	—	○	○	○
ログイン設定					
ログイン設定 (P.90)	○	—	○	○	○
ログイン設定詳細 (P.93)	○	—	○	○	○
省電力モード・自動ログアウト (P.95)	—	—	○	○	○
管理者パスワード (P.97)	○	○	○	○	—
LAN Manager 認証レベル (P.98)	—	—	○	○	○

項目	タッチパネル			Admin Tool	Central Admin Console
	ウィザード	Basicモード	Advancedモード		
ネットワーク設定（IPv6 機能無効時）					
IP アドレス（P.99）	○	○	○	○	—
DNS サーバ（P.101）	○	○	○	○	○
WINS サーバ（P.102）	—	○	○	○	○
NTP サーバ（P.103）	—	—	○	○	○（*4）
プロキシサーバ（P.104）	—	—	○	○	○
SNMP 連携（P.105）	—	—	○	○	○
SMB 1.0/CIFS（P.106）	—	—	○	○	—
ネットワーク詳細設定（P.107）	—	—	○	○	—
ネットワーク設定（IPv6 機能有効時）（*5）					
IPv4 アドレス（P.456）	○	○	○	○	—
IPv6 アドレス（P.457）	○	○	○	○	—
DNS サーバ（IPv4）（P.459）	○	○	○	○	—
DNS サーバ（IPv6）（P.460）	○	○	○	○	—
WINS サーバ（P.102）	—	○	○	○	—
NTP サーバ（P.103）	—	—	○	○	—
プロキシサーバ（P.104）	—	—	○	○	—
SNMP 連携（P.105）	—	—	○	○	—
SMB 1.0/CIFS（P.106）	—	—	○	○	—
ネットワーク詳細設定（P.107）	—	—	○	○	—
ネットワーク状態確認					
Ping（P.108）	—	○	○	○	—
ネットワーク状態（P.109） （P.461）	—	○	○	○	—
ネットワーク管理					
接続設定（P.110）	—	○	○	○	○（*6）
Scanner Central Admin Server （P.111）	○	○	○	○	○（*7）
Scanner Central Admin Server 詳細 （P.113）	○	○	○	○	○（*7）

項目	タッチパネル			Admin Tool	Central Admin Console
	ウィザード	Basic モード	Advanced モード		
認証サーバ					
ログイン LDAP サーバ (P.114)	—	—	○	○	○
メールアドレス LDAP サーバ (P.120)	—	—	○	○	○
スキーマ (P.121)	—	—	○	○	○
LDAP 検索条件 (P.122)	—	—	○	○	○
メール					
SMTP サーバ (P.124)	—	○	○	○	○
SMTP サーバ拡張 (P.125)	—	○	○	○	○
メール送信設定 (P.126)	—	—	○	○	○
添付ファイル名設定 (P.127)	—	—	○	○	○
FAX					
FAX サーバ (P.128)	—	○	○	○	○
保存					
ネットワーク共有フォルダー (P.129)	—	○	○	○	○ (*8)
FTP フォルダー (P.135)	—	○	○	○	○ (*8)
SharePoint フォルダー (P.139)	—	○	○	○	○ (*8)
保存ファイル名設定 (P.143)	—	—	○	○	○
印刷					
ネットワーク共有プリンター (P.145)	—	○	○	○	○ (*8)
情報表示					
装置情報 (P.158)	—	○	○	○	○ (*9)
消耗品統計情報 (P.159)	—	○	○	○	—
オプション機能 (P.160)	—	—	○	○	○ (*9)
ユーザーログ (P.161)	—	○	○	○	—
システムログ (P.163)	—	○	○	○	—

項目	タッチパネル			Admin Tool	Central Admin Console
	ウィザード	Basic モード	Advanced モード		
資源操作					
ユーザー情報操作 (P.165)	—	—	○ (*10)	○	—
システム設定操作 (P.169)	—	—	○ (*10)	○	—
装置保守					
アップデート (P.173) (P.175)	—	—	○ (*11)	○	○ (*12)
Add-in 管理 (P.177)	—	—	○ (*11)	○	○ (*12)(*13)
保守情報 (P.180) (P.181)	—	—	○ (*11)	○	—
異常通知先 (P.182)	—	—	○	○	○
装置診断					
タッチパネル調整 (P.358)	—	○	○	—	—
読み取りテスト (P.355)	—	○	○	—	—
ジョブ設定					
ジョブ設定 (P.190)	—	—	—	○	○
ジョブメニュー設定 (P.200)	—	—	—	○	○
ジョブグループ設定 (P.205)	—	—	—	○	○

○：操作できます。 —：操作できません。

- (*1): 操作については、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。
- (*2): 日付時刻の設定および「現在時刻取得」ボタンは操作できません。
- (*3): 証明書のインポートはできません。
- (*4): 時刻同期はできません。
- (*5): 「ネットワーク設定」の「ネットワーク詳細設定」画面で、IPv6 機能を「有効」に設定すると、IPv6 機能有効時のメニューに切り替わります。
- (*6): SSL 証明書の内容は表示されません。
- (*7): 「アドレス」および「ポート番号」は設定できません。
- (*8): Central Admin Server からアクセスできるプリンター、フォルダー、SharePoint フォルダーを設定できます。

- (*9): Central Admin Console の「スキャナ詳細情報」画面で参照できます。
Central Admin Console の「システム環境設定」画面の「システム環境設定編集」ボタンを押すと表示される、システム環境設定編集画面からは参照できません。
- (*10): タッチパネルの場合、以下の設定だけ操作できます。
ユーザー情報の削除、システム設定情報の初期化、完全消去
- (*11): タッチパネルの場合、以下は操作できません。
アップデートの実行、アドインのインストール / アンインストール、
保守情報の採取
- (*12): Central Admin Console の「スキャナ操作」画面から操作できます。
Central Admin Console の「システム環境設定」画面の「システム環境設定編集」ボタンを押すと表示される、システム環境設定編集画面からは操作できません。
- (*13): Central Admin Console の場合、キーボード表示設定はできません。

1.3.2 利用者権限でできる操作

項目	タッチパネル	Admin Tool	Central Admin Console
メール (P.228)	○	—	—
FAX (P.242)	○	—	—
印刷 (P.250)	○	—	—
保存 (P.261)	○	—	—
読み取り設定 (P.264)	○	—	—
表示 & 編集 (P.306)	○	—	—
メンテナンス			
メールアドレス編集 (P.239)	○	—	—
FAX 番号編集 (P.248)	○	—	—
ローラークリーニング (P.338)	○	—	—
読み取りテスト (P.355)	○	—	—
管理者ログイン (P.71)	○	—	—
パスワードの変更 (P.333)	○	—	—
消耗品状態 (P.346)	○	—	—
送信動作 (P.318)	○	—	—
ジョブ実行 (P.323)	○	—	—

○ : 操作できます。 — : 操作できません。

1.4 機能別の設定項目（管理者）

利用者が利用する機能によって、必要な環境設定が異なります。

管理者が設定した環境に応じて、以下のように、利用者の「メインメニュー」画面に機能ボタンが表示されます。

管理者が設定した環境に応じて、ボタンが表示される



以降に、利用する機能ごとに必要な環境設定を示します。

項目	メール	FAX	印刷	保存
管理メニュー				
モード選択 (P.76)	△	△	△	△
インストールウィザード (P.77)	—	—	—	—
装置設定				
スキャナ情報移入 (*1)	—	—	—	—
スキャナ名 (P.79)	○	○	○	○
タイムゾーン (P.81)	△	△	△	△
日付 / 時刻 (P.82)	△	△	△	△
キーボード設定 (P.83)	—	—	—	—
証明書管理 (P.84)	—	—	—	—

項目	メール	FAX	印刷	保存
スキャナ設定				
マルチフィード検出設定 (P.86)	—	—	—	—
スキャナ調整 (P.88)	—	—	—	—
スキャナ詳細設定 (P.89)	—	—	—	—
ログイン設定				
ログイン設定 (P.90)	—	—	—	—
ログイン設定詳細 (P.93)	—	—	—	—
省電力モード・自動ログアウト (P.95)	—	—	—	—
管理者パスワード (P.97)	△	△	△	△
LAN Manager 認証レベル (P.98)	—	—	—	—
ネットワーク設定（IPv6 機能無効時）				
IP アドレス (P.99)	○	○	○	○
DNS サーバ (P.101)	△	△	△	△
WINS サーバ (P.102)	△	△	△	△
NTP サーバ (P.103)	△	△	△	△
プロキシサーバ (P.104)	—	—	—	△
SNMP 連携 (P.105)	—	—	—	—
SMB 1.0/CIFS (P.106)	—	—	△	△
ネットワーク詳細設定 (P.107)	—	—	—	—

項目	メール	FAX	印刷	保存
ネットワーク設定（IPv6 機能有効時）(*2)				
IPv4 アドレス (P.456)	○ (*3)	○ (*3)	○ (*3)	○ (*3)
IPv6 アドレス (P.457)	○ (*3)	○ (*3)	○ (*3)	○ (*3)
DNS サーバ (IPv4) (P.459)	△	△	△	△
DNS サーバ (IPv6) (P.460)	△	△	△	△
WINS サーバ (P.102)	△	△	△	△
NTP サーバ (P.103)	△	△	△	△
プロキシサーバ (P.104)	—	—	—	△
SNMP 連携 (P.105)	—	—	—	—
SMB 1.0/CIFS (P.106)	—	—	△	△
ネットワーク詳細設定 (P.107)	—	—	—	—
ネットワーク状態確認				
Ping (P.108)	—	—	—	—
ネットワーク状態 (P.109) (P.461)	—	—	—	—
ネットワーク管理				
接続設定 (P.110)	—	—	—	—
Scanner Central Admin Server (P.111)	—	—	—	—
Scanner Central Admin Server 詳細 (P.113)	—	—	—	—
認証サーバ				
ログイン LDAP サーバ (P.114)	△ (*4)	△ (*4)	△ (*4)	△ (*4)
メールアドレス LDAP サーバ (P.120)	—	—	—	—
スキーマ (P.121)	—	—	—	—
LDAP 検索条件 (P.122)	—	—	—	—
メール				
SMTP サーバ (P.124)	○	○	—	—
SMTP サーバ拡張 (P.125)	△	—	—	—
メール送信設定 (P.126)	△	—	—	—
添付ファイル名設定 (P.127)	△	—	—	—

項目	メール	FAX	印刷	保存
FAX				
FAX サーバ (P.128)	—	○	—	—
保存				
ネットワーク共有フォルダー (P.129)	—	—	—	○
FTP フォルダ (P.135)	—	—	—	○
SharePoint フォルダ (P.139)	—	—	—	○
保存ファイル名設定 (P.143)	—	—	—	△
印刷				
ネットワーク共有プリンター (P.145)	—	—	○	—
情報表示				
装置情報 (P.158)	—	—	—	—
消耗品統計情報 (P.159)	—	—	—	—
オプション機能 (P.160)	—	—	—	—
ユーザーログ (P.161)	—	—	—	—
システムログ (P.163)	—	—	—	—
資源操作				
ユーザー情報操作 (P.165)	—	—	—	—
システム設定操作 (P.169)	—	—	—	—
装置保守				
アップデート (P.173) (P.175)	—	—	—	—
Add-in 管理 (P.177)	—	—	—	—
保守情報 (P.180) (P.181)	—	—	—	—
異常通知先 (P.182)	—	—	—	—
装置診断				
タッチパネル調整 (P.358)	—	—	—	—
読み取りテスト (P.355)	—	—	—	—
ジョブ設定				
ジョブ設定 (P.190)	△	△	△	△
ジョブメニュー設定 (P.200)	△	△	△	△
ジョブグループ設定 (P.205)	△	△	△	△

○：設定が必要 △：設定を推奨 —：設定必須ではない

- (*1): 操作については、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。
- (*2): 「ネットワーク設定」の「ネットワーク詳細設定」画面で、IPv6 機能を「有効」に設定すると、IPv6 機能有効時のメニューに切り替わります。
- (*3): IPv4 アドレスと IPv6 アドレスのどちらか一方、または IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を設定します。
- (*4): LDAP サーバと連携する場合に必要です。

1.5 動作環境

1.5.1 Admin Tool・User Editor の動作環境

Admin Tool および User Editor の動作環境は、以下のとおりです。

ソフトウェア（日本語版）

- オペレーティングシステム
 - Windows 10
 - Windows 11
 - Windows Server 2012
 - Windows Server 2012 R2
 - Windows Server 2016
 - Windows Server 2019
 - Windows Server 2022
 - Windows Server 2025
- .NET Framework(*1)
 - Admin Tool
 - .NET Framework 4.5.2
 - .NET Framework 4.6
 - .NET Framework 4.7
 - .NET Framework 4.8
 - User Editor
 - .NET Framework 3.5（Service Pack 1 以降）
 - .NET Framework 4.5.2
 - .NET Framework 4.6
 - .NET Framework 4.7
 - .NET Framework 4.8
- Web ブラウザ
 - Internet Explorer 10 以降 (*2)

(*1): .NET Framework がインストールされていない場合は、管理者にその旨を通知します。マイクロソフトの Web サイトからダウンロードしてインストールしてください。
.NET Framework をインストールする場合、ハードディスク空き容量を確認してください。なお、.NET Framework 4.5.2 の場合は約 2G バイトの空きディスク容量が必要です。

- (*2): Admin Tool の場合、最新のセキュリティ更新プログラムを適用してください。適用していない場合、マニュアルなどのダウンロードができない場合があります。
- また、ダウンロードができない場合、Internet Explorer の「インターネットオプション」の「詳細設定」で、「暗号化されたページをディスクに保存しない」チェックボックスのチェックを外して、再度実行してください。
- Internet Explorer の「互換表示設定」で、指定する URL が互換表示となるように設定してください。

重要

Admin Tool および User Editor がインストールされたコンピュータとスキャナの言語設定は、同じにしてください。

ハードウェア

- サポートするソフトウェアが動作するコンピュータ
- XGA 以上のモニタ
- LAN ケーブル
- ポインティングデバイス（マウスなどの入力機器）

1.5.2 連携するサーバの動作環境

スキャナと連携できるサーバの動作環境は、以下のとおりです。
 なお、サポートする各オペレーティングシステムのバージョン、エディションについては、「[本書での略記](#)」(P.18)を参照してください。

サーバ	動作環境	機能
LDAP サーバ (Active Directory)	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	認証
LDAP サーバ (OpenLDAP)	OpenSolaris Solaris Red Hat Enterprise Linux SUSE Linux Enterprise Server	
SMTP サーバ (SMTP, Exchange)	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	メール (SMTP サーバ)
ファイルサーバ (ネットワーク共有フォルダー)	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	保存 (ネットワーク共有フォルダー)
ファイルサーバ (Samba)	OpenSolaris Solaris Red Hat Enterprise Linux SUSE Linux Enterprise Server	
FTP サーバ	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	保存 (FTP フォルダー)

サーバ	動作環境	機能
SharePoint サーバ	SharePoint 2010 SharePoint 2013 SharePoint 2016 SharePoint 2019	保存 (SharePoint フォルダ)
SharePoint Online	SharePoint Online	保存 (SharePoint フォルダ)
プリントサーバ	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	印刷 (ネットワーク共有プリンター) (*1)
FAX サーバ	RightFax Kofax Communication Server インターネット FAX	FAX (FAX サーバ)
DNS サーバ	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	DNS DNSv6
WINS サーバ	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	WINS
DHCP サーバ	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	DHCP DHCPv6
NTP サーバ	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025 Red Hat Enterprise Linux	NTP

サーバ	動作環境	機能
SNMP マネージャ	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows Server 2025	SNMP

(*1): ネットワーク共有プリンターとして、Windows 10 クライアントに対応したプリンタードライバをインストールする必要があります。

LDAP サーバ

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）とは、TCP/IP ネットワークで、ディレクトリデータベースにアクセスするためのプロトコルです。ネットワークを利用するユーザーのメールアドレスや環境に関する情報を管理できます。

暗号化通信（SSL）で接続する場合は、「LDAPS サーバ」といいます。

この LDAP サーバを使用して、以下ができます。

- 各種ログイン時のユーザー認証
- メール送信時のメールアドレス台帳を使ったあて先検索および入力

SMTP サーバ

SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）とは、メールを送信するためのプロトコルです。

この SMTP サーバを使用して、以下ができます。

- スキャン画像のメール送信
- スキャン画像の FAX 送信

ファイルサーバ

ファイルサーバとは、サーバ上のディスクをネットワーク上のほかのコンピュータと共有し、外部から利用できるようにするサーバです。

このファイルサーバを使用して、スキャン画像をネットワーク共有フォルダーに保存できます。

FTP サーバ

FTP（File Transfer Protocol）とは、TCP/IP に依拠したネットワーク上のホスト間でファイルをコピーするために使用される標準ネットワークプロトコルです。

暗号化通信（SSL）で接続する場合は、「FTPS サーバ」といいます。

この FTP サーバを使用して、スキャン画像を FTP フォルダーに保存できます。

SharePoint サーバ

SharePoint とは、Microsoft が提供する Web ブラウザベースでドキュメント管理などを行うプラットフォームの総称です。

この SharePoint サーバを使用して、スキャン画像を SharePoint フォルダーに保存できます。

プリントサーバ

プリントサーバとは、ネットワーク上のプリンターを複数のクライアントコンピュータから利用するとき使用するコンピュータや機器を指します。ネットワーク上のクライアントコンピュータから印刷要求を受信して、プリントサーバに接続されているプリンターに配信します。

重要

- Windows 10 に対応したプリンタードライバ（64 ビット）を登録しておく必要があります。Microsoft の WHQL 認証をクリアし、デジタル署名が施されているプリンタードライバの使用を推奨します。
- メモリやハードディスクを搭載しており、印刷データのスプール機能を保持するプリンターを使用してください。スプール機能を保持しているか不明の場合は、プリンターの販売元にお問い合わせください。
- プリンターの用紙切れや用紙づまりなどのエラー状態が確認できる、LCD 付きのプリンターの使用を推奨します。

FAX サーバ

FAX サーバとは、電話回線に接続された FAX モデムまたは専用の FAX 基板が備わっているコンピュータを指します。FAX を送信するとき 사용합니다。

本製品がサポートする FAX サーバは、以下のとおりです。

- RightFax
- Kofax Communication Server
- インターネット FAX

この FAX サーバを使用して、スキャン画像を FAX 送信できます。

DNS サーバ

DNS サーバとは、ホスト名または FQDN 名を IP アドレスに変換し名前解決を行うサーバです。

WINS サーバ

WINS サーバとは、WINS クライアントからの名前登録要求を処理して、その名前と IP アドレスをサーバデータベースに登録するサーバです。クライアントから出された NetBIOS 名クエリに応答して、照会された名前がサーバデータベースに一覧表示されている場合はその名前の IP アドレスを返します。

また、DNS による名前解決が失敗した場合に、WINS サーバに問い合わせを転送することもできます。

DHCP サーバ

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）とは、IP ネットワークで使用する自動構成プロトコルです。DHCP サーバでは、スキャナをはじめコンピュータの IP アドレスを自動的に割り当てられるため、ネットワーク管理者の介入は不要となります。

NTP サーバ

NTP（Network Time Protocol）とは、ネットワーク上のコンピュータシステムの時刻を、正しい時刻に同期するためのプロトコルです。
クライアントがネットワークを介して時刻を問い合わせるときに利用します。

SNMP マネージャー

SNMP（Simple Network Management Protocol）とは、ネットワークを管理するためのプロトコルです。

本製品がサポートする SNMP バージョンは、SNMP v1 だけです。

SNMP マネージャーは SNMP プロトコルをサポートしている機器を管理するためのソフトウェアです。

1.5.3 使用するポート番号一覧

機能	接続方向	ポート番号	プロトコル番号
Admin Tool 接続	Admin Tool⇨ スキャナ	80 (HTTP) (*)	6 (TCP)
		443 (HTTPS) (*)	6 (TCP)
Central Admin Server 接続	Central Admin Server⇨ スキャナ	80 (HTTP) (*)	6 (TCP)
		443 (HTTPS) (*)	6 (TCP)
	スキャナ ⇨ Central Admin Server	20444 (HTTP/HTTPS) (*)	6 (TCP)
DHCP (アドレス自動構成)	スキャナ ⇨ DHCP サーバ	67 (DHCP)	17 (UDP)
DNS (ドメインネームシステム)	スキャナ ⇨ DNS サーバ	53 (DNS)	17 (UDP/TCP)
WINS (WINSサーバ)	スキャナ ⇨ WINS サーバ	1512 (WINS)	17 (UDP)
NTP (時刻同期)	スキャナ ⇨ NTP サーバ	123 (SNTP)	17 (UDP)
プロキシ接続	スキャナ ⇨ プロキシサーバ	任意	6 (TCP)
SNMP	SNMP クライアント ⇨ スキャナ	161 (SNMP)	17 (UDP)
	スキャナ ⇨ SNMP クライアント	162 (SNMP TRAP)	17 (UDP)
LDAP 検索 (認証 / メールアドレス検索)	スキャナ ⇨ LDAP サーバ	389 (LDAP) (*)	6 (TCP)
		636 (LDAPS) (*)	6 (TCP)
		3268 (Active Directory Global Catalog) (*)	6 (TCP)
		3269 (Active Directory Global Catalog over SSL) (*)	6 (TCP)
メール送信	スキャナ ⇨ SMTP サーバ	25 (SMTP) (*)	6 (TCP)
		465 (SMTP over SSL) (*)	6 (TCP)
		587 (SMTP over STARTTLS) (*)	6 (TCP)

機能	接続方向	ポート番号	プロトコル番号
FAX 送信	スキャナ ⇄ SMTP サーバ	25 (SMTP) (*)	6 (TCP)
		465 (SMTP over SSL) (*)	6 (TCP)
		587 (SMTP over STARTTLS) (*)	6 (TCP)
印刷	スキャナ ⇄ プリントサーバ	137,138,139,445 (SMB)	6 (TCP) 17 (UDP)
	スキャナ ⇄ ネットワークプリンター	9100 (標準 TCP/IP ポート・モニター)	6 (TCP)
SharePoint 保存	スキャナ ⇄ SharePoint サーバ	80 (HTTP) (*)	6 (TCP)
		443 (HTTPS) (*)	6 (TCP)
FTP 保存	スキャナ ⇄ FTP サーバ	20,21 (FTP) (*)	6 (TCP)
	スキャナ ⇄ FTPS サーバ	989,990 (FTPS) (*)	6 (TCP)
フォルダー保存	スキャナ ⇄ ファイルサーバ	137,138,139,445 (SMB)	6 (TCP) 17 (UDP)
Ping	スキャナ ⇄ サーバまたはコンピュータ	なし	1 (ICMP)
User Editor 接続	User Editor ⇄ スキャナ	80 (HTTP) (*)	6 (TCP)
		443 (HTTPS) (*)	6 (TCP)

(*): 変更が可能

第 2 章

スキャナの基本的な使い方

管理者

利用者

2.1 電源の投入 / 切断	50
2.2 スキャナのボタンの使い方	52
2.3 タッチパネルの使い方	55
2.4 ソフトキーボードの使い方	56

2.1 電源の投入 / 切断

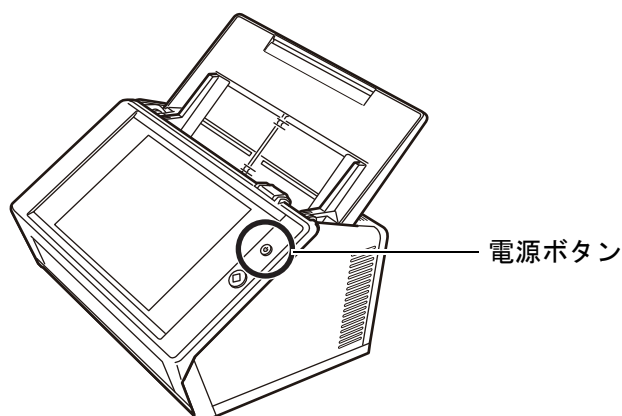
2.1.1 電源を投入する



電源を入れたまま持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。

スキャナ内部の部品が損傷し、データを消失する原因となります。

1. 電源ボタンを押します。



⇒ スキャナが起動され、「ログイン」画面が表示されます。

なお、設定によっては、インストールウィザードが表示される場合があります。

重要

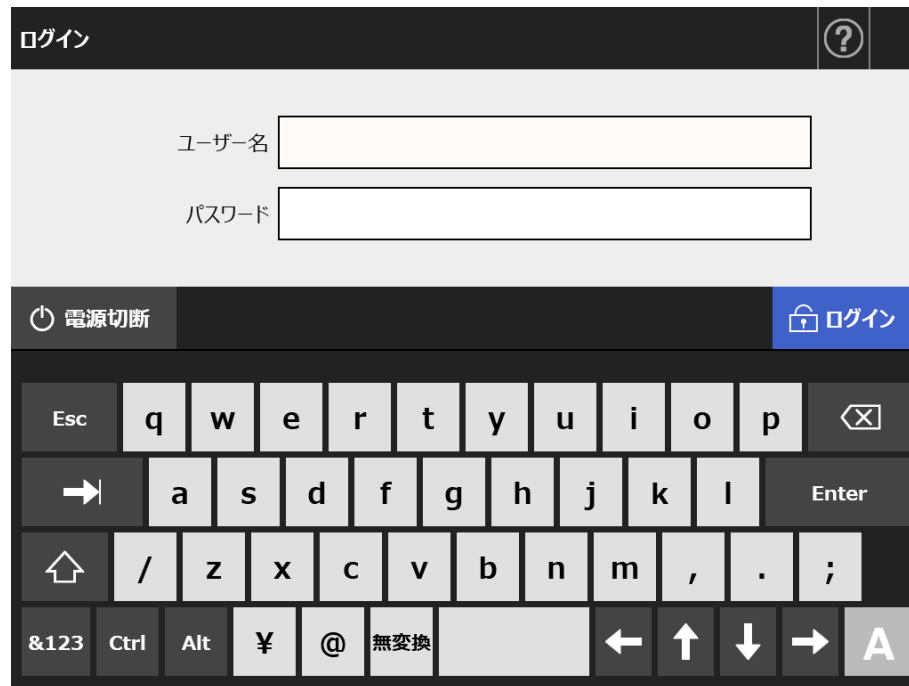
電源を切断したあと、電源を入れる場合は、10 秒以上時間を空けてください。

2.1.2 電源を切断する

1. 「ログイン」画面の「電源切断」ボタンを押します。

重要

スキヤナの電源を切断する場合は、必ず「電源切断」ボタンを押してください。
スキヤナの電源ボタンを4秒以上押して、強制的に電源を切断しないでください。
スキヤナが正常に動作しなくなる可能性があります。



⇒ 電源を切断するかを確認する画面が表示されます。

2. [OK] ボタンを押します。

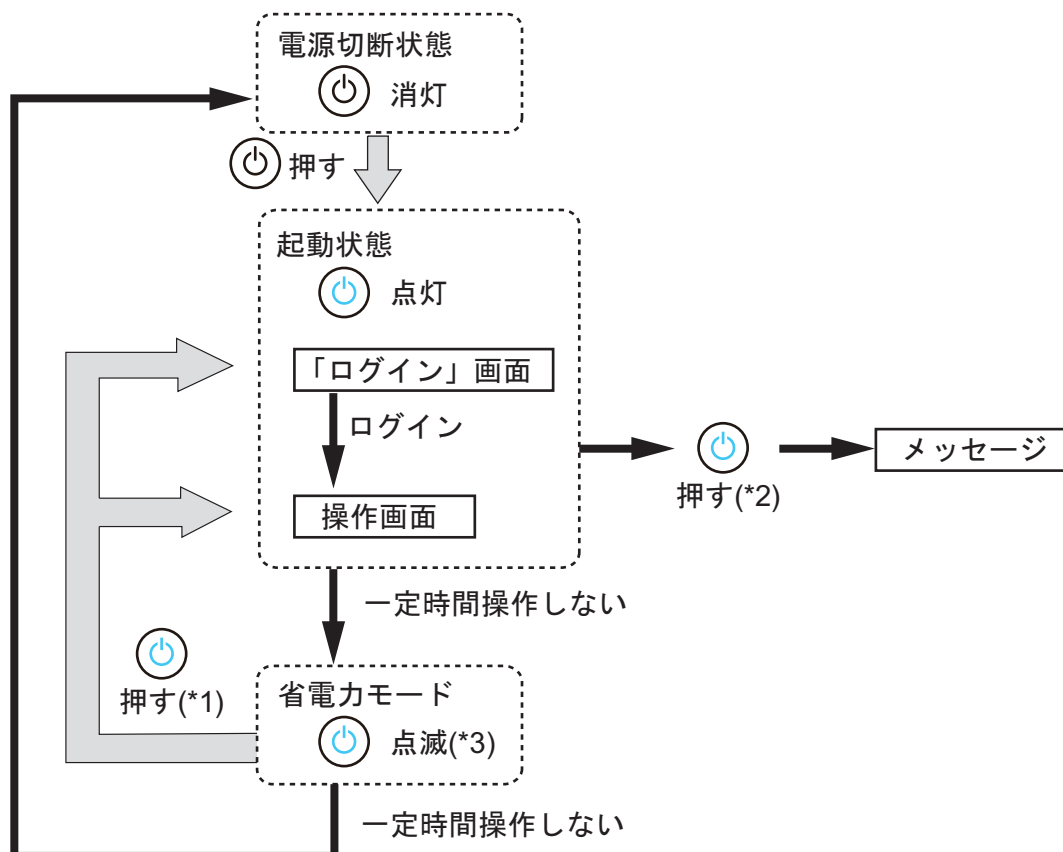
⇒ スキヤナの電源が切断されます。

2.2 スキャナのボタンの使い方

■ 電源ボタンの使い方

電源切断状態の場合または省電力モードの場合、電源ボタンを押すと、スキャナが起動して「ログイン」画面が表示されます。

起動状態の場合、電源ボタンを押すと、メッセージが表示されます。



(*1): 以下の操作でも、省電力モードから復帰します。

- タッチパネルをタッチする。

また、スキャナの USB に接続したヒューマンインターフェースデバイス（外付けキーボードなど）によっては、キー操作時に復帰します。

復帰後に表示される画面は、自動ログインの設定によって、以下のようになります。

- 自動的にログインする設定にした場合、操作画面が表示されます。
- 自動的にログインしない設定にした場合、「ログイン」画面が表示されます。

- (*2):
- [電源切断] ボタンが表示されている画面でスキャナの電源ボタンを押した場合、「電源ボタンから手を離してください。[電源切断] ボタンを選択すると電源を切断します。」のメッセージが表示されます。
 - [電源切断] ボタンが表示されていない画面でスキャナの電源ボタンを押した場合、「電源ボタンから手を離してください。システムが動作中のため電源切断できません。」のメッセージが表示されます。
- (*3): 管理者の「省電力モード・自動ログアウト」画面で、「ディスプレイ消灯のみ」を設定した場合、ディスプレイが消灯しただけの状態になります。このとき、電源ボタンは点灯した状態になります。

重要

- 起動状態または省電力モードで、電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。電源切断状態になります。その場合、スキャナ内に保存されている情報が利用できなくなる可能性があります。
万一、電源ボタンを 4 秒以上押して電源切断状態になった場合は、必ず AC ケーブルを抜き、一度電源を切断してください。
- 電源を切断したあと、電源を入れる場合は、10 秒以上時間を空けてください。正常に電源を切断するには、画面上の [電源切断] ボタンを押してください。

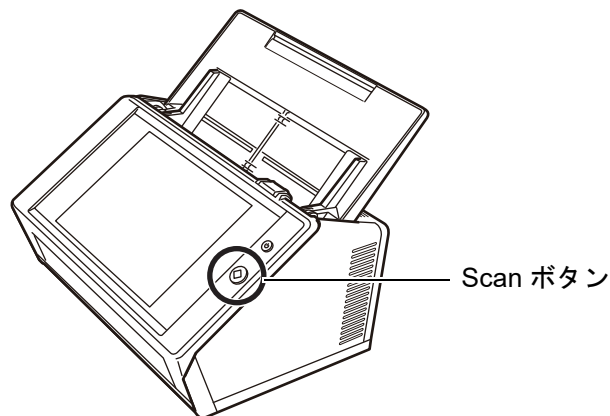
ヒント

- 省電力モードのままで一定時間操作せずに、電源切断時間が経過した場合、スキャナの電源が自動的に切断されます。スキャナの電源が切断されると、復帰に時間がかかります。
- 省電力モードへの移行時間および電源切断時間は変更できます。詳細は、「[4.6.3 省電力モード・自動ログアウトを設定する](#)」(P.95)を参照してください。
- 「ログイン」画面を表示せずに、自動的にログインするようになります。自動ログインの設定方法については、「[4.6.1 ログイン設定をする](#)」(P.90)を参照してください。
- 自動的にログインする設定にした場合、メインメニューまたはジョブメニューの表示中は、Admin Tool からログインできます。

■ Scan ボタンの使い方

Scan ボタンは、タッチパネルに  が付いたボタンが表示された場合に有効になります。 は、利用者の画面の右下に表示されます。

 が付いたボタンが表示されたときに、Scan ボタンを押すと、読み取りが開始されます。



なお、 が付いたボタンは以下のとおりです。

- [スキャン] ボタン
- [スキャン&送信] ボタン
- [スキャン&印刷] ボタン
- [スキャン&保存] ボタン
- [追加読み取り] ボタン

タッチパネルで、これらのボタンを押しても、読み取りを開始できます。

2.3 タッチパネルの使い方

選択するボタンに軽く触れて操作してください。

タッチパネルの画面については、以下を参照してください。

- [「4.1.1 タッチパネル（管理者）の画面」](#)（P.68）
- [「5.2 タッチパネル（利用者）の画面」](#)（P.222）

重要

- ペンなどの硬いもので、タッチパネルを操作しないでください。
タッチパネルが損傷する場合があります。
- タッチパネルの表面に付着したほこりや手アカなどのよごれは、タッチパネルが誤動作する原因となります。よごれが目立つ場合は清掃してください。
清掃方法は、[「タッチパネルの清掃」](#)（P.337）を参照してください。

2.4 ソフトキーボードの使い方

スキャナのタッチパネルでは、画面の入力域に文字列を入力するときは、ソフトキーボードを使用して、文字を入力します。
以下に、ソフトキーボードの使い方を示します。

■ ソフトキーボードの表示 / 非表示の方法

ソフトキーボードは、タッチパネルに表示されている以下のボタンを押して、表示 / 非表示します。

ボタン	説明
	項目の入力域を選択し、ソフトキーボードを表示したときは、このボタンになります。 ソフトキーボードを使用して、文字が入力できます。 
	項目の入力域を選択していないときは、このボタンになります。 この状態のときは、ソフトキーボードを表示できません。

「ログイン」画面では、自動でソフトキーボードが表示されます。

ヒント

- 「キーボード設定」画面でソフトキーボードを表示しないように設定できます。
詳細は、「4.4.4 キーボードを設定する」(P.83)を参照してください。
- Add-in の場合、「Add-in 管理」画面で Add-in 実行時にソフトキーボードを表示しないように設定できます。
また、Add-in 実行時にソフトキーボードを表示する場合、ソフトキーボードを表示するためのボタンの表示位置を変更できます。
詳細は、「4.17.3 Add-in を管理する」(P.177)を参照してください。

■ ソフトキーボードのキーの使い方

キー	機能
Tab	入力域にフォーカスします。
Enter	以下の動作と同じです。 ● ソフトキーボードを表示しているときに、ソフトキーボードを閉じます。 ● 画面の入力域に、複数行入力するときに改行します。 ● 「ログイン」画面の場合に、入力内容を確定します。

重要

タッチパネルの管理者の画面で、文字入力域に日本語入力ができなくなった場合は、再度ログインしてください。

ヒント

スキャナからログインした場合、メニューはソフトキーボードで選択できません。タッチパネルでメニューのボタンを押してください。

■ 文字入力

スキャナのソフトキーボードの英字は QWERTY 配列に準拠しています。キーを押すことで入力モードの状態を変更できます。詳細は、「[D.4 ソフトキーボードの入力方法の変更](#)」(P.418) を参照してください。

ヒント

スキャナには、文字変換用に人名、地名の辞書を搭載しているため、スムーズに漢字変換できます。

第 3 章

ソフトウェアのインストール

管理者

スキャナ的环境設定や管理をするために必要なソフトウェアのインストール方法、インストール前の事前設定について説明します。

3.1 Internet Explorer を設定する	59
3.2 ソフトウェアのダウンロード画面を表示する	61
3.3 Admin Tool をインストールする	63
3.4 Admin Tool をアンインストールする	65
3.5 Central Admin Console ・ Central Admin Server をインストールする	66

3.1 Internet Explorer を設定する

Admin Tool をインストールする前に必要な Internet Explorer の設定について説明します。

重要

- Internet Explorer の設定手順は、Internet Explorer のバージョンによって異なることがあります。
 - Internet Explorer は 2022 年 6 月にサポートが終了しました。
 - Admin Tool、User Editor などのソフトウェアは、以下よりダウンロードしてください。
<https://www.pfu.ricoh.com/fi/dl/>
- プロキシサーバを使用しないネットワーク設定にしてください。

ヒント

- Internet Explorer の提供元から障害修正ソフトウェア、Service Pack などが配信されている場合には、適用してから使用してください。
- Admin Tool を使用するために必要な動作環境については、「[1.5.1 Admin Tool・User Editor の動作環境](#)」(P.40) を参照してください。

■ Internet Explorer のキャッシュを確認する

Internet Explorer のキャッシュを確認します。

1. Internet Explorer で、「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択します。
⇒「インターネットオプション」画面が表示されます。
2. 「全般」タブで「閲覧の履歴」の「設定」ボタンを押します。
⇒「インターネット一時ファイルと履歴の設定」画面が表示されます。
3. 「保存しているページの新しいバージョンの確認」で「自動的に確認する」を選択します。
4. 「使用するディスク領域」を 63M バイト以上にします。
5. 「OK」ボタンを押します。

■ Internet Explorer の信頼済みサイトを設定する

Internet Explorer のローカルイントラネットまたは信頼済みサイトに、対象スキャナの URL を設定します。

設定していない場合、接続がブロックされたり、証明書のインストールができないことがあります。

ローカル イントラネットの設定

1. Internet Explorer で、「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択します。

⇒「インターネットオプション」画面が表示されます。

2. 「セキュリティ」タブで「ローカル イントラネット」を選択します。

3. [サイト] ボタンを押します。

⇒「ローカル イントラネット」画面が表示されます。

4. [詳細設定] ボタンを押します。

5. 「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする」のチェックを外します。

6. 「この Web サイトをゾーンに追加する」に対象スキャナの URL を入力して、[追加] ボタンを押します。

例：http:// スキャナ名または IP アドレス /

信頼済みサイトの設定

1. Internet Explorer で、「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択します。

⇒「インターネットオプション」画面が表示されます。

2. 「セキュリティ」タブで「信頼済みサイト」を選択します。

3. [サイト] ボタンを押します。

⇒「信頼済みサイト」画面が表示されます。

4. 「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする」のチェックを外します。

5. 「この Web サイトをゾーンに追加する」に対象スキャナの URL を入力して、[追加] ボタンを押します。

例：http:// スキャナ名または IP アドレス /

3.2 ソフトウェアのダウンロード画面を表示する

ソフトウェアをインストールするためのダウンロード画面を表示します。

1. Internet Explorer から、スキャナ名を URL に指定してスキャナに接続します。

「[4.9.1 接続設定をする](#)」(P.110) での設定によって、指定する URL は以下のようになります。

- SSL 通信を「無効」、ポート番号変更なしの場合
http:// スキャナ名または IP アドレス /
- SSL 通信を「無効」、ポート番号変更ありの場合
http:// スキャナ名または IP アドレス : ポート番号 /
ポート番号には、変更したポート番号を入力してください。
- SSL 通信を「有効」、ポート番号変更なしの場合
https:// スキャナ名または IP アドレス /
- SSL 通信を「有効」、ポート番号変更ありの場合
https:// スキャナ名または IP アドレス : ポート番号 /
ポート番号には、変更したポート番号を入力してください。

なお、SSL 通信する場合、接続時にセキュリティの警告が表示されますが、閲覧を続行してください。

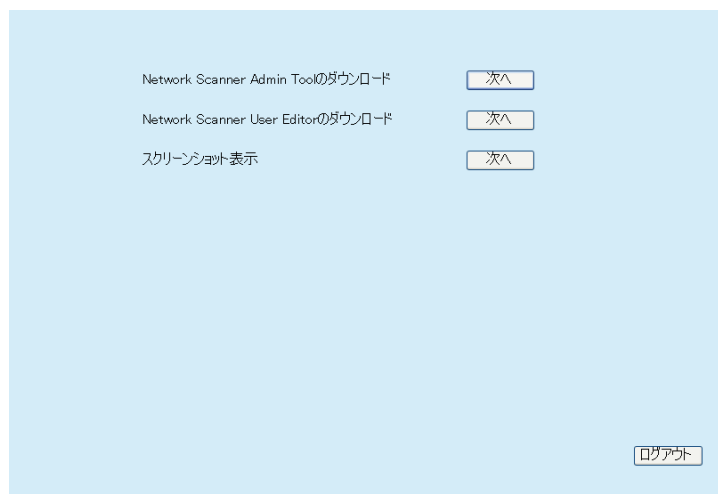
⇒ ログイン画面が表示されます。

2. 管理者のユーザー名およびパスワードを入力します。



ログイン画面のスクリーンショット。背景は薄い水色。右上には「スタートアップガイド」と「オペレーターガイド」の2つのボタンがある。中央には「ユーザー名」と「パスワード」のラベルがあり、それぞれに白い入力フィールドが配置されている。右下には「ログイン」ボタンがある。

3. [ログイン] ボタンを押します。
⇒ ダウンロード画面が表示されます。



3.3 Admin Tool をインストールする

Admin Tool をコンピュータにダウンロードしてインストールします。

1. Internet Explorer から、スキャナ名を URL に指定してスキャナに接続し、ダウンロード画面を表示します。

ダウンロード画面を表示するまでの操作については、「[3.2 ソフトウェアのダウンロード画面を表示する](#)」(P.61) を参照してください。

2. 「Network Scanner Admin Tool のダウンロード」の[次へ]ボタンを押します。
⇒ Admin Tool のダウンロード画面が表示されます。

3. [ダウンロード] ボタンを押します。

重要

- 管理者または利用者がスキャナで操作中の場合、ダウンロードできません。
- インストールが完了するまで、Internet Explorer を閉じたり、ログアウトしないでください。
- フォルダのパス長がファイル名を含めて 259 文字以上の場合、正常にインストールできません。パス長が短くなるようインストールするフォルダを指定してください。

ヒント

.NET Framework がインストールされていない場合は、Admin Tool をインストールするときに、Microsoft の Web サイトへアクセスします。
.NET Framework をインストール後、再度[手順 1](#) から操作してください。

⇒ 以降は、画面の指示に従って操作を進めてください。

「インストールが完了しました。」と表示されたらインストール終了です。[閉じる] ボタンを押してください。

⇒ インストール完了後、ダウンロード画面上の [ログアウト] ボタンを押してスキャナからログアウトし、Internet Explorer を閉じてください。

⇒ インストールが完了すると、Admin Tool を起動できます。

Admin Tool の起動方法については、「[4.2.2 管理者が Admin Tool からログインする](#)」(P.73) を参照してください。

重要

- Internet Explorer で、「ツール」メニュー → 「インターネットオプション」を選択して表示される「インターネットオプション」画面での設定について、以下の点に注意してください。
 - 「全般」タブの「ユーザー補助」ボタンを押して表示される「ユーザー補助」画面で、書式設定やユーザースタイルシートの各種設定をしないでください。Admin Tool の表示スタイルが崩れる場合があります。
 - 「全般」タブの「言語」ボタンを押して表示される「言語の優先順位」画面で、スキャナと同じ言語を指定してください。異なる言語を指定した場合、Admin Tool における入力や表示に問題が発生する場合があります。
 - 「セキュリティ」タブの「このゾーンのセキュリティのレベル」を「高」にすると、一部 Admin Tool の画面項目が適切に表示されない場合があります。
この場合、「セキュリティ」タブでスキャナを信頼済みサイトに追加して「既定のレベル」ボタンを押す、または「レベルのカスタマイズ」ボタンを押して「バイナリ ビヘイビアとスクリプト ビヘイビア」を「有効にする」に設定してください。
- フォント サイズが大きい場合、一部の画面が正常に表示されないことがあります。この場合は、フォント サイズを小さくして使用してください。

3.4 Admin Tool をアンインストールする

Admin Tool のアンインストールは、インストールしたコンピュータの「コントロールパネル」から「プログラム」の「プログラムと機能」を選択して行います。

重要

アンインストールする前に、Admin Tool を終了してください。

Admin Tool を起動したままアンインストール処理を完了した場合、起動されている Admin Tool の動作は保証できません。

3.5 Central Admin Console ・ Central Admin Server をインストールする

スキャナを集中管理するためには、Central Admin Console および Central Admin Server が必要です。

Central Admin Console および Central Admin Server は、以下のホームページからコンピュータにダウンロードしてインストールします。

<https://www.pfu.ricoh.com/fi/dl/win-sca-list.html>

インストール方法の詳細は、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。

重要

Central Admin Console で管理するためには、以下の管理者の画面で、スキャナと Central Admin Server を接続できるように設定する必要があります。

- 「接続設定」画面
詳細は、「[4.9.1 接続設定をする](#)」(P.110) を参照してください。
- 「Scanner Central Admin Server」画面
詳細は、「[4.9.2 Central Admin Server を設定する](#)」(P.111) を参照してください。

第 4 章

管理者の操作 (タッチパネル・Admin Tool)

管理者

管理者がタッチパネルまたは Admin Tool を使用した、スキャナ的环境設定や管理について説明しています。

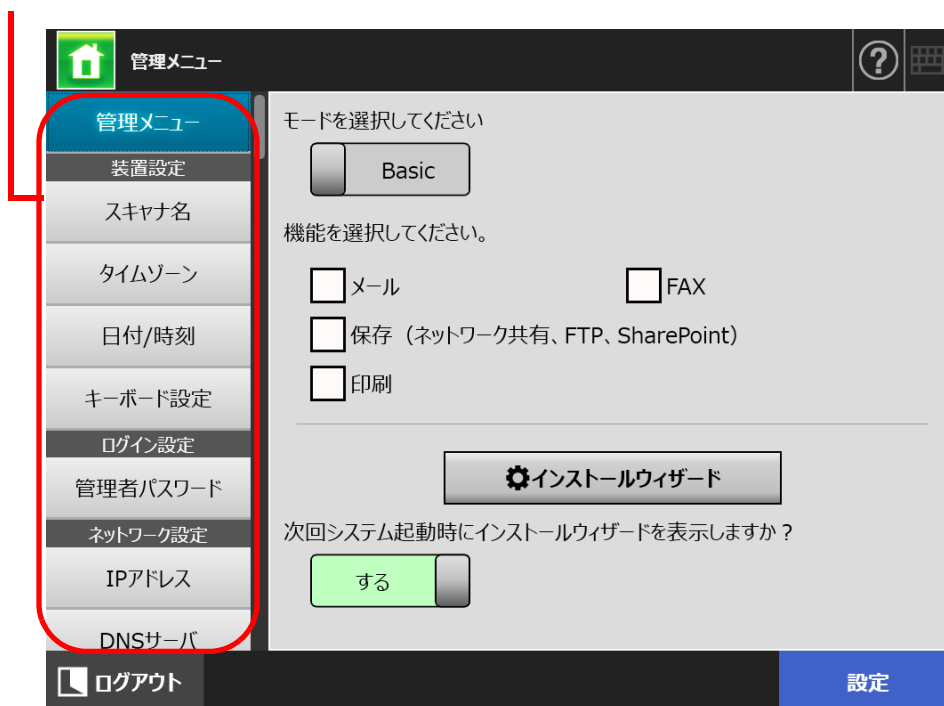
4.1 画面	68
4.2 ログインする	71
4.3 動作環境を設定する	76
4.4 システムを設定する	79
4.5 読み取りに関する設定をする	86
4.6 ログインに関する設定をする	90
4.7 ネットワークを設定する	99
4.8 ネットワーク状態を確認する	108
4.9 ネットワーク管理を設定する	110
4.10 認証サーバを設定する	114
4.11 メールを設定する	124
4.12 FAX サーバを設定する	128
4.13 保存先とするフォルダーを設定する	129
4.14 ネットワーク共有プリンターを設定する	145
4.15 スキャナに関する情報を参照する	158
4.16 資源を管理する	165
4.17 保守を行う	173
4.18 ジョブを設定する	186
4.19 メッセージ一覧	212

4.1 画面

4.1.1 タッチパネル（管理者）の画面

メニューを選択すると、メニューに応じた設定画面が画面右側の領域に表示されます。
画面左側の領域をスクロールすると、すべてのメニューを表示できます。

メニュー

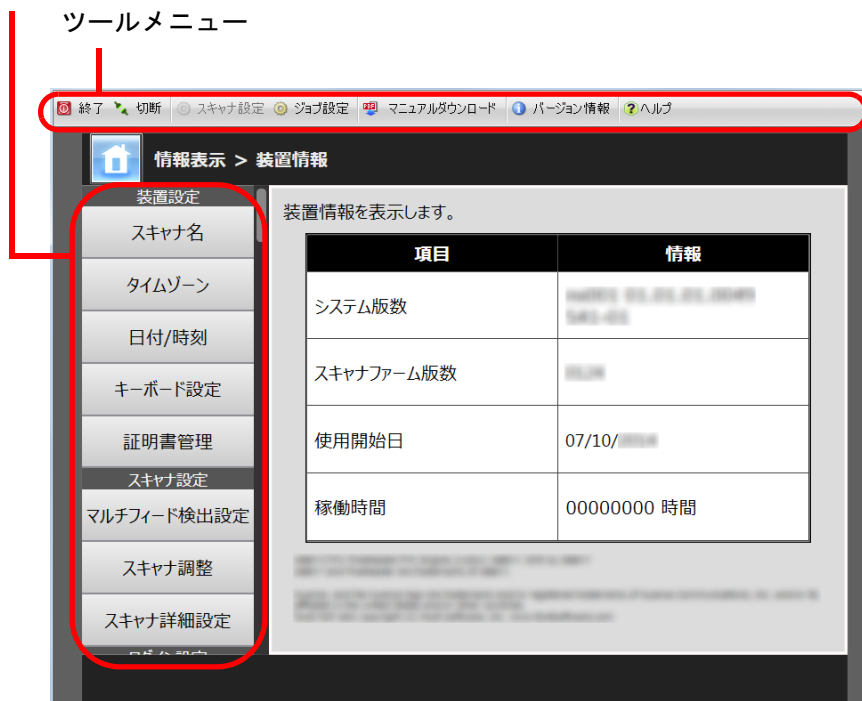


- [スキャナ設定] ボタンを押した場合の画面

- ツールメニューの「スキャナ設定」ボタンを押してからメニューを選択すると、メニューに応じた設定画面が画面右側の領域に表示されます。
- 画面左側の領域をスクロールすると、すべてのメニューを表示できます。

画面左側の領域をスクロールすると、すべてのメニューを表示できます。

ツールメニュー



- [ジョブ設定] ボタンを押した場合の画面

ツールメニューの [ジョブ設定] ボタンを押すと、ジョブを設定するための画面が表示されます。

ジョブ設定メニュー

ツールメニュー



4.2 ログインする

ヒント

- 管理者のユーザー名とパスワードの初期値は、以下のとおりです。
ユーザー名 : admin
パスワード : password
- スキャナの実環境設定ができるのは常に 1 人です。

4.2.1 管理者がスキャナからログインする タッチパネル

■ 自動ログインしない場合

1. 管理者のユーザー名およびパスワードを入力します。

ログイン画面のスクリーンショット。画面の上部には「ログイン」というタイトルとヘルプアイコン（？）があります。中央には「ユーザー名」と「パスワード」の入力欄があります。画面の下部には「電源切断」と「ログイン」のボタンがあります。画面の最下部には仮想キーボードが表示されています。

ヒント

ログイン LDAP サーバが Active Directory Global Catalog の場合、UPN サフィックスの入力域が表示されます。
UPN サフィックスは、管理者でログインする場合、入力する必要はありません。入力しても無効になります。

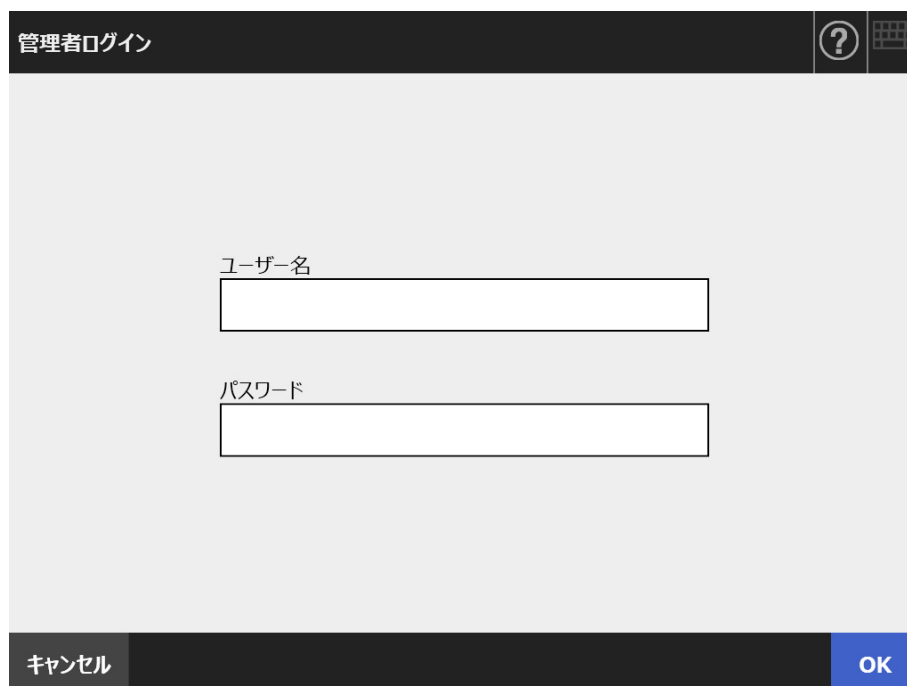
2. [ログイン] ボタンを押します。
⇒ 認証されると、管理者の画面が表示されます。

■ 自動ログインする場合

自動ログインをする設定になっている場合に、利用者の画面から、管理者の画面にログインします。

1. 「メンテナンス」画面を表示して、[管理者ログイン] ボタンを押します。

⇒ 「管理者ログイン」画面が表示されます。



管理者ログイン

ユーザー名

パスワード

キャンセル OK

2. 管理者のユーザー名およびパスワードを入力します。

3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 認証されると、管理者の画面が表示されます。

4.2.2 管理者が Admin Tool からログインする

Admin Tool を使うと、管理者はコンピュータからネットワーク経由でスキヤナの設定ができます。

Admin Tool でログインする方法について説明します。

管理者または利用者がスキヤナにログインしている場合は、Admin Tool からログインできません。

ただし、自動的にログインする設定にした場合は、メインメニューまたはジョブメニューの表示中は、Admin Tool からログインできます。

重要

- 画面が正常に表示されない場合（「×」マークなどが表示されるような場合）は、しばらく時間をおいてから、再度操作してください。それでも発生する場合は、スキヤナを購入された販売店 / 販売店または PFU イメージング サービス & サポートセンターに連絡してください。
- 短時間にボタンを何度も押すと、「通信エラーが発生しました。」というメッセージが表示される場合があります。この場合、しばらく待ってから再度実行してください。

ヒント

- スキヤナの管理をコンピュータで行う場合の動作環境については、「[1.5.1 Admin Tool ・ User Editor の動作環境](#)」(P.40) を参照してください。
- Admin Tool 操作中に以下の操作が 20 分以上行われなかった場合、セッションタイムアウトとなります。
 - メニューのボタン、タブ操作
 - 各設定画面のボタン操作（設定項目の選択や入力を除く）なお、「システム設定操作」画面で「完全消去」を行った場合、「完全消去」の処理に 20 分以上かかるため、「完全消去」が完了するまでタイムアウト時間が延長されます。
- Admin Tool でログインして設定する前に、以下の設定が必要です。
 - 「[4.4.1 スキヤナ名を設定する](#)」(P.79)
 - 「[4.6.4 管理者パスワードを変更する](#)」(P.97)
 - 「[4.7.1 IP アドレス /DHCP を設定する](#)」(P.99)
 - 「[4.7.2 DNS サーバを設定する](#)」(P.101)
 - 「[4.7.3 WINS サーバを設定する](#)」(P.102)
 - 「[4.9.1 接続設定をする](#)」(P.110)

1. Admin Tool を起動します。

- Windows Server 2012
スタート画面を右クリックし、アプリバーの「すべてのアプリ」→「Network Scanner」の「Network Scanner Admin Tool」を選択します。
 - Windows Server 2012 R2
スタート画面左下にある「↓」→「Network Scanner」の「Network Scanner Admin Tool」を選択します。
「↓」はマウスを動かすと表示されます。
 - Windows 10/Windows Server 2016/Windows Server 2019/Windows Server 2022
「スタート」メニュー→「Network Scanner」→「Network Scanner Admin Tool」を選択します。
 - Windows 11/Windows Server 2025
「スタート」メニュー→「すべてのアプリ」→「Network Scanner」→「Network Scanner Admin Tool」を選択します。
- ⇒ Admin Tool が起動されます。

2. 「接続先」を指定します。

設定や管理をしたいスキヤナの IP アドレス、スキヤナ名、または FQDN 名を指定します。

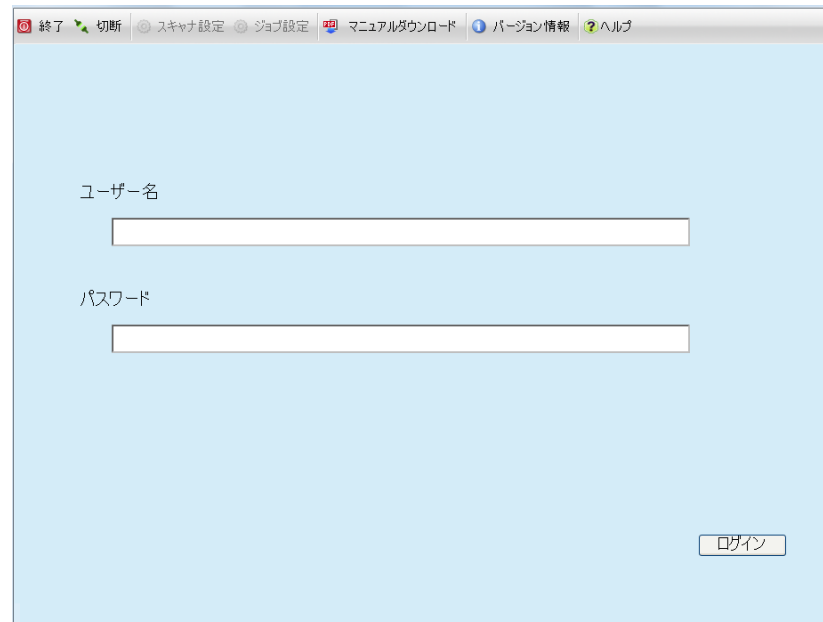


重要

- 「4.9.1 接続設定をする」(P.110) でポート番号を変更した場合、「接続先ポート番号」に変更したポート番号を入力してください。
- 設定されたポート番号以外で接続した場合、接続エラーとなるまでに 20 秒程度かかります。
- SSL 通信をする場合、「https」チェックボックスにチェックを付けてください。
- 空きメモリ容量がない状態で Admin Tool を起動するとエラーが発生する場合があります。空きメモリ容量がある状態で再起動してください。

3. [接続] ボタンを押します。
⇒ ログイン画面が表示されます。

4. 「ユーザー名」および「パスワード」を入力します。



ユーザー名

パスワード

ログイン

5. [ログイン] ボタンを押します。
⇒ 認証されると、管理者の画面が表示されます。

4.3 動作環境を設定する

4.3.1 動作モードを設定する タッチパネル

環境設定や管理を行うときの動作モードを設定します。

動作モードについては、「1.1 スキャナの特長」(P.22) を参照してください。

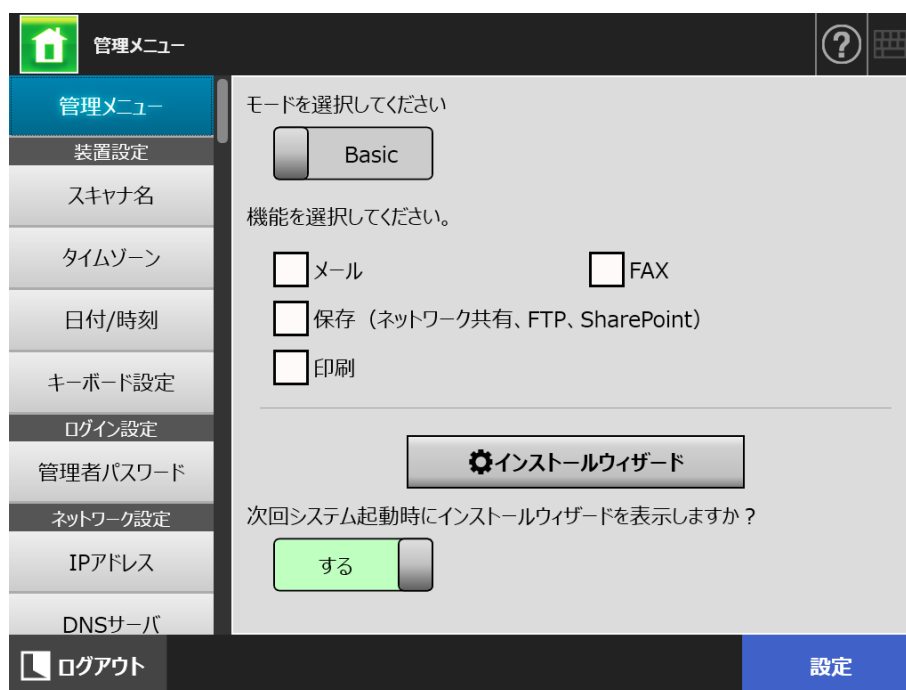
各動作モードの操作については、「1.3.1 管理者権限でできる操作」(P.30) を参照してください。

1. 管理者の画面で、「管理メニュー」を選択するか、 または  を押します。

ヒント

動作モードが「Basic」の場合は  で、「Advanced」の場合は  です。

⇒ 「管理メニュー」画面が表示されます。



2. 動作モードを選択します。
3. 設定できるようにする機能のチェックボックスにチェックを付けます。
4. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 動作モードが設定されます。

ヒント

FAX を使用する場合は、メールも有効に設定してください。

4.3.2 インストールウィザードで環境設定をする タッチパネル

スキャナを導入するために必要な最小限の環境設定を、インストールウィザードで設定できます。

以下の情報を設定できます。

- スキャナ名
- タイムゾーン
- 日付 / 時刻
- ログイン設定
- 管理者パスワード
- IP アドレス
- DNS サーバ
- Scanner Central Admin Server

1. 管理者の画面で、「管理メニュー」を選択するか、 または  を押します。

ヒント

動作モードが「Basic」の場合は  で、「Advanced」の場合は  です。

⇒「管理メニュー」画面が表示されます。

2. [インストールウィザード] ボタンを押します。

⇒「インストールウィザード」画面が表示されます。

インストールウィザード



インストールウィザード画面へようこそ。
以下から設定が必要な項目を選択してください。

☒ スキャナ名	☒ タイムゾーン 日付/時刻
☒ ログイン設定	☒ 管理者パスワード
☒ IPアドレス	☒ DNSサーバ
☒ Scanner Central Admin Server	

キャンセル

開始

3. インストールウィザードで設定する項目のチェックボックスにチェックを付けます。

ヒント

「タイムゾーン 日付 / 時刻」チェックボックスにチェックを付けると、タイムゾーンを設定する画面、および日付 / 時刻を設定する画面がそれぞれ表示されます。

4. 「開始」ボタンを押します。
⇒ 選択した項目を設定するための画面が、インストールウィザードで順に表示されます。
5. ウィザードに従って、設定を進めます。
環境設定の手順については、スタートアップガイドを参照してください。
6. 「設定終了」ボタンを押します。
⇒ インストールウィザードの設定確認画面が表示されます。
7. 設定内容を確認し、「OK」ボタンを押します。
⇒ インストールウィザードが終了し、「管理メニュー」画面に戻ります。

ヒント

「次回システム起動時にインストールウィザードを表示しますか？」で、次回スキャナを起動した直後にインストールウィザードを表示するかどうかを設定できます。

4.4 システムを設定する

4.4.1 スキャナ名を設定する タッチパネル AdminTool

ネットワークの中でスキャナを識別するためのスキャナ名を設定します。

重要

同一ネットワーク内で名前が重複しないように設定してください。
重複した場合、ネットワーク接続時にエラーが表示されます。その場合は、以下の対処をしてください。

1. LAN ケーブルを抜きます。
2. タッチパネルの「電源切断」ボタンを押して、スキャナの電源を切断します。
3. LAN ケーブルを抜いたままの状態、電源ボタンを押してスキャナを起動します。
4. 重複しないスキャナ名を設定します。
5. スキャナを再起動します。
6. LAN ケーブルを接続します。

1. 「装置設定」の「スキャナ名」を選択します。

⇒「スキャナ名」画面が表示されます。

装置設定 > スキャナ名

管理メニュー

装置設定

スキャナ名

タイムゾーン

日付/時刻

キーボード設定

証明書管理

スキャナ設定

マルチフィード検出設定

スキャナ調整

ログアウト

設定

スキャナ名を設定します。

スキャナ名

FI-N7100E

ネットワークへの参加

☒ ワークグループ WORKGROUP

☐ ドメイン

2. 各項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 再起動の確認画面が表示されます。

ヒント

以下の場合、認証画面が表示されます。

- ドメインへ参加する場合
- ドメインに参加している状態でスキャナ名を変更する場合

スキャナをドメインに参加させるときに必要な認証情報をネットワーク管理者に確認して、有効なユーザー名とパスワードを入力してください。

ユーザー名の最大文字数は 256 文字です。

パスワードの最大文字数は半角 256 文字です。なお、英大文字と英小文字は区別されます。

認証されると、再起動の確認画面が表示されます。

4. [すぐに] ボタンを押します。

⇒ スキャナが再起動されます。

ヒント

Admin Tool からスキャナ名を変更した場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、スキャナの起動後、時間をおいてから Admin Tool で再接続してください。

4.4.2 タイムゾーンを設定する

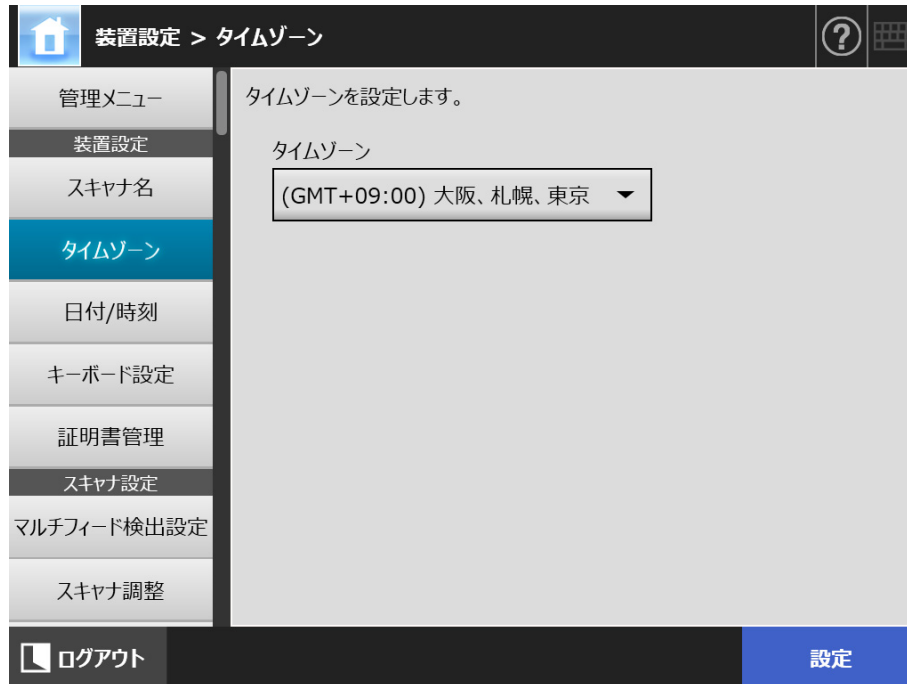
タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

1. 「装置設定」の「タイムゾーン」を選択します。

⇒ 「タイムゾーン」画面が表示されます。



2. 各項目を設定します。
3. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

サマータイムを適用した場合、サマータイムと通常時間は自動的に切り替わります。

4.4.3 日時を設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin
Console

1. 「装置設定」の「日付 / 時刻」を選択します。

⇒ 「日付 / 時刻」画面が表示されます。

装置設定 > 日付/時刻

管理メニュー
装置設定
スキャナ名
タイムゾーン
日付/時刻
キーボード設定
証明書管理
スキャナ設定
マルチフィード検出設定
スキャナ調整

日付/時刻と日付/時刻の書式を設定します。

日付書式
MMddyyyy

日付/時刻
11 / 07 / 2014 18 : 21 : 13

現在時刻取得

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.4.4 キーボードを設定する

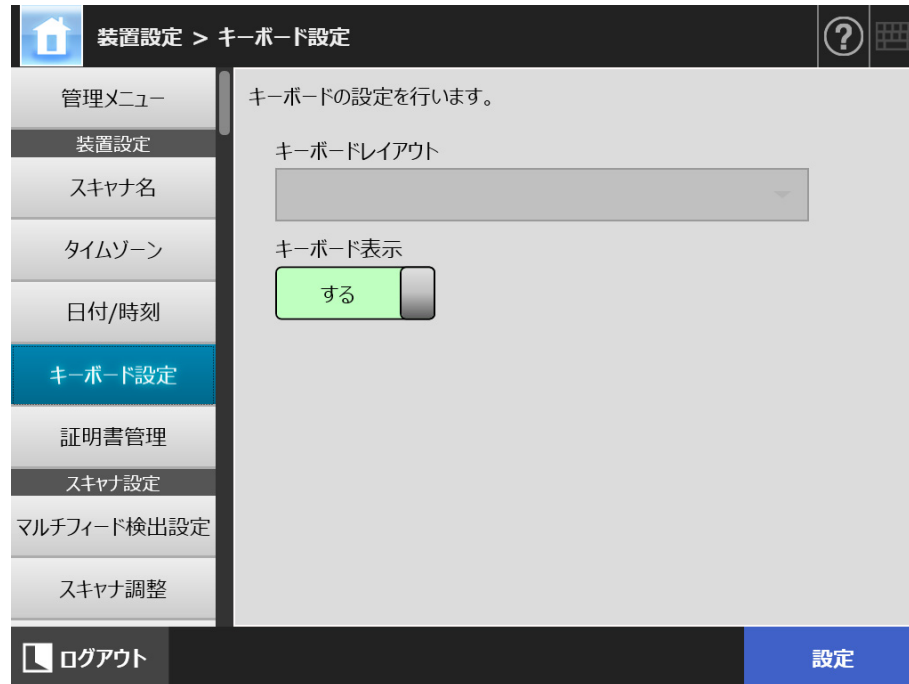
タッチパネル

AdminTool

Central Admin
Console

1. 「装置設定」の「キーボード設定」を選択します。

⇒ 「キーボード設定」画面が表示されます。



2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

重要

キーボード表示を「しない」に設定した場合、文字を入力するためには、別途ハードウェアキーボードを接続する必要があります。

4.4.5 証明書を管理する

SSL 通信時のサーバ証明書の検証に使用する証明書をインポートしたり、削除したりします。

■ 証明書をインポートする Admin Tool Central Admin Console

インポートできる証明書は、X.509 証明書 (*.cer, *.crt) です。
証明書は、最大 100 個までインポートできます。

1. 「装置設定」の「証明書管理」を選択します。

⇒ 「証明書管理」画面が表示されます。



(Admin Tool の画面例)

2. [参照] ボタンを押して、インポートする証明書を指定します。

3. [インポート] ボタンを押します。

⇒ 証明書がインポートされます。

インポートされた証明書は、信頼されたルート証明機関ストアへ保存されます。

重要

Central Admin Server から証明書を配付した場合、すでにインポートされているスキャナの証明書は削除されて、新規に設定されます。

■ 証明書を削除する

1. 「装置設定」の「証明書管理」を選択します。
⇒ 「証明書管理」画面が表示されます。
2. 削除する証明書を選択して [削除] ボタンを押します。
⇒ 削除確認の画面が表示されます。
3. [はい] ボタンを押します。
⇒ 証明書が削除されます。

4.5 読み取りに関する設定をする

4.5.1 マルチフィードの検出条件を設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

「マルチフィード」とは、一度に2枚以上の原稿が重なってADFに送り込まれてしまう現象のことです。長さによる違いを検出した場合も、マルチフィードと呼びます。通常のマルチフィード検出は、原稿の中央部（原稿の中心線から両側に幅25mm）に対して、重なりがないかを監視します。

- マルチフィード検出領域の設定

原稿に、付箋紙、伝票、または写真など（以降「貼り付け紙片」と呼びます）が貼られている場合、その部分を原稿の重なりと判断され、マルチフィードと誤検出されることがあります。このような原稿を読み取る場合は、原稿の重なりをチェックする領域を指定して、検出範囲を絞ることで、誤検出を防げます。

- インテリジェントマルチフィード検出機能の設定

「インテリジェントマルチフィード検出機能」を使用すると、貼り付け紙片の長さや位置をスキャナに記憶させることができ、次の読み取りからマルチフィードを検出しないようにできます。

- 高地で読み取る機能の設定

高地では気圧が低いため、超音波センサーによるマルチフィード検出の精度が低下する場合があります。

「高地モード機能」を有効にすると、標高2,000m以上の高地でスキャナを使用できるようにになります。

マルチフィードの検出を正しく行うための原稿の条件については、「[A.5 マルチフィードの検出条件](#)」（P.398）を参照してください。

1. 「スキャナ設定」の「マルチフィード検出設定」を選択します。

⇒ 「マルチフィード検出設定」画面が表示されます。

スキャナ設定 > マルチフィード検出設定

マルチフィード検出の条件を設定します。

マルチフィード検出領域
領域指定無効

設定範囲

a 0 mm
b 2 mm

* 原稿先端から
0mm ≤ a < b ≤ 510mmの値

インテリジェントマルチフィード検出機能を設定します。
手動モード（ボタンによる検出無効化）

高地モード
無効

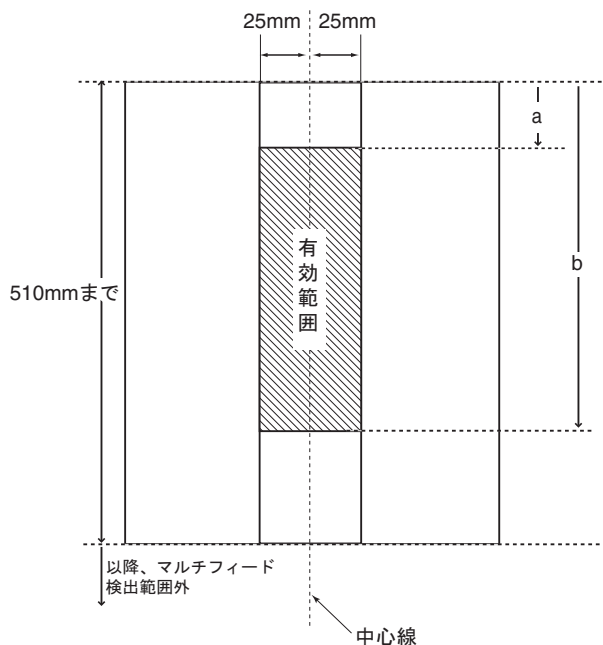
ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

「有効範囲選択」または「無効範囲選択」を選択した場合は、「a」と「b」を指定します。

● 有効範囲選択

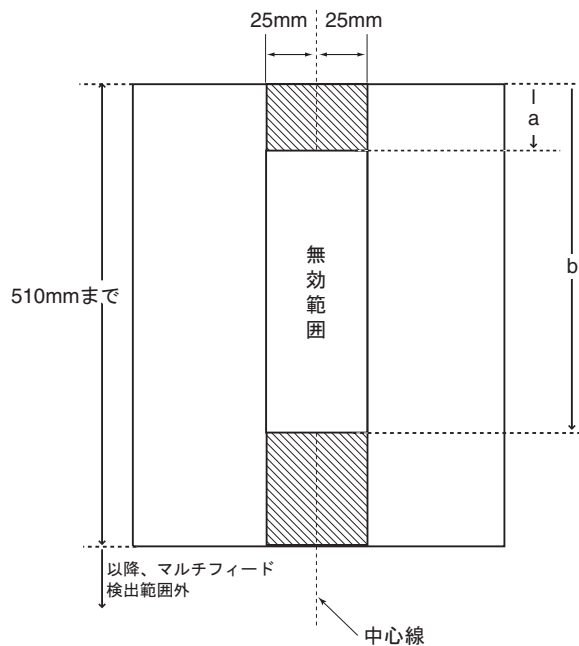
「a」から「b」までを検出有効範囲とします。



● 無効範囲選択

「a」から「b」までを検出無効範囲とします。

ページ先頭から「a」までと、「b」からページ終端までが検出対象となります。



3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.5.2 読み取り開始位置を調整する（オフセット / 倍率）タッチパネル AdminTool

通常、設定変更する必要はありません。

以下の設定をします。

- 読み取り画像のオフセット
読み取り結果の画像位置が原稿と比べて偏っている場合に、オフセットを調整します。
- 読み取り画像の倍率
読み取り結果の画像サイズが、読み取り指定サイズと比較して、伸びたり縮んだりしている場合に、副走査方向の倍率を調整します。

1. 「スキャナ設定」の「スキャナ調整」を選択します。

⇒ 「スキャナ調整」画面が表示されます。

スキャナ設定 > スキャナ調整

読み取り画像のオフセットと倍率を設定します。

倍率調整（長さ方向）
(-3.1% << +3.1%)

ADF（表面）

#1 主走査 × 0.5mm(-4<<+4)

#2 副走査 × 0.5mm(-4<<+4)

ADF（裏面）

#3 主走査 × 0.5mm(-4<<+4)

#4 副走査 × 0.5mm(-4<<+4)

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.5.3 スキャナの詳細設定をする

タッチパネル

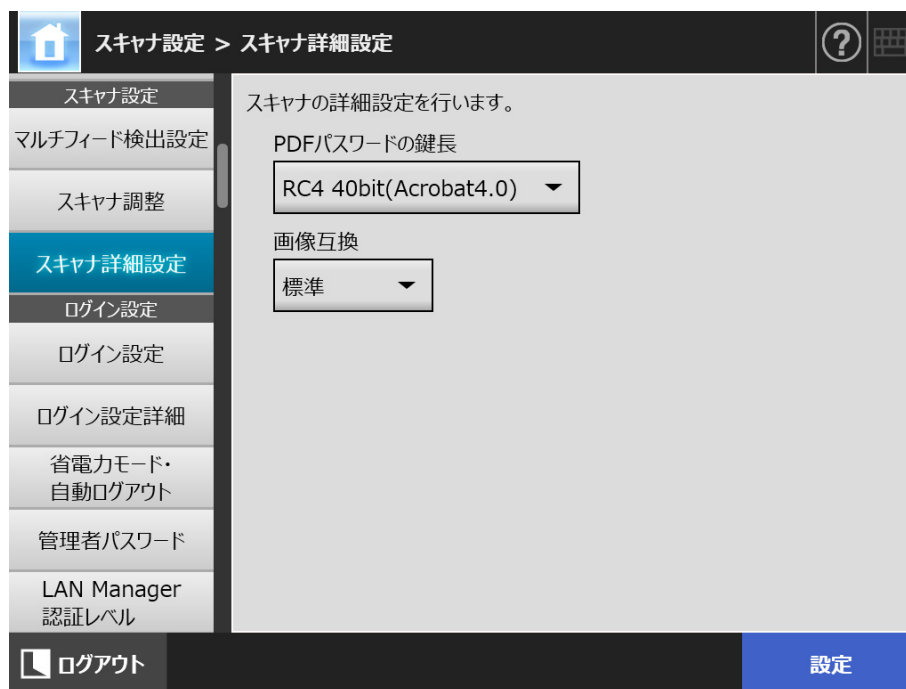
AdminTool

Central Admin
Console

通常、設定変更する必要はありません。
原稿を読み取るときの詳細設定をします。

1. 「スキャナ設定」の「スキャナ詳細設定」を選択します。

⇒ 「スキャナ詳細設定」画面が表示されます。



2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.6 ログインに関する設定をする

4.6.1 ログイン設定をする タッチパネル AdminTool Central Admin Console

ログイン設定をします。

- 認証方法の設定

ログイン時の認証処理で、LDAP サーバまたはスキャナに保持しているローカルアカウントのどちらを使用するかを設定します。両方とも使用する場合は、認証情報の検索順序を設定できます。

ヒント

認証方式に LDAP を含める場合は、LDAP サーバでアカウントを追加してください。
認証方式にローカルアカウントを含める場合は、User Editor でアカウントを追加してください。

- 自動ログインの設定

電源投入時および再起動時、「ログイン」画面を表示せずに、自動的にログインします。

自動的にログインするように設定した場合、ここで設定したユーザー名、パスワードを使用して自動的にログインします。

- guest アカウントの有効無効

guest アカウントでログインできるようにするかどうかを設定します。

1. 「ログイン設定」の「ログイン設定」を選択します。

⇒「ログイン設定」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'ログイン設定' (Login Settings) screen. The left sidebar contains the following menu items: ログイン設定 (selected), ログイン設定詳細, 省電力モード・自動ログアウト, 管理者パスワード, LAN Manager 認証レベル, ネットワーク設定, IPアドレス, DNSサーバ, WINSサーバ, ログアウト. The main content area is titled 'ログイン設定 > ログイン設定' and contains the following settings:

- 認証方法 (Authentication Method): LDAP→ローカルアカウント (dropdown menu)
- 自動ログイン (Automatic Login): しない (disabled)
- ユーザー名 (Username): [text input field]
- パスワード (Password): [password input field]
- guestアカウント (Guest Account): 有効 (enabled)

At the bottom of the screen, there is a 'ログアウト' (Logout) button on the left and a '設定' (Settings) button on the right.

2. 「認証方法」で、認証方法を選択します。

ヒント

管理者として別名アカウントが設定されている場合に、別名アカウントと同一名のローカルアカウントまたはLDAPユーザーが設定されているときは、管理者のアカウントとしてログイン処理が行われます。このとき、パスワードエラーが発生しても、ローカルアカウントまたはLDAPユーザーとしてのログイン処理は行われません。

ログインにおける認証先の優先度は、以下のとおりです。

1. 別名アカウント
2. 「認証方法」で指定した順序

3. 「自動ログイン」で、自動ログインするかどうかを選択します。

重要

- 自動ログインの設定は、管理者がログアウトしたあと、すぐに適用されます。自動ログインが有効な場合に設定を変更するときは、「メンテナンス」画面から管理者ログインするか、または Admin Tool からログインして、操作してください。
- 自動ログインを有効にしたスキャナで集中管理を有効にした場合、スキャナの起動時または省電力モードからの復帰時に、自動ログインより優先して Central Admin Server にシステム、Add-in、またはシステム環境設定が公開されていないか問い合わせされます。

システム、Add-in、またはシステム環境設定が公開されている場合、スキャナへの適用が開始されます。ただし、適用時に Central Admin Server に同時に接続できるスキャナの最大数（スキャナ通信多重度）を超えている場合、適用は一時中断され自動ログインが優先されます。

スキャナへの適用は、「管理者ログイン」画面からのログアウト時、次のスキャナ起動時、または省電力モードからの復帰時に行われます。

4. 「自動ログイン」を「する」にした場合、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

スキャナは、指定されたユーザー名に応じて、以下のように認証処理されます。

- LDAP サーバに登録されているユーザーの場合
 - LDAP サーバのサーバ種別が「Active Directory」または「Active Directory Global Catalog」の場合

分類	認証処理
SAM アカウント名 「@」を含まないユーザー名が指定された場合	ユーザーログイン名（sAMAccountName）で認証処理が行われます。 例：user
ユーザープリンシパル名 「@」を含むユーザー名が指定された場合	ユーザーログイン名（userPrincipalName）で認証処理が行われます。 例：user@example.com

ヒント

SAM アカウント名にドメイン名を指定する場合は、「ドメイン名¥SAM アカウント名」と記述します。

- LDAP サーバのサーバ種別が「その他の LDAP サーバ」の場合

分類	認証処理
uid	ユーザーログイン名（uid）で認証処理が行われます。 例：user
cn	ユーザーログイン名（cn）で認証処理が行われます。 例：user

- ローカルアカウントに登録されているユーザーの場合
スキャナに保持しているローカルアカウントに対して、指定されたユーザーログイン名で認証処理が行われます。

ヒント

自動的にログインするように設定した場合、UPN サフィックスは無効になります。入力しても適用されません。

5. 「guest アカウント」で、guest アカウントでログインできるようにするかどうかを選択します。
6. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

4.6.2 ログイン設定（詳細）をする

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

管理者アカウントとして、工場出荷時の管理者アカウント（admin）を使用するか、別のアカウントを使用するかを設定します。

また、読み取った画像の送信処理完了を待ち合わせてメニューに戻るかどうかの設定、再試行の回数と間隔、[再送信] ボタンを表示するかどうかを設定します。

1. 「ログイン設定」の「ログイン設定詳細」を選択します。

⇒「ログイン設定詳細」画面が表示されます。

ログイン設定 > ログイン設定詳細

ログイン設定

ログイン設定

ログイン設定詳細

省電力モード・自動ログアウト

管理者パスワード

LAN Manager 認証レベル

ネットワーク設定

IPアドレス

DNSサーバ

WINSサーバ

ログアウト

設定

管理者アカウント

admin (出荷初期値)

管理者ユーザー名

送信動作の待ち合わせ

する

再試行回数

5 (0-10)

再試行間隔(秒)

30 (10-300)

再送信ボタンの表示

しない

2. 「管理者アカウント」および「管理者ユーザー名」を設定します。

ヒント

「別名アカウント」のパスワードは、「管理者パスワード」画面で変更できます。

3. 「送信動作の待ち合わせ」を設定します。

「送信動作の待ち合わせ」で「しない」を選択した場合は、「再試行回数」、「再試行間隔」、および「再送信ボタンの表示」を設定します。

重要

- 送信動作の待ち合わせが「しない」の場合、バックグラウンドに送信処理が残っているときは、ログアウトや電源切断の操作はできません。
- 再送信ボタンの表示が「する」の場合、エラーとなっている送信動作が残っているときは、ログアウトや電源切断の操作はできません。

ヒント

- 送信動作の待ち合わせが「する」の場合、読み取り後の送信処理が完了するまで処理中画面で待ち合わせます。この場合は送信処理が完了してから、次の読み取り操作や画面操作が可能となります。
- 送信動作の待ち合わせが「しない」の場合、読み取り後の送信処理の完了を待たず、次の読み取り操作や画面操作が可能となります。なお、送信処理はバックグラウンドで貯留され、順次処理されます。
- 送信動作の実施状況は、「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で[送信動作] ボタンを押すと表示される「送信動作」画面の「実行中」タブで確認できます。
- 再送信ボタンの表示が「する」の場合、「送信動作」画面の「実行中」タブに、[再送信] ボタンが表示されます。[再送信] ボタンで、エラーとなっている送信動作の再送信が可能となります。詳細は、「[5.11.2 実行中の送信動作の詳細情報を参照する](#)」(P.319)を参照してください。

4. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.6.3 省電力モード・自動ログアウトを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

自動ログアウト、省電力モード、およびスキヤナの電源切断への移行時間を設定します。

- 「自動ログアウト」とは、ログインしたあとの画面で一定時間操作しなかった場合に、自動的にログアウトして「ログイン」画面へ移行する機能です。

ヒント

- 以下の動作中は自動ログアウトされません。
 - 読み取り処理中
 - メール送信中
 - FAX 送信中
 - ネットワーク共有プリンターへ送信中
 - フォルダー保存中
 - 日本語入力の変換中
 - 自動ログインを「する」に設定
- 自動ログインが有効の場合、自動ログアウト時間経過時には、メインメニュー（ジョブ設定で初期表示メニューにジョブメニューが選択されている場合は、ジョブメニュー）に移行します。
- 自動ログインの設定にかかわらず、「自動ログアウト監視時間」で選択した時間は有効になります。

- 「省電力モード」とは、「ログイン」画面またはログインしたあとの画面で一定時間操作しなかった場合に、省電力状態へ自動的に移行する機能です。
 なお、「ディスプレイ消灯のみ」の設定で省電力モードの状態を変更できます。
 電源ボタンを押すと、省電力モードから復帰します。
 復帰後に表示される画面は、自動ログインの設定によって、以下のようになります。

- 自動的にログインする設定にした場合、操作画面が表示されます。
- 自動的にログインしない設定にした場合、「ログイン」画面が表示されます。
 画面遷移については、「[電源ボタンの使い方](#)」(P.52)を参照してください。
 省電力モード移行待ち時間は、自動ログアウト監視時間を含めて設定します。

- 「電源切断時間」とは、スキヤナの電源を投入したまま長時間使用していない場合に、スキヤナの電源を自動的に切断する機能です。
 省電力モードに移行したあと、さらに一定時間操作しなかった場合に、スキヤナの電源が自動的に切断されます。
 電源切断時間は、省電力モードに移行するまでの時間を含めて設定します。

1. 「ログイン設定」の「省電力モード・自動ログアウト」を選択します。

⇒ 「省電力モード・自動ログアウト」画面が表示されます。

ログイン設定 > 省電力モード・自動ログアウト

省電力モード・自動ログアウトを設定します。

自動ログアウト監視時間 5分

省電力モード移行待ち時間 15分

☐ ディスプレイ消灯のみ

電源切断時間 4時間

*自動ログアウト監視時間 < 省電力モード移行待ち時間
*省電力モード移行待ち時間 < 電源切断時間

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.6.4 管理者パスワードを変更する タッチパネル AdminTool**重要**

パスワードを紛失したり、忘れたりすると、ログインできなくなります。

パスワードの管理はしっかり行ってください。

万一、パスワードを紛失したり、忘れたりした場合は、修理対応となります。スキャナを購入された販社 / 販売店または Pfu イメージング サービス & サポートセンターに連絡してください。

1. 「ログイン設定」の「管理者パスワード」を選択します。

⇒ 「管理者パスワード」画面が表示されます。

ログイン設定 > 管理者パスワード

管理者パスワードを変更します。

現パスワード

新パスワード

確認パスワード

パスワードを紛失すると、ログインできなくなります。
変更したパスワードは安全な場所に保管してください。

ログアウト 設定

2. 現在のパスワードおよび新しいパスワードを入力します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 管理者パスワードが変更されます。

4.6.5 LAN Manager 認証レベルを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

サーバとスキャナを接続するときの LAN Manager 認証レベルを設定します。

LAN Manager 認証レベルの設定内容は、以下の場合に有効となります。

- ログイン LDAP サーバのサーバ種別が「Active Directory」または「Active Directory Global Catalog」で、スキャナにログインするときに、Active Directory サーバとスキャナを接続する
- スキャン画像をネットワーク共有フォルダーに保存するときに、ファイルサーバとスキャナを接続する
- スキャン画像を印刷するときに、プリントサーバとスキャナを接続する

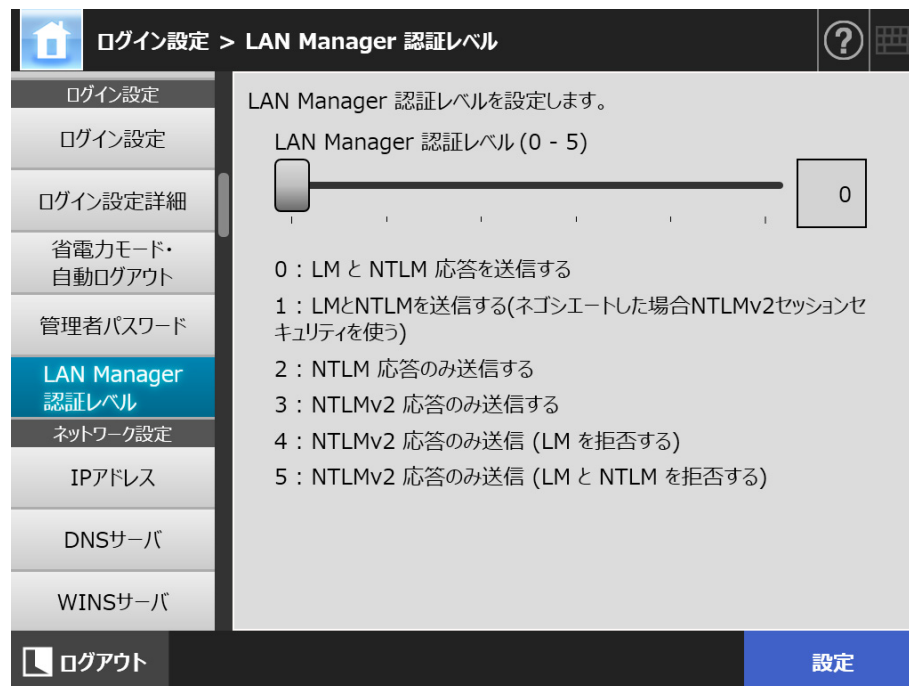
LAN Manager 認証レベルの詳細は、連携するサーバのマニュアルを参照してください。

重要

- LAN Manager 認証レベルは、サーバ側の設定に合わせることを推奨します。
- サーバ側で設定されている LAN Manager 認証レベルをサーバの管理者に確認してから、変更してください。サーバ側と異なるレベルを設定すると、スキャナへのログイン、ネットワーク共有フォルダーに保存、および印刷ができなくなることがあります。

1. 「ログイン設定」の「LAN Manager 認証レベル」を選択します。

⇒ 「LAN Manager 認証レベル」画面が表示されます。



2. LAN Manager 認証レベルを設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.7 ネットワークを設定する

スキャナをネットワークに接続するための設定をします。

ここでは、IPv4 機能の場合の手順を例に説明します。

なお、本スキャナは、IPv6 機能にも対応しています。

IPv6 機能を有効にすると、スキャナを IPv6 環境へ導入できます。

詳細は、「[付録 G IPv6 環境設定](#)」(P.451) を参照してください。

4.7.1 IP アドレス /DHCP を設定する タッチパネル AdminTool

ネットワークに接続するためにスキャナの IP アドレス /DHCP を指定します。

1. 「ネットワーク設定」の「IP アドレス」を選択します。

⇒ 「IP アドレス」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > IPアドレス

ネットワーク設定

IPアドレス

DNSサーバ

WINSサーバ

NTPサーバ

プロキシサーバ

SNMP連携

SMB 1.0/CIFS

ネットワーク詳細設定

ネットワーク状態確認

ログアウト

設定

IPアドレスを設定します。

DHCP

有効

IPアドレス

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

2. 各項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

- IP アドレスが重複した場合、正しく通信できません。その場合は以下の対処をしてください。
 1. LAN ケーブルを抜きます。
 2. タッチパネルの「電源切断」ボタンを押して、スキャナの電源を切断します。
 3. LAN ケーブルを抜いたままの状態、電源ボタンを押してスキャナを起動します。
 4. 重複しない IP アドレスを設定します。
 5. LAN ケーブルを接続します。
- Admin Tool から IP アドレスを変更した場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、Admin Tool を一度切断し、再接続してください。IP アドレスで再接続する場合は、新しく設定した IP アドレスで接続してください。

4.7.2 DNS サーバを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin
Console

優先 DNS および代替 DNS を指定します。

1. 「ネットワーク設定」の「DNS サーバ」を選択します。

⇒ 「DNS サーバ」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > DNSサーバ

ネットワーク設定

- IPアドレス
- DNSサーバ**
- WINSサーバ
- NTPサーバ
- プロキシサーバ
- SNMP連携
- SMB 1.0/CIFS
- ネットワーク詳細設定
- ネットワーク状態確認

DNSサーバを設定します。

優先DNS: 0 . 0 . 0 . 0

代替DNS: 0 . 0 . 0 . 0

DNS動的更新: ☐ しない

DNSサフィックス:

完全修飾ドメイン名:

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.7.3 WINS サーバを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

優先 WINS および代替 WINS を指定します。

1. 「ネットワーク設定」の「WINS サーバ」を選択します。

⇒ 「WINS サーバ」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > WINSサーバ

ネットワーク設定

- IPアドレス
- DNSサーバ
- WINSサーバ**
- NTPサーバ
- プロキシサーバ
- SNMP連携
- SMB 1.0/CIFS
- ネットワーク詳細設定
- ネットワーク状態確認

WINSサーバを設定します。

優先WINS: 0 . 0 . 0 . 0

代替WINS: 0 . 0 . 0 . 0

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

4.7.4 NTP サーバを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin
Console

NTP サーバを設定します。

1. 「ネットワーク設定」の「NTP サーバ」を選択します。

⇒ 「NTP サーバ」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > NTPサーバ

ネットワーク設定

- IPアドレス
- DNSサーバ
- WINSサーバ
- NTPサーバ**
- プロキシサーバ
- SNMP連携
- SMB 1.0/CIFS
- ネットワーク詳細設定
- ネットワーク状態確認

NTPサーバを設定します。

NTPサーバ

アドレス

今すぐ同期

ログアウト 設定

2. 「アドレス」に、NTP サーバの IP アドレス、ホスト名、または FQDN 名を入力します。

3. [今すぐ同期] ボタンを押します。

⇒ 指定した NTP サーバと時刻同期が行われ、結果が表示されます。

正常に時刻同期が行われることを確認してください。

4. 時刻同期のメッセージ画面で [OK] ボタンを押します。

5. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

- スキャナでは、指定された NTP サーバと 6 時間ごとに、時刻同期が行われます。
- 設定を変更すると、即時に時刻同期が行われます。
- タッチパネルの場合、自動ログアウト時間以上の無操作でログアウトします。Admin Tool の場合、20 分以上の無操作でセッションタイムアウトになります。

4.7.5 プロキシサーバを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

FTP サーバまたは SharePoint サーバと連携する場合に、プロキシサーバを使用するかどうかを設定します。

また、アップデートチェックを行うときにプロキシサーバを使用する場合は、HTTP プロキシサーバの設定が必要です。

1. 「ネットワーク設定」の「プロキシサーバ」を選択します。

⇒ 「プロキシサーバ」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > プロキシサーバ

ネットワーク設定

- IPアドレス
- DNSサーバ
- WINSサーバ
- NTPサーバ
- プロキシサーバ**
- SNMP連携
- SMB 1.0/CIFS
- ネットワーク詳細設定
- ネットワーク状態確認

ログアウト

設定

プロキシサーバを設定します。

FTP プロキシサーバ

無効

*ネットワーク共有フォルダのFTP入力で使用します。

アドレス

ポート番号 (1 - 65535)

8080

HTTPプロキシサーバ

無効

*アップデートチェックで使われます。

アドレス

ポート番号 (1 - 65535)

8080

例外

*次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない。

*セミコロン (;) を使用してエントリーを分けてください。

2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.7.6 SNMP 連携を設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin
Console

MIB 情報の収集およびトラップ通知を行うかどうかを設定します。
SNMP 連携の詳細は、「付録 E SNMP 連携」(P.422) を参照してください。

1. 「ネットワーク設定」の「SNMP 連携」を選択します。

⇒ 「SNMP 連携」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'SNMP連携' (SNMP Collaboration) configuration screen. On the left is a sidebar menu with options: ネットワーク設定 (Network Settings), IPアドレス (IP Address), DNSサーバ (DNS Server), WINSサーバ (WINS Server), NTPサーバ (NTP Server), プロキシサーバ (Proxy Server), **SNMP連携** (SNMP Collaboration), SMB 1.0/CIFS, ネットワーク詳細設定 (Network Detailed Settings), and ネットワーク状態確認 (Network Status Confirmation). The main area is titled 'SNMP連携の設定を行います。' (Perform SNMP Collaboration Settings). It contains two sections: 'MIB通知' (MIB Notification) and 'トラップ通知' (Trap Notification). Each section has a toggle switch set to '無効' (Disabled), a text field for 'コミュニティ名' (Community Name) containing 'public', and a text field for '連絡先' (Contact) or '送信先' (Destination). Below the trap notification section is a 'テスト送信' (Test Send) button. At the bottom right, there is a '設定' (Settings) button. A footer note states: '*セミコロン (;) を使用してエントリーを分けてください。' (Use semicolon (;) to separate entries).

2. 各項目を設定します。

3. トラップ通知が正しくできるかどうかをテストする場合、[テスト送信] ボタンを押します。

⇒ トラップ通知が行われます。

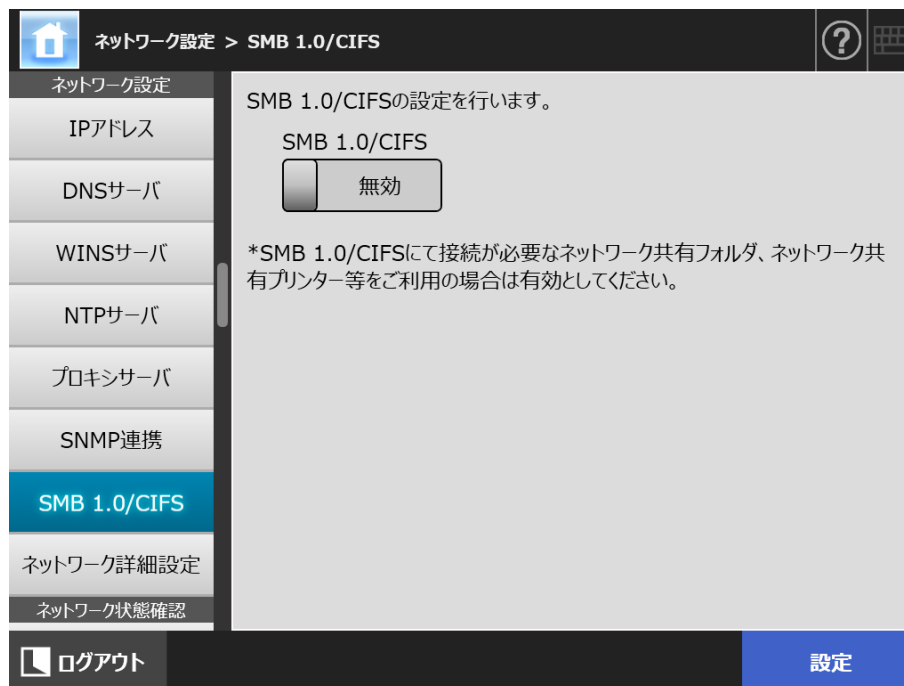
4. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.7.7 SMB 1.0/CIFS を設定する タッチパネル AdminTool

1. 「ネットワーク設定」の「SMB 1.0/CIFS」を選択します。

⇒ 「SMB 1.0/CIFS」画面が表示されます。



2. 項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 再起動の確認画面が表示されます。

4. [OK] ボタンを押します。

⇒ スキャナが再起動されます。

ヒント

- SMB 1.0/CIFS で接続が必要なネットワーク共有フォルダー、ネットワーク共有プリンターなどをご利用の場合は有効にしてください。
- SMB 1.0/CIFS が無効な場合、ネットワーク共有フォルダーを登録する（ツリー選択）およびネットワーク共有プリンターを登録する（ツリー選択）でネットワークツリーが表示されないことがあります。
- Admin Tool から SMB 1.0/CIFS を変更した場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、スキャナの起動後、時間をおいてから Admin Tool で再接続してください。

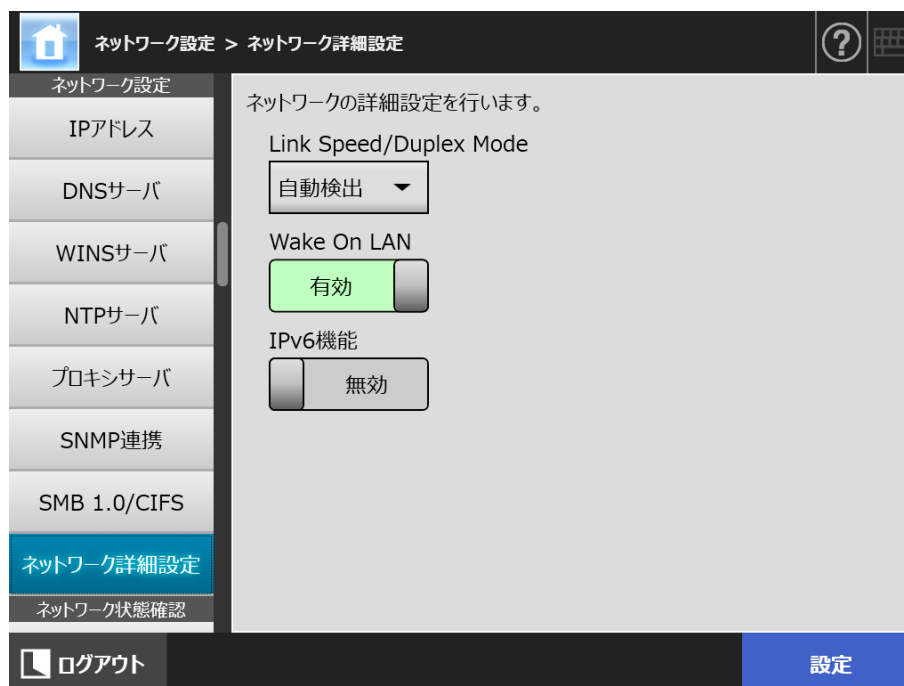
4.7.8 ネットワークの詳細設定をする タッチパネル AdminTool

Link Speed/Duplex Mode および Wake On LAN を設定します。

また、IPv6 機能を使用するかどうかを設定します。IPv6 機能の詳細は、「[付録 G IPv6 環境設定](#)」(P.451) を参照してください。

1. 「ネットワーク設定」の「ネットワーク詳細設定」を選択します。

⇒ 「ネットワーク詳細設定」画面が表示されます。



2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

Admin Tool から IPv6 機能を変更した場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、Admin Tool を一度切断し、再接続してください。

4.8 ネットワーク状態を確認する

4.8.1 Ping でネットワークへの接続状態を確認する タッチパネル AdminTool

Ping を使って、ネットワークへの接続ができていないかを確認します。

1. 「ネットワーク状態確認」の「Ping」を選択します。

⇒ 「Ping」画面が表示されます。



2. 「アドレス」に、接続状態を確認するサーバの IP アドレス、ホスト名、または FQDN 名を入力します。

3. [Ping] ボタンを押します。

⇒ Ping が実行され、結果が表示されます。

結果の内容については、「[Ping によるネットワークの基本動作確認](#)」(P.363)を参照してください。

4.8.2 ネットワークの動作状態を確認する タッチパネル AdminTool

ネットワークの動作状態を参照できます。

値が表示されていない場合は、ネットワークが正常に動作していません。「7.2 ネットワーク通信ができないときには」(P.363)を参照して、設定を確認してください。

1. 「ネットワーク状態確認」の「ネットワーク状態」を選択します。

⇒「ネットワーク状態」画面に、現在動作しているネットワーク状態が表示されます。



ヒント

- LDAP サーバなどに接続できない場合は、以下の対処をしてください。
 1. LAN ケーブルを抜きます。
 2. タッチパネルの「電源切断」ボタンを押して、スキャナの電源を切断します。
 3. LAN ケーブルを抜いたままの状態、電源ボタンを押してスキャナを起動します。
 4. 重複しない IP アドレスを設定します。
 5. LAN ケーブルを接続します。
- DHCP を「有効」に設定し、DHCP サーバと接続できない場合は、IP アドレスには「169.254.X.X」(Xは0～255までの任意の数字)が表示されます。

4.9 ネットワーク管理を設定する

4.9.1 接続設定をする タッチパネル Admin Tool Central Admin Console

Admin Tool および Central Admin Server からスキャナへ接続するときの動作環境を設定します。

1. 「ネットワーク管理」の「接続設定」を選択します。

⇒ 「接続設定」画面が表示されます。

ネットワーク管理 > 接続設定

ネットワーク管理

接続設定

Scanner Central Admin Server

Scanner Central Admin Server 詳細

認証サーバ

ログインLDAPサーバ

メールアドレス LDAPサーバ

スキーマ

LDAP 検索条件

情報表示

装置情報

ログアウト

設定

ネットワーク経由で接続する場合の動作環境を設定します。

SSL通信

ポート番号 (1 - 65535)

SSL暗号設定

☒ TLS 1.2

☒ TLS 1.1

☒ TLS 1.0

☐ SSL 3.0

SSL証明書 証明書は有効期限切れかまたは有効ではありません

発行者 : -----

有効期限 --/--/---- ~ --/--/----

2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

重要

Admin Tool から接続設定を変更した場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、Admin Tool を一度切断してから、変更した接続設定の内容で再接続してください。

4.9.2 Central Admin Server を設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

スキャナを集中管理の対象とするかどうかを設定します。

「集中管理」を有効にすると、スキャナが集中管理の対象となり、Central Admin Server に登録されます。

1. 「ネットワーク管理」の「Scanner Central Admin Server」を選択します。

⇒ 「Scanner Central Admin Server」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。

自動アップデートで更新する対象は、スキャナのシステム（セキュリティ、オプション機能を含む）、システム環境設定、および Add-in です。

ヒント

- Central Admin Server への登録が成功すると、「Scanner Central Admin Server への登録状態」が「未登録」から「登録済み」になります。
なお、設定値が正しくても、ネットワークがつながっていなかったり、Central Admin Server が停止している場合は、登録に失敗します。この場合、「集中管理」が「有効」になっていれば、次の電源オンまたは省電力モードからの復帰時に、Central Admin Server への登録が行われます。
- Central Admin Server とスキャナとの間の通信で SSL を使用するための設定については、「4.9.1 接続設定をする」(P.110) を参照してください。
- ユーザー情報共有またはジョブ設定共有が有効になっている状態で、ログイン時に Central Admin Server と通信できない場合、確認画面が表示されます。この画面で [OK] ボタンを押して続行した場合は、スキャナに保存されている設定情報で動作します。[キャンセル] ボタンを押した場合は、「ログイン」画面に戻ります。

- 「自動アップデートスケジュール」を設定すると、以下の動作となります。
 - スキャナが省電力モードの状態、または電源が入っていてユーザーがログインしていない状態のときに、自動でアップデートされます。また、Central Admin Server から配付通知されたときや、Wake On LAN が使用できない環境のときでも、指定した日時にアップデートされます。
 - 電源が入っていない状態で Wake On LAN が有効な場合でも、自動アップデートされます。
 - 設定した適用日時にユーザーがスキャナにログインしていた場合、ログアウト時にアップデートされます。
 - Central Admin Server で自動アップデートスケジュールの適用日時を設定した場合、Central Admin Server からスキャナへ設定が配信されてから自動アップデートまでの時間が 10 分未満だったときは、適用日時は設定されません。配付通知ができない環境でシステム環境設定を適用するには、スキャナの再起動やログアウト操作が必要です。これらの操作でソフトウェアアップデートが行われないようにするには、ソフトウェアアップデート時間帯制限の機能を使用してください。アップデートが制限された時間帯でも、システム環境設定の更新が適用されます。詳細は、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。
 - 自動でアップデートする時間を Admin Tool または Central Admin Console でも設定した場合、最後に設定して適用した方の値が有効になります。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

⇒ 「集中管理」を有効にした場合、スキャナ情報が Central Admin Server に通知されます。

通知に成功すると、「Scanner Central Admin Server への登録状態」の表示が「登録済み」に変更されます。

4.9.3 Central Admin Server（詳細）を設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

スキャナを集中管理するための自動探索の設定をします。

1. 「ネットワーク管理」の「Scanner Central Admin Server 詳細」を選択します。

⇒ 「Scanner Central Admin Server 詳細」画面が表示されます。



2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.10 認証サーバを設定する

4.10.1 ログイン LDAP サーバを設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

ログイン LDAP サーバを設定すると、ユーザーごとに認証できます。

1. 「認証サーバ」の「ログイン LDAP サーバ」を選択します。

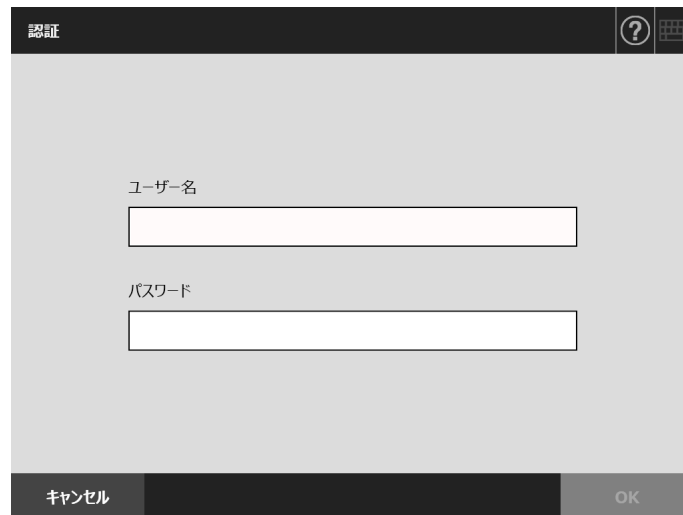
⇒「ログイン LDAP サーバ」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。

- 「サーバ種別」で「無効」を選択した場合
LDAP サーバを使用しない設定になります。[設定] ボタンを押して、設定を確認してください。
- 「サーバ種別」で「その他の LDAP サーバ」を選択した場合
「LDAP サーバアクセス用認証情報」で、LDAP サーバにログインするユーザーを検索するときの認証情報を入力します。
- 「サーバ種別」で「Active Directory」または「Active Directory Global Catalog」を選択した場合
「LDAP サーバアクセス用認証情報」で、Active Directory との認証情報を入力します。
- 「検索ベース (DN)」に入力する文字列と LDAP 検索対象の関係については、[「LDAP 検索の対象」\(P.116\)](#)を参照してください。

3. LDAP サーバと正しく接続できるかどうかをテストする場合、[接続テスト] ボタンを押します。

⇒ サーバ種別が「Active Directory」または「Active Directory Global Catalog」の場合、「認証」画面が表示されます。LDAP サーバへの接続を確認するための認証情報を入力して、[OK] ボタンを押します。

A screenshot of a software dialog box titled "認証" (Authentication). The dialog has a dark header bar with the title and a help icon. The main area is light gray and contains two text input fields. The first field is labeled "ユーザー名" (Username) and the second is labeled "パスワード" (Password). At the bottom, there is a dark bar with two buttons: "キャンセル" (Cancel) on the left and "OK" on the right.

⇒ サーバ種別が「その他の LDAP サーバ」の場合、「LDAP サーバアクセス用認証情報」で入力した認証情報で認証が行われます。

⇒ 認証されて接続に成功すると、「ログイン LDAP サーバ」画面が表示されます。

4. [設定] ボタンを押します。

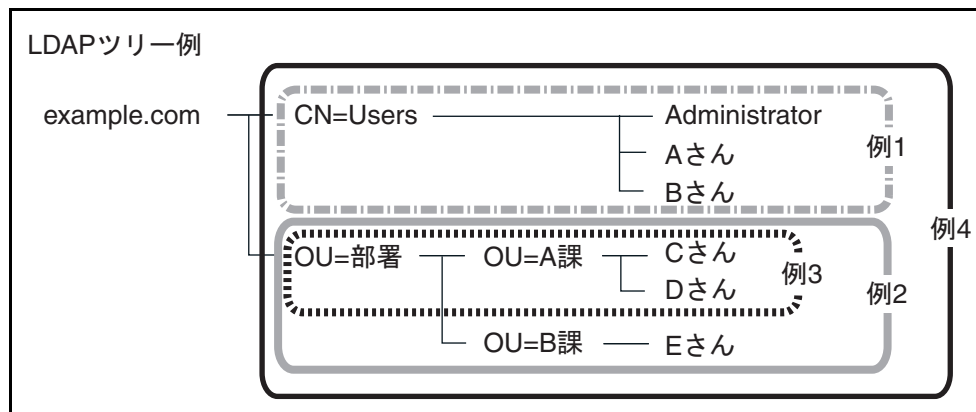
⇒ 入力内容が設定されます。

■ LDAP 検索の対象

LDAP サーバとの接続方法および検索ベース（DN）の設定（「[4.10.1 ログイン LDAP サーバを設定する](#)」（P.114）の[手順 2](#)の設定）によって、LDAP サーバ上での検索範囲および検索方法が異なります。

それぞれの設定と LDAP 検索対象の関係について説明します。

- LDAP サーバと接続する場合（[手順 2](#)で「Active Directory」または「その他の LDAP サーバ」を選択した場合）
「検索ベース（DN）」の入力例（ドメイン名が *example.com* の場合）を、以下に示します。斜体は可変文字列です。

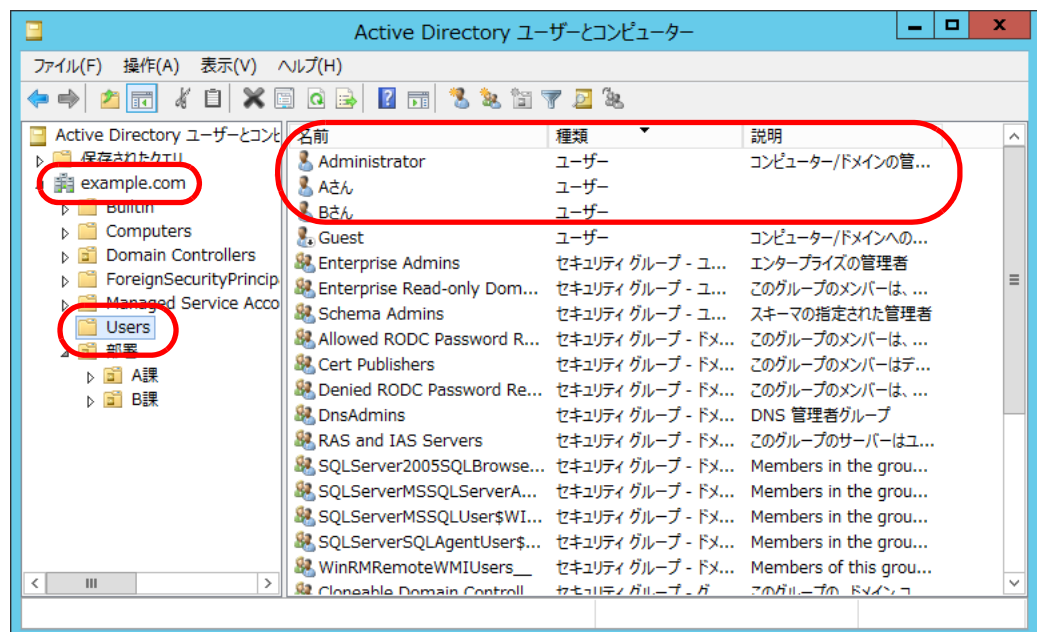


以降では、Active Directory の場合を例にして、検索対象について説明します。

例 1 : (Administrator、A さん、B さん) を検索対象にする場合

CN=Users,DC=example,DC=com

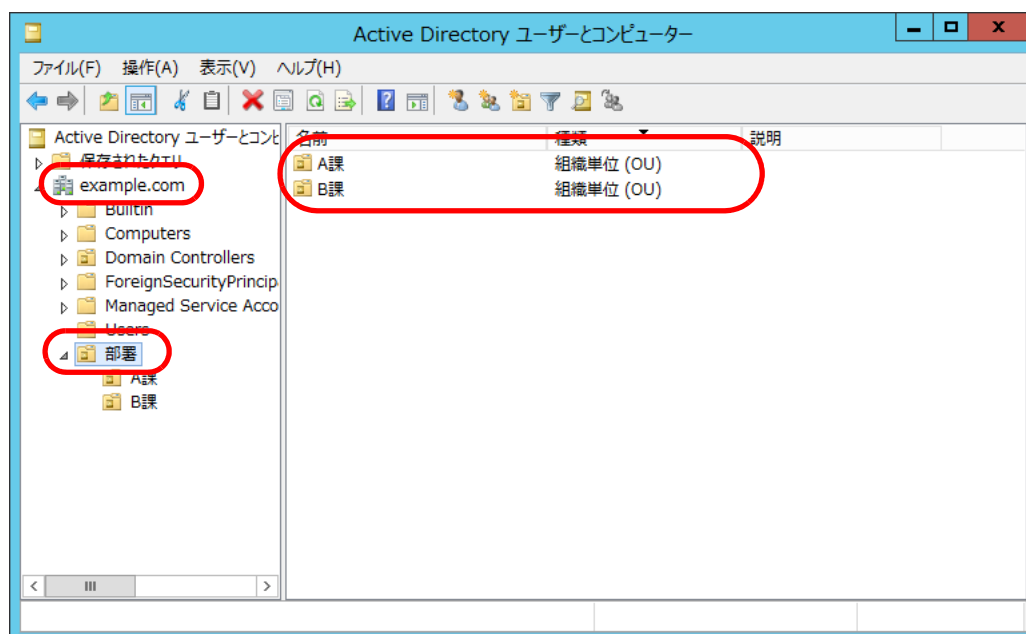
なお、Active Directory 構成は以下のようになります。



例 2 : (C さん、D さん、E さん) を検索対象にする場合

OU= 部署 ,DC=example,DC=com

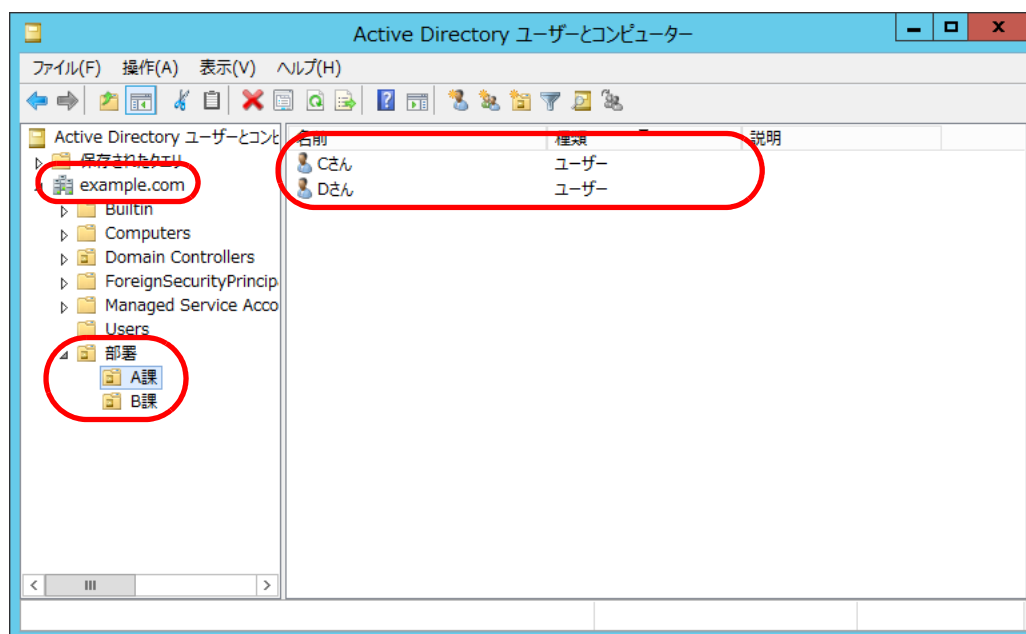
なお、Active Directory 構成は以下ようになります。



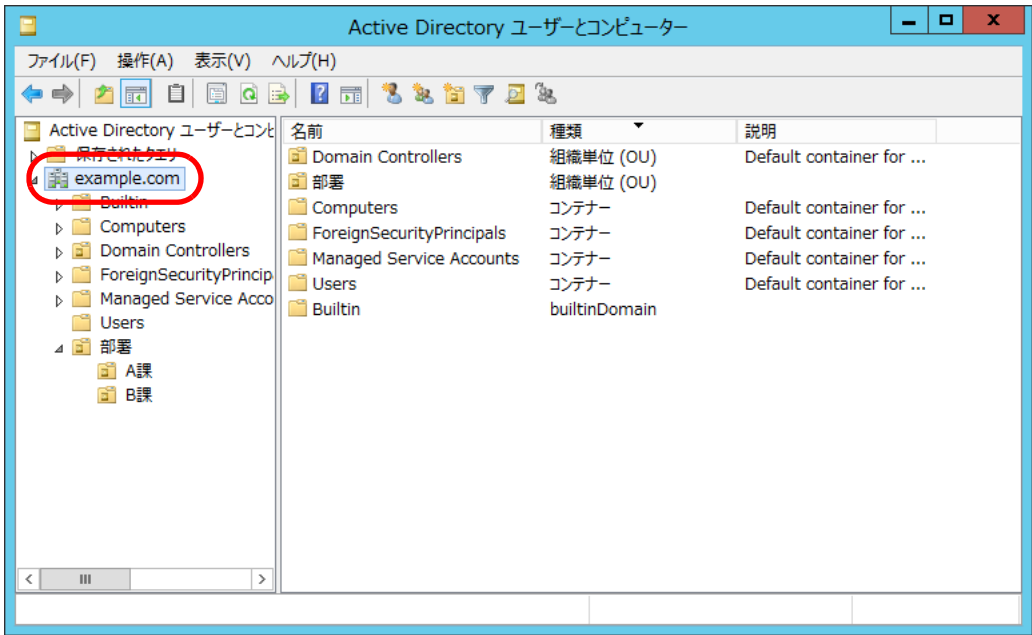
例 3 : (C さん、D さん) を検索対象にする場合

OU=A 課 ,OU= 部署 ,DC=example,DC=com

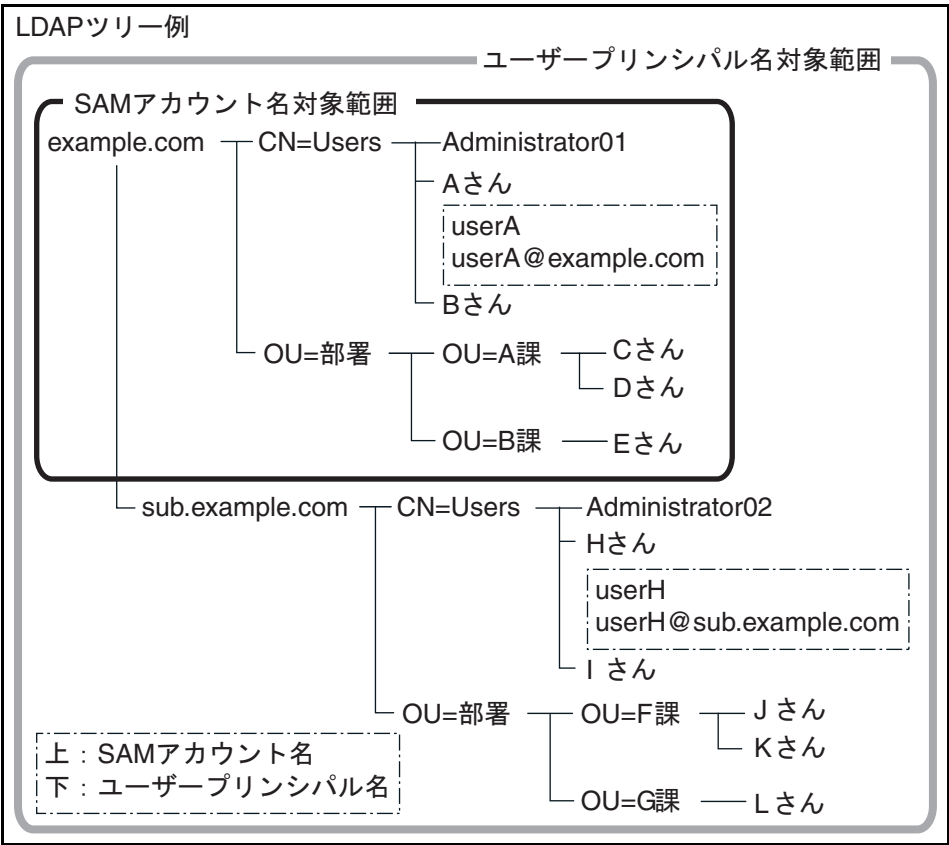
なお、Active Directory 構成は以下ようになります。



例 4 : (全員) を検索対象にする場合
省略または DC=example,DC=com



- グローバルカタログサーバと接続する場合（手順 2 で「Active Directory Global Catalog」を選択した場合）
「検索ベース（DN）」の入力例（親ドメイン名が *example.com*、サブドメイン名が *sub.example.com* の場合）を、以下に示します。斜体は可変文字列です。



例（ドメイン全体）を検索対象にする場合

省略または `DC=example,DC=com`

なお、同じ利用者でもログイン名が SAM アカウント名かユーザープリンシパル名かによって、ログインの可否は以下のようになります。

利用者	ログイン名	ログインの可否
	上：SAM アカウント名 下：ユーザープリンシパル名	
A さん	userA	○
	userA@example.com	○
H さん	userH	—
	userH@sub.example.com	○

○：ログイン可能 —：ログイン不可

SAM アカウント名は、Active Directory のユーザーログイン名（sAMAccountName）のことです。

ヒント

SAM アカウント名にドメイン名を指定する場合は、「ドメイン名¥SAM アカウント名」と記述します。

ユーザープリンシパル名は、Active Directory のユーザーログイン名（userPrincipalName）のことです。

4.10.2 メールアドレス LDAP サーバを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

メールアドレス LDAP サーバを設定すると、「メールアドレス台帳」画面の LDAP List が検索できます。

1. 「認証サーバ」の「メールアドレス LDAP サーバ」を選択します。

⇒ 「メールアドレス LDAP サーバ」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。

- 「サーバ種別」で「無効」を選択した場合
LDAP サーバを使用しない設定になります。[設定] ボタンを押して、設定を確認してください。
- 「サーバ種別」で「その他の LDAP サーバ」を選択した場合
「LDAP サーバアクセス用認証情報」で、LDAP サーバにログインするユーザーを検索するときの認証情報を入力します。
- 「サーバ種別」で「Active Directory」または「Active Directory Global Catalog」を選択した場合
「LDAP サーバアクセス用認証情報」で、Active Directory との認証情報を入力します。
- 「検索ベース (DN)」に入力する文字列と LDAP 検索対象の関係については、[「LDAP 検索の対象」\(P.116\)](#)を参照してください。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.10.3 スキーマを設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

メールアドレス台帳で検索する場合の LDAP 検索時の検索項目と LDAP サーバのスキーマを関連付けます。

1. 「認証サーバ」の「スキーマ」を選択します。

⇒ 「スキーマ」画面が表示されます。

検索項目	スキーマ
名	givenName
説明	description
姓	sn
事務所	physicalDeliveryOfficeName
共通名	cn
電話番号	telephoneNumber
表示名	displayName
メールアドレス	mail
イニシャル	initials
Webページ	wwwHomePage

2. 検索項目とスキーマを関連付けます。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

重要

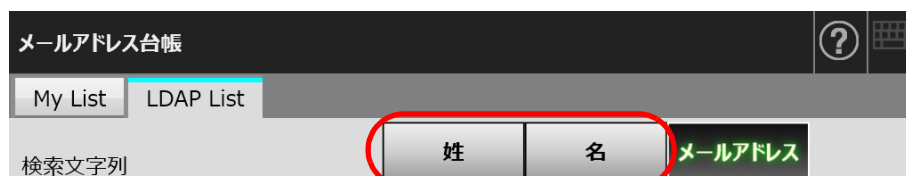
メールアドレス LDAP サーバを利用するときには、ログインユーザーのアカウントを使用します。ログイン LDAP サーバとメールアドレス LDAP サーバに異なるサーバを指定する場合、構成するドメインの環境やログイン名の形式によって、メールアドレス LDAP サーバを利用できない場合があります。詳細は、「LDAP 検索の対象」(P.116)を参照してください。

4.10.4 LDAP 検索条件を設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

LDAP 検索条件を設定します。

LDAP 検索条件とは、「メールアドレス台帳」画面の LDAP List に表示される検索条件のボタン（左ボタンおよび中央ボタン）のことです。

例えば、以下の画面の場合、[姓] ボタンおよび [名] ボタンを指します。



検索条件のボタンを押すと、ボタンに設定されている検索条件に従って、メールアドレス台帳に登録されているメールアドレスの並び順を変更できます。

「メールアドレス台帳」画面の LDAP List については、[「5.4.1 メールアドレス台帳を使ってメールアドレスを入力する」\(P.231\)](#) を参照してください。

1. 「認証サーバ」の「LDAP 検索条件」を選択します。

⇒ 「LDAP 検索条件」画面が表示されます。



ヒント

「LDAP 検索条件」画面での設定と、「メールアドレス台帳」画面の LDAP List の検索条件ボタンとの対応について、以下に示します。

- 左ボタン

「メールアドレス台帳」画面の LDAP List の検索条件の左側にあるボタンに対応します。



- 中央ボタン

「メールアドレス台帳」画面の LDAP List の検索条件の中央にあるボタンに対応します。



2. 各項目を設定します。
3. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

4.11 メールを設定する

4.11.1 SMTP サーバを設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

1. 「メール」の「SMTP サーバ」を選択します。

⇒ 「SMTP サーバ」画面が表示されます。

メール > SMTPサーバ

メール

SMTPサーバ

SMTPサーバ拡張

メール送信設定

添付ファイル名設定

FAX

FAXサーバ

保存

ネットワーク共有フォルダー

FTPフォルダー

SharePointフォルダー

ログアウト

設定

SMTPサーバを設定します。

アドレス

SSL通信

ポート番号 (1 - 65535)

接続タイムアウト監視 ([無効]指定時30秒)

接続タイムアウト時間 秒 (1-300)

メール分割

メール分割サイズ KB (64-10240)

添付ファイル最大サイズ MB (1-20)

警告アドレス数 (2-1000)

2. 各項目を設定します。
3. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

4.11.2 SMTP サーバ（拡張）を設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

1. 「メール」の「SMTP サーバ拡張」を選択します。

⇒ 「SMTP サーバ拡張」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'SMTP Server Extension' configuration page. On the left is a navigation menu with options: メール (Mail), SMTPサーバ (SMTP Server), SMTPサーバ拡張 (SMTP Server Extension - selected), メール送信設定 (Mail Sending Settings), 添付ファイル名設定 (Attachment File Name Settings), FAX, FAXサーバ (FAX Server), 保存 (Save), ネットワーク共有フォルダー (Network Shared Folder), FTPフォルダー (FTP Folder), and SharePointフォルダー (SharePoint Folder). At the bottom of the menu are 'ログアウト' (Logout) and '設定' (Settings) buttons. The main area is titled 'メール > SMTPサーバ拡張'. It contains the following settings:

- SMTP認証** (SMTP Authentication): A dropdown menu currently set to '無効' (Disabled).
- 認証方式** (Authentication Method): Three checkboxes for 'AUTH CRAM-MD5', 'AUTH LOGIN', and 'AUTH PLAIN', all of which are currently unchecked.
- 認証ユーザー** (Authentication User): A dropdown menu currently set to 'ログインユーザー' (Login User).
- guest**: A section header for guest user settings.
- メールアドレス** (Email Address): An input field.
- ユーザー名** (Username): An input field.
- パスワード** (Password): An input field.

The '設定' (Settings) button is located at the bottom right of the configuration area.

2. 各項目を設定します。

3. [設定] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.11.3 メール送信時の動作を設定する

タッチパネル

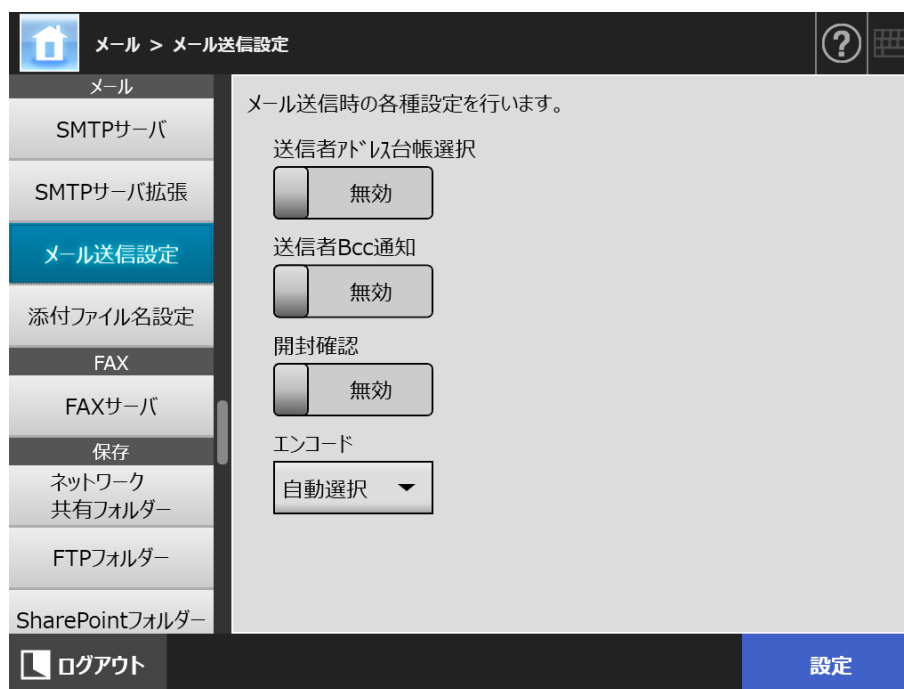
AdminTool

Central Admin Console

利用者がスキャン画像をメール送信するときに使用する「メール送信」画面の動作を設定します。また、メール送信時のエンコード方法を設定します。

1. 「メール」の「メール送信設定」を選択します。

⇒ 「メール送信設定」画面が表示されます。



2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.11.4 添付ファイル名を設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

スキャン画像をメールで送信するときのファイル名の形式を設定します。
ここで設定したファイル名は、「メール送信」画面の「添付ファイル名」の入力域に初期値として表示されます。

1. 「メール」の「添付ファイル名設定」を選択します。

⇒ 「添付ファイル名設定」画面が表示されます。

メール > 添付ファイル名設定

添付ファイル名の形式を指定します。

[スキャナ名]MMddyyyyhhmmss

ファイル名形式

1. 文字列

2. スキャナ名

3. ユーザー名

4. 日付

5. 時刻

日付書式: MMddyyyy

区切り文字: なし

設定

2. 各項目を設定します。

3. ファイル名の形式を確認します。

4. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

4.12 FAX サーバを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

FAX サーバを設定します。

1. 「FAX」の「FAX サーバ」を選択します。

⇒ 「FAX サーバ」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。

「送信先」には送信先のメールアドレス、「送信者」には送信者のメールアドレスを入力します。

メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

重要

インターネット FAX を使用する場合、本文にパスワードなどの情報入力が必要なことがあります。セキュリティを強化したい場合は、管理者の「SMTP サーバ」画面で SSL を使用する設定にしてください。

ただし、FAX サービスが SSL をサポートしている必要があります。

4.13 保存先とするフォルダーを設定する

以下のフォルダーを、スキャン画像の保存先として設定できます。

- ネットワーク共有フォルダー
- FTP フォルダー
- SharePoint フォルダー

4.13.1 ネットワーク共有フォルダーを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin
Console

スキャン画像の保存先とするネットワーク共有フォルダーを設定します。

ファイルサーバの共有フォルダーを、ネットワーク共有フォルダーとして設定できます。

ネットワーク共有フォルダーの最大登録数は、FTP フォルダー、SharePoint フォルダーと併せて 100 件です。

FTP フォルダーの設定については、「[4.13.2 FTP フォルダーを設定する](#)」(P.135) を参照してください。

SharePoint フォルダーの設定については、「[4.13.3 SharePoint フォルダーを設定する](#)」(P.139) を参照してください。

ネットワーク共有フォルダーを登録するには、以下の方法があります。

- ツリー選択
ネットワーク共有フォルダーをネットワークツリーから選択します。
詳細は、「[ネットワーク共有フォルダーを登録する（ツリー選択）](#)」(P.130) を参照してください。
- 直接入力（ネットワークパス）
ファイルサーバのネットワーク共有フォルダーのパス名を、直接入力で指定します。
詳細は、「[ネットワーク共有フォルダーを登録する（直接入力）](#)」(P.132) を参照してください。

ネットワーク共有フォルダーにスキャン画像を保存するときのファイル名の設定については、「[4.13.4 保存ファイル名を設定する](#)」(P.143) を参照してください。

重要

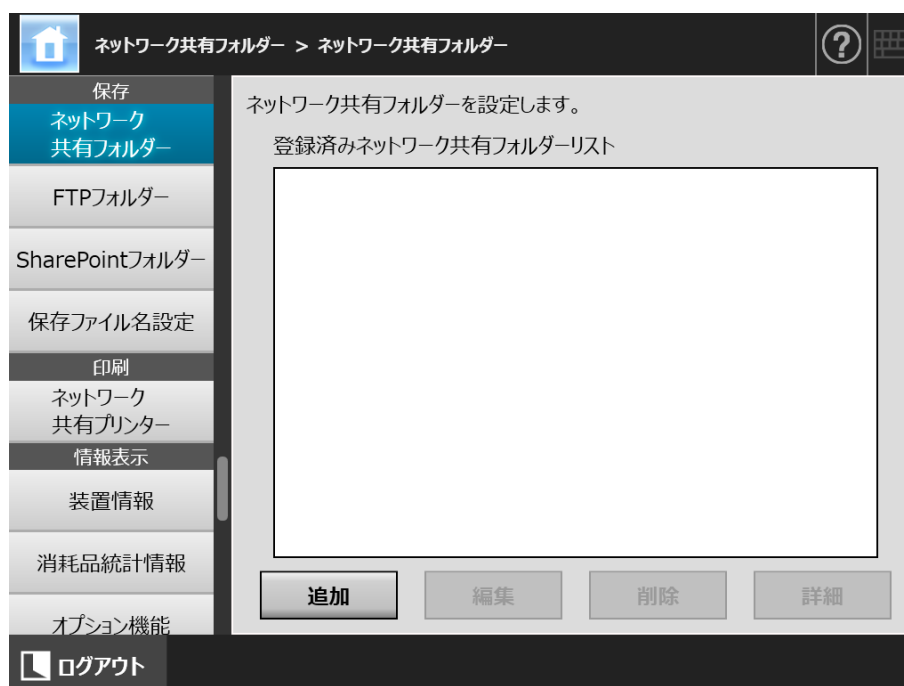
ネットワーク共有フォルダーを登録する場合、以下の点に注意してください。

- 登録したネットワーク共有フォルダーのパスは、ネットワークパスです。ネットワーク共有フォルダーを共有設定している端末で、実際のフルパス長と、保存するスキャン画像ファイル名の合計が半角 259 文字を超える場合は、保存したデータファイルを参照できません。ネットワーク共有フォルダーの登録前に実際のフルパス長と、保存するスキャン画像ファイル名の合計文字数を確認してください。
- 選択するフォルダーが、当画面を閲覧しているオペレーティングシステムの言語とは異なる言語で作成されている場合は、ネットワーク共有フォルダーの登録ができません。認識できないコードが含まれるため、ネットワーク共有フォルダー名が正しく表示されません。
- 表示するフォルダーが多い場合、フォルダーが表示されるまでに時間がかかる場合があります。

■ ネットワーク共有フォルダーを登録する（ツリー選択）

1. 「保存」の「ネットワーク共有フォルダー」を選択します。

⇒ 「ネットワーク共有フォルダー」画面が表示されます。



2. 「追加」ボタンを押します。

⇒ ネットワーク共有フォルダーの選択画面が表示されます。

重要

ネットワーク共有フォルダーの選択画面で、ドメイン一覧で期待するドメインが表示されない場合があります。そのような場合は、直接入力で指定するか、しばらく待ってから再度ネットワーク共有フォルダーの選択画面を表示してください。

3. ドメイン を選択します。



⇒ ネットワークツリーが展開され、配下のコンピュータ名が表示されます。

認証画面が表示された場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。認証されると、配下のコンピュータ名が表示されます。

4. コンピュータ を選択します。

⇒ ネットワークツリーが展開され、配下のネットワーク共有フォルダー名が表示されます。

認証画面が表示された場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。認証されると、配下のネットワーク共有フォルダー名が表示されます。

5. ネットワーク共有フォルダー を選択します。

配下のフォルダーも表示され、ドメインを含めて7階層まで選択できます。

6. [設定] ボタンを押します。

⇒ 「ネットワーク共有フォルダー」画面に戻り、登録済みネットワーク共有フォルダーリストに追加されます。

ヒント

ネットワーク共有フォルダー名は、ネットワークツリーで選択したフォルダー名になります。名称を変更する場合は、「[ネットワーク共有フォルダー名を変更する](#)」(P.133)を参照してください。

■ ネットワーク共有フォルダーを登録する（直接入力）

1. 「保存」の「ネットワーク共有フォルダー」を選択します。
⇒ 「ネットワーク共有フォルダー」画面が表示されます。
2. 「追加」ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有フォルダーの選択画面が表示されます。
3. 「直接入力」ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有フォルダーの直接入力画面が表示されます。

4. 各項目を設定します。
5. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 「ネットワーク共有フォルダー」画面に戻り、登録済みネットワーク共有フォルダーリストに追加されます。

重要

ネットワーク共有フォルダーのパス名の先頭には、ドメイン名を必ず指定してください。

ヒント

- ネットワーク共有フォルダー名は、直接入力で指定したフォルダー名になります。名称を変更する場合は、「[ネットワーク共有フォルダー名を変更する](#)」(P.133)を参照してください。
- 認証画面が表示されることがあります。

■ ネットワーク共有フォルダー名を変更する

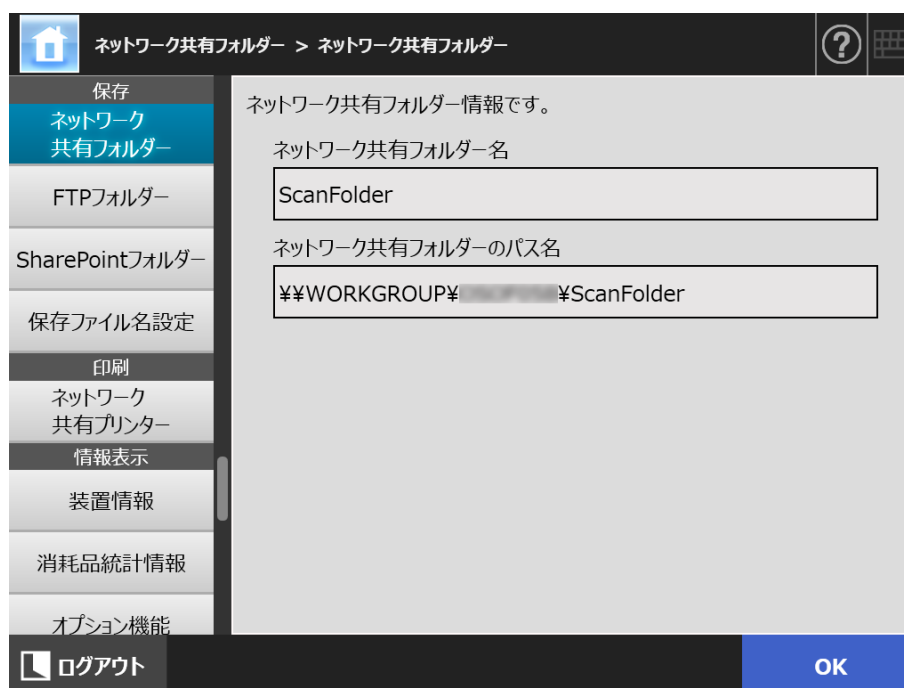
1. 「保存」の「ネットワーク共有フォルダー」を選択します。
⇒ 「ネットワーク共有フォルダー」画面が表示されます。
2. 名前を変更するネットワーク共有フォルダーを選択します。
3. [編集] ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有フォルダーの編集画面が表示されます。
4. ネットワーク共有フォルダー名を入力します。
5. [設定] ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有フォルダー名が変更されます。

■ ネットワーク共有フォルダーを削除する

1. 「保存」の「ネットワーク共有フォルダー」を選択します。
⇒ 「ネットワーク共有フォルダー」画面が表示されます。
2. 削除するネットワーク共有フォルダーを選択します。
3. [削除] ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有フォルダーの削除画面が表示されます。
4. 削除するネットワーク共有フォルダーの情報を確認して [はい] ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有フォルダーが削除されます。

■ ネットワーク共有フォルダーの詳細情報を参照する

1. 「保存」の「ネットワーク共有フォルダー」を選択します。
⇒ 「ネットワーク共有フォルダー」画面が表示されます。
2. 詳細情報を表示するネットワーク共有フォルダーを選択します。
3. 「詳細」ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有フォルダーの詳細情報が表示されます。



4.13.2 FTP フォルダーを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin
Console

スキャン画像の保存先とする FTP フォルダーを設定します。

FTP フォルダーの最大登録数は、ネットワーク共有フォルダー、SharePoint フォルダーと併せて 100 件です。

ネットワーク共有フォルダーの設定については、「[4.13.1 ネットワーク共有フォルダーを設定する](#)」(P.129) を参照してください。

SharePoint フォルダーの設定については、「[4.13.3 SharePoint フォルダーを設定する](#)」(P.139) を参照してください。

FTP フォルダーにスキャン画像を保存するときのファイル名の設定については、「[4.13.4 保存ファイル名を設定する](#)」(P.143) を参照してください。

重要

FTP フォルダーを登録する場合、以下の点に注意してください。

- 登録した FTP フォルダーのパスは、ネットワークパスです。FTP フォルダーを共有設定している端末で、実際のフルパス長と、保存するスキャン画像ファイル名の合計が半角 259 文字を超える場合は、保存したデータファイルを参照できません。FTP フォルダーの登録前に実際のフルパス長と、保存するスキャン画像ファイル名の合計文字数を確認してください。
- 選択するフォルダーが、当画面を閲覧しているオペレーティングシステムの言語とは異なる言語で作成されている場合は、FTP フォルダーの登録ができません。
認識できないコードが含まれるため、FTP フォルダー名が正しく表示されません。
- FTP フォルダーのパス名やユーザー名、パスワードには、半角英数字、および【¥/:;*?"<>|#&%】を除く記号が使用できます。

■ FTP フォルダーを登録する

1. 「保存」の「FTP フォルダー」を選択します。

⇒ 「FTP フォルダー」画面が表示されます。

FTPフォルダー > FTPフォルダー

保存
ネットワーク共有フォルダー
FTPフォルダー
SharePointフォルダー
保存ファイル名設定
印刷
ネットワーク共有プリンター
情報表示
装置情報
消耗品統計情報
オプション機能

FTPフォルダーを設定します。
登録済みFTPフォルダーリスト

追加 編集 削除 詳細

ログアウト

2. 「追加」ボタンを押します。

⇒ FTP フォルダーの設定画面が表示されます。

FTPフォルダー > FTPフォルダー

保存
ネットワーク共有フォルダー
FTPフォルダー
SharePointフォルダー
保存ファイル名設定
印刷
ネットワーク共有プリンター
情報表示
装置情報
消耗品統計情報
オプション機能

FTPフォルダーを設定します。
FTPフォルダー名
FTPフォルダーのパス名 ポート番号 (1 - 65535)
ユーザー名 パスワード
認証
毎回入力
プロトコル
FTP
暗号化方式
Explicit
パッシブモード
使用する
プロキシ * プロキシサーバメニューでの設定が必要です。
有効

ログアウト キャンセル 設定

3. 各項目を設定します。

「プロキシ」は、「プロキシサーバ」画面でプロキシサーバを設定していない場合、設定できません。プロキシサーバの設定方法については、「[4.7.5 プロキシサーバを設定する](#)」(P.104)を参照してください。

4. [設定] ボタンを押します。

⇒ FTP サーバへの認証確認が行われます。認証されると、「FTP フォルダー」画面に戻り、FTP フォルダーが設定されます。

■ FTP フォルダーの設定を変更する**1. 「保存」の「FTP フォルダー」を選択します。**

⇒ 「FTP フォルダー」画面が表示されます。

2. 変更する FTP フォルダーを選択します。**3. [編集] ボタンを押します。**

⇒ FTP フォルダーの編集画面が表示されます。

4. 設定を変更します。**5. [設定] ボタンを押します。**

⇒ 変更した設定内容が適用されます。

■ FTP フォルダーを削除する**1. 「保存」の「FTP フォルダー」を選択します。**

⇒ 「FTP フォルダー」画面が表示されます。

2. 削除する FTP フォルダーを選択します。**3. [削除] ボタンを押します。**

⇒ FTP フォルダーの削除画面が表示されます。

4. 削除する FTP フォルダーの情報を確認して [はい] ボタンを押します。

⇒ FTP フォルダーが削除されます。

■ FTP フォルダーの詳細情報を参照する

1. 「保存」の「FTP フォルダー」を選択します。
⇒ 「FTP フォルダー」画面が表示されます。
2. 詳細情報を表示する FTP フォルダーを選択します。
3. 「詳細」ボタンを押します。
⇒ FTP フォルダーの詳細情報が表示されます。

FTPフォルダー > FTPフォルダー

保存

ネットワーク共有フォルダー

FTPフォルダー

SharePointフォルダー

保存ファイル名設定

印刷

ネットワーク共有プリンター

情報表示

装置情報

消耗品統計情報

オプション機能

ログアウト

OK

FTPフォルダー情報です。

FTPフォルダー名
FTPFolder

FTPフォルダーのパス名
192.168.1.1

ポート番号 (1 - 65535)
21

ユーザー名
パスワード

認証
毎回入力

プロトコル
FTP

暗号化方式
Explicit

パッシブモード
使用する

プロキシ * プロキシサーバーメニューでの設定が必要です。
無効

4.13.3 SharePoint フォルダーを設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

スキャン画像の保存先とする SharePoint フォルダーを設定します。

SharePoint フォルダーの最大登録数は、ネットワーク共有フォルダー、FTP フォルダーと併せて 100 件です。

ネットワーク共有フォルダーの設定については、「[4.13.1 ネットワーク共有フォルダーを設定する](#)」(P.129)を参照してください。

FTP フォルダーの設定については、「[4.13.2 FTP フォルダーを設定する](#)」(P.135)を参照してください。

SharePoint フォルダーにスキャン画像を保存するときのファイル名の設定については、「[4.13.4 保存ファイル名を設定する](#)」(P.143)を参照してください。

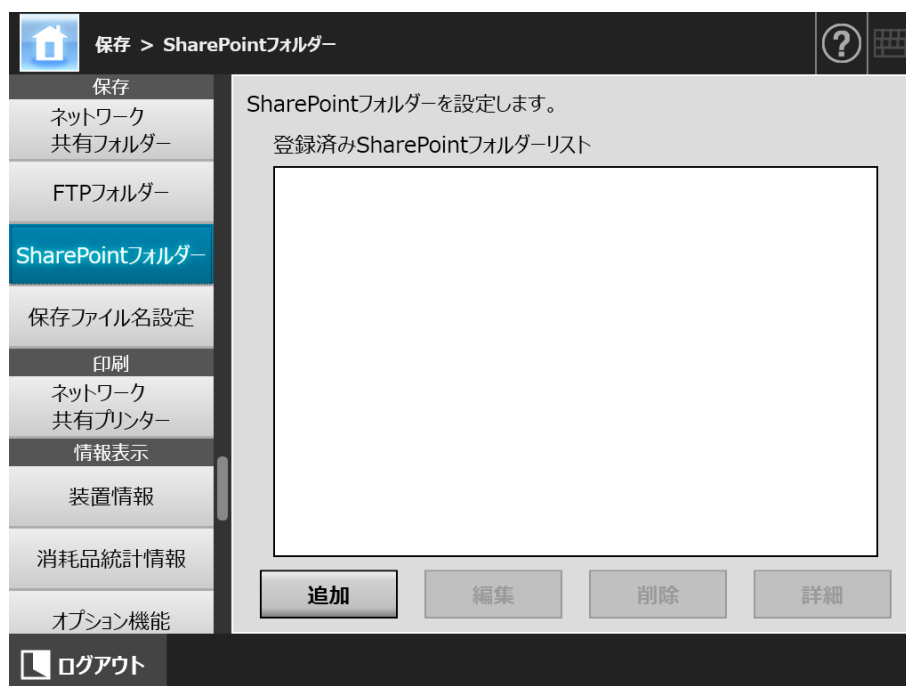
■ SharePoint フォルダーを登録する

重要

SharePoint フォルダーを登録するときに、SharePoint Online の追加に失敗する場合は、証明書「Digicert Global Root CA」をスキャナにインポートしてください。

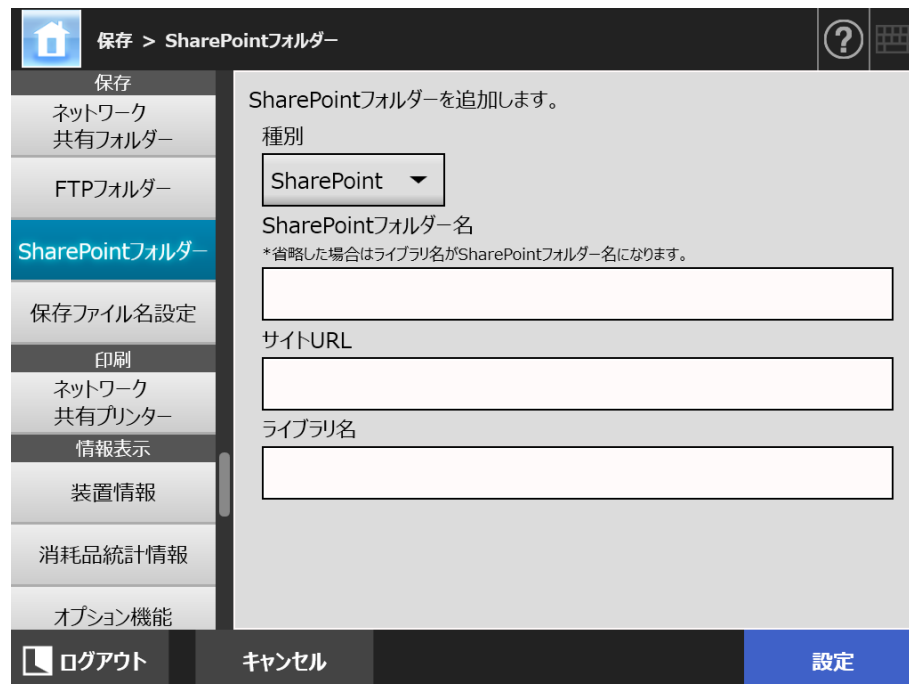
1. 「保存」の「SharePoint フォルダー」を選択します。

⇒ 「SharePoint フォルダー」画面が表示されます。



2. [追加] ボタンを押します。

⇒ SharePoint フォルダーの追加画面が表示されます。



3. 各項目を設定します。

重要

「SharePoint フォルダー名」は設定に付ける任意の名称であり、実際のフォルダー名ではありません。スキャン画像は指定したライブラリのルートに保存されます。

4. [設定] ボタンを押します。

⇒ 「認証」画面が表示されます。

SharePoint サーバにサインインするときのユーザー名、パスワードを入力して、[OK] ボタンを押します。

- ユーザー名の最大文字数は 256 文字です。
- パスワードの最大文字数は半角 256 文字です。なお、英大文字と英小文字は区別されます。

⇒ 「SharePoint フォルダー」画面に戻り、「登録済み SharePoint フォルダーリスト」に追加されます。

■ SharePoint フォルダーの設定を変更する

1. 「保存」の「SharePoint フォルダー」を選択します。
⇒ 「SharePoint フォルダー」画面が表示されます。
2. 変更する SharePoint フォルダーを「登録済み SharePoint フォルダーリスト」から選択します。
3. 「編集」ボタンを押します。
⇒ SharePoint フォルダーの編集画面が表示されます。
4. 設定を変更します。
5. 「設定」ボタンを押します。
⇒ 変更した設定内容が適用されます。

■ SharePoint フォルダーを削除する

1. 「保存」の「SharePoint フォルダー」を選択します。
⇒ 「SharePoint フォルダー」画面が表示されます。
2. 削除する SharePoint フォルダーを「登録済み SharePoint フォルダーリスト」から選択します。
3. 「削除」ボタンを押します。
⇒ SharePoint フォルダーの削除画面が表示されます。
4. 削除する SharePoint フォルダーの情報を確認して「はい」ボタンを押します。
⇒ SharePoint フォルダーが削除されます。

■ SharePoint フォルダーの詳細情報を参照する

1. 「保存」の「SharePoint フォルダー」を選択します。
⇒ 「SharePoint フォルダー」画面が表示されます。
2. 詳細情報を表示する SharePoint フォルダーを「登録済み SharePoint フォルダーリスト」から選択します。
3. 「詳細」ボタンを押します。
⇒ SharePoint フォルダーの詳細情報が表示されます。

保存 > SharePointフォルダー

保存
ネットワーク共有フォルダー
FTPフォルダー
SharePointフォルダー
保存ファイル名設定
印刷
ネットワーク共有プリンター
情報表示
装置情報
消耗品統計情報
オプション機能

ログアウト

SharePointフォルダー情報です。

種別
SharePoint

SharePointフォルダー名
SharePointFolder

サイトURL
http://192.168.101.200

ライブラリ名
共有ドキュメント

OK

4.13.4 保存ファイル名を設定する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

スキャン画像をネットワーク共有フォルダー、FTP フォルダー、または SharePoint フォルダーに保存するときのファイル名の形式を設定します。
 ここで設定したファイル名は、利用者の画面の「保存」画面の「ファイル名」の入力域に、初期値として表示されます。

1. 「保存」の「保存ファイル名設定」を選択します。

⇒「保存ファイル名設定」画面が表示されます。

ネットワーク共有フォルダー > 保存ファイル名設定

保存

ネットワーク共有フォルダー

FTPフォルダー

SharePointフォルダー

保存ファイル名設定

印刷

ネットワーク共有プリンター

情報表示

装置情報

消耗品統計情報

オプション機能

ログアウト

設定

保存ファイル名の形式を指定します。

[スキャナ名]MMddyyyyhhmmss001

フォルダー名形式

1. スキャナ名 2. ユーザー名 3. 日付

無効 無効 無効

ファイル名形式

1. 文字列 2. スキャナ名 3. ユーザー名 4. 日付

無効 有効 無効 有効

5. 時刻 6. 連番

有効 3 (最小桁数)

日付書式 区切り文字

MMddyyyy なし

2. 各項目を設定します。

ヒント

連番は、以下のように付加されます。

- 連番は 1 から開始します。連番付きのファイル名がすでに存在する場合、実在する最大の値の次の値から、連番が付加されます。

例：ファイル名が A で、連番の桁数が 3 桁の場合、「A001.pdf」「A004.pdf」がすでに存在するときは、以下のようになります。

「A005.pdf」「A006.pdf」「A007.pdf」「A008.pdf」...

実在しない最小の値である「A002.pdf」「A003.pdf」のファイル名は付けられません。

- 選択した連番の桁数が上回った場合、次の桁の値を使用して、連番が付加されます。

例：ファイル名が A で、連番の桁数が 3 桁の場合、「A001.pdf」～「A998.pdf」がすでに存在するときは、以下のようになります。

「A999.pdf」「A1000.pdf」「A1001.pdf」「A1002.pdf」...

- 連番の最大値は 4294967295 です。連番の最大値を超えた場合は、実在しない最小の値を使用して、連番が付加されます。

例：ファイル名が A で、連番の桁数が 3 桁の場合、「A001.pdf」「A003.pdf」

「A4294967295.pdf」がすでに存在するときは、以下のようになります。

「A002.pdf」「A004.pdf」「A005.pdf」「A006.pdf」...

- 1 回のスキャンで複数ページを読み取った場合、連番にページ番号（-0001 など）が付加される場合があります（JPEG/TIFF シングルページ / PDF シングルページの場合）。ページ番号は、JPEG、TIFF シングルページ、および PDF シングルページ（1 画像 1 ファイル）の場合に付加され、PDF マルチページおよび TIFF マルチページ（複数画像 1 ファイル）の場合は付加されません。

例：TIFF シングルページ、PDF シングルページ、または JPEG で、複数のファイルを保存する場合、ファイル名のあとに連番が付加され、以下のようになります。

「abc-0001.tif」「abc-0001.pdf」「abc-0001.jpg」

3. ファイル名の形式を確認します。

4. [設定] ボタンを押します。

⇒ ファイル名が設定されます。

4.14 ネットワーク共有プリンターを設定する



ネットワークプリンターをネットワーク共有プリンターとして設定します。

ネットワーク共有プリンターの設定には、以下の方法があります。

- a) プリントサーバに接続されたネットワークプリンターを設定する
- b) 直接印刷するようにネットワークプリンターを設定する

a) プリントサーバに接続されたネットワークプリンターを設定する

プリントサーバを経由したネットワーク共有プリンターを設定します。以下の流れで設定します。

1. プリンタードライバを確認します。

詳細は、「[プリンタードライバを確認する](#)」(P.148) を参照してください。

2. プリンターのプロパティを設定します。

詳細は、「[プリンターのプロパティを設定する（プリントサーバ経由の場合）](#)」(P.149) を参照してください。

3. ネットワーク共有プリンターを登録します。

ネットワーク共有プリンターの最大登録数は、100 件です。

ネットワーク共有プリンターを登録するには、以下の方法があります。

● ツリー選択

ネットワーク共有プリンターをネットワークツリーから選択します。

詳細は、「[ネットワーク共有プリンターを登録する（ツリー選択）（プリントサーバ経由の場合）](#)」(P.152) を参照してください。

● 直接入力

ネットワーク共有プリンターのパス名を直接入力で指定します。

詳細は、「[ネットワーク共有プリンターを登録する（直接入力）](#)」(P.154) を参照してください。手順 4. については、a) を参照してください。

重要

- プリンターの設定方法、ネットワーク共有プリンターの追加方法や留意事項が書かれているプリンターのマニュアルを事前によくお読みください。
- プリントサーバのスプールフォルダーが存在するドライブには事前に空き容量を十分確保してください。
- 仮想プリンターは設定しないでください。
- 異なるプリントサーバに接続されている同じプリンター機種をネットワーク共有プリンターとして複数登録する場合は、プリントサーバ上のプリンタードライバのソフトウェアを同一バージョンに合わせる必要があります。
プリンタードライバのソフトウェアが同一バージョンではない場合、正しく印刷ができないなどの問題が発生する可能性があります。
- プリンターの共有名に「|」（パイプ）文字が使用されている場合、ネットワーク共有プリンターとして登録できません。

b) 直接印刷するようにネットワークプリンターを設定する

プリントサーバを経由せずに、直接印刷するようにネットワークプリンターを設定します。

重要

プリンタードライバをコンピュータからスキャナにインストールするため、事前に共有プリンターを公開したコンピュータの準備が必要です。

直接印刷の設定には、以下の方法があります。

- b-1) 共有プリンターを公開しているコンピュータからドライバをダウンロードして設定する
- b-2) ネットワーク共有プリンターを登録後にドライバを選択して設定する

以下の流れで設定します。

b-1) 共有プリンターを公開しているコンピュータからドライバをダウンロードして設定する

1. プリンターを共有プリンターとして定義しているコンピュータを用意します。
2. プリンタードライバを確認します。
詳細は、「[プリンタードライバを確認する](#)」(P.148) を参照してください。
3. プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認します。
詳細は、「[プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認する \(直接印刷の場合\)](#)」(P.151) を参照してください。
4. 直接印刷するネットワークプリンターを登録します。
ネットワーク共有プリンターの直接入力で指定します。
ネットワーク共有プリンターの最大登録数は、100 件です。
詳細は、「[ネットワーク共有プリンターを登録する \(直接入力\)](#)」(P.154) を参照してください。[手順 4.](#)については、b-1) を参照してください。

重要

- ネットワークプリンターを登録する場合は、対象のプリンターの電源が投入されている必要があります。
- プリンターを共有プリンターとして定義しているコンピュータから、登録時にドライバが自動的にサイレントインストールされます。

b-2) ネットワーク共有プリンターを登録後にドライバを選択して設定する

1. ネットワーク共有プリンターを登録します。

「登録済みネットワーク共有プリンターリスト」に登録されているネットワーク共有プリンターのドライバを使用して、直接印刷するネットワークプリンターを追加する場合は、新しく共有プリンターを登録する必要はありません。次の手順に進んでください。

ヒント

新しくネットワーク共有プリンターを登録する場合は、「a) プリントサーバに接続されたネットワークプリンターを設定する」(P.145) または「b-1) 共有プリンターを公開しているコンピュータからドライバをダウンロードして設定する」(P.146) を参照してください。

2. プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認します。

詳細は、「プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認する（直接印刷の場合）」(P.151) を参照してください。

3. プリンターのドライバ名称を確認します。

詳細は、「プリンターのドライバ名称を確認する（直接印刷の場合）」(P.151) を参照してください。

4. 直接印刷するネットワークプリンターを登録します。

ネットワーク共有プリンターの直接入力で指定します。

ネットワーク共有プリンターの最大登録数は、100 件です。

詳細は、「ネットワーク共有プリンターを登録する（直接入力）」(P.154) を参照してください。手順 4. については、b-2) を参照してください。

重要

ネットワークプリンターの登録時に使用したネットワーク共有プリンターの定義は削除しないでください。削除した場合は、スキャナから対応ドライバが削除され、印刷でエラーとなる場合があります。

■ プリンタードライバを確認する

プリントサーバには、Windows 10 に対応したドライバがインストールされている必要があります。

プリントサーバに、Windows 10 に対応したドライバがインストールされているかどうかは、以下の手順で確認できます。

なお、ここでは、プリンターを共有プリンターとして定義しているコンピュータのことを、プリントサーバと呼びます。

1. プリントサーバのコントロール パネル画面で、「デバイスとプリンターの表示」を選択します。

⇒ 「デバイスとプリンター」画面が表示されます。

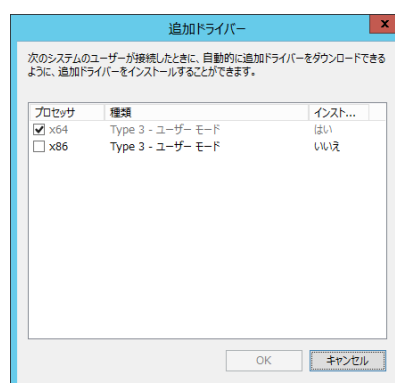
2. プリンターを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を選択します。

⇒ プリンターのプロパティが表示されます。

3. 「共有」タブの「追加ドライバー」ボタンを押します。

⇒ 「追加ドライバー」画面が表示されます。

4. プロセッサの「x64」の種類で、「Type 3 - ユーザーモード」または「Type 4 - ユーザーモード」を含むバージョンが「はい」（インストール済み）になっていることを確認します。



- 「はい」の場合はインストールされているのでネットワーク共有プリンターとして使用できます。[キャンセル] ボタンを押してください。
- 「いいえ」になっている場合は、「x64」の種類で、「Type 3 - ユーザーモード」または「Type 4 - ユーザーモード」を含むバージョンを選択して、[OK] ボタンを押します。

⇒ Windows 10 に対応したドライバがインストールされます。

■ プリンターのプロパティを設定する（プリントサーバ経由の場合）

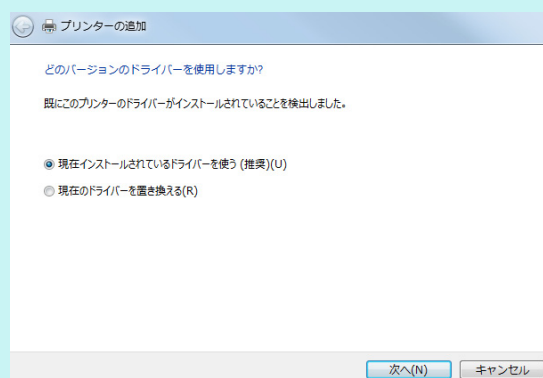
プリンターの設定は、以下の手順で行います。

1. プリントサーバのコントロールパネル画面で、「デバイスとプリンターの表示」を選択します。
⇒「デバイスとプリンター」画面が表示されます。
2. プリンターを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を選択します。
⇒ プリンターのプロパティが表示されます。
3. 「詳細設定」タブの「標準の設定」ボタンを押します。
⇒ プリンターの標準の設定画面が表示されます。
4. プリンターの設定内容を変更します。

ヒント

プロパティを設定するごとに、プリントサーバにプリンターを追加することを推奨します。例えば、使うプリンターが1台であっても、プリントサーバでプリンターの追加を行い、「カラー印刷用」、「白黒印刷用」など、用途によってプロパティを設定します。ここでは、「カラー印刷用」のプリンターを追加する手順を例に説明します。

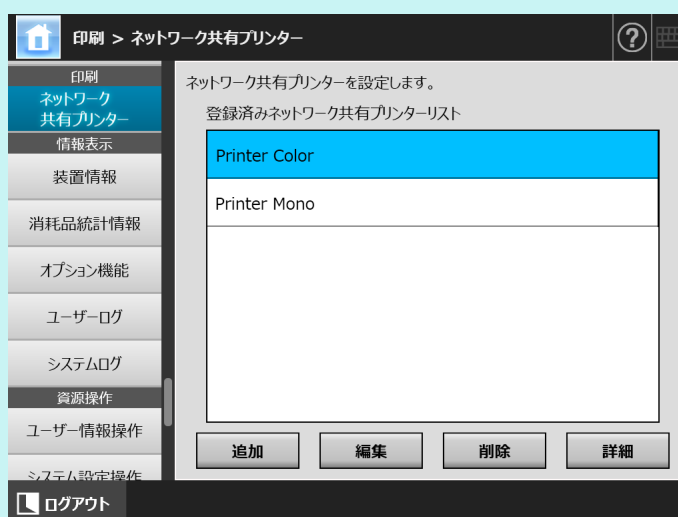
1. プリントサーバのコントロールパネル画面で、「デバイスとプリンターの表示」を選択します。
⇒「デバイスとプリンター」画面が表示されます。
2. 「プリンターの追加」ボタンを押します。
⇒「プリンターの追加」ウィザード画面が表示されます。
3. 「現在インストールされているドライバーを使う」が表示されるまで、画面の指示に従って操作を進めます。
4. 「現在インストールされているドライバを使う（推奨）」を選択して、「次へ」ボタンを押します。



5. 「プリンター共有」が表示されるまで、画面の指示に従って操作を進めます。

6. 共有名を指定します。

共有名はスキャナで表示されるため、以下のようにプリンター名とプロパティの設定内容がわかる名前を付けることを推奨します。



⇒ 以降は、画面に従って操作を進めてください。

⇒ プリンターの追加が完了すると、「デバイスとプリンター」画面にプリンターが追加されます。

7. 追加したプリンターを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を選択します。

⇒ プリンターのプロパティが表示されます。

8. 「詳細設定」タブの「標準の設定」ボタンを押します。

⇒ プリンターの標準の設定画面が表示されます。

9. プリンターの設定画面でカラーに設定します。

その後、プリントサーバで設定した「カラー印刷用」のプリンターをスキャナに追加すると、利用者がカラー印刷したい場合に、カラー設定されているプリンターを指定できます。スキャナにプリンターを追加する方法については、「[ネットワーク共有プリンターを登録する（ツリー選択）（プリントサーバ経由の場合）](#)」(P.152) または「[ネットワーク共有プリンターを登録する（直接入力）](#)」(P.154) を参照してください。

■ プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認する（直接印刷の場合）

ネットワークプリンターのプリンター名または IP アドレスは、ネットワーク共有プリンターを定義したプリントサーバのプリンター定義を参照することで確認できます。

1. プリントサーバのコントロール パネル画面で、「デバイスとプリンターの表示」を選択します。
⇒「デバイスとプリンター」画面が表示されます。
2. プリンターを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を選択します。
⇒ プリンターのプロパティが表示されます。
3. 「ポート」タブのポートからネットワークプリンターのポートを選択し、[ポートの構成] ボタンを押します。
⇒「標準 TCP/IP ポート モニターの構成」画面が表示されます。
4. 「プリンター名または IP アドレス」の内容を確認します。

■ プリンターのドライバ名称を確認する（直接印刷の場合）

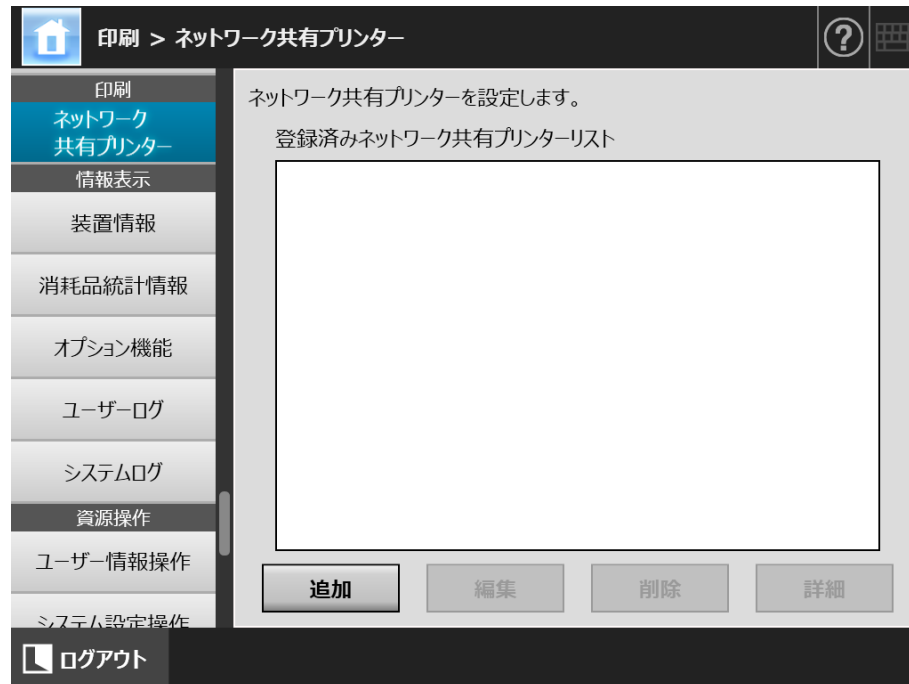
ネットワークプリンターのドライバ名称は、ネットワーク共有プリンターを定義したプリントサーバのプリンター定義を参照することで確認できます。

1. プリントサーバのコントロール パネル画面で、「デバイスとプリンターの表示」を選択します。
⇒「デバイスとプリンター」画面が表示されます。
2. プリンターを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を選択します。
⇒ プリンターのプロパティが表示されます。
3. 「詳細設定」タブを押します。
4. 「ドライバー」の内容を確認します。

■ ネットワーク共有プリンターを登録する（ツリー選択） （プリントサーバ経由の場合）

1. 「印刷」の「ネットワーク共有プリンター」を選択します。

⇒「ネットワーク共有プリンター」画面が表示されます。



2. [追加] ボタンを押します。

⇒ ネットワーク共有プリンターの選択画面が表示されます。

重要

ネットワーク共有プリンターの選択画面で、ドメイン一覧ですべてのドメインが表示されない場合があります。そのような場合は、直接入力で指定するか、しばらく待ってから再度ネットワーク共有プリンターの選択画面を表示してください。

3. ドメイン を選択します。



- ⇒ ネットワークツリーが展開され、配下のコンピュータ名が表示されます。
 認証画面が表示された場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。認証されると、配下のコンピュータ名が表示されます。

4. コンピュータ を選択します。

- ⇒ ネットワークツリーが展開され、配下のネットワーク共有プリンター名が表示されます。
 認証画面が表示された場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。認証されると、配下のネットワーク共有プリンター名が表示されます。

5. ネットワーク共有プリンター を選択します。

- 配下のフォルダーも表示され、ドメインを含めて7階層まで選択できます。

6. [設定] ボタンを押します。

- ⇒ 「ネットワーク共有プリンター」画面に戻り、登録済みネットワーク共有プリンターリストに追加されます。

ヒント

ネットワーク共有プリンター名は、ネットワークツリーで選択したネットワーク共有プリンター名になります。名称を変更する場合は、「[ネットワーク共有プリンターの設定を変更する](#)」(P.155)を参照してください。

■ ネットワーク共有プリンターを登録する（直接入力）

1. 「印刷」の「ネットワーク共有プリンター」を選択します。
⇒ 「ネットワーク共有プリンター」画面が表示されます。
2. 「追加」ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有プリンターの選択画面が表示されます。
3. 「直接入力」ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有プリンターの直接入力画面が表示されます。

4. 共有プリンターの設定手順に応じて、各項目を設定します。
 - a) プリントサーバに接続された共有プリンターをネットワーク共有プリンターとして登録する場合
「ネットワーク共有プリンター名」と「ネットワーク共有プリンターのパス名」を入力します。
 - b) 直接印刷するネットワークプリンターを登録する場合
 - b-1) 共有プリンターを公開しているコンピュータからドライバをダウンロードして設定する場合
「ネットワーク共有プリンター名」、「ネットワーク共有プリンターのパス名」、「ネットワークプリンターのプリンター名または IP アドレス」を入力します。
プリンターのプリンター名または IP アドレスの確認方法は、「[プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認する（直接印刷の場合）](#)」(P.151)を参照してください。

b-2) ネットワーク共有プリンターを登録後にドライバを選択して設定する場合

「ネットワーク共有プリンター名」、「ネットワークプリンターのプリンター名または IP アドレス」を入力、「ネットワークプリンターのドライバ名称」を選択します。

プリンターのプリンター名または IP アドレスの確認方法は、「[プリンターのプリンター名または IP アドレスを確認する（直接印刷の場合）](#)」（P.151）を参照してください。

プリンターのドライバ名称の確認方法は、「[プリンターのドライバ名称を確認する（直接印刷の場合）](#)」（P.151）を参照してください。

ヒント

ネットワークプリンターのドライバ名称は、タッチパネルおよび Admin Tool の場合、リストボックスから選択できます。Central Admin Console の場合は、直接入力する必要がありますので、事前にドライバ名称をメモしておいてください。

5. [設定] ボタンを押します。

⇒「ネットワーク共有プリンター」画面に戻り、登録済みネットワーク共有プリンターリストに追加されます。

ヒント

- ネットワーク共有プリンター名は、直接入力で指定したネットワーク共有プリンター名になります。あとから名称を変更する場合は、「[ネットワーク共有プリンターの設定を変更する](#)」（P.155）を参照してください。
- 認証画面が表示されることがあります。

■ ネットワーク共有プリンターの設定を変更する

1. 「印刷」の「ネットワーク共有プリンター」を選択します。

⇒「ネットワーク共有プリンター」画面が表示されます。

2. 変更するネットワーク共有プリンターを選択します。

3. [編集] ボタンを押します。

⇒ ネットワーク共有プリンターの編集画面が表示されます。

4. 設定を変更します。

5. [設定] ボタンを押します。

⇒ 変更した設定内容が適用されます。

■ ネットワーク共有プリンターを削除する

1. 「印刷」の「ネットワーク共有プリンター」を選択します。
⇒ 「ネットワーク共有プリンター」画面が表示されます。
2. 削除するネットワーク共有プリンターを選択します。
3. [削除] ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有プリンターの削除画面が表示されます。
4. 削除するネットワーク共有プリンターの情報を確認して [はい] ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有プリンターが削除されます。

重要

- ネットワークに接続されていない場合、ネットワーク共有プリンターを削除すると、「削除中 ...」画面の状態で止まる場合があります。ネットワークが正常に動作していることを確認してから、ネットワーク共有プリンターを削除してください。
- 定義済みのネットワークプリンターと同一プリンターを対象とするネットワーク共有プリンターを削除した場合、ドライバが削除され、ネットワークプリンターが使用できなくなる場合があります。

■ ネットワーク共有プリンターの詳細情報を参照する

1. 「印刷」の「ネットワーク共有プリンター」を選択します。
⇒「ネットワーク共有プリンター」画面が表示されます。
2. 詳細情報を表示するネットワーク共有プリンターを選択します。
3. 「詳細」ボタンを押します。
⇒ ネットワーク共有プリンターの詳細情報が表示されます。

印刷 > ネットワーク共有プリンター

印刷

ネットワーク共有プリンター

情報表示

装置情報

消耗品統計情報

オプション機能

ユーザーログ

システムログ

資源操作

ユーザー情報操作

システム設定操作

ログアウト

ネットワーク共有プリンター情報です。

ネットワーク共有プリンター名
Printer Color

ネットワーク共有プリンターのバス名

ネットワークプリンターのプリンター名またはIPアドレス
192.168.10.100

ネットワークプリンターのドライバ名称
Printer Driver

OK

4.15 スキャナに関する情報を参照する

4.15.1 装置情報を参照する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

1. 「情報表示」の「装置情報」を選択します。

⇒ 「装置情報」画面が表示されます。



情報表示 > 装置情報

装置情報を表示します。

項目	情報
システム版数	Ver001.01.01.0045 541-01
スキャナファーム版数	01.30
使用開始日	10/10/2014
稼働時間	00000000 時間

ログアウト

4.15.2 消耗品統計情報を参照する タッチパネル AdminTool

スキャナが読み取った原稿の枚数と消耗品（ローラーセット）の交換時期が表示されます。消耗品の交換については、「6.5 消耗品を交換する」(P.345) を参照してください。

■ 消耗品の状態を参照する

1. 「情報表示」の「消耗品統計情報」を選択します。

⇒ 「消耗品統計情報」画面が表示されます。

情報表示 > 消耗品統計情報

消耗品の統計情報を表示します。

ADF

総読み取り枚数 枚

ブレーキローラー / (200,000) 枚

状態 クリア

ピックアップローラー / (200,000) 枚

状態 クリア

ログアウト

■ カウンターをリセットする

消耗品を交換したら、カウンターをリセットして正常状態に戻します。

1. 「情報表示」の「消耗品統計情報」を選択します。

⇒ 「消耗品統計情報」画面が表示されます。

2. 交換した消耗品の「クリア」ボタンを押します。

⇒ カウンターのリセットを確認する画面が表示されます。

3. 「OK」ボタンを押します。

⇒ カウンターが0になり、「状態」が緑色になります。

4.15.3 オプション機能の適用状況を参照する タッチパネル AdminTool Central Admin Console

1. 「情報表示」の「オプション機能」を選択します。

⇒ 「オプション機能」画面が表示されます。



2. オプションの有効 / 無効を切り替える場合は、オプション機能の「有効化」で、「On」を選択し、[設定] ボタンを押します。

⇒ 有効にしたオプション機能が使用できるようになります。

ヒント

オプション機能によっては、有効 / 無効の切り替えができない場合があります。

4.15.4 ユーザーログを管理する

スキャナのユーザーログがスキャナに保存されます。

重要

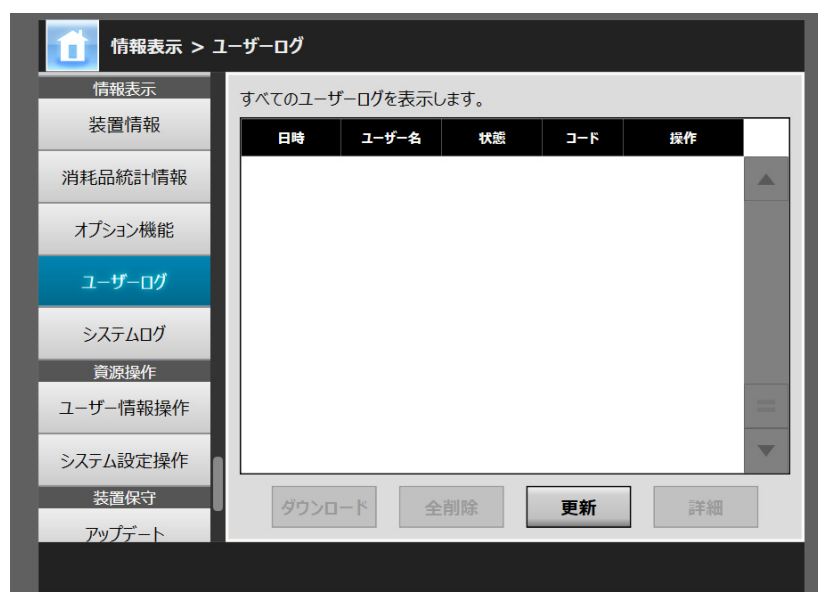
- ユーザーログにはメール送信元や FAX 番号などの個人情報のデータが含まれます。取り扱いには十分注意してください。
- 万一、スキャナ運用中にログファイルの異常を検出した場合、ログファイルは初期化され、「エラー 81001004 ユーザーログが壊れていたため削除しました。」のシステムログが記録されます。

■ ユーザーログの詳細情報を参照する タッチパネル AdminTool

ユーザーログ一覧は操作順に表示されます。「タイムゾーン」画面や「日付 / 時刻」画面で設定を変更しても、表示順は変わりません。

1. 「情報表示」の「ユーザーログ」を選択します。

⇒ 「ユーザーログ」画面が表示されます。



(Admin Tool の画面例)

2. 詳細を参照するユーザーログを選択し、[詳細] ボタンを押します。

⇒ 詳細情報が表示されます。

[確認] ボタンを押すと、「ユーザーログ」画面に戻ります。

ヒント

「日付」の表示形式は、「日付 / 時刻」画面で設定した形式です。詳細は、「[4.4.3 日時を設定する](#)」(P.82) を参照してください。

■ ユーザーログを CSV 形式でダウンロードする AdminTool

ユーザーログ情報を CSV 形式でコンピュータにダウンロードします。

CSV 形式のユーザーログ情報は、以下の形式で保存されます。

" 日付 "," 時刻 "," ユーザー名 "," 状態 "," コード "," 操作 "," ページ "," 詳細情報 "

ファイル名の初期値は「OperationLog.csv」です。

1. 「情報表示」の「ユーザーログ」を選択します。

⇒「ユーザーログ」画面が表示されます。

2. [ダウンロード] ボタンを押します。

⇒「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

3. [保存] ボタンを押します。

ヒント

保存先のディスクに十分な空き容量があることを確認してから [保存] ボタンを押してください。十分な空き容量がない場合は、不完全なファイルが保存される場合があります。

⇒「名前を付けて保存」画面が表示されます。

4. ファイル名および保存先を指定します。

ファイルの保存形式は CSV です。

5. [保存] ボタンを押します。

⇒ ファイルが保存されます。

■ ユーザーログをすべて削除する タッチパネル AdminTool

1. 「情報表示」の「ユーザーログ」を選択します。

⇒「ユーザーログ」画面が表示されます。

2. [全削除] ボタンを押します。

⇒ 削除確認画面が表示されます。

3. [はい] ボタンを押します。

⇒ ユーザーログが削除されます。

4.15.5 システムログを管理する

システム起動や電源切断など、システムで発生したことがスキャナに保存されます。

重要

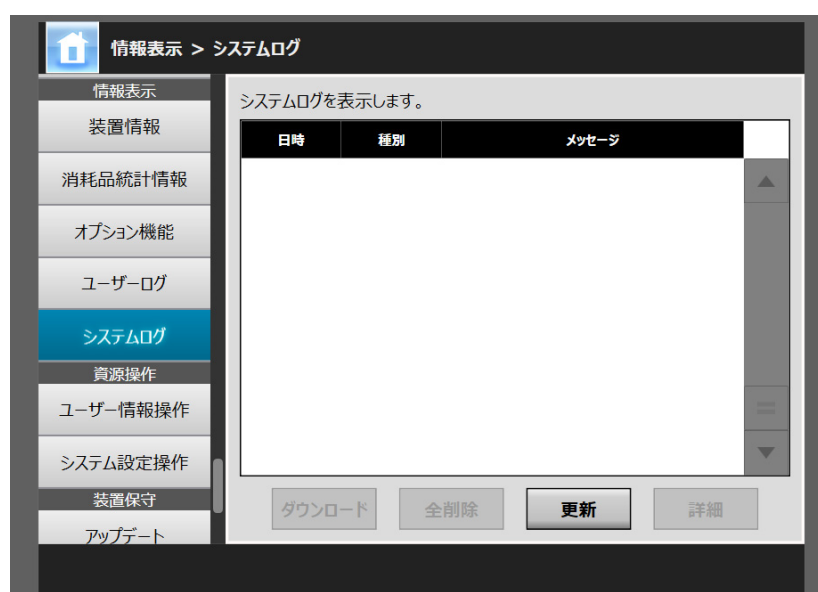
- システムログにはメール送信元や FAX 番号などの個人情報のデータが含まれます。取り扱いには十分注意してください。
- 万一、スキャナ運用中にログファイルの異常を検出した場合、ログファイルは初期化され、「エラー 81001003 システムログが壊れていたため削除しました。」のシステムログが記録されます。

■ システムログの詳細情報を参照する タッチパネル AdminTool

システムログは操作順に表示されます。「タイムゾーン」画面や「日付 / 時刻」画面で設定を変更しても、表示順は変わりません。

1. 「情報表示」の「システムログ」を選択します。

⇒ 「システムログ」画面が表示されます。



(Admin Tool の画面例)

2. 詳細を参照するシステムログを選択し、[詳細] ボタンを押します。

⇒ 詳細情報が表示されます。

[確認] ボタンを押すと、「システムログ」画面に戻ります。

ヒント

- 「日付」の表示形式は、「日付 / 時刻」画面で設定した形式です。詳細は、「[4.4.3 日時を設定する](#)」(P.82) を参照してください。
- 「種別」の「エラー」および「警告」の内容は、「[4.17.6 異常通知先を設定する](#)」(P.182) で設定したメールアドレスに通知されます。

■ システムログを CSV 形式でダウンロードする AdminTool

システムログを CSV 形式でコンピュータにダウンロードします。
CSV 形式のシステムログは、以下の形式で保存されます。

" 日付 "," 時刻 "," 種別 "," メッセージ "

ファイル名の初期値は「SystemLog.csv」です。

1. 「情報表示」の「システムログ」を選択します。

⇒「システムログ」画面が表示されます。

2. [ダウンロード] ボタンを押します。

⇒「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

3. [保存] ボタンを押します。

ヒント

保存先のディスクに十分な空き容量があることを確認してから [保存] ボタンを押してください。十分な空き容量がない場合は、不完全なファイルが保存される場合があります。

⇒「名前を付けて保存」画面が表示されます。

4. ファイル名および保存先を指定します。

ファイルの保存形式は CSV です。

5. [保存] ボタンを押します。

⇒ ファイルが保存されます。

■ システムログをすべて削除する タッチパネル AdminTool

1. 「情報表示」の「システムログ」を選択します。

⇒「システムログ」画面が表示されます。

2. [全削除] ボタンを押します。

⇒ 削除確認画面が表示されます。

3. [はい] ボタンを押します。

⇒ システムログが削除されます。

4.16 資源を管理する

4.16.1 ユーザー情報をメンテナンスする

ユーザー情報の退避、復元、削除ができます。

ユーザー情報とは以下のとおりです。

- メールアドレス台帳 (My List)
- 読み取り設定
- ユーザーログ
- FAX 番号台帳
- 選択ネットワーク共有プリンター
- 選択ネットワーク共有フォルダー
- 選択 FTP フォルダー
- 選択 SharePoint フォルダー
- ローカルアカウント

LDAP サーバに登録されたユーザー名でスキャナにログインすると、自動的に 1 件のユーザー情報としてスキャナに登録されます (同一ユーザー名はまとめて 1 件とします)。

ユーザー情報の最大登録数は 1,000 件です。

重要

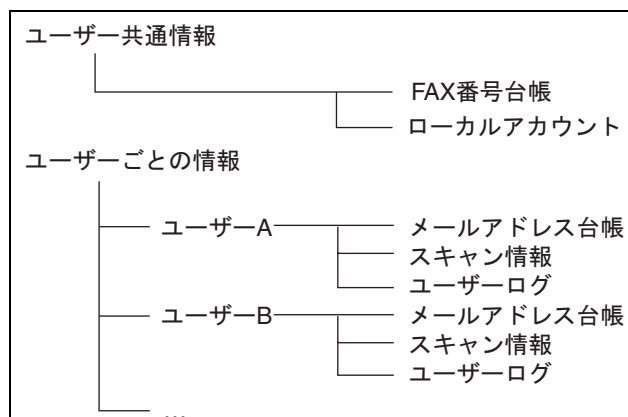
- ユーザー情報が 1,000 件に達した場合、ユーザー情報を削除するまで、ほかのユーザー名でログインできません。
ユーザー情報を削除する前に、退避することを推奨します。退避の方法については、「[ユーザー情報を退避する](#)」(P.167) を、削除の方法については、「[ユーザー情報をすべて削除する](#)」(P.168) を参照してください。
- ユーザーごとの資源は、退避したときに存在したユーザー名と同名のユーザー資源がすべて上書きで復元されます。なお、ユーザー情報を復元することで、ユーザー情報が 1,000 件を超える場合、復元できません。この場合はユーザー情報をすべて削除してから復元してください。
- ユーザー情報を復元すると、FAX 番号台帳およびローカルアカウントは、上書きで復元されます。
- ユーザーログは、退避および復元できません。

以下の場合、ユーザー情報が 1,000 件を超えることになります。

1. 100 ユーザー (A001 ~ A100) でログインした場合
2. 100 ユーザー分 (A001 ~ A100) のユーザー情報を退避した場合
3. 100 ユーザー分 (A001 ~ A100) のユーザー情報を削除した場合
4. 新しく 960 ユーザー (A001 ~ A050 と B001 ~ B910) でログインした場合
5. さらに 2. で退避した 100 ユーザー分 (A001 ~ A100) を復元した場合

⇒ 復元する A001 ~ A100 のうち、既存ユーザー A001 ~ A050 のユーザー情報が上書き対象になり、ユーザー A051 ~ A100 の 50 件のユーザー情報が追加対象になります。しかし、現時点で 960 ユーザー分保持しているため、「 $960+50=1010$ 」となり、1,000 を超えるため A051 ~ A100 の 50 ユーザー分の情報は復元できず、A001 ~ A100 の上書きや復元はできません。

ユーザー情報は、以下の情報で構成されます。

**重要**

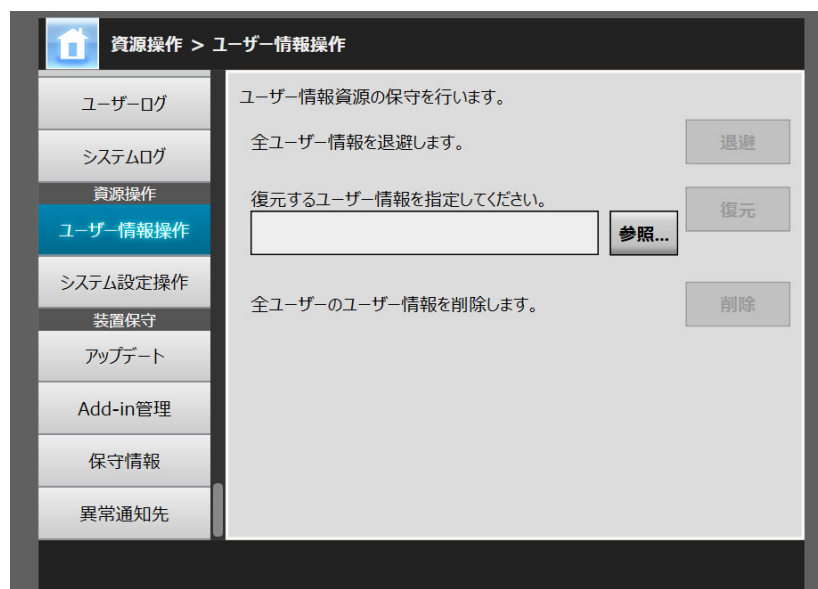
ユーザー情報には、メール送信元や FAX 番号などの個人情報のデータが含まれます。取り扱いには、十分注意してください。

■ ユーザー情報を退避する AdminTool

万一に備え、定期的にユーザー情報を退避してください。
ファイル名の初期値は「restored_data」です。

1. 「資源操作」の「ユーザー情報操作」を選択します。

⇒「ユーザー情報操作」画面が表示されます。



2. [退避] ボタンを押します。

⇒「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

3. 保存先のディスクに十分な空き容量があることを確認して、[保存] ボタンを押します。

ヒント

十分な空き容量がない場合は、不完全なファイルが保存される場合があります。

⇒「名前を付けて保存」画面が表示されます。

4. ファイル名および保存先を指定します。

退避した日付やスキャナ名がわかるファイル名にすることを推奨します。

5. [保存] ボタンを押します。

⇒ ユーザー情報が退避されます。

重要

ユーザー情報の退避ファイルは、内容を変更しないでください。
退避ファイルの内容を変更した場合、ファイルが壊れる可能性があります。壊れたファイルを復元した場合、スキャナが正常に動作しなくなります。

■ ユーザー情報を復元する AdminTool

退避したユーザー情報ファイルをスキャナに戻して、ユーザー情報を復元します。

重要

- ユーザー情報を復元すると、復元したときに存在したユーザー情報がすべて上書きされ、退避時点のメールアドレス台帳、FAX 番号台帳、および読み取り設定に戻ります。
- ユーザー情報の復元中に、電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。スキャナが正常に動作しなくなる可能性があります。

1. 「資源操作」の「ユーザー情報操作」を選択します。

⇒ 「ユーザー情報操作」画面が表示されます。

2. [参照] ボタンを押して、復元するユーザー情報のバックアップファイルを設定します。

3. [復元] ボタンを押します。

⇒ ユーザー情報を上書きする旨の確認メッセージが表示されます。

4. [はい] ボタンを押します。

⇒ ユーザー情報が復元され、復元が完了した旨のメッセージが表示されます。

5. [OK] ボタンを押します。

■ ユーザー情報をすべて削除する タッチパネル AdminTool

重要

- ユーザー情報を削除すると元に戻りません。
- ユーザー情報を削除しても、ローカルアカウントは削除されません。ローカルアカウントは、User Editor を使用して削除します。ローカルアカウントの編集方法については、[「F.7 ローカルアカウントを編集する」\(P.444\)](#) を参照してください。

1. 「資源操作」の「ユーザー情報操作」を選択します。

⇒ 「ユーザー情報操作」画面が表示されます。

2. [削除] ボタンを押します。

⇒ 削除確認の画面が表示されます。

3. [はい] ボタンを押します。

⇒ ユーザー情報が削除されます。

4.16.2 システム設定情報の保守を行う

管理者が設定したスキャナのシステム設定情報を CSV 形式で保存したり、退避、復元、および初期値に戻せます。

システム設定情報とは、管理者が各画面で設定した情報を指します。ただし、管理者がインストールしたシステムアップデート、オプション、Add-in は含まれません。

■ システム設定情報を CSV 形式で保存する AdminTool

CSV 形式で保存したシステム設定情報は、設定を表計算ソフトなどで参照できます。

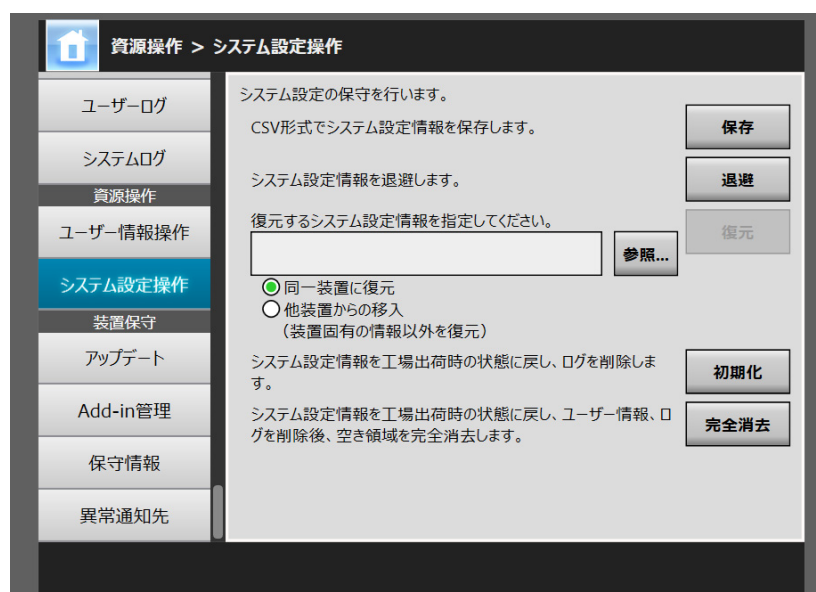
CSV 形式のシステム設定情報は、以下の形式で保存されます。

" 機能名 "," 設定項目名 "," 設定値 "

ファイル名の初期値は「Cofiguration_download.csv」です。

1. 「資源操作」の「システム設定操作」を選択します。

⇒「システム設定操作」画面が表示されます。



2. [保存] ボタンを押します。

⇒「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

3. 保存先のディスクに十分な空き容量があることを確認して、[保存] ボタンを押します。

ヒント

十分な空き容量がない場合は、不完全なファイルが保存される場合があります。

⇒「名前を付けて保存」画面が表示されます。

4. 保存場所とファイル名を指定します。

ファイルの保存形式は CSV です。

5. [保存] ボタンを押します。

⇒ スキャナのシステム設定情報がダウンロードされます。

■ システム設定情報を退避する AdminTool

管理者が設定したスキャナのシステム設定情報を退避します。

退避したファイルを使って、システム設定情報を復元できます。万一来、定期的に退避してください。

ファイル名の初期値は「SystemSettingsFile」です。

ヒント

退避したデータは、Central Admin Console のシステム環境設定編集画面の「スキャナ情報移入」で使用できます。操作については、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。

1. 「資源操作」の「システム設定操作」を選択します。

⇒ 「システム設定操作」画面が表示されます。

2. [退避] ボタンを押します。

⇒ 「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

3. 保存先のディスクに十分な空き容量があることを確認して、[保存] ボタンを押します。**ヒント**

十分な空き容量がない場合は、不完全なファイルが保存される場合があります。

⇒ 「名前を付けて保存」画面が表示されます。

4. 保存場所とファイル名を指定します。

ファイル名は、退避した日付やスキャナ名がわかるファイル名にすることを推奨します。

5. [保存] ボタンを押します。

⇒ スキャナのシステム設定情報が退避されます。

重要

システム設定情報の退避ファイルは、内容を変更しないでください。退避ファイルの内容を変更して復元した場合は、スキャナが正常に動作しなくなる可能性があります。

■ システム設定情報を復元する AdminTool

退避したシステム設定情報を復元します。

以下の方法で、システム設定情報を復元できます。

- 退避したシステム設定情報を同ースキャナに戻して復元する
- ほかのスキャナで退避したシステム設定情報を移入して、復元する

1. 「資源操作」の「システム設定操作」を選択します。

⇒ 「システム設定操作」画面が表示されます。

2. [参照] ボタンを押して、復元するシステム設定情報のバックアップファイルを指定します。

3. 以下のどちらかの操作をします。

- 退避したシステム設定情報を同ースキャナに戻して復元する場合、「同一装置に復元」を選択します。
- ほかのスキャナで退避したシステム設定情報を移入して、復元する場合、「他装置からの移入」を選択します。

4. [復元] ボタンを押します。

⇒ システム設定情報の復元確認メッセージが表示されます。

5. [はい] ボタンを押します。

⇒ システム設定情報が復元されます。システム設定情報の復元完了後、スキャナが再起動されます。

重要

システム設定情報の復元中に電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。
スキャナが正常に動作しなくなる可能性があります。

ヒント

システム設定情報が復元されるとスキャナは再起動されるため、Admin Tool の接続が切れます。設定を継続する場合は、スキャナ起動後、時間をおいてから Admin Tool で再接続してください。

退避時の IP アドレスおよびスキャナ名と、復元する直前の IP アドレスおよびスキャナ名が違う場合は、スキャナで設定内容確認して、Admin Tool で再接続してください。

■ 工場出荷時の状態に戻す タッチパネル AdminTool

管理者が各画面で設定したシステム設定情報およびシステムログを初期化して、工場出荷時の状態に戻します。

1. 「資源操作」の「システム設定操作」を選択します。

⇒ 「システム設定操作」画面が表示されます。

2. 以下のどちらかの操作をします。

- システム設定情報を工場出荷時の状態に戻す場合、「システム設定情報を工場出荷時の状態に戻し、ログを削除します。」の「初期化」ボタンを押します。
- システム設定情報を工場出荷時の状態に戻して、ユーザー情報およびログを削除して、空き領域を完全に消去する場合、「システム設定情報を工場出荷時の状態に戻し、ユーザー情報、ログを削除後、空き領域を完全消去します。」の「完全消去」ボタンを押します。

⇒ 確認の画面が表示されます。

3. 「はい」ボタンを押します。

⇒ 「初期化」ボタンを押した場合、システム設定情報が工場出荷時の状態に戻り、Add-in およびログが削除されます。

「完全消去」ボタンを押した場合、システム設定情報、ユーザー情報、Add-in、およびログが初期化され、空き領域が完全消去されます。

⇒ 工場出荷時の状態に戻ったあと、スキャナが再起動されます。

重要

- 工場出荷時の状態に戻している間、電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。スキャナが正常に動作しなくなる可能性があります。
- 完全消去の処理には 40 分程度の時間がかかります。途中で消去作業を取り消すことはできませんので注意してください。

ヒント

工場出荷時の状態に戻ることで、IP アドレスやスキャナ名などの設定が必要になります。「4.4 システムを設定する」(P.79) 以降を参照して再設定してください。

4.17 保守を行う

4.17.1 アップデートする AdminTool

スキャナのシステム、セキュリティ、およびオプション機能をアップデートします。アップデートファイルは、以下のホームページからコンピュータにダウンロードします。

<https://www.pfu.ricoh.com/fi/dl/>

1. 「装置保守」の「アップデート」を選択します。

⇒「アップデート」画面が表示されます。

装置保守 > アップデート

ユーザーログ
システムログ
資源操作
ユーザー情報操作
システム設定操作
装置保守
アップデート
Add-in管理
保守情報
異常通知先

システムをアップデートします。

システム版数
現システム版数
アップデート実施日付 10/26/

アップデート実行
アップデートファイルを指定してください。
 参照... アップロード

アップデートチェック
☐ 起動時にアップデートチェックを行う。
☐ 最新バージョンが公開されている場合、メール通知する。

アップデートチェック

設定

2. [参照] ボタンを押して、アップデート用のファイルを指定します。

3. [アップロード] ボタンを押します。

⇒「現システム版数」と「新システム版数」が表示されます。

装置保守 > アップデート

システムをアップデートします。

現システム版数

アップデート実施日付 10/26/2014

新システム版数

アップデートを実行するとシステムを再起動します。
アップデートを行いますか？

実行：アップデートを実行します。しばらくしてから再度接続してください。
キャンセル：前の画面に戻ります。

キャンセル 実行 設定

ヒント

オプション機能のアップデート、またはオプション機能を含むシステムのアップデートの場合、以下のような画面が表示されます。

装置保守 > アップデート

システムをアップデートします。

現システム版数

アップデート実施日付 10/26/2014

新システム版数

オプション機能

☒ 有効

アップデートを実行するとシステムを再起動します。
アップデートを行いますか？

実行：アップデートを実行します。しばらくしてから再度接続してください。
キャンセル：前の画面に戻ります。

キャンセル 実行 設定

4. [実行] ボタンを押します。

⇒ アップデートが開始されます。

アップデート完了後、スキャナが再起動されます。

重要

- アップデート中は操作しないでください。
- アップデート中に電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。スキャナが正常に動作しなくなる可能性があります。

ヒント

Admin Tool からアップデートした場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、スキャナ起動後、時間をおいてから Admin Tool で再接続してください。

4.17.2 アップデートの公開をチェックする タッチパネル AdminTool

スキャナのシステム、セキュリティ、およびオプション機能のアップデートが、アップデート公開サーバに公開されているかどうかをチェックします。
また、アップデートが公開されていた場合に、管理者にメールで通知するかどうかを設定します。

ヒント

アップデートの公開をチェックするときにプロキシサーバを使用する場合、必要に応じて HTTP プロキシサーバを設定します。詳細は、「[4.7.5 プロキシサーバを設定する](#)」(P.104)を参照してください。

■ 今すぐにアップデートの公開をチェックする

1. 「装置保守」の「アップデート」を選択します。

⇒ 「アップデート」画面が表示されます。

(Admin Tool の画面例)

2. [アップデートチェック] ボタンを押します。

⇒ アップデートチェックが行われます。

適用する必要があるアップデートがあった場合は、メッセージが表示されます。
必要に応じて、アップデートを適用してください。

■ スキャナの起動時にアップデートの公開をチェックする

スキャナを起動するたびに、アップデートをチェックするように設定します。

1. 「装置保守」の「アップデート」を選択します。

⇒「アップデート」画面が表示されます。

2. 「起動時にアップデートチェックを行う。」チェックボックスにチェックを付けます。

ヒント

スキャナが省電力モードに入るときも、アップデートの公開チェックが行われます。

■ アップデートの公開を管理者にメール通知する

最新のアップデートが公開されたら、管理者にメールで通知されるように設定します。

1. 「装置保守」の「アップデート」を選択します。

⇒「アップデート」画面が表示されます。

2. 「起動時にアップデートチェックを行う。」チェックボックスにチェックを付けます。

3. 「最新バージョンが公開されている場合、メール通知する。」チェックボックスにチェックを付けます。

⇒ 最新のアップデートが公開されると、「ネットワークスキャナ スキャナ名からのイベント通知」というタイトルのメールが、「異常通知先」画面で設定したメールアドレスに送信されるようになります。通知先のメールアドレスの設定については、「[4.17.6 異常通知先を設定する](#)」(P.182)を参照してください。

4.17.3 Add-in を管理する

「Add-in」とは、SDK（開発キット）を使用して作成したアプリケーションです。
Add-in 管理では、以下が操作できます。

- Add-in のインストール
- Add-in のアンインストール
- Add-in 情報の参照
- Add-in 設定情報のアップロード
- Add-in 実行時のキーボードのアイコン表示設定

■ Add-in をインストールする AdminTool

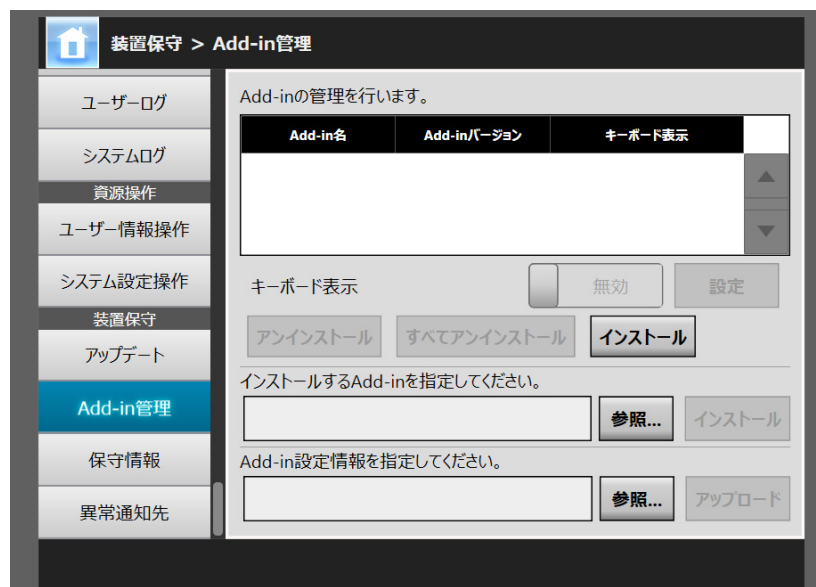
Add-in は、最大 6 個までインストールできます。

1. 「装置保守」の「Add-in 管理」を選択します。

⇒ 「Add-in 管理」画面が表示されます。

2. 「インストール」ボタンを押します。

⇒ Add-in を指定する画面が表示されます。



3. 「インストールする Add-in を指定してください。」の「参照」ボタンを押して、Add-in インストール用のファイルを指定します。

4. 「インストール」ボタンを押します。

⇒ Add-in がインストールされて、一覧に Add-in 名が表示されます。

■ Add-in をアンインストールする AdminTool

1. 「装置保守」の「Add-in 管理」を選択します。

⇒ 「Add-in 管理」画面が表示されます。

2. 以下のどちらかの操作をします。

- 1 つの Add-in をアンインストールする場合、一覧から Add-in を選択して、[アンインストール] ボタンを押します。
- 一覧に表示されている Add-in をすべてアンインストールする場合、[すべてアンインストール] ボタンを押します。

⇒ アンインストール確認の画面が表示されます。

3. [はい] ボタンを押します。

⇒ Add-in がアンインストールされて、一覧から Add-in 名が削除されます。

■ Add-in 情報を参照する タッチパネル AdminTool

Add-in がインストールされている場合に、Add-in 情報を参照できます。

1. 「装置保守」の「Add-in 管理」を選択します。

⇒ 「Add-in 管理」画面が表示されます。



■ Add-in 設定情報をアップロードする

1. 「装置保守」の「Add-in 管理」を選択します。
⇒ 「Add-in 管理」画面が表示されます。
2. [インストール] ボタンを押します。
⇒ Add-in を指定する画面が表示されます。
3. 「Add-in 設定情報を指定してください。」の[参照] ボタンを押して、アップロードする Add-in 設定情報を指定します。
4. [アップロード] ボタンを押します。
⇒ Add-in 設定情報が、スキヤナのアドイン管理用のフォルダーに格納されます。

■ Add-in 実行時のキーボードのアイコン表示を設定する



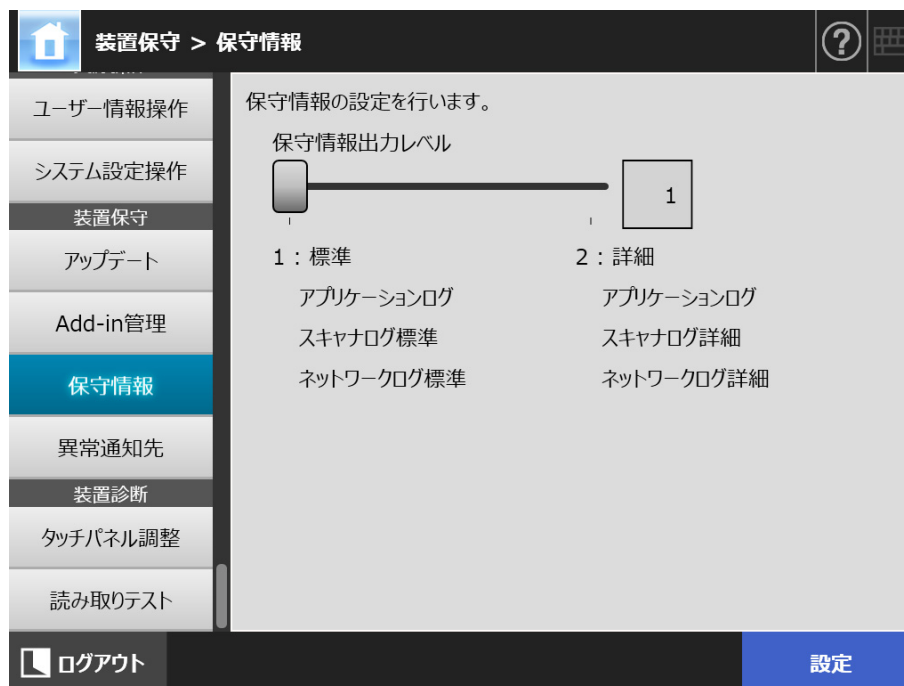
タッチパネルの画面の右上には、キーボードのアイコンが表示されます。
Add-in を実行したときに、このアイコンを画面に表示するかどうかを設定します。

1. 「装置保守」の「Add-in 管理」を選択します。
⇒ 「Add-in 管理」画面が表示されます。
2. 複数の Add-in がインストールされている場合、対象とする Add-in を一覧から選択します。
3. 「キーボード表示」で、Add-in の実行時にソフトキーボードを表示するかどうかを選択します。
4. [設定] ボタンを押します。
⇒ Add-in の一覧に、設定内容が反映されます。

4.17.4 保守情報の採取レベルを設定する タッチパネル AdminTool

1. 「装置保守」の「保守情報」を選択します。

⇒ 「保守情報」画面が表示されます。



2. 保守情報として出力するレベルを設定します。

値の変更は、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス & サポートセンターの指示に従ってください。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

重要

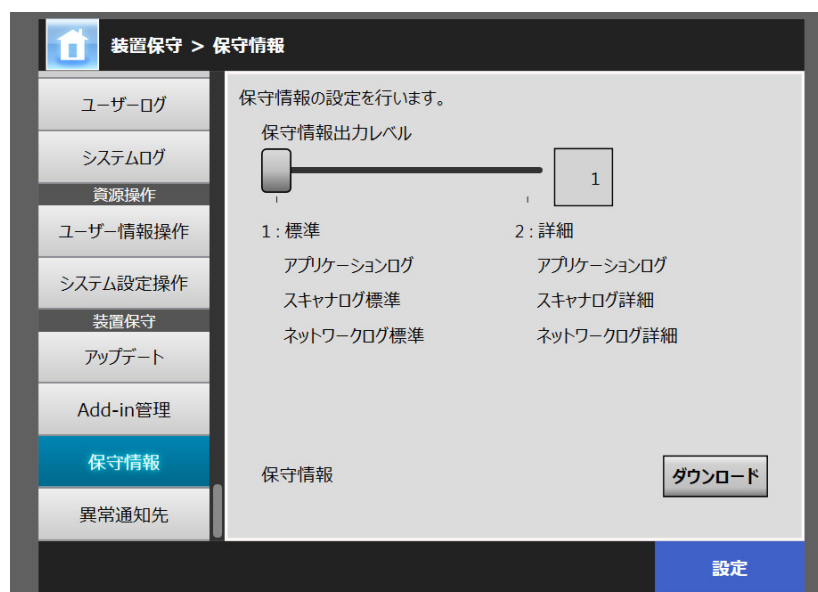
- 保守情報には、メール送信先などの個人情報のデータが含まれます。取り扱いには十分注意してください。
- 「保守情報出力レベル」を変更したあとの保守情報に、設定したレベルに応じた情報が反映されます。
保守情報は、原因を究明したい現象を発生させたあとに取得してください。保守情報を採取する方法は、「[4.17.5 保守情報を採取する](#)」(P.181)を参照してください。

4.17.5 保守情報を採取する AdminTool

スキャナをはじめて導入するときや、運用中になんらかのトラブルが発生したときに、原因を究明するために、スキャナが保持している保守情報を採取できます。採取した保守情報は、スキャナを修理に出すときに、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス & サポートセンターと一緒に送ります。

1. 「装置保守」の「保守情報」を選択します。

⇒ 「保守情報」画面が表示されます。



2. [ダウンロード] ボタンを押します。

⇒ 「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

3. [保存] ボタンを押します。

ヒント

保存先のディスクに十分な空き容量があることを確認してから [保存] ボタンを押してください。十分な空き容量がない場合は、不完全なファイルが保存される場合があります。

⇒ 「名前を付けて保存」画面が表示されます。

4. 保存場所とファイル名を指定します。

5. [保存] ボタンを押します。

⇒ 保守情報が採取されます。

4.17.6 異常通知先を設定する

タッチパネル

AdminTool

Central Admin Console

スキャナに異常が起こった場合に、異常通知をメールで送信できます。ここでは、異常通知の送信先とするメールアドレスを設定します。

異常通知先のメールアドレスを設定しておく、異常発生時には、装置監視メッセージが「ネットワークスキャナ XXXX からのエラー通知」のタイトルで送信されます。

なお、異常通知を行うには、事前に SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバの設定方法については、「[4.11.1 SMTP サーバを設定する](#)」(P.124)を参照してください。

また、ここで設定したメールアドレスは、アップデートチェックを行ったときに、アップデートの公開を通知するときの通知先となります。アップデートチェックの詳細は、「[4.17.2 アップデートの公開をチェックする](#)」(P.175)を参照してください。

1. 「装置保守」の「異常通知先」を選択します。

⇒「異常通知先」画面が表示されます。

2. メールの送信先および送信元とするメールアドレスを入力します。

メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。

3. 入力したメールアドレスが正しいか確認する場合は、[テスト送信] ボタンを押します。

入力したメールアドレスで、テストメールが正しく受信できたかを確認してください。

4. SMTP 認証をする場合、「SMTP サーバ認証情報」で、メールを送信するためのユーザー認証情報を設定します。

重要

SMTP 認証をするには、「SMTP サーバ」画面で SMTP 認証を有効にして、認証するための設定が必要となります。詳細は、「[4.11.1 SMTP サーバを設定する](#)」(P.124)を参照してください。

5. **「設定」ボタンを押します。**
⇒ 入力内容が設定されます。

4.17.7 タッチパネルに表示されている画面を採取する

タッチパネルに表示されている画面をネットワーク経由で取得して、BMP または JPEG の形式で保存します。

1. Internet Explorer から、スキャナ名を URL に指定してスキャナに接続し、ダウンロード画面を表示します。

ダウンロード画面を表示するまでの操作については、「[3.2 ソフトウェアのダウンロード画面を表示する](#)」(P.61) を参照してください。

2. 「スクリーンショット表示」の「次へ」ボタンを押します。
⇒ タッチパネルに表示されている画面を採取するための画面が表示されます。
3. 「取得」ボタンを押します。
⇒ タッチパネルに表示されている画面が取得されて、表示されます。

取得 ○BMP ●JPEG 保存 戻る ログアウト

日付/時刻 0221 063750

接続先 <= 再起動 電源切断

説明

ログイン ?

ユーザー名

パスワード

電源切断 ログイン

4. 画面を保存するときのファイル形式（BMP または JPEG）を選択します。

5. 日付 / 時刻、接続先、および説明を使用して保存時のファイル名を付ける場合、それぞれの入力域にファイル名にする文字列を入力します。

半角英数字、および【¥/:;*?"<>|#&%】を除く記号が使用できます。

言語固有の文字などを使用したい場合は、「名前を付けて保存」画面で入力できます。

ヒント

「日付 / 時刻」、「接続先」、および「説明」を入力した場合、以下の順序でファイル名が作成されます。

- 説明
- 接続先
- 日付 / 時刻

- 初期値は、以下のとおりです。

日付 / 時刻：スクリーンショットを取得した日付 / 時刻

接続先：スキャナ名

説明：空白

- 画面を保存するときのファイル名の初期値は、以下のどちらかです。

- 説明_接続先_日付/時刻.bmp

- 説明_接続先_日付/時刻.jpg

なお、「説明」を省略すると、「NSScreenShot」になります。

- NSScreenShot_接続先_日付/時刻.bmp

- NSScreenShot_接続先_日付/時刻.jpg

6. [保存] ボタンを押します。

⇒「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

7. [保存] ボタンを押します。

⇒「名前を付けて保存」画面が表示されます。

8. ファイル名および保存先を指定します。

9. [保存] ボタンを押します。

⇒ 画面が指定したファイル形式で保存されます。

ヒント

接続中のスキャナの電源を切断する場合は[電源切断] ボタンを押します。

接続中のスキャナを再起動する場合は[再起動] ボタンを押します。

なお、接続中のスキャナに利用者または管理者がログインしている場合、電源切断および再起動はできません。ただし、自動ログインしている場合に、「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面を表示しているときは、電源切断および再起動はできます。

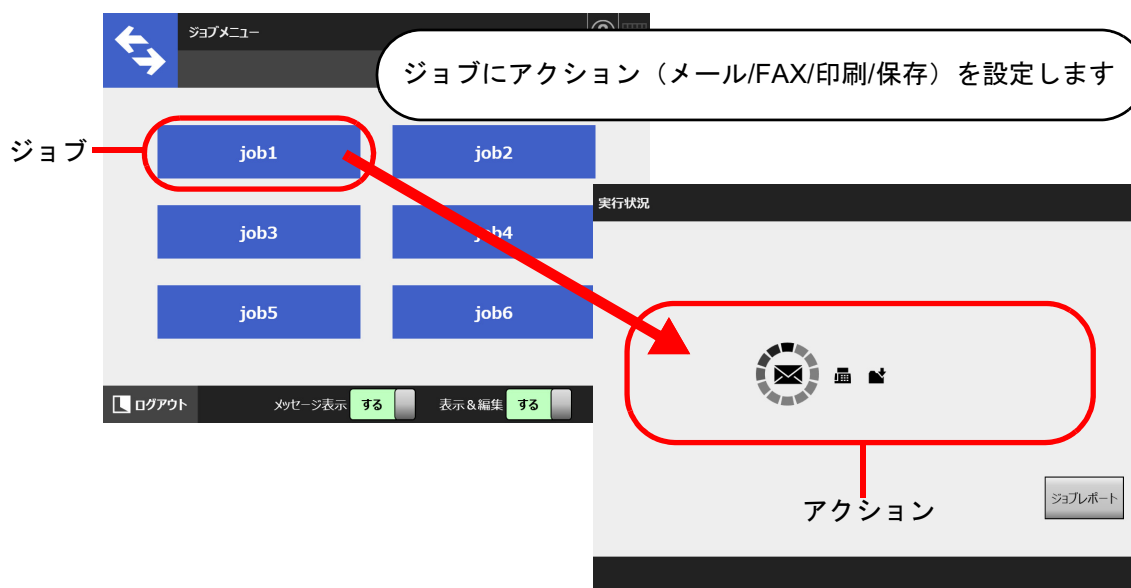
4.18 ジョブを設定する

ジョブ設定メニューで、ジョブ設定、ジョブメニュー設定、ジョブグループ設定を行うことで、利用者がログインしたときに、各自に割り当てられたジョブメニューが表示され、ジョブを実行できます。

1. ジョブ設定

ジョブとは、読み取り時の設定やアクション（メール / FAX / 印刷 / 保存）などの一連の動作を設定したものです。

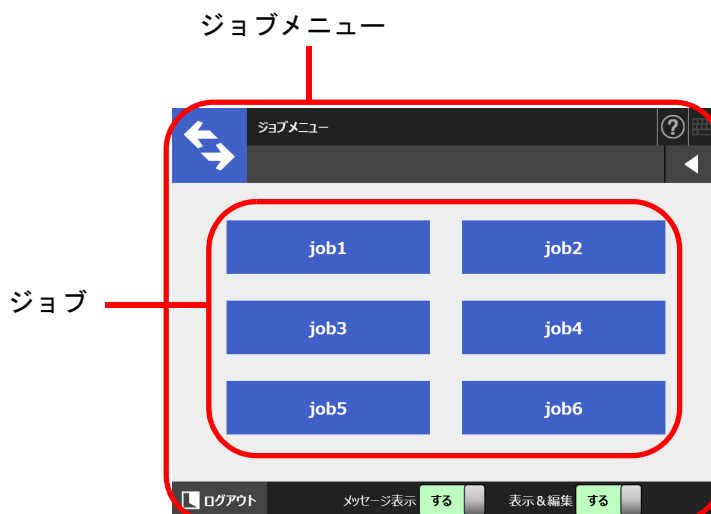
例えば、スキャン画像をメールで送信してフォルダーに保存する動作を、1つのジョブとして設定できます。



2. ジョブメニュー設定

ジョブメニューとは、設定したジョブをメニューに配置したものです。

例えば、スキャン画像をメールで送信してフォルダーに保存するジョブをジョブボタンに割り当てて、ジョブメニューとして設定できます。

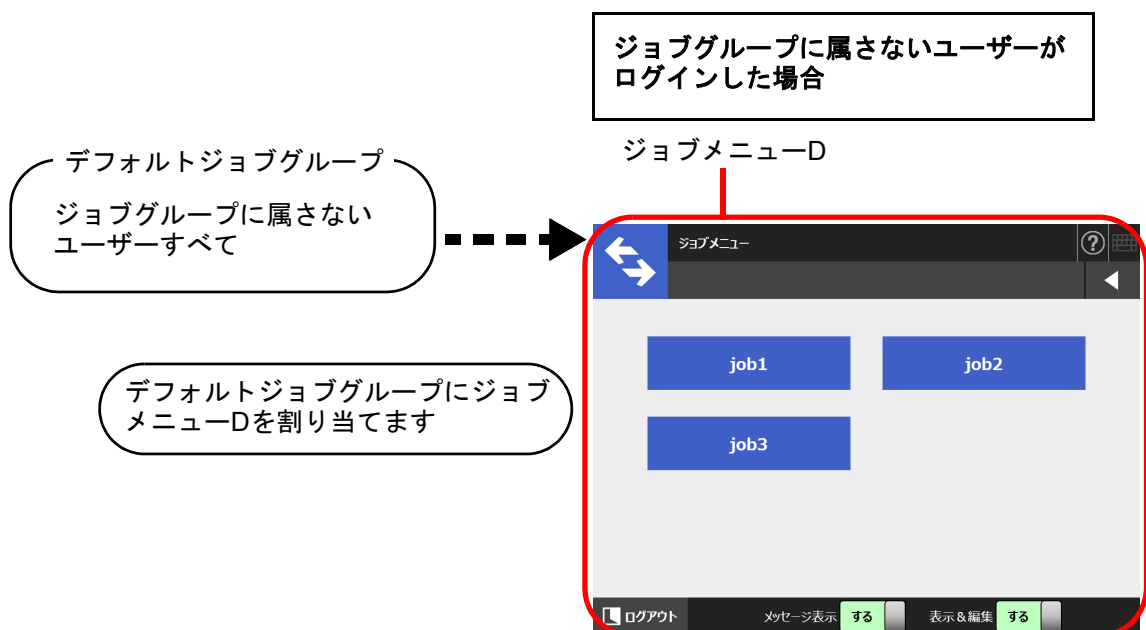
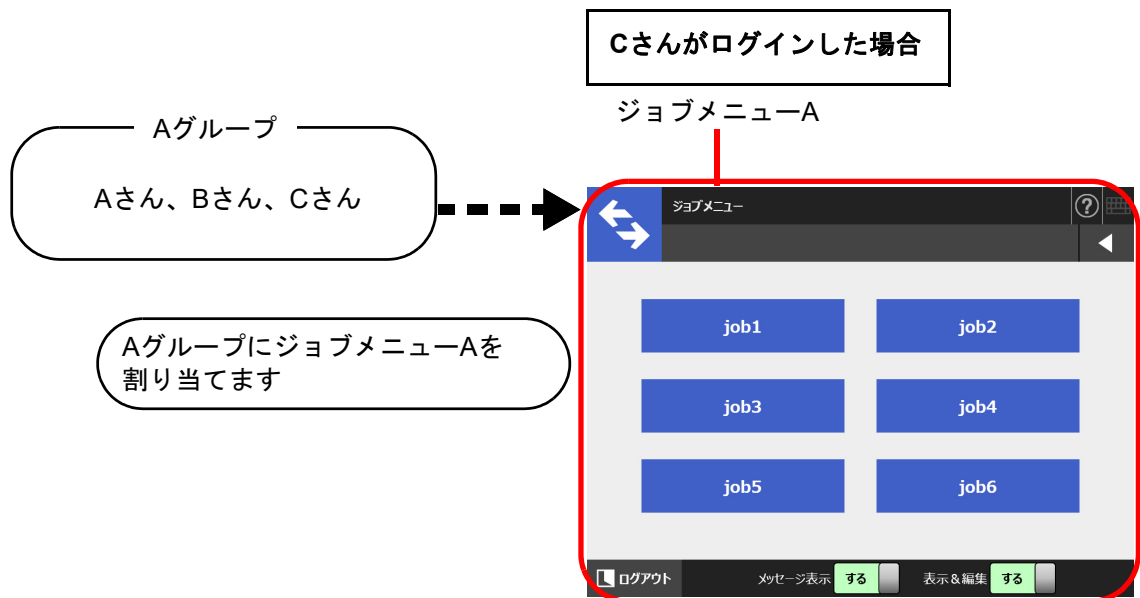


3. ジョブグループ設定

ジョブグループとは、同じジョブメニューを使用するユーザーの集まりのことです。

ジョブグループに属しているユーザーが共通で使用するジョブメニューを設定します。どのジョブグループにも属さないユーザーが使うジョブメニューはデフォルトジョブグループに設定します。

例えば、AグループにジョブメニューAを割り当て、デフォルトジョブグループにジョブメニューDを割り当てます。Aグループに属しているCさんはジョブメニューAを使用できるようになります。ジョブグループに属さないユーザーはジョブメニューDを使用できるようになります。



4.18.1 ジョブ設定の流れ

ジョブを利用する場合に管理者が行うジョブ設定の流れは、以下のようになります。

ジョブ設定

ジョブ一覧

ジョブの一覧表示、追加、編集をします。

ジョブ詳細設定

ジョブ一覧で選択したジョブの読み取り設定、メッセージ画面設定、読み取り後に実行するアクション設定をします。

詳細は「[4.18.2 ジョブを設定する](#)」(P.190)を参照してください。

ジョブメニュー設定

ジョブメニュー一覧

ジョブメニューの一覧表示、追加、編集をします。

ジョブメニュー詳細設定

ジョブメニュー一覧で選択したジョブメニューのジョブボタン設定をします。

詳細は「[4.18.3 ジョブメニューを設定する](#)」(P.200)を参照してください。

ジョブグループ設定

ジョブグループ一覧

ジョブグループの一覧表示、追加、編集をします。

ジョブグループ詳細設定

ジョブグループ一覧で選択したジョブグループに割り当てるジョブメニュー、メインメニュー表示、ジョブグループメンバー設定をします。

詳細は「[4.18.4 ジョブグループを設定する](#)」(P.205)を参照してください。

ジョブ実行

- 「ネットワーク管理」の「Scanner Central Admin Server」画面で「ジョブ設定共有」を有効にして、Central Admin Console の「共有ジョブ設定」画面で共有ジョブ設定を公開すると、Central Admin Console のジョブ設定編集画面で設定した共有ジョブが実行されます。
- 「ネットワーク管理」の「Scanner Central Admin Server」画面で「ジョブ設定共有」を無効にすると、Admin Tool のジョブ設定メニューで設定したジョブが実行されます。

詳細は「[5.13 ジョブを実行する](#)」(P.323)を参照してください。

4.18.2 ジョブを設定する

AdminTool

Central Admin Console

読み取り時の設定やアクション（メール / FAX / 印刷 / 保存）などの一連の動作をジョブとして設定します。

ジョブは最大 1,000 個まで設定できます。

ヒント

Central Admin Console から操作する場合、ジョブを設定するための画面を表示する方法については、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。

■ ジョブを追加する

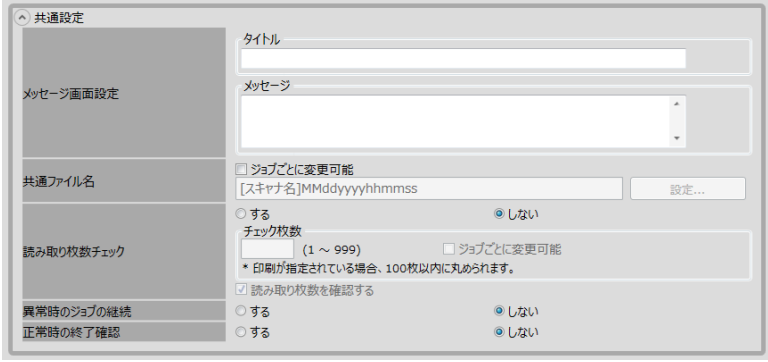
ジョブを追加する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブ設定」タブを押します。
⇒「ジョブ一覧」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'ジョブ一覧' (Job List) screen. At the top, there are tabs for 'ジョブ設定', 'ジョブメニュー設定', and 'ジョブグループ設定'. Below the tabs, there's a section for '絞り込み条件' (Filter Condition) with input fields for 'ジョブ名' (Job Name) and '説明' (Description), and a '絞り込み' (Filter) button. Below this are buttons for '追加' (Add), '参照して追加' (Add by Reference), '編集' (Edit), and '削除' (Delete). The main area is a table with columns for 'ジョブ名', '説明', and '更新日時' (Update Date).

3. 「追加」ボタンを押します。
⇒「ジョブ詳細設定」画面が表示されます。
4. 「ジョブ名」、「説明」を設定します。

5. 「共通設定」の左側にある  を押して、ジョブを実行したときの動作を設定します。



重要

メッセージ画面設定で表示されるメッセージのレイアウトと、スキャナの「ジョブメッセージ」画面に表示されるレイアウトは異なる場合があります。スキャナでレイアウトを確認してメッセージを設定してください。

ヒント

「共通ファイル名」は、[設定] ボタンを押して、「共通ファイル名設定」画面から指定します。

「フォルダー」の設定は、スキャン画像をフォルダーに保存する場合に有効となります。設定値の詳細は、「[4.13.4 保存ファイル名を設定する](#)」(P.143)を参照してください。

6. 「読み取り設定」の左側にある  を押して、読み取り設定をします。
 「ファイル」の「セパレーション」については、「出力ファイルを分割する」
 (P.199) を参照してください。そのほかの設定値の詳細は、「5.8 読み取り設定を
 する」(P.264) を参照してください。

読み取り設定

ファイル	出力ファイル形式	☒ PDF ☐ マルチページ ☐ PDF/A ☐ シングルページ ☐ TIFF ☐ JPEG
	セパレーション	セパレーション方法 しない ページ数 1 ページ パッチコード ☐ セパレータを破壊する ファイル名 ☐ セパレータ ☒ セパレータとドキュメントカウンタ ☐ ドキュメントカウンタ
	テキスト認識	検索可能なPDF出力 ☒ しない ☐ する マーカ文字列認識 しない マーカ文字列編集 ☒ しない ☐ する テキスト認識する言語 日本語 テキスト認識するページ指定 先頭ページだけ ページ指定 ~
	PDFパスワードロック	☒ オフ ☐ オン PDFパスワードロック パスワード 確認パスワード
基本	圧縮	4 高い(1) - 推奨(4) - 低い(7) ☒ 高い(1) - 推奨(4) - 低い(7) ☐ しない ☐ する
	給紙	☐ フィーダー(片面) ☒ フィーダー(両面)
	用紙サイズ	自動 カスタム用紙サイズ 幅 2 inch (2,000 ~ 8,500) 50.8 mm (50.8 ~ 215.9) 長さ 2 inch (2,000 ~ 125,000) 50.8 mm (50.8 ~ 3175.0)
画像	原稿セット方向	☒ 下向き ☐ 上向き
	キャリヤシート	☒ オフ ☐ A3 ☐ B4(JIS) ☐ ダブルレター
	画像タイプ	☒ 自動判別 ☐ カラー ☐ グレースケール ☐ 二値白黒 感度 0 (-7 ~ 7) (二値白黒/グレースケール-カラー)
	解像度	200dpi 200 dpi (50 ~ 600)
	二値化の調整	感度 0 (-50 ~ 50) スレッショールド(背景) 0 (-50 ~ 50)
	トーン調整	自動 明るさ 128 (1 ~ 255) コントラスト 128 (1 ~ 255) シャドウ 10 (0 ~ 254) ハイライト 230 (1 ~ 255) ガンマ 1.6 (0.1 ~ 10.0)
	クリーンアップ	シャープネス なし レベル 1 カラークリーンアップ なし 平滑度 0 (-5 ~ 5) 文字の太さ 0 (-5 ~ 5) かすれ補正 0 (0 ~ 5) ごみ取り指定 0 (0 ~ 20) 地紋除去 オン (標準) 下地追従 オフ
	縦筋軽減	☒ オフ ☐ オン
	ドロップアウトカラー	緑
	sRGB出力	☒ オフ ☐ オン
ページ	ブランクページスキップ	☒ する ☐ しない 感度 0 (-5 ~ 5)
	回転	自動
	エッジ補正	緑消し 塗りつぶす領域 上端 0.051 inch (0 ~ 0.394) 1.3 mm (0 ~ 10.0) 下端 0.051 inch (0 ~ 0.394) 1.3 mm (0 ~ 10.0) 左端 0.051 inch (0 ~ 0.394) 1.3 mm (0 ~ 10.0) 右端 0.051 inch (0 ~ 0.394) 1.3 mm (0 ~ 10.0)
用紙搬送	マルチフィード検出 ☐ 検出しない ☐ 長さ検出 ☒ 重なり検出 ☐ 重なりと長さ検出	
パッチ	インデックス出力	☒ しない ☐ する
	バーコード検出	種類 ☐ EAN 8 ☐ EAN 13 ☐ Code 3 of 9 ☐ Code 128 ☐ ITF ☐ UPC-A ☐ Codabar

7. アクションを設定します。

ヒント

アクションは最大 10 個まで設定できます。

8. 手順 7 でアクションに「メール」を選択した場合、メール送信に関する設定をします。

設定値の詳細は、「5.4 スキャン画像をメールで送信する」(P.228) を参照してください。

ヒント

- メールアドレスは、[参照] ボタンを押して、「LDAP 一覧」画面から指定できます。LDAP 一覧を絞り込みたい場合、「LDAP 一覧を絞り込む」(P.198) を参照してください。
- 添付ファイル名は、[設定] ボタンを押して、「添付ファイル名設定」画面から指定します。設定値の詳細は、「4.11.4 添付ファイル名を設定する」(P.127) を参照してください。

9. **手順 7** でアクションに「FAX」を選択した場合、FAX 送信に関する設定をします。

設定値の詳細は、「5.5 スキャン画像を FAX で送信する」(P.242) を参照してください。

ヒント

メールアドレスは、[参照] ボタンを押して、「LDAP 一覧」画面から指定します。
LDAP 一覧を絞り込みたい場合、「LDAP 一覧を絞り込む」(P.198) を参照してください。

10. **手順 7** でアクションに「印刷」を選択した場合、印刷に関する設定をします。

設定値の詳細は、「5.6 スキャン画像を印刷する」(P.250) を参照してください。

ヒント

ネットワーク共有プリンターは、[参照] ボタンを押して、「プリンター一覧」画面から指定します。

11. **手順 7** でアクションに「保存」を選択した場合、フォルダー保存に関する設定をします。

「処理結果ファイル」以外の設定値の詳細は、「5.7 スキャン画像をフォルダーに保存する」(P.261) を参照してください。

処理結果ファイルの詳細は、以下のとおりです。

- ファイルの形式は、XML 形式です。
- 文字コードは UTF-8 です。

- 処理結果ファイルの内容は、以下のとおりです。

項目名	出力内容
ResultFileVersion	V1.0
ScannerName	スキャナ名
User	ユーザー名
Date	保存完了日付
Time	保存完了時刻
Result	保存処理結果
ResultCode	結果コード
ResultDescription	結果詳細
Pages	保存ページ数
SheetCount_Job	ジョブで指定された読み取り枚数
SheetCount_User	ユーザーが指定した読み取り枚数
SheetCount_Scan	実際に読み取った用紙の枚数
FileName	保存ファイル名（複数ファイルあり）
Path	保存ファイルパス名

ヒント

- ネットワーク共有フォルダーは、[参照] ボタンを押して、「フォルダー一覧」画面から指定します。
- ファイル名は、[設定] ボタンを押して、「保存ファイル名設定」画面から指定します。設定値の詳細は、「[4.13.4 保存ファイル名を設定する](#)」(P.143) を参照してください。

12. [OK] ボタンを押します。

⇒「ジョブ一覧」画面にジョブが追加されます。

■ ジョブを参照して追加する

ジョブを参照して追加する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブ設定」タブを押します。
⇒「ジョブ一覧」画面が表示されます。
3. 参照するジョブを選択します。
4. 「参照して追加」ボタンを押します。
⇒「ジョブ詳細設定」画面が表示されます。
5. ジョブ詳細設定の内容を参照して設定します。
6. 「OK」ボタンを押します。
⇒「ジョブ一覧」画面にジョブが追加されます。

■ ジョブを編集する

ジョブを編集する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブ設定」タブを押します。
⇒「ジョブ一覧」画面が表示されます。
3. 変更するジョブを選択します。
4. 「編集」ボタンを押します。
⇒「ジョブ詳細設定」画面が表示されます。
5. ジョブ詳細設定の内容を変更します。
6. 「OK」ボタンを押します。
⇒ ジョブの内容が変更されます。

■ ジョブを削除する

ジョブを削除する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブ設定」タブを押します。
⇒ 「ジョブ一覧」画面が表示されます。
3. 削除するジョブを選択します。
4. 「削除」ボタンを押します。
⇒ 削除確認画面が表示されます。
5. 「OK」ボタンを押します。
⇒ ジョブが削除されます。

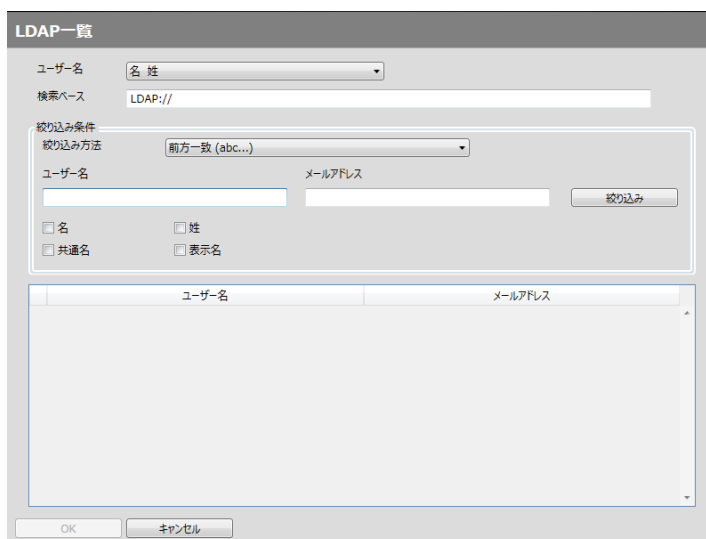
■ ジョブを絞り込む

ジョブを絞り込む方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブ設定」タブを押します。
⇒ 「ジョブ一覧」画面が表示されます。
3. 「ジョブ名」と「説明」を入力します。
4. 「絞り込み」ボタンを押します。
⇒ 絞り込み結果が表示されます。

■ LDAP 一覧を絞り込む

「LDAP 一覧」画面で、LDAP 一覧を絞り込む方法について説明します。



LDAP 一覧画面のスクリーンショット。画面の上部には「LDAP 一覧」というタイトルがあります。その下には「ユーザー名」のドロップダウンメニューがあり、「名 姓」が選択されています。さらに「検索ベース」の入力欄があり、「LDAP://」と入力されています。中央には「絞り込み条件」のセクションがあり、「絞り込み方法」のドロップダウンメニューで「前方一致 (abc...)」が選択されています。その下には「ユーザー名」と「メールアドレス」の入力欄があります。右側には「絞り込み」ボタンがあります。左下には「名」「姓」「共通名」「表示名」の4つのチェックボックスがあります。画面の下部には「ユーザー名」と「メールアドレス」の列ヘッダーがあり、その下に空のリストボックスがあります。最下部には「OK」と「キャンセル」のボタンがあります。

1. 「LDAP 一覧」画面で、各項目を設定します。
2. 「絞り込み」ボタンを押します。
⇒ 絞り込み結果が表示されます。

ヒント

「絞り込み」ボタンを押すと、認証画面が表示されます。
「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、[OK] ボタンを押します。
ユーザー名の最大文字数は 129 文字です。
パスワードの最大文字数は半角 256 文字です。なお、英大文字と英小文字は区別されます。

■ 出力ファイルを分割する

ジョブ機能では、以下の方法で出力ファイルを分割できます。

- ページ数指定
- パッチコードシート

本機能を使用すると、複数枚の原稿の読み取りを中断しなくても、指定した原稿単位でファイルが分割されます。指定した原稿単位でファイルが分割された結果、読み取った画像がドキュメント（分割されたページごとのまとまり）として区切られます。

本機能は、ジョブ設定だけの設定です。「読み取り設定」の「ファイル」の「セパレーション」で設定します。

● ページ数指定

「セパレーション方法」で、「ページ数」を選択し、ページ数を設定します。

この設定をすると、指定したページ数でファイルを分割します。

最後の分割ファイルを出力する場合、出力ページ数が指定したページ数に満たない場合はそれまでのページ数で出力します。

追加読み取りは、追加読み取りのページ数分での分割ではなく、総ページ数で分割します。

● パッチコード

「セパレーション方法」で、「パッチコード」を選択し、パッチコードを設定します。

この設定をすると、原稿を区切りたい位置にパッチコードシートを入れて読み取ることで、それまで読み込んだページ数でファイルを分割して出力します。

また、分割した出力ファイルのファイル名を設定できます。

既存のファイル名設定のあとに、セパレータ文字列、ドキュメントカウンタ、ページカウンタ（シングルページの場合）が区切り文字（ハイフン“-”）付きで追加されます。

ファイル名の例を、以下に示します。

● セパレータ

例：ファイル命名規則（ユーザー名、連番あり）、セパレータ文字列指定なし、PDF
 Guest0001-SEPARATOR0001.pdf
 Guest0001-SEPARATOR0002.pdf

● ドキュメントカウンタ

例：ファイル命名規則（ユーザー名、連番なし）、JPG（シングルページなため、ページカウンタが付く）
 Guest-0001-00001.jpg
 Guest-0001-00002.jpg
 Guest-0001-00003.jpg
 Guest-0002-00001.jpg
 Guest-0002-00002.jpg

● セパレータとドキュメントカウンタ

例：ファイル命名規則（ユーザー名、連番あり）、セパレータ文字列指定あり（scanner）、PDF
 Guest0001-scanner-0001.pdf
 Guest0001-scanner-0002.pdf

4.18.3 ジョブメニューを設定する AdminTool Central Admin Console

「4.18.2 ジョブを設定する」(P.190) で設定したジョブをジョブボタンに割り当て、ジョブボタンをジョブメニューに配置します。
ジョブメニューは最大 100 個まで設定できます。

ヒント

Central Admin Console から操作する場合、ジョブを設定するための画面を表示する方法については、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。

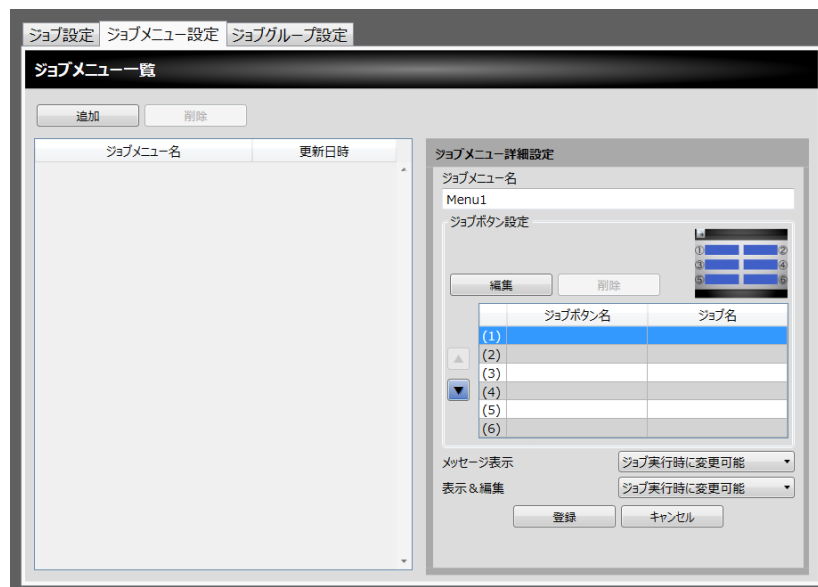
■ ジョブメニューを追加する

ジョブメニューを追加する方法について説明します。

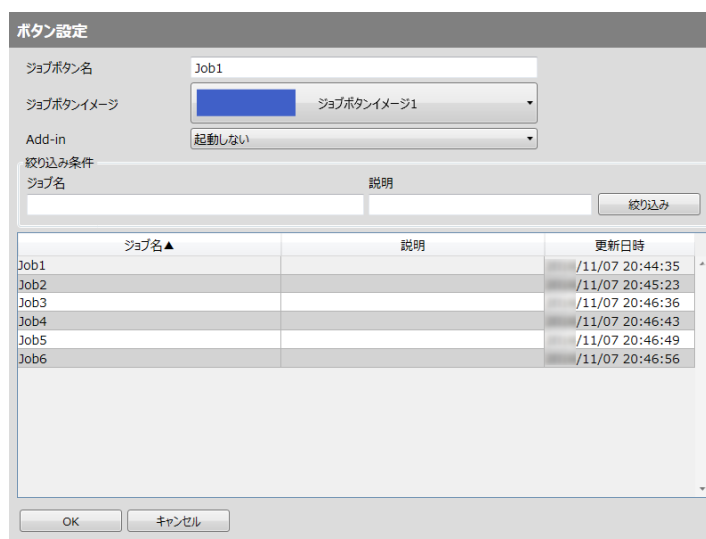
1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブメニュー設定」タブを押します。
⇒「ジョブメニュー一覧」画面が表示されます。

3. 「追加」ボタンを押します。
4. 「ジョブメニュー名」に、ジョブメニュー名を入力します。

5. (1) ～ (6) のジョブボタンの位置に対応する行を一覧から選択して、[編集] ボタンを押します。



⇒「ボタン設定」画面が表示されます。



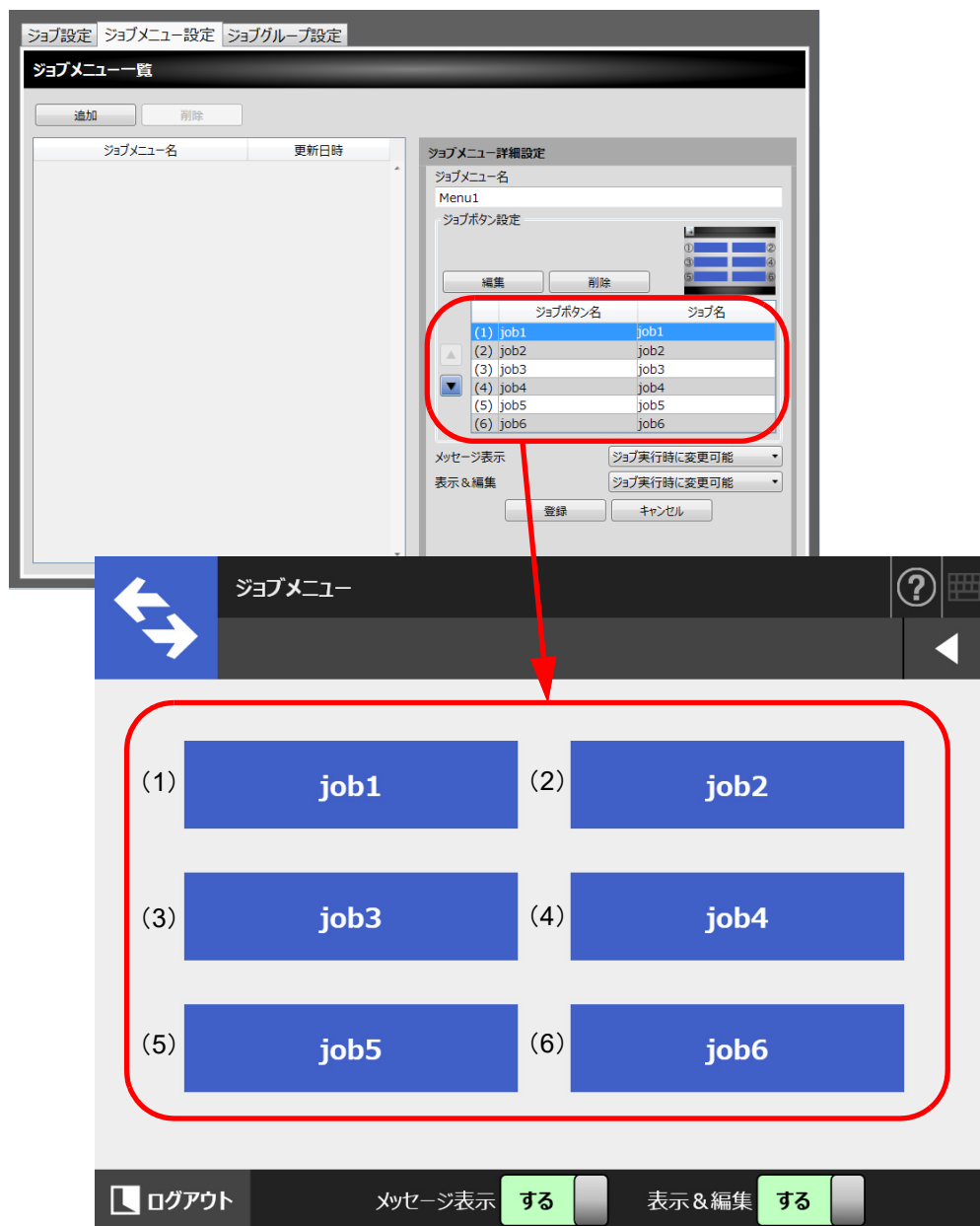
6. 各項目を設定します。
7. [OK] ボタンを押します。
⇒「ジョブメニュー詳細設定」画面にジョブボタンが設定されます。
8. 設定するジョブボタンの数に応じて、**手順 5 ～手順 7** までの操作を繰り返します。

ヒント

- ジョブボタンは最大 6 個まで設定できます。
- ジョブボタンを削除したい場合、削除したいジョブボタンを選択して [削除] ボタンを押してください。

9. 必要に応じて、ジョブメニューに配置するジョブボタンの位置を変更します。

移動したいジョブボタンを選択して、▲または▼を押して、移動してください。
「ジョブメニュー詳細設定」画面のジョブボタンの順番と「ジョブメニュー」画面のボタン配置との対応を以下に示します。



10. 「メッセージ表示」で、「ジョブメニュー」画面の「メッセージ表示」の動作を設定します。

11. 「表示&編集」で、「ジョブメニュー」画面の「表示&編集」の動作を設定します。

12. [登録] ボタンを押します。

⇒ 「ジョブメニュー一覧」画面にジョブメニューが追加されます。

■ ジョブメニューを参照して追加する

ジョブメニューを参照して追加する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブメニュー設定」タブを押します。
⇒「ジョブメニュー一覧」画面が表示されます。
3. 参照するジョブメニューを選択します。
⇒「ジョブメニュー詳細設定」画面に、設定内容が表示されます。
4. 「ジョブメニュー名」に表示されているジョブメニュー名を、新しく追加するジョブメニュー名に変更します。
5. ジョブメニュー詳細設定の内容を参照して設定します。
操作方法は、「ジョブメニューを追加する」(P.200)の手順5～手順11を参照してください。
6. 「登録」ボタンを押します。
⇒「ジョブメニュー一覧」画面にジョブメニューが追加されます。

■ ジョブメニューを編集する

ジョブメニューを編集する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブメニュー設定」タブを押します。
⇒「ジョブメニュー一覧」画面が表示されます。
3. 変更するジョブメニューを選択します。
⇒「ジョブメニュー詳細設定」画面に、設定内容が表示されます。
4. ジョブメニュー詳細設定の内容を変更します。
操作方法は、「ジョブメニューを追加する」(P.200)の手順5～手順11を参照してください。
5. 「登録」ボタンを押します。
⇒ジョブメニューの内容が変更されます。

■ ジョブメニューを削除する

ジョブメニューを削除する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブメニュー設定」タブを押します。
⇒「ジョブメニュー一覧」画面が表示されます。
3. 削除するジョブメニューを選択します。
4. 「削除」ボタンを押します。
⇒ 削除確認画面が表示されます。
5. 「登録」ボタンを押します。
⇒ ジョブメニューが削除されます。

■ ジョブメニューの詳細設定を参照する

ジョブメニューの詳細設定を参照する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブメニュー設定」タブを押します。
⇒「ジョブメニュー一覧」画面が表示されます。
3. 参照するジョブメニューを選択します。
⇒「ジョブメニュー詳細設定」画面にジョブメニューの詳細が表示されます。

4.18.4 ジョブグループを設定する AdminTool Central Admin Console

「4.18.3 ジョブメニューを設定する」(P.200) で設定したジョブメニューをジョブグループに割り当てます。ジョブグループに属しているユーザーは、割り当てられたジョブメニューを使用できるようになります。また、ユーザーを複数のジョブグループに属させると、ユーザーは複数のジョブメニューを使用できるようになります。ジョブグループは最大 100 個まで設定できます。

ヒント

Central Admin Console から操作する場合、ジョブを設定するための画面を表示する方法については、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。

■ ジョブグループを追加する

ジョブグループを追加する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブグループ設定」タブを押します。
⇒「ジョブグループ一覧」画面が表示されます。

3. 「追加」ボタンを押します。
4. 「ジョブグループ名」に、ジョブグループ名を入力します。

5. 「選択」ボタンを押します。

⇒「メニュー選択」画面が表示されます。

ジョブメニュー名	更新日時
Jobmenu1	/08/20 20:32:37

6. ジョブメニューを選択します。

7. 「OK」ボタンを押します。

⇒「ジョブグループ詳細設定」画面にジョブメニューが設定されます。

8. 「メインメニュー表示」で、メインメニューを表示するかどうかを設定します。

9. 「編集」ボタンを押します。

⇒「ジョブグループメンバー設定」画面が表示されます。

10. 「メンバー名の表示形式」で、メンバー名の表示形式を選択します。

11. 「検索ベース」に、LDAP サーバと LDAP 検索時の基点になる文字列を入力します。

12. 「メンバー検索」の「メンバー名」の一覧で、ジョブグループに登録したいユーザー、Active Directory グループ、またはローカルアカウントのチェックボックスにチェックを付けます。

ヒント

LDAP 一覧を絞り込みたい場合、「LDAP 一覧を絞り込む」(P.211) を参照してください。

13. [<<<] ボタンを押します。

⇒ 「ジョブグループメンバー一覧」にユーザー、Active Directory グループ、またはローカルアカウントが登録されます。

ヒント

- ジョブグループメンバーには、メンバーを最大 1,000 件まで登録できます。
- 「ジョブグループメンバー一覧」に登録したメンバーを削除する場合、「メンバー名」の一覧でチェックボックスにチェックを付けて [>>>] ボタンを押します。

14. [OK] ボタンを押します。

⇒ 「ジョブグループ詳細設定」画面の「メンバー登録件数」にジョブグループメンバーに登録した件数が表示されます。

15. 「ジョブグループメンバー設定」で、ジョブグループメンバーに含めるメンバーを設定します。

ヒント

「すべての LDAP ユーザーをメンバーに含める」チェックボックスにチェックを付けると、「ジョブグループメンバー一覧」の設定にかかわらず、すべての LDAP ユーザーが対象となります。

16. [登録] ボタンを押します。

⇒ 「ジョブグループ一覧」画面にジョブグループが追加されます。

■ ジョブグループを参照して追加する

ジョブグループを参照して追加する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブグループ設定」タブを押します。
⇒「ジョブグループ一覧」画面が表示されます。
3. 参照するジョブグループを選択します。
⇒「ジョブグループ詳細設定」画面に、設定内容が表示されます。
4. 「ジョブグループ名」に表示されているジョブグループ名を、新しく追加するジョブグループ名に変更します。
5. ジョブグループ詳細設定の内容を参照して設定します。
操作方法は、「ジョブグループを追加する」(P.205)の手順5～手順15を参照してください。
6. 「登録」ボタンを押します。
⇒「ジョブグループ一覧」画面にジョブグループが追加されます。

■ ジョブグループを編集する

ジョブグループを編集する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブグループ設定」タブを押します。
⇒「ジョブグループ一覧」画面が表示されます。
3. 変更するジョブグループを選択します。
⇒「ジョブグループ詳細設定」画面に、設定内容が表示されます。
4. ジョブグループ詳細設定の内容を変更します。
操作方法は、「ジョブグループを追加する」(P.205)の手順5～手順15を参照してください。
5. 「登録」ボタンを押します。
⇒ジョブグループの内容が変更されます。

■ ジョブグループを削除する

ジョブグループを削除する方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブグループ設定」タブを押します。
⇒「ジョブグループ一覧」画面が表示されます。
3. 削除するジョブグループを選択します。
4. 「削除」ボタンを押します。
⇒ 削除確認画面が表示されます。
5. 「登録」ボタンを押します。
⇒ ジョブグループが削除されます。

■ ジョブグループの詳細設定を参照する

ジョブグループの詳細設定を参照する方法について説明します。

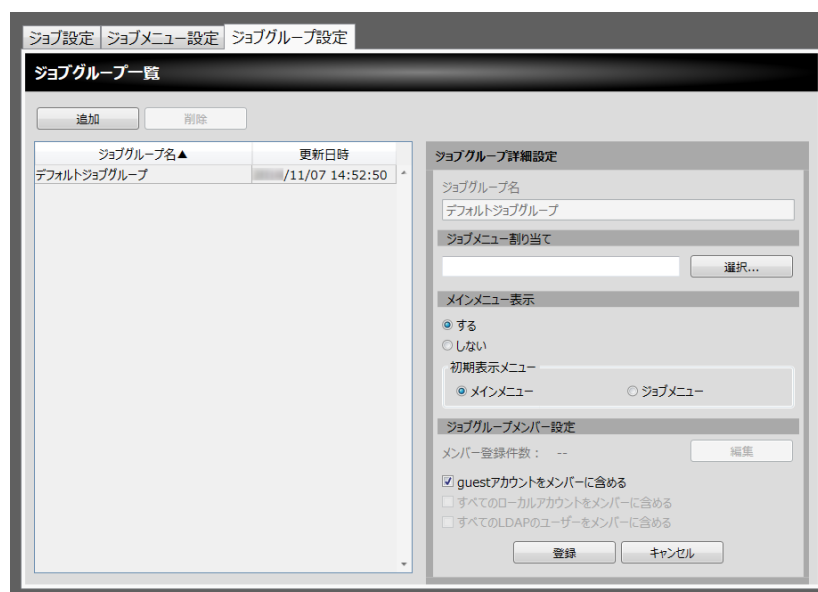
1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブグループ設定」タブを押します。
⇒「ジョブグループ一覧」画面が表示されます。
3. 参照するジョブグループを選択します。
⇒「ジョブグループ詳細設定」画面にジョブグループの詳細が表示されます。

■ ジョブグループに属していないユーザーにジョブメニューを設定する

どのジョブグループにも属していないユーザーは、デフォルトジョブグループに属していることになります。

これらのユーザーにジョブメニューを割り当てる方法について説明します。

1. ツールメニューの「ジョブ設定」ボタンを押します。
2. 「ジョブグループ設定」タブを押します。
⇒「ジョブグループ一覧」画面が表示されます。



3. デフォルトジョブグループを選択します。
4. 「選択」ボタンを押します。
⇒「メニュー選択」画面が表示されます。
5. ジョブメニューを選択します。
6. 「OK」ボタンを押します。
⇒「ジョブグループ詳細設定」画面にジョブメニューが設定されます。
7. 「メインメニュー表示」で、メインメニューを表示するかどうかを設定します。
8. 「登録」ボタンを押します。
⇒ ジョブグループに属していないユーザーにジョブメニューが設定されます。

■ LDAP 一覧を絞り込む

「ジョブグループメンバー設定」画面で、LDAP 一覧を絞り込む方法について説明します。

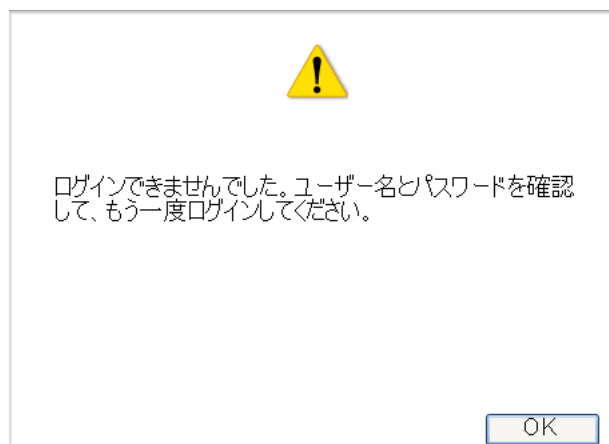
1. LDAP 一覧の「絞り込み条件」で、各項目を設定します。
2. [絞り込み] ボタンを押します。
⇒ 絞り込み結果が表示されます。

ヒント

- ログイン LDAP サーバのサーバ種別が「Active Directory」または「Active Directory Global Catalog」の場合、[絞り込み] ボタンを押すと、認証画面が表示されます。「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、[OK] ボタンを押します。
ユーザー名の最大文字数は 129 文字です。
パスワードの最大文字数は半角 256 文字です。なお、英大文字と英小文字は区別されます。
- 「LDAP 一覧」画面の絞り込み結果やジョブグループメンバーへの登録件数が多数（最大 1,000 件）の場合、「ジョブグループメンバー設定」画面の表示に数十秒程度時間がかかることがあります。このような場合、以下のような操作で表示件数を減らしてください。
 - 指定する絞り込み条件を追加する
 - 「メールアドレス LDAP サーバ」画面で設定する「最大表示件数」を少なくする
 - ジョブグループを分割する
 - Active Directory グループを指定する

4.19 メッセージ一覧 AdminTool

管理者が操作しているときに表示されるメッセージは、以下のような画面です。



メッセージの画面に表示されるマークの意味は、以下のとおりです。

マーク	意味
	警告メッセージです。入力値が違う場合にも表示されます。 内容を確認して [OK] ボタンを押してください。
	エラーメッセージです。 内容を確認して [OK] ボタンを押してください。
	情報メッセージです。対処の必要はありません。 ● [OK] ボタンが画面に表示されている場合、内容を確認してから [OK] ボタンを押して、メッセージの画面を閉じてください。 ● [OK] ボタンが画面に表示されていない場合、メッセージの画面は自動で閉じます。
	問い合わせメッセージです。 内容を確認してボタンを選択し、押してください。

4.19.1 管理者の画面のメッセージ

下表以外のメッセージやシステムログについては、ヘルプを参照してください。

機能名	メッセージ	対処
Admin Tool	通信エラーが発生しました。	対処の詳細は、「 7.2.3 Internet Explorer・Admin Tool・Central Admin Server・User Editor からスキャナにアクセスできない場合の対処方法 」(P.375)を参照してください。
	お使いの版数の AdminTool では本装置へ接続できません。 最新版をインストールしてから再度実行してください。	スキャナから最新版の Admin Tool をインストールして再度接続してください。

第 5 章

利用者の操作

利用者

スキャナを利用して読み取ったスキャン画像をメール送信、FAX 送信、印刷、およびフォルダーに保存します。

本章での操作をする場合、事前にスキャナの実環境設定が必要です。

スキャナの実環境設定方法については、「[第 4 章 管理者の操作（タッチパネル・Admin Tool）](#)」(P.67) を参照してください。

5.1 原稿をセットする	215
5.2 タッチパネル（利用者）の画面.....	222
5.3 利用者モードでログインする	225
5.4 スキャン画像をメールで送信する	228
5.5 スキャン画像を FAX で送信する	242
5.6 スキャン画像を印刷する	250
5.7 スキャン画像をフォルダーに保存する	261
5.8 読み取り設定をする	264
5.9 「表示&編集」画面の表示を設定する	306
5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する	309
5.11 送信動作を参照する	318
5.12 メンテナンスする	321
5.13 ジョブを実行する	323
5.14 ユーザーのパスワードを変更する	333

5.1 原稿をセットする

原稿をスキャナにセットする方法について説明します。

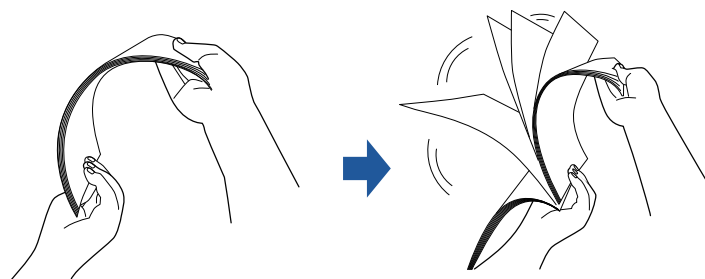
5.1.1 一般的な原稿をセットする

1. 原稿枚数を確認します。

原稿枚数の目安については「[A.3 セットできる原稿の枚数](#)」(P.396)を参照してください。

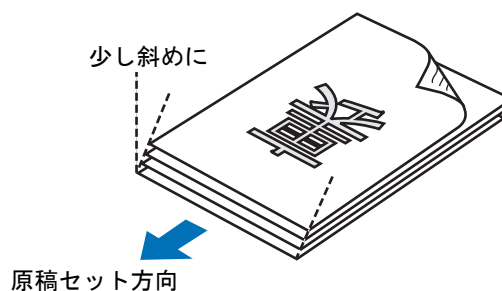
2. 複数枚の原稿をセットする場合は、原稿をさばきます。

1. 両手で原稿の両端を軽くつかみ、2～3回さばきます。



2. 原稿の向きを90度回転し、同じようにさばきます。

3. セットする原稿の両端をそろえて、原稿の先端を少し斜めにずらします。

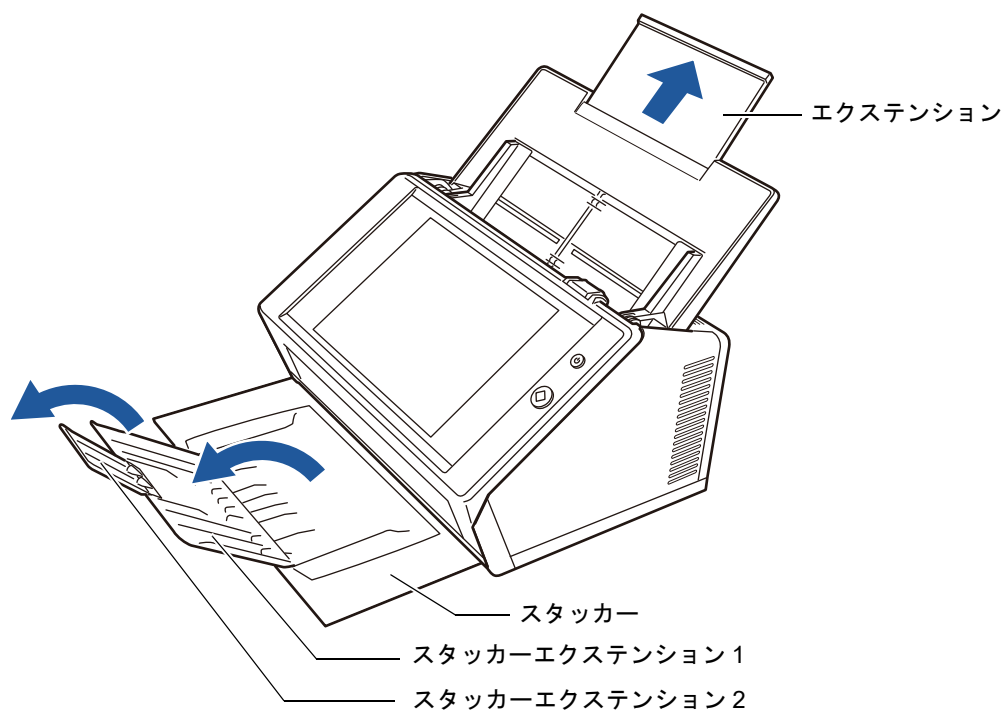


重要

原稿の両端をそろえずに読み取ると、原稿づまり、または原稿の破損の原因となります。

3. 原稿の長さに合わせて、エクステンションを引き上げて、スタッカーを引き出します。

スタッカーは手前に引き出して、スタッカーエクステンション 1 およびスタッカーエクステンション 2 を手前に起こします。

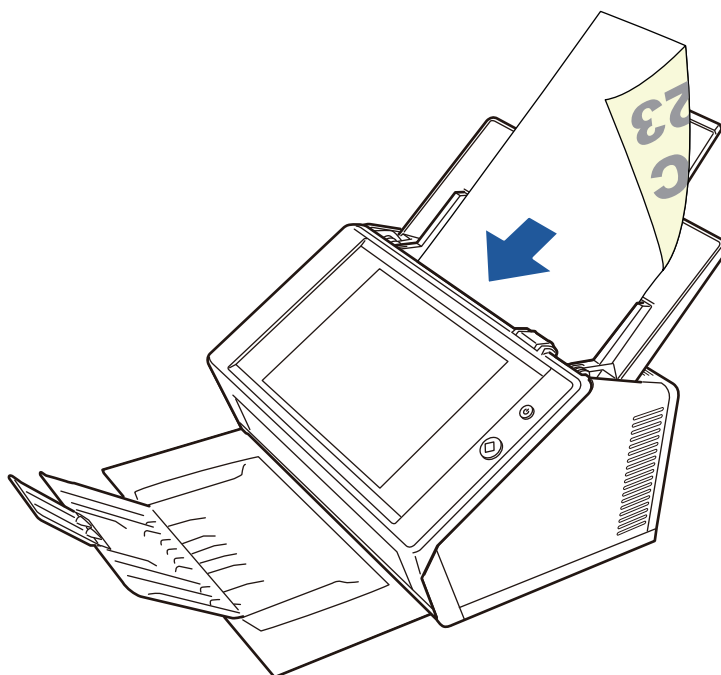


ヒント

スタッカーを使うと、読み取りが終了した原稿がバラバラにならず、便利です。原稿の大きさに合わせて、引き出せます。

4. ADF 給紙シュートに原稿をセットします。

原稿の裏面（複数枚ある場合は最終ページ）を手前、上端を下向きにしてセットします。

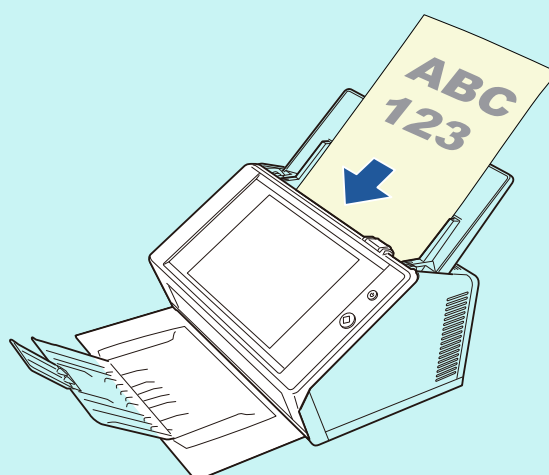
**重要**

ADF 給紙シュートは奥に倒した状態で使用してください。手前に倒した状態では給紙できません。

ヒント

「用紙」画面の「原稿セット方向」で「上向き」を選択した場合は、原稿の表面を手前側、上端を上向きにしてセットします。

「追加読み取り」を行った場合は、以前に読み取ったページのうしろに追加されます。

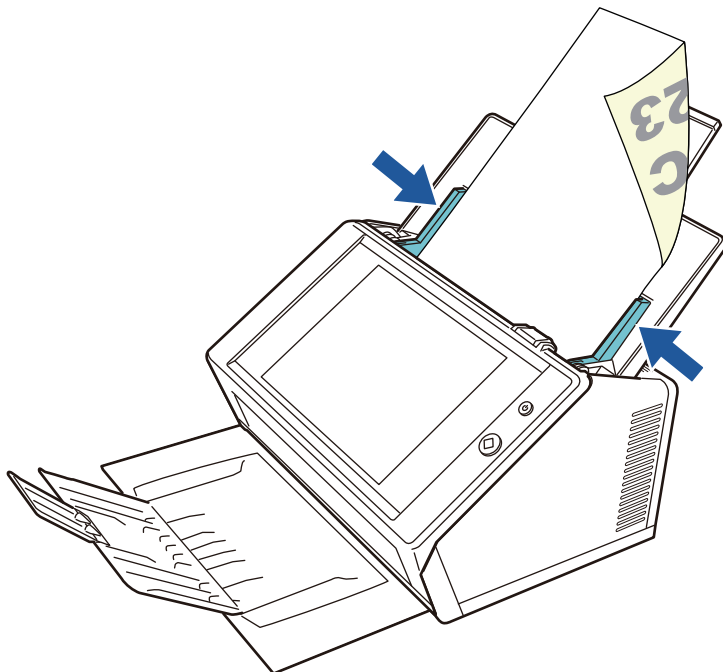


原稿のセット方法の設定については、「[5.8.3 用紙を設定する](#)」(P.278)を参照してください。

5. 原稿の幅に合わせて、サイドガイドを移動します。

サイドガイドを動かして、サイドガイドと原稿の間に隙間ができないようにします。

サイドガイドと原稿の間に隙間があると、原稿が斜めに読み込まれることがあります。



5.1.2 A3 キャリアシートを使用した原稿をセットする

オプションの A3 キャリアシートを使用すると、A3 や B4 のような A4 サイズより大きい原稿を読み取れます。原稿を 2 つ折りにして両面を片面ずつ連続で読み取り、1 つのスキャン画像につなぎ合わせて保存します。

A4 サイズより大きい原稿を読み取る場合は、以下の手順で設定を変更します。

重要

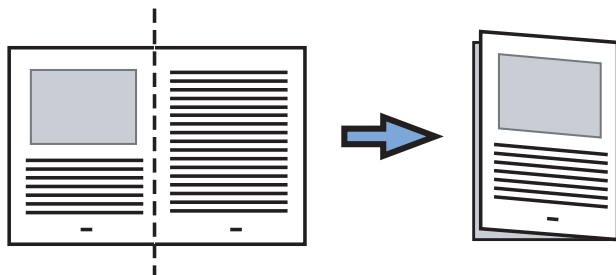
A3 キャリアシートを使用する場合は、読み取った原稿を出力する用紙サイズを設定してください。詳細は、「[5.8.5 A3 キャリアシートを設定する](#)」(P.280) を参照してください。

ヒント

- A4 サイズ以下の両面印刷された原稿を読み取って、両面を 1 つのスキャン画像につなぎ合わせることもできます。
- A3 キャリアシートのご購入については、「[6.5.4 A3 キャリアシートを購入する](#)」(P.354) を参照してください。

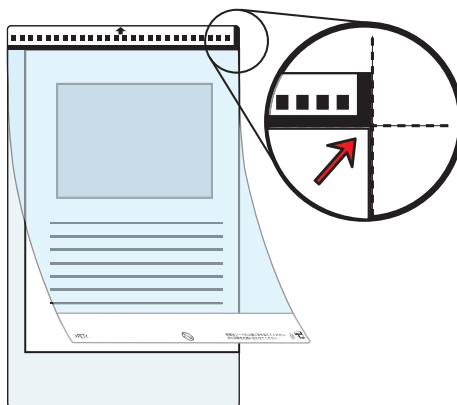
1. 読み取り面が外側にくるように、原稿を中央から 2 つに折り曲げます。

原稿の折り曲げ部分がふくらまない程度まで、しっかりと折り曲げてください。折り曲げ部分がふくらんだまま読み取ると、傾きの原因となります。



2. A3 キャリアシートの表面を開いて、原稿をはさみます。

原稿の上側を A3 キャリアシートの上端、折り目側を右端に、隙間のできないようにしっかりと合わせます。

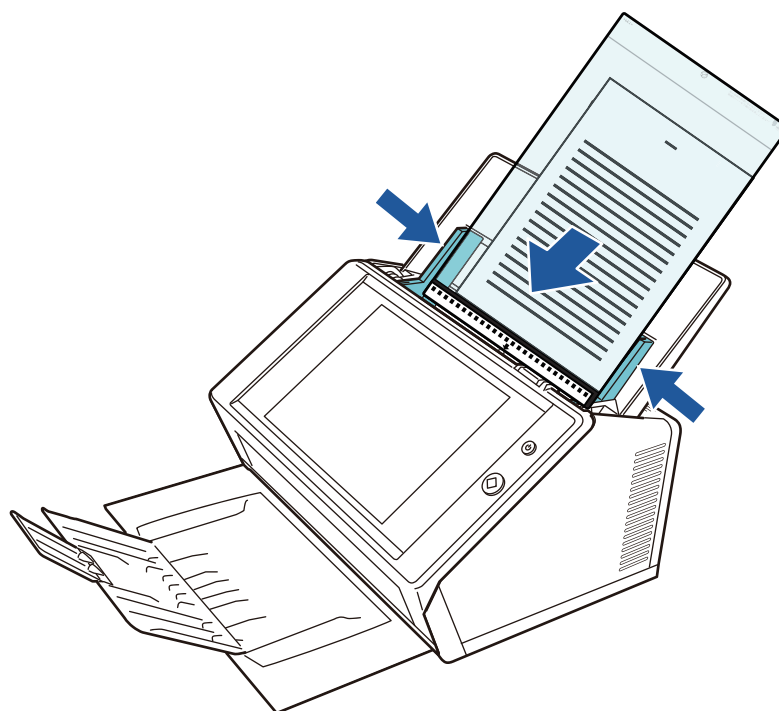


ヒント

- A3 キャリアシートの白黒のパターンが印刷された部分を上にしたときに、右端に太い縦線のある面が、A3 キャリアシートの表面です。
- 「用紙」画面の「原稿セット方向」で「上向き」を選択した場合は、原稿の下側を A3 キャリアシートの上端、折り目を右端に、隙間ができないようにしっかりと合わせます。

3. A3 キャリアシートの表面を下向きにし、白黒のパターンが印刷された部分を下にして、ADF 給紙シュートにセットします。

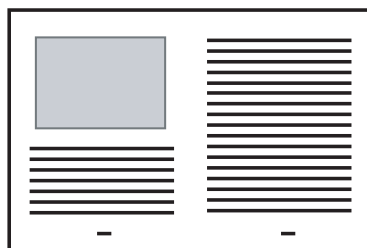
A3 キャリアシートをセットしたら、ずれないように、サイドガイドで固定してください。

**重要**

ADF 給紙シュートは奥に倒した状態で使用してください。手前に倒した状態では給紙できません。

4. 読み取りを開始します。

⇒ 両面読み取りをすると、裏と表の原稿を読み取って、見開き状態にして 1 つの画像に出力されます。



重要

- 出力されたスキャン画像の見開きの継ぎ目部分に、隙間ができてたり、線が入ったりする場合があります。
また、A3 キャリアシートに厚みのある原稿をセットして読み取ると、見開きの継ぎ目部分を中心にして、スキャン画像がハの字に傾く場合があります。
これらの現象は、以下を行うと改善される場合があります。
 - 原稿をしっかりと折り曲げる
 - A3 キャリアシートに原稿をはさむときに、原稿の端を A3 キャリアシートの端にしっかりと合わせる
 - A3 キャリアシートを読み取るときに、A3 キャリアシートを裏 / 表逆にセットする
- 原稿の折り曲げ部分の検出誤差により、スキャン画像の見開きの継ぎ目部分が欠ける場合があります。その場合には、A3 キャリアシートに原稿をはさむときに、原稿の折り曲げ部分を A3 キャリアシートの端から 1mm ほど内側にずらしてください。

5.2 タッチパネル（利用者）の画面

5.2.1 「メインメニュー」画面

画面に表示されるボタンの種類は、連携するサーバなどの設定内容によって異なります。

以下に、メール、FAX、印刷、および保存を設定した場合の表示例を示します。



5.2.2 「ジョブメニュー」画面

画面に表示されるボタンの種類は、ジョブの設定内容によって異なります。
以下に、6 個のジョブを設定した場合の表示例を示します。



なお、利用者が複数のジョブグループに属している場合は、以下のように、「ジョブメニュー」画面を切り替えるメニューおよびボタンが表示されます。



5.2.3 利用者ごとの設定

以下の項目は、管理者が有効に設定した場合に、利用者ごとに設定できます。

- ログイン方法

電源投入時および再起動時に、「ログイン」画面を表示せずに、自動的にログインするように設定できます。

また、guest アカウントでログインできるようにするかどうかも設定できます。

これらの設定を変更したい場合は、管理者に連絡してください。

- メインメニュー表示

「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面の表示について設定できます。

利用者ごとに、「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面を切り替えられるようにしたり、常に「ジョブメニュー」画面を表示するようにしたりできます。

- ユーザー情報共有

Central Admin Server でユーザー情報を管理することで、利用者ごとの設定を複数のスキャナで共有するように設定できます。

同一の利用者が、別のスキャナからログインしても、利用者ごとの設定を利用できます。

共有できるユーザー情報は、以下のとおりです。

- メールアドレス台帳（My List）
- 読み取り設定
- 印刷で利用しているプリンター名 (*)
- 保存で利用している保存先 (*)

(*): スキャナごとに異なるプリンター名および保存先が設定されている場合、選択状態は解除されます。

- ジョブ設定共有

Central Admin Server でジョブ設定を管理することで、利用者ごとに設定されているジョブを、複数のスキャナで共有するように設定できます。

同一の利用者が、別のスキャナからログインしても、利用者ごとの「ジョブメニュー」画面を表示できます。

ヒント

「ネットワーク管理」の「Scanner Central Admin Server」画面で、ユーザー情報共有またはジョブ設定共有が有効になっている状態で、ログイン時に Central Admin Server と通信できない場合、確認画面が表示されます。

この画面で [OK] ボタンを押して続行した場合は、スキャナに保存されている設定情報で動作します。[キャンセル] ボタンを押した場合は、「ログイン」画面に戻ります。

「Scanner Central Admin Server」画面については、「[4.9.2 Central Admin Server を設定する](#)」(P.111) を参照してください。

5.3 利用者モードでログインする



注意



電源を入れたまま持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。

スキャナ内部の部品が損傷し、データを消失する原因となります。

ヒント

- 利用者（guest アカウント）のユーザー名とパスワードは、以下のとおりです。
ユーザー名：guest
パスワード：guest
ただし、guest アカウントが無効になっている場合は使用できません。
- スキャナにログインできるのは、管理者またはユーザーの 1 人だけです。複数人が同時にスキャナにログインできません。

ログイン時のユーザー認証では、認証方式や指定したユーザー名に応じて、以下のよう
に認証処理が行われます。

- LDAP サーバに登録されているユーザーの場合
LDAP サーバ上のユーザー情報の定義内容に従って、ユーザー名を指定してください。
 - LDAP サーバのサーバ種別が「Active Directory」または「Active Directory Global Catalog」の場合

分類	認証処理
SAM アカウント名 「@」を含まないユーザー 名が指定された場合	ユーザーログイン名（sAMAccountName）で認証 処理が行われます。 例：user
ユーザープリンシパル名 「@」を含むユーザー名が 指定された場合	ユーザーログイン名（userPrincipalName）で認証 処理が行われます。 例：user@example.com

ヒント

SAM アカウント名にドメイン名を指定する場合は、「ドメイン名¥SAM アカウント名」と記述します。

- LDAP サーバのサーバ種別が「その他の LDAP サーバ」の場合

分類	認証処理
uid	ユーザーログイン名（uid）で認証処理が行われます。 例：user
cn	ユーザーログイン名（cn）で認証処理が行われます。 例：user

- ローカルアカウントに登録されているユーザーの場合

ローカルアカウントの定義内容に従って、ユーザー名を指定してください。
スキャナに保持しているローカルアカウントに対して、指定されたユーザーログイン名で認証処理が行われます。

また、認証されたユーザー情報は、ネットワーク共有フォルダー保存時のユーザー情報としても利用されます。

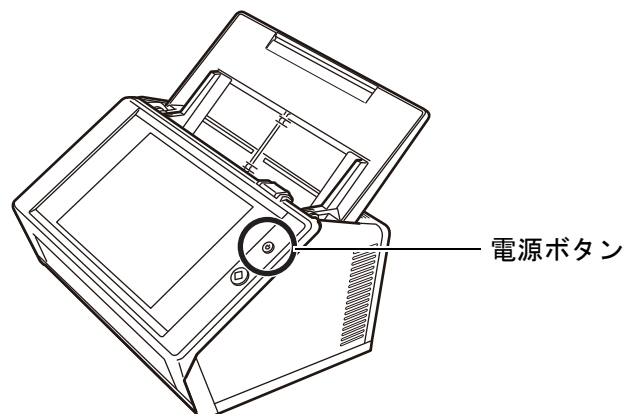
電源投入時および再起動時、「ログイン」画面を表示せずに、自動的にログインするようにもできます。

Active Directory のアカウントオプションで「ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要」となっている場合はログインできません。管理者に連絡してパスワードを設定してからログインしてください。

ヒント

- LDAP サーバが存在しない環境、およびローカルアカウントが登録されていない環境でスキャナを使用する場合は、guest アカウントでログインしてください。
- LDAP サーバについては、「[LDAP サーバ](#)」(P.44) を参照してください。
- 自動ログインおよび guest アカウントの有効無効を設定する方法については、「[4.6.1 ログイン設定をする](#)」(P.90) を参照してください。
- LDAP サーバのサーバ種別が「その他の LDAP サーバ」の場合、「ログイン」画面でパスワードを省略できません。必ずパスワードを指定してください。

1. 電源ボタンを押します。



⇒ 「ログイン」画面が表示されます。

2. ユーザー名およびパスワードを入力します。

The screenshot shows a login interface. At the top, there is a header bar with the text 'ログイン' (Login) on the left and a question mark icon on the right. Below the header, there are two input fields: 'ユーザー名' (Username) and 'パスワード' (Password). Below the input fields, there is a bar with a power icon and the text '電源切断' (Power Off) on the left, and a lock icon and the text 'ログイン' (Login) on the right. Below this bar, there is a keyboard overlay showing various keys: Esc, q, w, e, r, t, y, u, i, o, p, a backspace key, a right arrow key, a, s, d, f, g, h, j, k, l, an Enter key, a home key, /, z, x, c, v, b, n, m, comma, period, semicolon, &123, Ctrl, Alt, Yen, At, a space key, a left arrow key, up arrow, down arrow, right arrow, and a key with the letter 'A'.

ヒント

ログイン LDAP サーバが Active Directory Global Catalog の場合、UPN サフィックスの入力域が表示されます。

- UPN サフィックスの最大文字数は 64 文字です。入力した UPN サフィックスは保存され、次回ログイン時にもそのまま使用できます。
- UPN サフィックスを入力すると、「ユーザー名」のうしろに、「@」と「UPN サフィックス」を付加して認証されます。例えば、ユーザー名に「user」、UPN サフィックスに「example.com」と入力する場合、「user@example.com」として認証されます。この「user@example.com」が「ユーザープリンシパル名」です。
- UPN サフィックスを使用しない場合は、入力しないでください。
- UPN サフィックスは、guest アカウントでログインする場合、入力する必要はありません。入力しても無効になります。

3. [ログイン] ボタンを押します。

⇒ 認証されると、「メインメニュー」画面が表示されます。

5.4 スキャン画像をメールで送信する

重要

LDAP サーバを設定している場合、LDAP サーバにユーザーのメールアドレスを必ず登録してください。また、ローカルアカウントを設定している場合も、ユーザーのメールアドレスを登録してください。
登録していない場合、メール送信できません。

1. 「メインメニュー」画面で [メール] ボタンを押します。

⇒「メール送信」画面が表示されます。

ヒント

「読み取り設定」の  を押すと、読み取り設定を変更できます。詳細は、「[5.8 読み取り設定をする](#)」(P.264) を参照してください。

2. 「あて先」、「Cc」、「Bcc」に、送信先のメールアドレス、同報リスト、またはグループを入力します。

同報リストの設定については、「[5.4.2 メールアドレス台帳にメールアドレスを追加する](#)」(P.235) を参照してください。

ヒント

- 送信先は、 を押して、メールアドレス台帳から入力できます。詳細は、「[5.4.1 メールアドレス台帳を使ってメールアドレスを入力する](#)」(P.231) を参照してください。メールアドレス台帳が使用できない場合は、管理者に連絡してください。
- グループは、User Editor を使って編集します。同報リストも編集できます。詳細は、「[付録 F User Editor で編集する](#)」(P.427) を参照してください。

3. 「送信者」に、送信者のメールアドレスを入力します。

メールアドレスが設定されていない guest アカウントでログインした場合に、入力できます。

メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。

ヒント

送信者は、を押して、メールアドレス台帳から入力できます。詳細は、「[5.4.1 メールアドレス台帳を使ってメールアドレスを入力する](#)」(P.231)を参照してください。メールアドレス台帳が使用できない場合は、管理者に連絡してください。

4. 残りの各項目を設定します。

ヒント

- 「開封確認」および「自分のあて先へ転送する」は、管理者の「メール送信設定」画面で「開封確認」および「送信者 Bcc 通知」を「有効」にすると表示されます。設定方法については、「[4.11.3 メール送信時の動作を設定する](#)」(P.126)を参照してください。
- 「認証情報のクリア」ボタンは、管理者の「SMTP サーバ拡張」画面で「SMTP 認証」を有効にすると表示されます。設定方法については、「[4.11.2 SMTP サーバ \(拡張\) を設定する](#)」(P.125)を参照してください。
「認証情報のクリア」ボタンで、認証情報を削除できます。

5. 「スキャン」ボタンを押します。

「表示&編集」が「しない」の場合、「スキャン&送信」ボタンを押します。

⇒ 読み取りが開始されます。

「表示&編集」が「しない」の場合、読み取り中は、読み取り時の設定内容および読み取り状態（プレビュー）が切り替え表示できます。

「表示&編集」が「する」の場合、「表示&編集」画面が表示されます。

読み取れる最大ページ数は 999 ページです。

ブランクページスキップを有効にしている場合、白紙ページが削除されたページ数で表示されます。

白紙ページ削除された分は、最大ページ数まで追加読み取りができます。

⇒ 読み取りが完了すると、「表示&編集」画面が表示されます。

ヒント

「表示&編集」が「しない」の場合（[スキャン&送信] ボタンを押した場合）は、読み取りが完了したあと、スキャン画像を添付したメールがすぐに送信され、「メインメニュー」画面に戻ります。詳細は、「5.9 「表示&編集」画面の表示を設定する」（P.306）を参照してください。

6. スキャン画像を確認・編集します。

「表示&編集」画面でスキャン画像を確認できます。スキャン画像を 1 枚選択して表示された表示&編集詳細画面で、スキャン画像を編集できます。

詳細は、「5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する」（P.309）を参照してください。

7. 「表示&編集」画面で [送信] ボタンを押します。

ヒント

「SMTP 認証」画面が表示された場合は、SMTP サーバにアクセスするための認証情報を入力して、[OK] ボタンを押します。

⇒ 指定したファイル形式のファイルが添付されたメールが送信されます。

メール分割が有効になっている場合、メールが分割されて送信されます。

送信先の数指定できる範囲を超えていた場合、警告が表示されます。

⇒ 「メインメニュー」画面に戻ります。

ヒント

● 以下は、事前に管理者が設定した値です。

- あて先に指定できる送信先の数
- メールを分割して送信するかどうかの設定、および分割サイズ
- 添付するファイルの最大サイズ

設定を変更する場合は、管理者に連絡してください。設定方法については、「4.11.1 SMTP サーバを設定する」（P.124）を参照してください。

● 写真や図などの原稿の場合は、圧縮率を高くすると、ファイルサイズを小さくできます。詳細は、「5.8.10 圧縮率を設定する」（P.289）を参照してください。

● 出力ファイル形式が JPEG、TIFF のシングルページ、PDF のシングルページ、または PDF/A のシングルページの場合、ページ数分のファイルがメールに添付されます。

● メール送信に失敗した場合、「送信者」に入力されたメールアドレスにスキャナからエラー通知のメールが、以下のタイトルで送信されます。

ネットワークスキャナ XXXX からのエラー通知

5.4.1 メールアドレス台帳を使ってメールアドレスを入力する

メール送信時に、送信先のメールアドレスを直接入力せずに、メールアドレス台帳を使用して入力する方法を説明します。

メールアドレス台帳を使用した送信先の入力は、「[5.4 スキャン画像をメールで送信する](#)」(P.228)の[手順 2](#)および[手順 3](#)でできます。

● メールアドレス台帳の種類

メールアドレス台帳には、「My List」と「LDAP List」があります。

● My List

利用者が、自分用に作成できるメールアドレス台帳です。

ヒント

My List は、User Editor を使って編集することもできます。詳細は、「[付録 F User Editor で編集する](#)」(P.427)を参照してください。

● LDAP List

LDAP サーバに登録されているすべての情報を利用したメールアドレス台帳です。編集はできません。

以下の場合、「LDAP List」タブは表示されず、使用できません。

- LDAP サーバを利用しない場合
- guest アカウントでログインした場合
- ローカルアカウントでログインした場合

● メールアドレス台帳を使用して入力できる送信先

メール送信時には、以下の送信先をメールアドレス台帳から選択して入力できます。

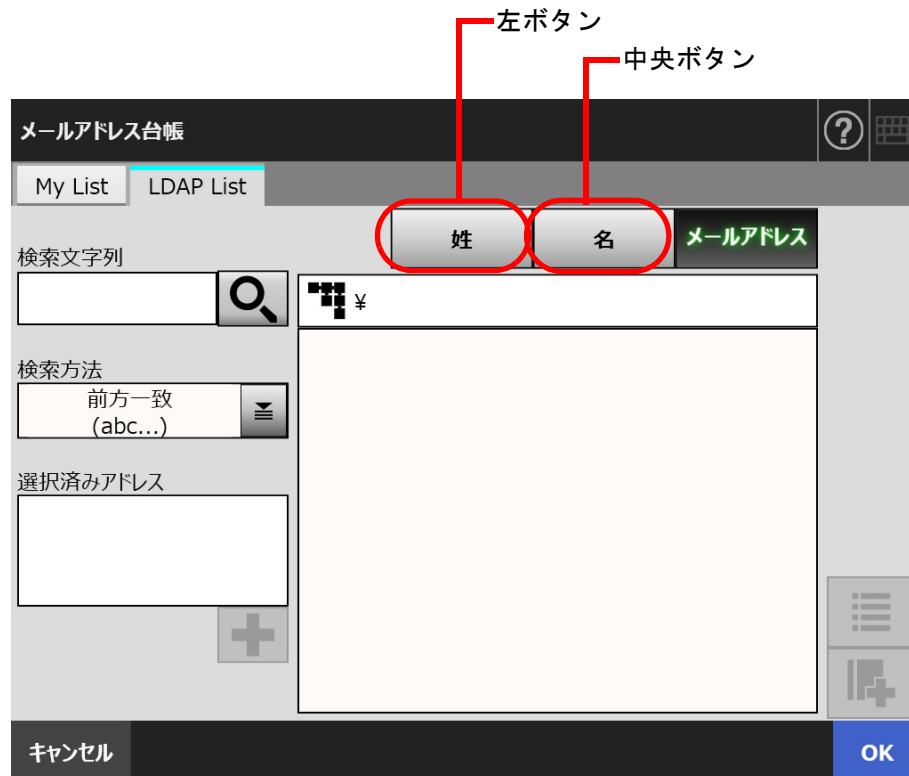
送信先	メールアドレス台帳に表示されるアイコン	My List	LDAP List
グループ		○	— (*)
同報リスト		○	— (*)
メールアドレス		○	○

○ : 選択できます。 — : 選択できません。

(*) : LDAP List では、表示されません。

ここでは、LDAP List でメールアドレスを入力する方法を説明します。

1. 「メール送信」画面で、メールアドレスを入力する項目にあるを押します。
⇒「メールアドレス台帳」画面が表示されます。
2. 「LDAP List」タブを押します。
⇒「メールアドレス台帳」画面の LDAP List が表示されます。
3. 検索条件のボタン（左ボタン、中央ボタン、または［メールアドレス］ボタン）を押して、検索する項目を選択します。



ヒント

左ボタンおよび中央ボタンに設定する、検索条件およびボタン名は、管理者がカスタマイズして設定します。

検索条件およびボタン名のカスタマイズ方法については、[「4.10.4 LDAP 検索条件を設定する」\(P.122\)](#)を参照してください。

4. 「検索文字列」に、検索するメールアドレスの一部または全部を入力します。

ヒント

My List の場合、を押すと、前回入力した検索文字列および検索結果を消去できます。

5. 「検索方法」のを押します。
⇒「検索方法」画面が表示されます。

6. 検索方法を選択します。

検索方法

検索方法を選択してください。

前方一致
(abc...)

部分一致
(...abc...)

後方一致
(...abc)

(「部分一致」または「後方一致」を選択すると、検索に時間がかかる場合があります。)

⇒「メールアドレス台帳」画面の LDAP List に戻ります。選択した内容が「検索方法」に表示されます。

7. を押します。

⇒ 検索結果が右側に 5 件ずつ表示されます。

メールアドレス台帳

My List LDAP List

検索文字列

user0

検索方法

前方一致
(abc...)

選択済みアドレス

姓 名 メールアドレス

user001@sample.local

user002@sample.local

user003@sample.local

user004@sample.local

user005@sample.local

キャンセル OK

ヒント

- 検索結果の表示件数は、管理者が設定します。詳細は、「[4.10.2 メールアドレス LDAP サーバを設定する](#)」(P.120)を参照してください。
- My List と LDAP List では、検索内容に以下の違いがあります。

検索文字列	My List	LDAP List
全角、半角 (英数字、カタカナ、記号)	区別しない	区別しない
半角英大文字、半角英小文字	区別しない	区別しない
濁音、半濁音、拗音、促音	区別する	区別しない

また、My List で検索する場合、以下のようになります。

- 現在表示している階層、および階層の配下に含まれるものすべてが検索対象となります。
- 送信先を検索したときの検索結果では、グループを選択しても、が有効にならず、配下の階層に移動できません。

8. 検索結果の中からメールアドレスを選択して、を押します。

⇒「選択済みアドレス」に、メールアドレスが追加されます。

複数のメールアドレスを追加する場合は、同じ操作を繰り返します。

ヒント

メールアドレスを選択して  を押すと、My List に追加できます。

9. [OK] ボタンを押します。

⇒「メール送信」画面にメールアドレスが入力されます。

5.4.2 メールアドレス台帳にメールアドレスを追加する

メールアドレス台帳の My List に、メールアドレスおよび同報リストを追加する方法について説明します。LDAP List には追加できません。

なお、メールアドレス台帳の最大登録件数は、以下のとおりです。

- グループ、同報リスト、メールアドレスを含む場合、合計で 5,000 件です。
- メールアドレスだけの場合、10,000 件です。

1. 以下のどちらかの方法で、「メールアドレス台帳」画面を表示します。

- 「メール送信」画面で、メールアドレスを入力する項目にある  を押します。
- 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で [メンテナンス] ボタンを押して、「メンテナンス」画面で [メールアドレス編集] ボタンを押します。

2. 「My List」タブを押します。



メールアドレス台帳画面のスクリーンショット。画面の上部には「メールアドレス台帳」というタイトルと、ヘルプアイコン（？）とメニューアイコン（≡）があります。下部には「My List」と「LDAP List」のタブがあり、「My List」が選択されています。画面中央には「検索文字列」の入力欄と「検索方法」のプルダウンメニュー（「前方一致 (abc...)」が選択されている）があります。右側には「姓」「名」「メールアドレス」の検索条件が設定されています。画面下部には「メールアドレス台帳編集」ボタンと「キャンセル」「OK」ボタンがあります。

3. [メールアドレス台帳編集] ボタンを押します。
⇒「メールアドレス台帳編集」画面が表示されます。

メールアドレス台帳編集

My List

姓 名 メールアドレス

✖

↑ ↓ ↺

OK

4. を押します。
グループにメールアドレスまたは同報リストを追加する場合は、追加先のグループを表示してから、ボタンを押します。
⇒「メールアドレス追加」画面が表示されます。

5. 追加するメールアドレスの情報を入力します。**● メールアドレスを追加する場合**

「メールアドレス」タブで、追加するメールアドレスおよび姓名を入力します。
メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。

メールアドレス追加

メールアドレス 同報リスト

姓

名

メールアドレス

キャンセル OK

- 同報リストを追加する場合
「同報リスト」タブで、同報リスト名、および同報リストに含めるメールアドレスを入力します。
メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。

ヒント

メールアドレスは、を押して、メールアドレス台帳を使用して入力できます。詳細は、「[5.4.1 メールアドレス台帳を使ってメールアドレスを入力する](#)」(P.231)を参照してください。

メールアドレス台帳が使用できない場合は、管理者に連絡してください。

メールアドレス追加

メールアドレス 同報リスト

同報リスト名

メールアドレス

キャンセル OK

6. [OK] ボタンを押します。

⇒ My List にメールアドレスおよび同報リストが追加されます。

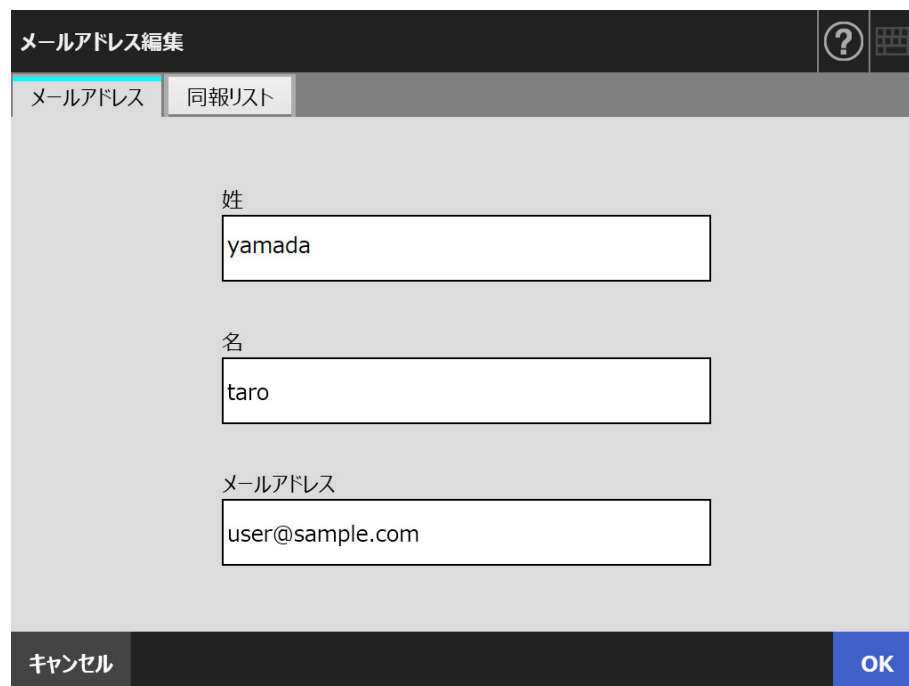
ヒント

My List は、User Editor を使って編集することもできます。詳細は、「[付録 F User Editor で編集する](#)」(P.427)を参照してください。

5.4.3 メールアドレス台帳を編集する

メールアドレス台帳の My List を編集する方法について説明します。LDAP List は編集できません。

1. 「[5.4.2 メールアドレス台帳にメールアドレスを追加する](#)」(P.235) の手順 1 ～手順 3 までの操作を行い、「メールアドレス台帳」画面を表示します。
2. 変更するメールアドレスまたは同報リストを選択します。
3.  を押します。
⇒「メールアドレス編集」画面が表示されます。
4. 変更する内容に書き換えます。
 - メールアドレスを編集する場合
追加するメールアドレスおよび姓名を入力します。
メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402) を参照してください。



メールアドレス編集

メールアドレス 同報リスト

姓
yamada

名
taro

メールアドレス
user@sample.com

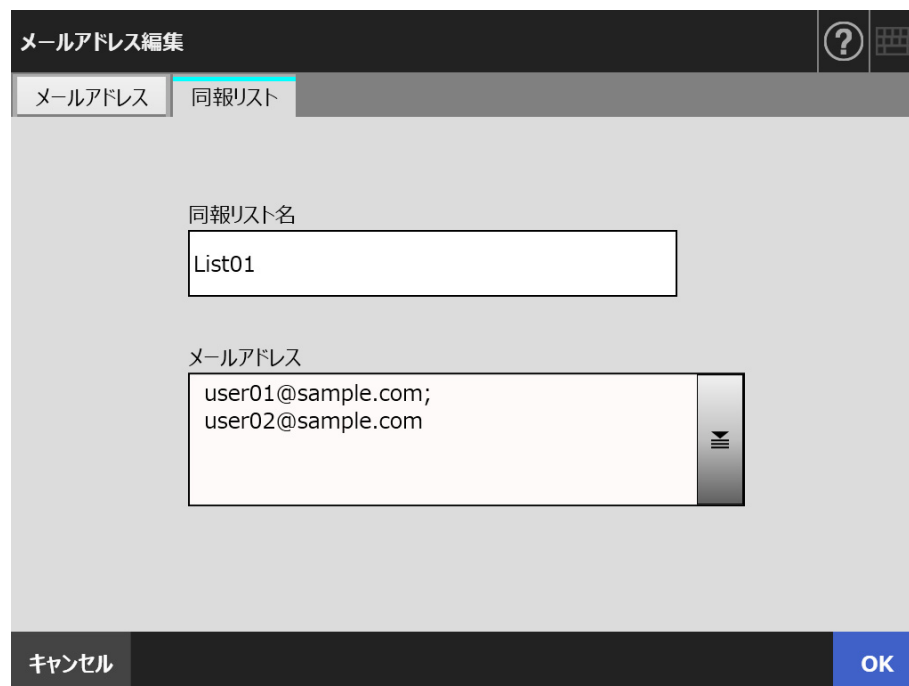
キャンセル OK

- 同報リストを編集する場合
同報リスト名、および同報リストに含めるメールアドレスを入力します。
メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。

ヒント

メールアドレスは、を押して、メールアドレス台帳を使用して入力できます。詳細は、「[5.4.1 メールアドレス台帳を使ってメールアドレスを入力する](#)」(P.231)を参照してください。

メールアドレス台帳が使用できない場合は、管理者に連絡してください。



メールアドレス編集

メールアドレス 同報リスト

同報リスト名

List01

メールアドレス

user01@sample.com;
user02@sample.com

キャンセル OK

5. [OK] ボタンを押します。

⇒ メールアドレス台帳の内容が変更されます。

ヒント

My List は、User Editor を使って編集することもできます。詳細は、「[付録 F User Editor で編集する](#)」(P.427)を参照してください。

5.4.4 メールアドレス台帳からメールアドレスを削除する

My List からメールアドレスおよび同報リストを削除する方法について説明します。
LDAP List からは削除できません。

1. 「5.4.2 メールアドレス台帳にメールアドレスを追加する」(P.235) の手順 1～手順 3 までの操作を行い、「メールアドレス台帳」画面を表示します。
2. 削除するメールアドレスまたは同報リストを選択します。
3.  を押します。
⇒ 「メールアドレス削除」画面が表示されます。
ここでは、メールアドレスを削除した場合の画面を例に説明します。
4. 削除内容を確認して、[OK] ボタンを押します。

メールアドレス削除

?

以下のデータを削除してよろしいでしょうか？

姓	yamada
名	taro
メールアドレス	user@sample.com

キャンセル

OK

⇒ メールアドレスが削除されます。

ヒント

My List は、User Editor を使って編集することもできます。詳細は、「付録 F User Editor で編集する」(P.427) を参照してください。

5.5 スキャン画像を FAX で送信する

1. 「メインメニュー」画面で [FAX] ボタンを押します。

⇒「FAX 送信」画面が表示されます。

ヒント

「読み取り設定」の  を押すと、読み取り設定を変更できます。詳細は、「[5.8 読み取り設定をする](#)」(P.264) を参照してください。

2. 「FAX 番号」に、送信先の FAX 番号を入力します。

ヒント

FAX 番号は、 を押して、FAX 番号台帳から入力することもできます。詳細は、「[5.5.1 FAX 番号台帳を使って FAX 送信先を入力する](#)」(P.244) を参照してください。



スクリーンショットは「FAX送信」画面を示しています。画面の上部には「FAX送信」というタイトルと、ヘルプ（？）とキーボードアイコンがあります。中央には2つの入力フィールドがあります。最初のフィールドは「FAX番号」とラベルされ、その右側にはFAX番号台帳を開くためのアイコンがあります。2番目のフィールドは「結果通知先メールアドレス/送信者」とラベルされ、その右側にも同様のアイコンがあります。画面の下部には操作ボタンが並んでいます：「キャンセル」、「読み取り設定」（設定アイコン）、「初期値」、「表示&編集」、「しない」、そして右端には大きな青い「スキャン&送信」ボタンがあります。

3. 「結果通知先メールアドレス / 送信者」に、FAX 送信したときの結果を通知するメールアドレス、または送信者のメールアドレスを入力します。

管理者の「FAX」の「FAX サーバ」画面で、「送信者」が設定されていない場合に入力します。

メールアドレスの設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402) を参照してください。

4. 残りの各項目を設定します。

ヒント

「認証情報のクリア」ボタンは、管理者の「SMTP サーバ拡張」画面で「SMTP 認証」を有効にすると表示されます。設定方法については、[「4.11.2 SMTP サーバ（拡張）を設定する」](#)（P.125）を参照してください。

「認証情報のクリア」ボタンで、認証情報を削除できます。

5. 「スキャン&送信」ボタンを押します。

「表示&編集」が「する」の場合は、「スキャン」ボタンを押します。

⇒ 読み取りが開始されます。

⇒ 読み取りが完了したあと、スキャン画像がすぐに FAX 送信され、「メインメニュー」画面に戻ります。

ヒント

「SMTP 認証」画面が表示された場合は、SMTP サーバにアクセスするための認証情報を入力して、[OK] ボタンを押します。

ヒント

- 「表示&編集」が「する」の場合、読み取りが完了すると、「表示&編集」画面が表示されます。

読み取れる最大ページ数は 999 ページです。

ブランクページスキップを有効にしている場合、白紙ページが削除されたページ数で表示されます。

白紙ページ削除された分は、最大ページ数まで追加読み取りができます。

「表示&編集」画面でスキャン画像を確認できます。スキャン画像を 1 枚選択して表示された表示&編集詳細画面で、スキャン画像を編集できます。詳細は、[「5.10 スキャン画像を表示&編集画面で確認する」](#)（P.309）を参照してください。

また、「表示&編集」画面の表示については、[「5.9 「表示&編集」画面の表示を設定する」](#)（P.306）を参照してください。

- FAX サーバへの送信に失敗した場合、ログインしている利用者のメールアドレスにスキャナからエラー通知のメールが、以下のタイトルで送信されます。
ネットワークスキャナ XXXX からのエラー通知

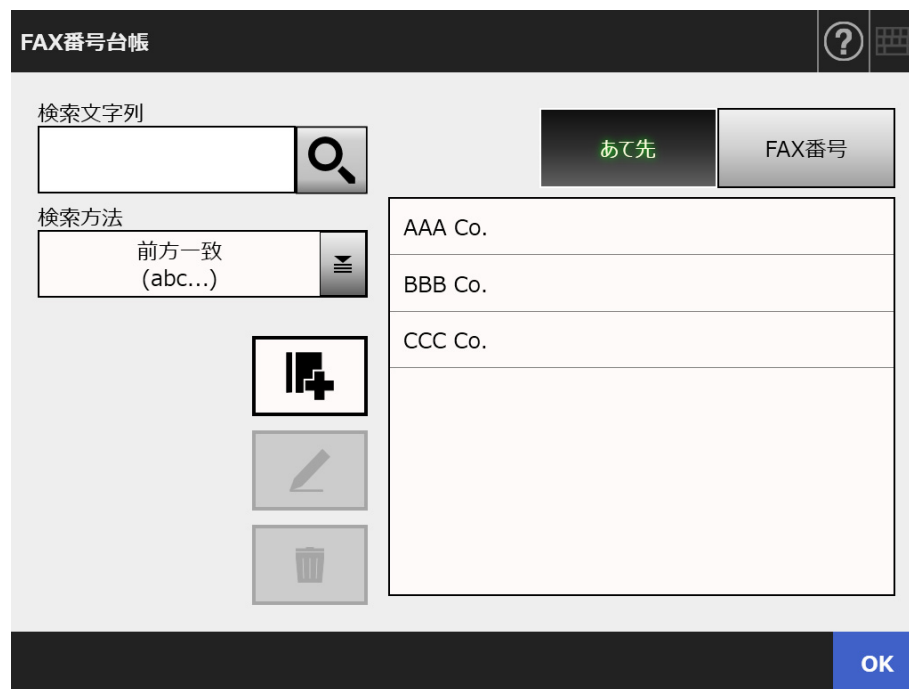
5.5.1 FAX 番号台帳を使って FAX 送信あて先を入力する

FAX 送信時に、FAX 番号を直接入力せずに、FAX 番号台帳を使用して FAX 番号を入力する方法について説明します。

FAX 番号台帳を使用した FAX 番号の入力は、「5.5 スキャン画像を FAX で送信する」(P.242) の手順 2 でできます。

1. 「FAX 送信」画面で、FAX 番号のを押します。

⇒「FAX 番号台帳」画面が表示されます。



2. 検索条件のボタン（「あて先」ボタンまたは「FAX 番号」ボタン）を押して、検索する項目を選択します。
3. 「検索文字列」に、検索文字列を入力します。
4. 検索方法のを押します。
⇒「検索方法」画面が表示されます。

5. 検索方法を選択します。

⇒ 「FAX 番号台帳」画面に戻ります。選択した内容が「検索方法」に表示されます。

6. を押します。

⇒ 検索結果が右側に名前で 5 件ずつ表示されます。

7. 検索結果の中から、FAX 送信あて先を選択します。

8. [OK] ボタンを押します。

⇒ 「FAX 送信」画面に FAX 番号が入力されます。

一度に入力できる番号は 1 回の送信あたり 1 件です。

5.5.2 FAX 番号台帳に FAX 送信あて先を追加する

FAX 番号台帳に、FAX 送信あて先を追加する方法について説明します。

FAX 番号台帳に登録できる FAX 番号の最大登録件数は、1,000 件です。すでに 1,000 件登録されている場合は、追加できません。

ヒント

追加した FAX 送信あて先は、すべてのユーザーが共有して利用できます。

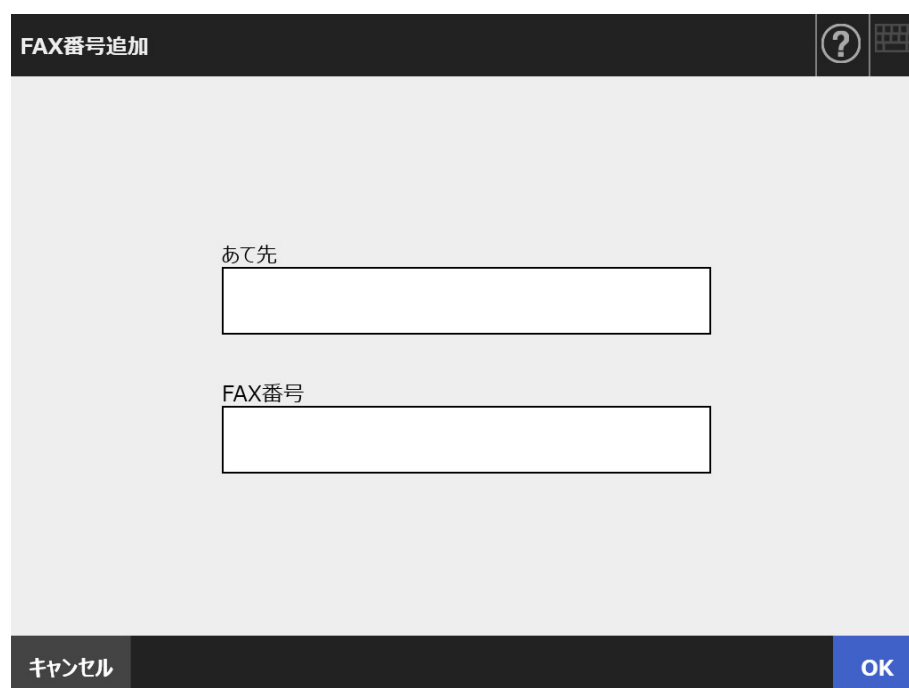
1. 以下のどちらかの方法で、「FAX 番号台帳」画面を表示します。

- 「FAX 送信」画面で、FAX 番号の  を押します。
- 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で [メンテナンス] ボタンを押して、「メンテナンス」画面で [FAX 番号編集] ボタンを押します。

2. を押します。



⇒ 「FAX 番号追加」画面が表示されます。

3. 追加する FAX 番号の情報を入力します。

この画面は「FAX 番号追加」ダイアログボックスです。タイトルバーには「FAX 番号追加」と表示され、右側にはヘルプアイコン（？）とキーボードショートカットアイコンがあります。中央には二つの入力フィールドがあります。最初のフィールドは「あて先」とラベルされ、下のフィールドは「FAX 番号」とラベルされています。両方のフィールドは現在空欄です。画面の最下部には「キャンセル」と「OK」のボタンがあります。

4. [OK] ボタンを押します。

⇒ FAX 番号台帳に FAX 番号が追加されます。

5.5.3 FAX 番号台帳を編集する

編集した FAX 送信あて先は、すべてのユーザーが共有して利用できます。

1. 以下のどちらかの方法で、「FAX 番号台帳」画面を表示します。

- 「FAX 送信」画面で、FAX 番号の  を押します。
- 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で [メンテナンス] ボタンを押して、「メンテナンス」画面で [FAX 番号編集] ボタンを押します。

2. 編集する FAX 送信あて先を選択します。

3.  を押します。
⇒ 「FAX 番号編集」画面が表示されます。

4. 変更する内容に書き換えます。



FAX番号編集

あて先
abc

FAX番号
123456789

キャンセル OK

5. [OK] ボタンを押します。

⇒ FAX 番号台帳の内容が変更されます。

5.5.4 FAX 番号台帳から FAX 送信あて先を削除する

削除した FAX 送信あて先は、すべてのユーザーが利用できなくなります。

1. 以下のどちらかの方法で、「FAX 番号台帳」画面を表示します。

- 「FAX 送信」画面で、FAX 番号の  を押します。
- 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で [メンテナンス] ボタンを押して、「メンテナンス」画面で [FAX 番号編集] ボタンを押します。

2. 削除するあて先を選択します。

3.  を押します。
⇒ 「FAX 番号削除」画面が表示されます。

4. 削除内容を確認して、[OK] ボタンを押します。

FAX番号削除



以下のデータを削除してよろしいでしょうか？

あて先	BBB Co.
FAX番号	11111

キャンセル

OK

⇒ FAX 番号が削除されます。

5.6 スキャン画像を印刷する

1. 「メインメニュー」画面で [印刷] ボタンを押します。

⇒「印刷」画面が表示されます。

ヒント

「読み取り設定」の  を押すと、読み取り設定を変更できます。詳細は、「[5.8 読み取り設定をする](#)」(P.264) を参照してください。

2. プリンターを変更する場合は、 を押します。

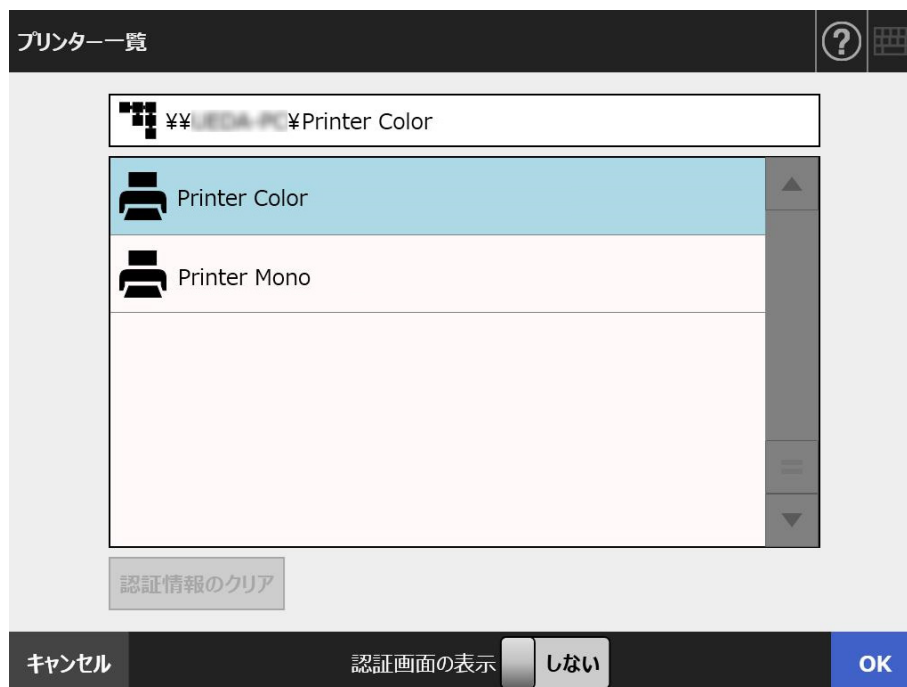


⇒「プリンター一覧」画面が表示されます。

3. 出力先のプリンターを選択して、[OK] ボタンを押します。

ヒント

- 選択できるプリンターは事前に管理者が登録したプリンターです。登録内容を変更する場合は、管理者に連絡してください。
プリンターの追加方法については、「[4.14 ネットワーク共有プリンターを設定する](#)」(P.145) を参照してください。
- [認証情報のクリア] ボタンが有効の場合は、選択したネットワーク共有プリンターの認証情報を削除できます。



⇒「印刷」画面に戻ります。

ヒント

- 「プリントサーバ認証」画面が表示された場合は、ネットワーク共有プリンターにアクセスするための認証情報を入力して、[OK] ボタンを押します。
- 認証画面の表示が「する」の場合、[OK] ボタンを押すと、選択したネットワーク共有プリンターの認証画面が表示されます。ここで認証情報を変更できます。
- スキャナでは、印刷前にプリントサーバの印刷権限を参照して、事前に印刷可否をチェックしています。ここで、印刷権限を参照するときに、一時的にスプールデータが発生する場合がありますが、異常ではありません。

4. 「部数」を入力します。

5. 必要に応じて、印刷設定を変更します。

印刷比率、印刷位置、および印刷面を変更できます。

変更方法については、以下を参照してください。

「[5.6.1 印刷比率を設定する](#)」(P.254)

「[5.6.2 印刷位置を設定する](#)」(P.258)

「[5.6.3 印刷面を設定する](#)」(P.260)

印刷設定を出荷時の設定に戻したい場合は、[初期値] ボタンを押してください。

6. 残りの各項目を設定します。**7. [スキャン] ボタンを押します。**

「表示&編集」が「しない」の場合、[スキャン&印刷] ボタンを押します。

⇒ 読み取りが開始されます。

「表示&編集」が「しない」の場合、読み取り中は、読み取り時の設定内容および読み取り状態（プレビュー）が切り替え表示できます。

「表示&編集」が「する」の場合、「表示&編集」画面が表示されます。

読み取れる最大ページ数は 100 ページです。

ブランクページスキップを有効にしている場合、白紙ページが削除されたページ数で表示されます。

白紙ページ削除された分は、最大ページ数まで追加読み取りができます。

⇒ 読み取りが完了すると、「表示&編集」画面が表示されます。

ヒント

- 「表示&編集」が「しない」の場合（[スキャン&印刷] ボタンを押した場合）は、読み取りが完了したあと、スキャン画像がすぐに印刷され、「メインメニュー」画面に戻ります。詳細は、「[5.9 「表示&編集」画面の表示を設定する](#)」(P.306) を参照してください。
- スキャナでは、印刷前にプリントサーバの印刷権限を参照し、事前に印刷可否をチェックしています。ここで、印刷権限を参照するとき、一時的にスプールデータが発生する場合がありますが、異常ではありません。

8. スキャン画像を確認・編集します。

「表示&編集」画面でスキャン画像を確認できます。スキャン画像を 1 枚選択して表示された表示&編集詳細画面で、スキャン画像を編集できます。

詳細は、「[5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する](#)」(P.309) を参照してください。

9. 「表示&編集」画面で〔印刷〕ボタンを押します。

⇒ 印刷データがプリントサーバに送信され、印刷されます。

送信されたスキャンデータのドキュメント名は、スキヤナのスキヤナ名になります。

重要

ユーザーログには、プリントサーバへスキャン画像の送信が完了するまでの結果が表示されます。ネットワーク共有プリンターの印刷結果は表示されません。ユーザーログについては、「[5.11.1 完了した送信動作（ユーザーログ）の詳細情報を参照する](#)」(P.318) を参照してください。

ヒント

印刷に失敗した場合、LDAP サーバ認証でログインしたユーザーのメールアドレスに、スキヤナから以下のタイトルでエラー通知メールが送信されます。
ネットワークスキヤナ XXXX からのエラー通知

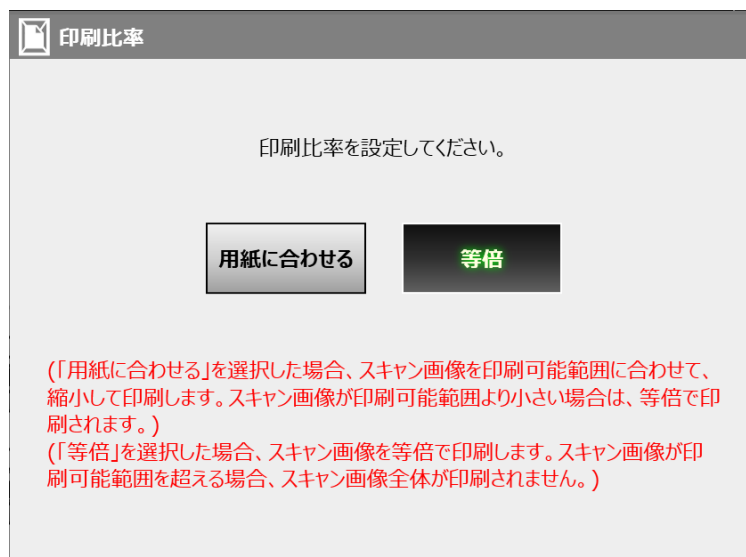
5.6.1 印刷比率を設定する

印刷する用紙サイズに合わせて、スキャン画像を印刷するかどうかを設定します。
ここで設定した内容は、ユーザー単位で前回利用した印刷情報が表示されます。

1. 「印刷」画面で「印刷比率」ボタンを押します。

⇒「印刷比率」画面が表示されます。

2. スキャン画像の印刷比率を選択します。

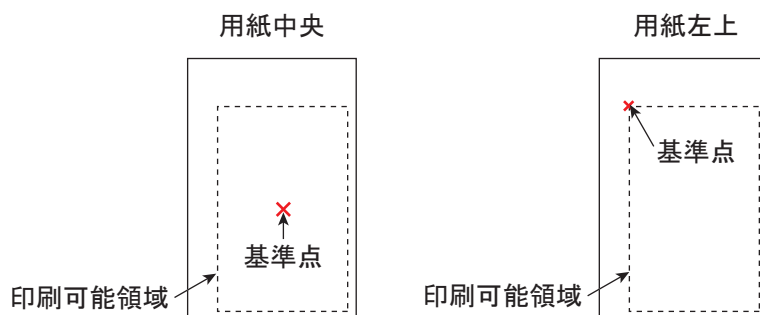


印刷結果は、印刷位置の設定によって、以下のように異なります。印刷位置については、「[5.6.2 印刷位置を設定する](#)」(P.258)を参照してください。

● 用紙に合わせる

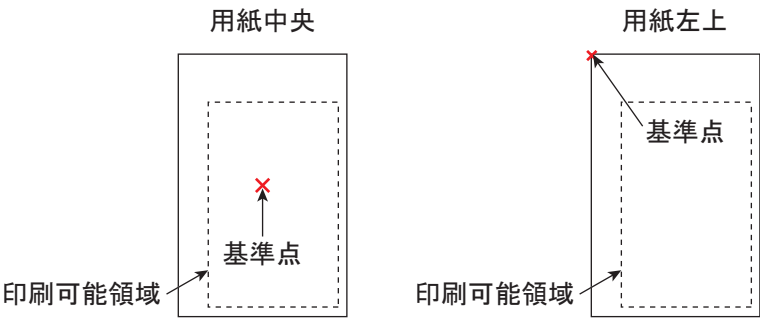
スキャン画像全体が、印刷可能領域（点線内）に納まるように縮小されて、印刷されます。拡大はされません。

- 印刷位置の設定が「用紙中央」の場合、印刷用紙の印刷可能領域の中央を基準点に印刷されます。
- 印刷位置の設定が「用紙左上」の場合、印刷用紙の印刷可能領域の左上を基準点に印刷されます。

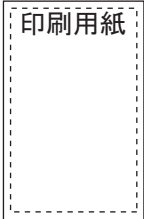


印刷用紙	スキャン 画像	印刷位置	印刷結果
小さい 	大きい 	用紙中央	
		用紙左上	
大きい 	小さい 	用紙中央	
		用紙左上	
同じ 	同じ 	用紙中央	
		用紙左上	

- 等倍
スキャン画像は、印刷用紙の大きさに関係なく、そのままの大きさで印刷されます。
 - 印刷位置の設定が「用紙中央」の場合、印刷用紙の中央を基準点に印刷されます。
 - 印刷位置の設定が「用紙左上」の場合、印刷用紙の左上を基準点に印刷されます。



印刷用紙	スキャン画像	印刷位置	印刷結果
小さい 	大きい 	用紙中央	
		用紙左上	
大きい 	小さい 	用紙中央	
		用紙左上	

印刷用紙	スキャン画像	印刷位置	印刷結果
同じ 	同じ 	用紙中央	
		用紙左上	

⇒「印刷」画面に戻ります。選択した内容が「印刷比率」ボタンの右に表示されます。

重要

縁消しについては、「[5.8.17 スキャン画像の縁消しをする（エッジ補正）](#)」（P.299）を参照してください。

5.6.2 印刷位置を設定する

スキャン画像を用紙のどこに印刷するかを設定します。
ここで設定した内容は、ユーザー単位で前回利用した印刷情報が表示されます。

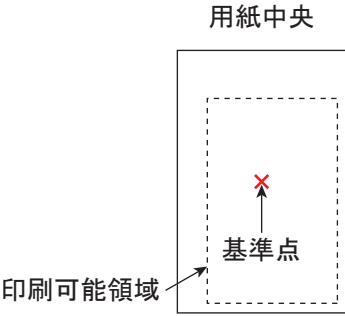
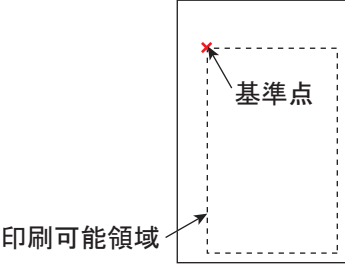
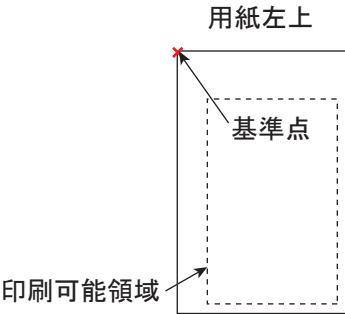
- 1. 「印刷」画面で [印刷位置] ボタンを押します。
⇒ 「印刷位置」画面が表示されます。

- 2. 印刷位置を選択します。



印刷結果は、印刷比率の設定によって、以下のように異なります。印刷比率については、[「5.6.1 印刷比率を設定する」\(P.254\)](#)を参照してください。

ボタン	印刷比率	基準点
用紙中央	用紙に合わせる	印刷用紙の印刷可能領域の中央を基準点に印刷されます。 用紙中央 基準点 印刷可能領域

ボタン	印刷比率	基準点
用紙中央	等倍	印刷用紙の中央を基準点に印刷されます。 
用紙左上	用紙に合わせる	印刷可能領域の左上を基準点に印刷されます。 
	等倍	印刷用紙の左上を基準点に印刷されます。 

⇒「印刷」画面に戻ります。選択した内容が「印刷位置」ボタンの右に表示されます。

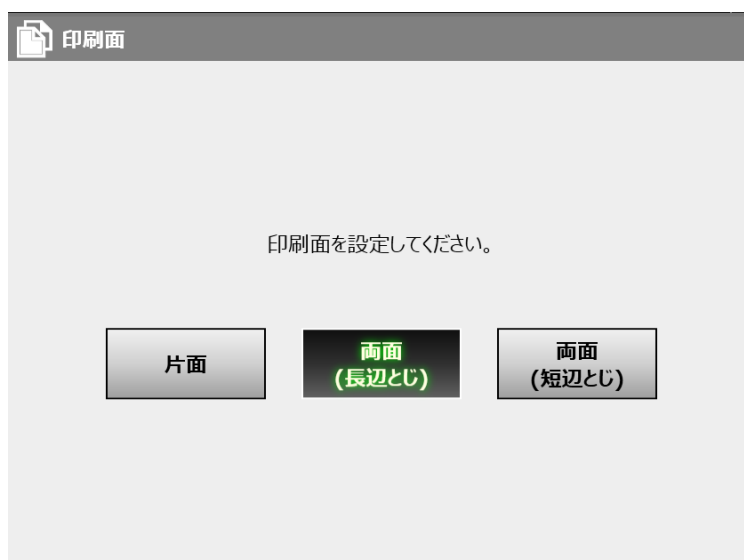
5.6.3 印刷面を設定する

両面印刷するか、片面印刷するかを設定します。

1. 「印刷」画面で〔印刷面〕ボタンを押します。

⇒「印刷面」画面が表示されます。

2. 印刷面を選択します。



⇒「印刷」画面に戻ります。選択した内容が〔印刷面〕ボタンの右に表示されます。

5.7 スキャン画像をフォルダーに保存する

ネットワーク共有フォルダー、FTP フォルダー、または SharePoint フォルダーにスキャン画像を保存します。

1. 「メインメニュー」画面で「保存」ボタンを押します。

⇒「保存」画面が表示されます。

ヒント

「読み取り設定」の  を押すと、読み取り設定を変更できます。詳細は、「[5.8 読み取り設定をする](#)」(P.264) を参照してください。

2.  を押します。



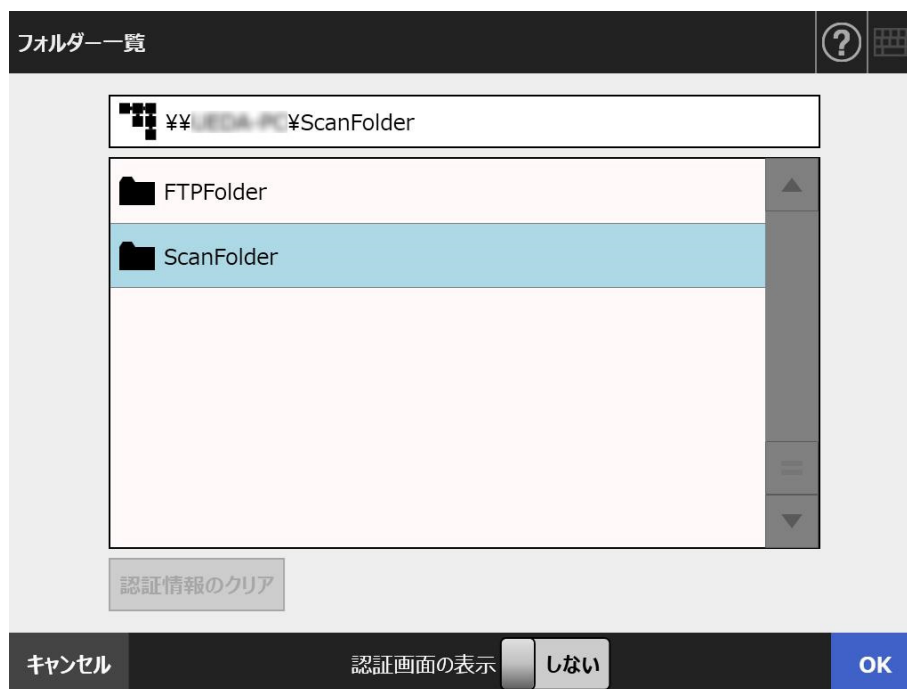
保存画面のスクリーンショット。画面の上部には「保存」というタイトルと、ヘルプ（？）とキーボードアイコンがあります。中央には「保存先」のラベルと、空のテキスト入力フィールドがあり、その右側にはメニューアイコン（≡）があります。その下には「ファイル名」のラベルと、説明「ファイル名のうしろに連番が付与されます。」があり、入力フィールドには「FI-N7100E0207 171041」が表示されています。さらに下には「上書きしますか？」という質問と、「いいえ」のボタンがあります。画面の最下部には、操作ボタンが並んでいます：「キャンセル」、「読み取り設定」（設定アイコン）、「初期値」、「表示&編集」、「する」（緑色のボタン）、「スキャン」（青いボタン）。

⇒「フォルダー一覧」画面が表示されます。

3. 保存先のフォルダーを選択します。

ヒント

- 選択できるフォルダーは事前に管理者が登録したフォルダーです。登録内容を変更する場合は、管理者に連絡してください。
ネットワーク共有フォルダーの追加方法については、「[4.13.1 ネットワーク共有フォルダーを設定する](#)」(P.129)を参照してください。
FTP フォルダーの追加方法については、「[4.13.2 FTP フォルダーを設定する](#)」(P.135)を参照してください。
SharePoint フォルダーの追加方法については、「[4.13.3 SharePoint フォルダーを設定する](#)」(P.139)を参照してください。
- [認証情報のクリア] ボタンが有効の場合は、選択したネットワーク共有フォルダー、FTP フォルダー、および SharePoint フォルダーの認証情報を削除できます。



4. [OK] ボタンを押します。

⇒「保存」画面に戻ります。

ヒント

- 「ファイルサーバ認証」画面が表示された場合は、ファイルサーバ、FTP サーバ、および SharePoint サーバにアクセスするための認証情報を入力して、[OK] ボタンを押します。
- 認証画面の表示が「する」の場合、[OK] ボタンを押すと、選択したネットワーク共有フォルダー、FTP フォルダー、および SharePoint フォルダーの認証画面が表示されます。ここで認証情報を変更できます。

5. 「ファイル名」に、保存するスキャン画像の名前を入力します。

6. 同名ファイルが指定された場合、上書き保存するかどうかを選択します。

処理が成功したかどうかは、ユーザーログを参照してください。

ユーザーログの参照方法については、「[5.11.1 完了した送信動作（ユーザーログ）の詳細情報を参照する](#)」（P.318）を参照してください。

7. 残りの各項目を設定します。**8. [スキャン] ボタンを押します。**

「表示&編集」が「しない」の場合、[スキャン&保存] ボタンを押します。

⇒ 読み取りが開始されます。

「表示&編集」が「しない」の場合、読み取り中は、読み取り時の設定内容および読み取り状態（プレビュー）が切り替え表示できます。

「表示&編集」が「する」の場合、「表示&編集」画面が表示されます。

読み取れる最大ページ数は 999 ページです。

ブランクページスキップを有効にしている場合、白紙ページが削除されたページ数で表示されます。

白紙ページ削除された分は、最大ページ数まで追加読み取りができます。

⇒ 読み取りが完了すると、「表示&編集」画面が表示されます。

ヒント

「表示&編集」が「しない」の場合（[スキャン&保存] ボタンを押した場合）は、読み取りが完了したあと、スキャン画像がすぐに保存され、「メインメニュー」画面に戻ります。詳細は、「[5.9 「表示&編集」画面の表示を設定する](#)」（P.306）を参照してください。

9. スキャン画像を確認・編集します。

「表示&編集」画面でスキャン画像を確認できます。スキャン画像を 1 枚選択して表示された表示&編集詳細画面で、スキャン画像を編集できます。

詳細は、「[5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する](#)」（P.309）を参照してください。

10. 「表示&編集」画面で [保存] ボタンを押します。

⇒ 指定したファイル形式のファイルがフォルダーに保存されます。

⇒ 「メインメニュー」画面に戻ります。

ヒント

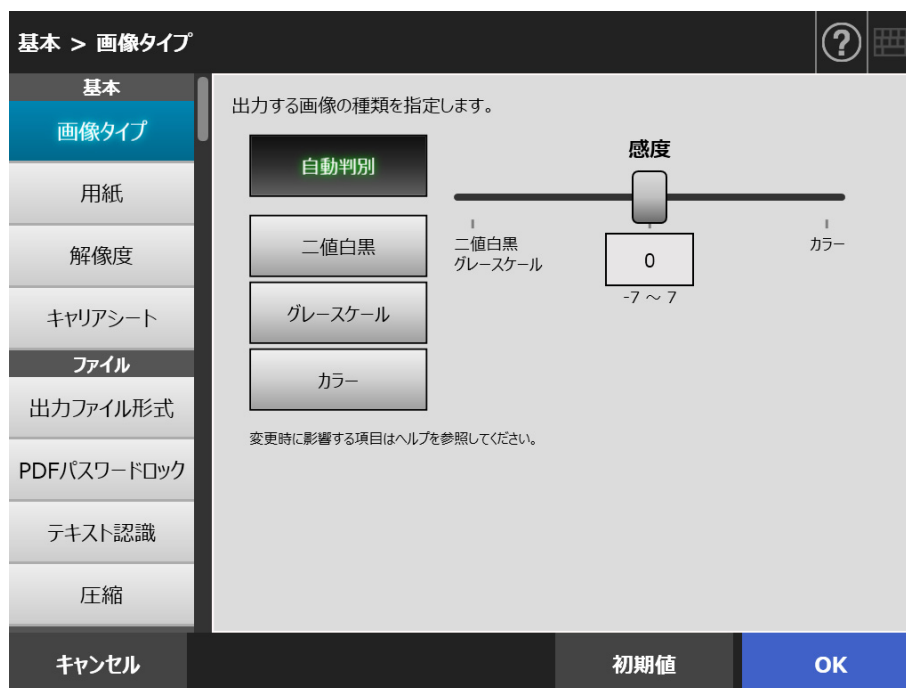
フォルダーへの保存に失敗した場合、LDAP サーバ認証でログインしたユーザーのメールアドレスに、スキナから以下のタイトルでエラー通知メールが送信されます。

ネットワークスキナ XXXX からのエラー通知

5.8 読み取り設定をする

以下の画面で「読み取り設定」の  を押すと、読み取り設定画面が表示されます。

- 「メール送信」画面
- 「FAX送信」画面
- 「印刷」画面
- 「保存」画面



読み取り設定には、以下の設定方法があります。

- 初期値
出荷時の設定に戻す簡易設定です。初期値にすると、自動的に推奨の値が設定されます。
- カスタム
初期値の状態からユーザーの利用形態に合わせて変更した状態です。
各メニューから個別の値を設定します。

設定した値はユーザーごとに機能単位（メール、FAX、印刷、および保存）で保存され、次回ログイン時も同じ設定で利用できます。
詳細は、「[5.8.2 画像タイプを設定する](#)」(P.277) 以降を参照してください。

ヒント

「印刷」画面から読み取り設定画面を表示した場合、「ファイル」メニューはグレイアウトされます。

5.8.1 読み取り設定項目の影響範囲

読み取り設定を変更すると、ほかの読み取り設定の項目に影響を与えます。
それぞれの読み取り設定項目の影響範囲については、以下のとおりです。

■ 基本

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
画像タイプ		
自動判別	● 用紙サイズの「8.5 × 17inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 34inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 125inch」 ● 用紙サイズの「カスタム」で 14 インチより大きい値 ● 出力ファイル形式の「JPEG」	● 処理種別が「FAX」、かつ、FAX サービスが「タイプ 1」または「タイプ 2」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合）
二値白黒	● 画像タイプの「感度」 ● 出力ファイル形式の「JPEG」 ● テキスト認識の「マーカ文字列認識」 ● テキスト認識の「マーカ文字列編集」 ● 圧縮の圧縮率 ● 圧縮の「高圧縮 PDF」 ● トーン調整 ● クリーンアップ ● sRGB 出力（ジョブ設定の場合）	—
グレースケール	● 画像タイプの「感度」 ● テキスト認識の「マーカ文字列認識」 ● テキスト認識の「マーカ文字列編集」 ● 圧縮の「高圧縮 PDF」 ● 二値化の調整 ● クリーンアップ（二値白黒） ● sRGB 出力（ジョブ設定の場合）	● 処理種別が「FAX」、かつ、FAX サービスが「タイプ 1」または「タイプ 2」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合）

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
画像タイプ（続き）		
カラー	● 画像タイプの「感度」 ● 二値化の調整 ● クリーンアップ（二値白黒） ● ドロップアウトカラー	● 処理種別が「FAX」、かつ、FAX サービスが「タイプ 1」または「タイプ 2」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合）
感度	—	● 画像タイプの「二値白黒」 ● 画像タイプの「グレースケール」 ● 画像タイプの「カラー」
用紙		
給紙		
フィーダー（片面）	● 回転の「とじ方向」	● キャリアシートの「A3」 ● キャリアシートの「B4 (JIS)」 ● キャリアシートの「ダブルレター」
フィーダー（両面）	—	
原稿セット方向		
下向き	—	—
上向き	● インデックス出力の「する」	● セパレーション方法の「ページ数」（ジョブ設定の場合） ● セパレーション方法の「パッチコード」（ジョブ設定の場合）
用紙サイズ		
自動	● 解像度の「600dpi」 ● 解像度の「カスタム」で 301dpi 以上	● キャリアシートの「A3」 ● キャリアシートの「B4 (JIS)」 ● キャリアシートの「ダブルレター」
定型用紙サイズ（長さ：2 ～ 14 インチ） A4、レター、リーガルなど	● 縦筋軽減	

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
用紙サイズ（続き）		
長尺（長さ：14 インチより大きい） ● 8.5 × 17inch ● 8.5 × 34inch ● 8.5 × 125inch ● カスタム（14 インチより大きい値）	● 解像度の「自動」 ● 解像度の「300dpi」 ● 解像度の「600dpi」 ● 解像度の「カスタム」で 201dpi 以上 ● テキスト認識 ● 縦筋軽減 ● アシストスキャン	● 画像タイプの「自動判別」 ● 解像度の「自動」 ● 解像度の「300dpi」 ● 解像度の「600dpi」 ● 解像度の「カスタム」で 201dpi 以上 ● キャリアシートの「A3」 ● キャリアシートの「B4 (JIS)」 ● キャリアシートの「ダブルレター」
解像度		
150dpi、 カスタム（199dpi 以下）	● インデックス出力のバーコード	● インデックス出力のバーコード
200dpi、 カスタム（200dpi）	—	—
自動、 300dpi、 カスタム（201 ～ 300dpi）	● 用紙サイズの「8.5 × 17inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 34inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 125inch」 ● 用紙サイズの「カスタム」で 14 インチより大きい値	● 用紙サイズの「8.5 × 17inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 34inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 125inch」 ● 用紙サイズの「カスタム」で 14 インチより大きい値
600dpi、 カスタム（301dpi 以上）	● 用紙サイズの「8.5 × 17inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 34inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 125inch」 ● 用紙サイズの「カスタム」で 14 インチより大きい値 ● テキスト認識の「全ページ」 ● テキスト認識の「ページ指定」 ● 圧縮の「高圧縮 PDF」 ● アシストスキャン	

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
キャリアシート		
オフ	—	—
A3、B4 (JIS)、ダブル レター	● 給紙 ● 用紙サイズ ● 解像度の「600dpi」 ● 解像度の「カスタム」で 301dpi 以上 ● sRGB 出力（ジョブ設定の場合） ● 回転の「とじ方向」 ● アシストスキャン	—

■ ファイル

「印刷」画面から読み取り設定画面を表示した場合、「ファイル」メニューはグレイアウトされます。

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
出力ファイル形式		
PDF（シングルページ）	● テキスト認識の「マーカー文字列認識」 ● テキスト認識の「マーカー文字列編集」	● 処理種別が「FAX」、かつ、FAX サービスが「タイプ 1」または「タイプ 2」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合）
PDF（マルチページ）	—	
PDF/A（シングルページ）	● PDF パスワードロック ● テキスト認識の「マーカー文字列認識」 ● テキスト認識の「マーカー文字列編集」	
PDF/A（マルチページ）	● PDF パスワードロック	
JPEG	● PDF パスワードロック ● テキスト認識 ● 圧縮の「高圧縮 PDF」	● 処理種別が「FAX」、かつ、FAX サービスが「タイプ 1」または「タイプ 2」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 画像タイプの「自動判別」 ● 画像タイプの「二値白黒」
TIFF（シングルページ、マルチページ）	—	—
セパレーション（ジョブ設定（読み取り設定）の場合）		
セパレーション方法の「しない」	—	—
セパレーション方法の「ページ数」、「パッチコード」	● 原稿セット方向の「上向き」	—

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
PDF パスワードロック		
オフ	● PDF パスワードロックの 「パスワード」	● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 出力ファイル形式の「PDF/A」 ● 出力ファイル形式の「JPEG」 ● 出力ファイル形式の「TIFF」
オン	—	
パスワード	—	● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● PDF パスワードロックの「オフ」
テキスト認識		
検索可能な PDF 出力の 「しない」	● テキスト認識の「テキスト認識するページ指定」 ● テキスト認識の「テキスト認識する言語」	● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 用紙サイズの「8.5 × 17inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 34inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 125inch」 ● 用紙サイズの「カスタム」で 14 インチより大きい値 ● 出力ファイル形式の「JPEG」 ● 出力ファイル形式の「TIFF」
検索可能な PDF 出力の 「する」	—	

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
テキスト認識（続き）		
マーカー文字列認識の 「しない」	● テキスト認識の「マーカー文字列編集」 ● テキスト認識の「テキスト認識するページ指定」 ● テキスト認識の「テキスト認識する言語」	● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 画像タイプの「二値白黒」 ● 画像タイプの「グレースケール」
マーカー文字列認識の 「先頭マーカーだけ」、「全マーカー」	—	● 用紙サイズの「8.5 × 17inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 34inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 125inch」 ● 用紙サイズの「カスタム」で 14 インチより大きい値 ● 出力ファイル形式の「PDF」（シングルページ） ● 出力ファイル形式の「PDF/A」（シングルページ） ● 出力ファイル形式の「JPEG」 ● 出力ファイル形式の「TIFF」
マーカー文字列編集	—	● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 画像タイプの「二値白黒」 ● 画像タイプの「グレースケール」 ● 用紙サイズの「8.5 × 17inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 34inch」 ● 用紙サイズの「8.5 × 125inch」 ● 用紙サイズの「カスタム」で 14 インチより大きい値 ● 出力ファイル形式の「PDF」（シングルページ） ● 出力ファイル形式の「PDF/A」（シングルページ） ● 出力ファイル形式の「JPEG」 ● 出力ファイル形式の「TIFF」 ● テキスト認識のマーカー文字列認識の「しない」

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
テキスト認識（続き）		
テキスト認識する言語	—	● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● テキスト認識の検索可能な PDF 出力の「しない」、かつ、テキスト認識のマーカー文字列認識の「しない」
テキスト認識するページ指定の「先頭ページだけ」	● テキスト認識するページ指定の「開始ページ」 ● テキスト認識するページ指定の「終了ページ」	
テキスト認識するページ指定の「全ページ」		● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 解像度の「600dpi」 ● 解像度の「カスタム」で 301dpi 以上 ● テキスト認識の検索可能な PDF 出力の「しない」、かつ、テキスト認識のマーカー文字列認識の「しない」
テキスト認識するページ指定の「ページ指定」 ● 「開始ページ」 ● 「終了ページ」	—	● 処理種別が「FAX」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 解像度の「600dpi」 ● 解像度の「カスタム」で 301dpi 以上 ● テキスト認識の検索可能な PDF 出力の「しない」、かつ、テキスト認識のマーカー文字列認識の「しない」 ● テキスト認識するページ指定の「先頭ページだけ」 ● テキスト認識するページ指定の「全ページ」

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
圧縮		
圧縮率	—	● 処理種別が「FAX」、かつ、FAX サービスが「タイプ 1」または「タイプ 2」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 画像タイプの「二値白黒」 ● 圧縮の「高圧縮 PDF」
高圧縮 PDF の「しない」	—	● 処理種別が「FAX」、かつ、FAX サービスが「タイプ 1」または「タイプ 2」（「FAX 送信」画面の読み取り設定の場合） ● 画像タイプの「二値白黒」 ● 画像タイプの「グレースケール」 ● 出力ファイル形式の「JPEG」 ● 出力ファイル形式の「TIFF」 ● 解像度の「600dpi」 ● 解像度の「カスタム」で 301dpi 以上
高圧縮 PDF の「する」	● 圧縮の圧縮率	

■ 画像

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
二値化の調整		
感度	—	● 画像タイプの「グレースケール」 ● 画像タイプの「カラー」
スレッシュホールド（背景）	—	
トーン調整	—	● 画像タイプの「二値白黒」
クリーンアップ	—	● 画像タイプの「二値白黒」
クリーンアップ （二値白黒）	—	● 画像タイプの「グレースケール」 ● 画像タイプの「カラー」
縦筋軽減	—	● 用紙サイズの「自動」以外、かつ、キャリアシートの「オフ」
ドロップアウトカラー	—	● 画像タイプの「カラー」
sRGB 出力 （ジョブ設定（読み取り設定）の場合）	● アシストスキャン	● 画像タイプの「二値白黒」 ● 画像タイプの「グレースケール」

ページ

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
回転		
自動	● 回転の「とじ方向」	● 処理種別が「印刷」（「0 度」、 「右 / 左とじ」に固定）（「印 刷」画面の読み取り設定の 場合）
0 度、90 度（時計回り）、90 度（反時計回り）、180 度	—	
とじ方向（右 / 左とじ、上 / 下とじ）	—	● 処理種別が「印刷」（「0 度」、 「右 / 左とじ」に固定）（「印 刷」画面の読み取り設定の 場合） ● 給紙の「フィーダー（片面）」 ● キャリアシートの「A3」 （「右 / 左とじ」に固定） ● キャリアシートの「B4 （JIS）」（「右 / 左とじ」に固 定） ● キャリアシートの「ダブル レター」（「右 / 左とじ」に固 定） ● 回転の「自動」
エッジ補正		
縁消しの「しない」	—	—
縁消しの「する」	—	—
塗りつぶす色	—	—
塗りつぶす領域	—	—
単位	—	—
ブランクページスキップ		
する	—	—
しない	—	—
感度	—	● ブランクページスキップの 「しない」

■ 用紙搬送

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
マルチフィード検出		
検出しない	—	—
重なり検出	—	—
長さ検出	—	—
重なりと長さ検出	—	—

■ バッチ

項目	項目を設定した場合に 設定不可になる項目	項目が設定不可になる条件
インデックス出力		
インデックス出力の「しない」	● インデックス出力のバーコード	—
インデックス出力の「する」	—	● 処理種別が「メール」（「メール送信」画面の読み取り設定の場合） ● 処理種別が「FAX」（「FAX送信」画面の読み取り設定の場合） ● 処理種別が「印刷」（「印刷」画面の読み取り設定の場合） ● 原稿セット方向の「上向き」
バーコード検出の「する」（ジョブ設定の場合は、バーコード検出の「種類」）	—	● 解像度の「150dpi」 ● 解像度の「カスタム」で199dpi以下 ● インデックス出力の「しない」

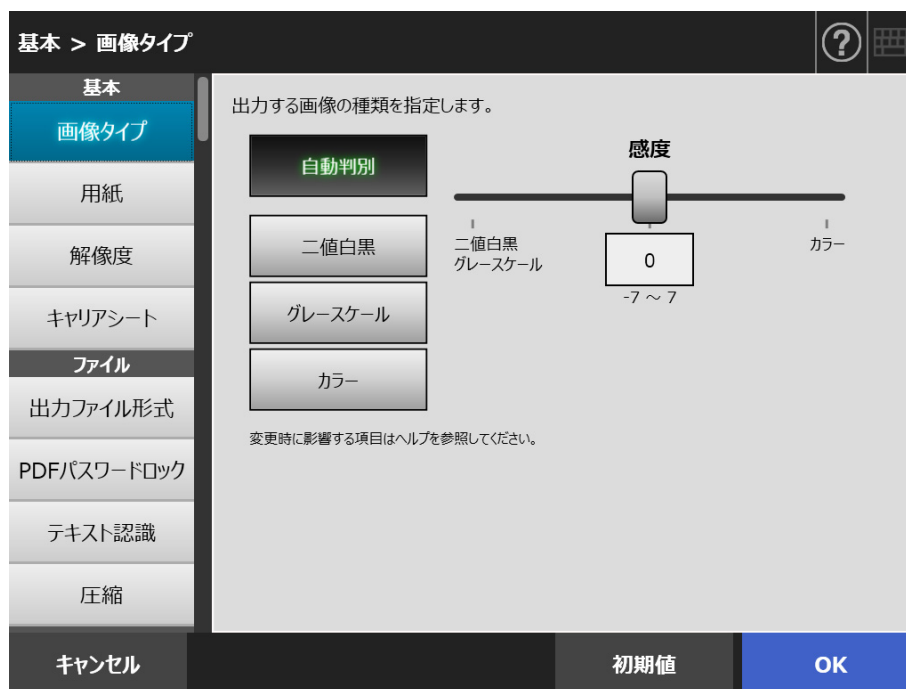
5.8.2 画像タイプを設定する

スキャン画像の種類（画像タイプ）を設定します。
原稿をカラー、グレースケール、または二値白黒で読み取るかを設定します。

1. 読み取り設定画面で「基本」の「画像タイプ」を選択します。

⇒「画像タイプ」画面が表示されます。

2. 出力する画像の種類を選択します。



3. 手順 2 で「自動判別」を選択した場合は、「感度」を設定します。

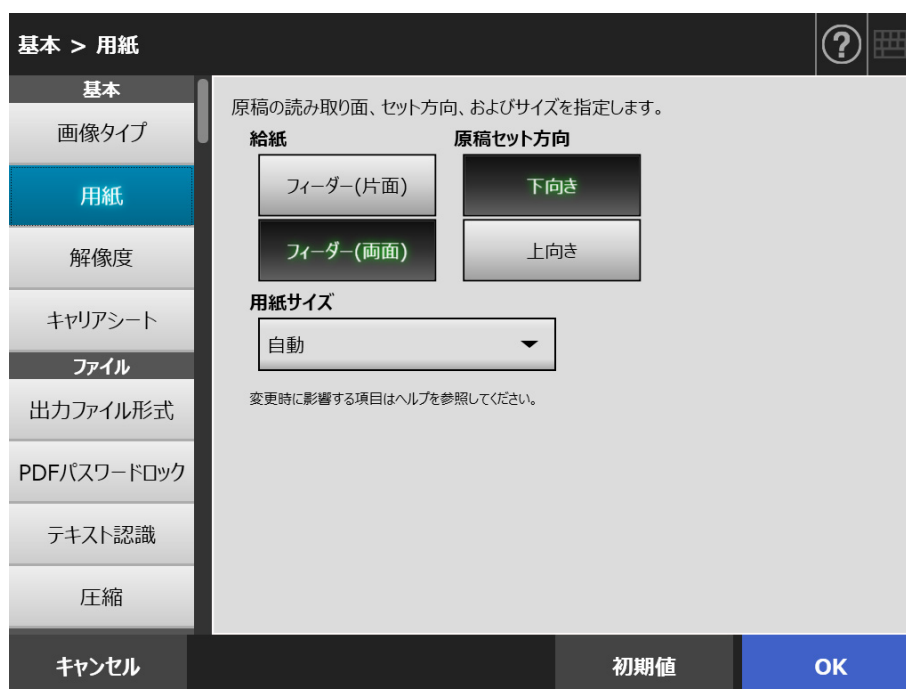
4. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.3 用紙を設定する

原稿の読み取り面、スキャナに原稿をセットするときの原稿の向き、および用紙サイズを設定します。

1. 読み取り設定画面で「基本」の「用紙」を選択します。
⇒「用紙」画面が表示されます。
2. セットした原稿の読み取り面、原稿のセット方向、用紙サイズを選択します。



3. 手順2で用紙サイズに「カスタム」を選択した場合は、表示された設定項目で「単位」と用紙サイズを設定します。
4. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

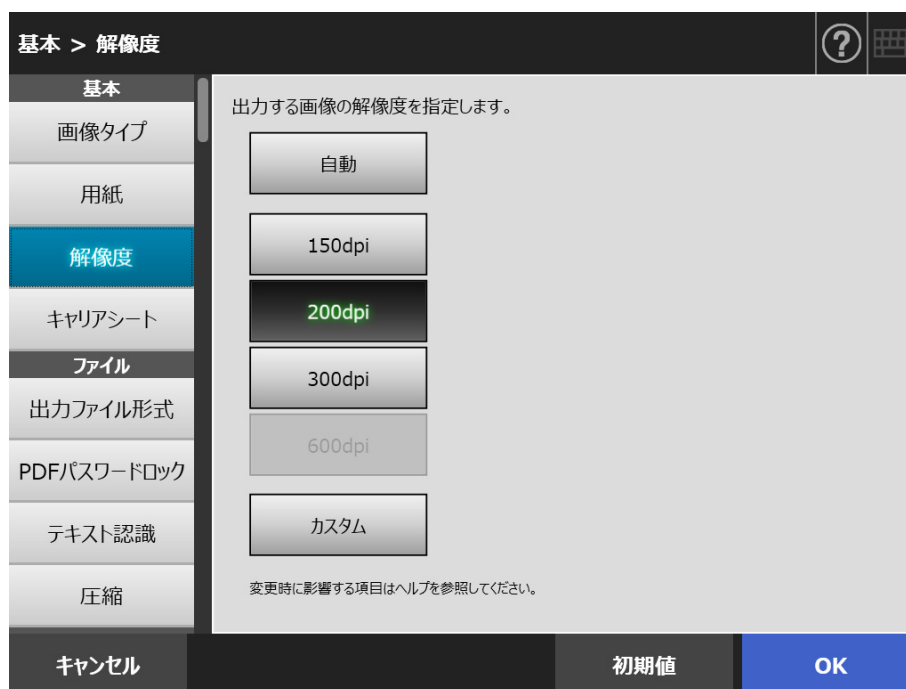
用紙サイズに「カスタム」を選択すると、スキャン画像の用紙サイズをお好みの大きさに指定できます。

5.8.4 出力する解像度を設定する

解像度によって、スキャン画像が以下のように変化します。

項目	解像度が高い場合	解像度が低い場合
読み取り速度	遅い	速い
読み取り品質	高品質	低品質
データサイズ	大きい	小さい

1. 読み取り設定画面で「基本」の「解像度」を選択します。
⇒「解像度」画面が表示されます。
2. 解像度を選択します。



3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.5 A3 キャリアシートを設定する

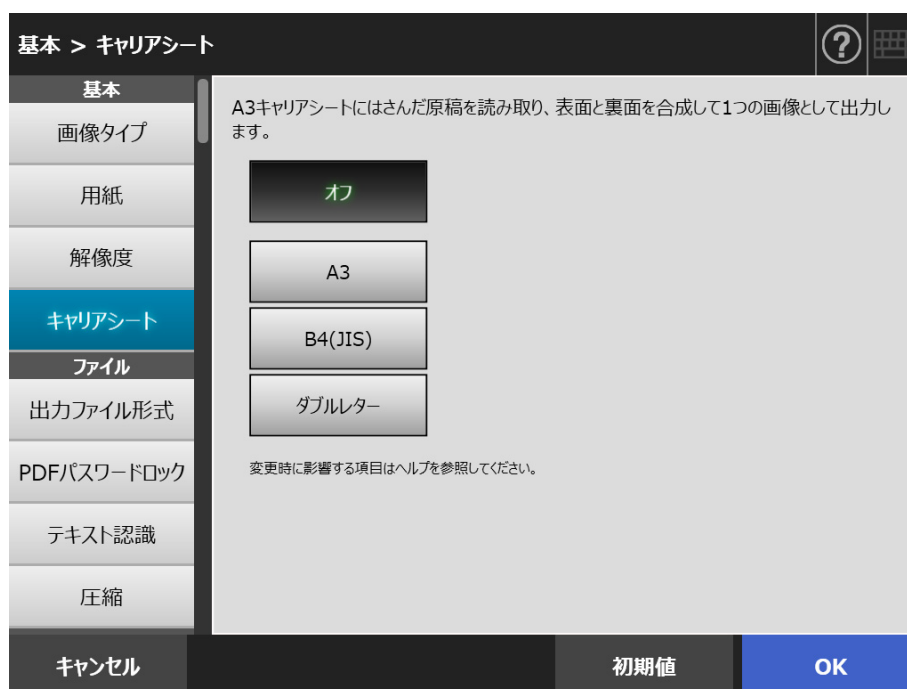
A3 キャリアシートを使用するかどうかを設定します。

また、A3 キャリアシートを使用する場合、読み取った原稿を出力するときの用紙サイズを設定します。

1. 読み取り設定画面で「基本」の「キャリアシート」を選択します。

⇒「キャリアシート」画面が表示されます。

2. A3 キャリアシートを使用するかどうかと、使用の場合は出力する用紙サイズを選択します。



3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.6 ファイル形式を設定する

スキャン画像のファイル形式を設定します。
 ファイル形式によって、設定できない読み取り設定項目があります。

設定項目	PDF(*1)	PDF/A(*1)	JPEG	TIFF(*1)
テキスト認識	○	○	—	—
PDF パスワードロック	○	—	—	—
圧縮	○(*2)	○(*2)	○	○(*2)

○：設定可 —：設定不可

(*1): シングルページおよびマルチページで出力できます。

(*2): 画像タイプが「自動判別」、「グレースケール」、または「カラー」のときに設定できます。

また、ファイル形式によって、圧縮方法が以下のように異なります。

画像タイプ	読み取り原稿	出力ファイル形式		
		PDF、PDF/A	JPEG	TIFF
自動判別	カラー	JPEG または 高圧縮 PDF	JPEG	JPEG
	グレースケール	JPEG	JPEG	JPEG
	二値白黒	MMR	—	MMR
カラー	カラー グレースケール 二値白黒	JPEG または 高圧縮 PDF	JPEG	JPEG
グレースケール	カラー グレースケール 二値白黒	JPEG	JPEG	JPEG
二値白黒	カラー グレースケール 二値白黒	MMR	—	MMR

—：設定不可

ヒント

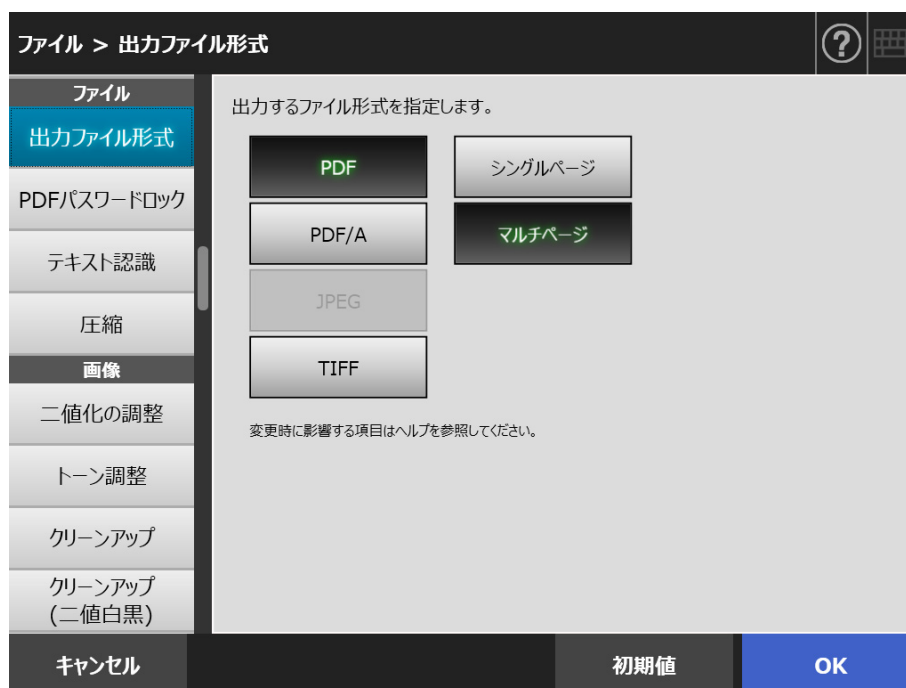
PDF を選択した場合、高圧縮にするかどうか選択できます。高圧縮にした場合、文字部分と背景部分を分離して、背景部分を圧縮します。そのため、文字ベースの原稿を読み取ると、文字がきれいなままファイルサイズを小さくできます。

ただし、以下の点に注意してください。

- 写真や図などは、背景とみなされて高圧縮されるため、画像が劣化します。
- 写真などの画像の読み取りには、適していません。
- コントラストが高くなる傾向があります。

1. 読み取り設定画面で「ファイル」の「出力ファイル形式」を選択します。

⇒ 「出力ファイル形式」画面が表示されます。

2. 出力ファイル形式を選択します。**3. [OK] ボタンを押します。**

⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.7 PDF パスワードロックを設定する

ファイル形式が「PDF」の場合、PDF ファイルにパスワードを設定できます。

重要

PDF ファイルにパスワードを設定した場合、パスワードを入力しないとファイルを開くことができません。ご注意ください。

1. 読み取り設定画面で「ファイル」の「PDF パスワードロック」を選択します。
⇒「PDF パスワードロック」画面が表示されます。
2. パスワードを設定するかどうかと、設定する場合はパスワードを入力します。

ファイル > PDFパスワードロック

基本

画像タイプ

用紙

解像度

キャリアシート

ファイル

出力ファイル形式

PDFパスワードロック

テキスト認識

圧縮

PDFパスワードロックの有無を指定します。

オフ

パスワード

確認パスワード

キャンセル 初期値 OK

3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.8 スキャン画像を文字が検索できる PDF ファイルにする

ファイル形式が「PDF」または「PDF/A」の場合、読み取る原稿の文字列を自動的に認識して、検索可能な PDF ファイルを作成します。

重要

検索可能な PDF ファイルを出力する場合、処理に時間がかかります。

1. 読み取り設定画面で「ファイル」の「テキスト認識」を選択します。

⇒「テキスト認識」画面が表示されます。

2. 「検索可能な PDF 出力」で、「する」を選択します。

ファイル > テキスト認識

検索可能なPDF出力、およびマーカー文字列認識を指定します。

検索可能なPDF出力 ☐ しない

マーカー文字列認識

マーカー文字列編集 ☐ しない

テキスト認識する言語

テキスト認識するページ指定

開始ページ 終了ページ

1 ≤ 開始ページ ≤ 終了ページ ≤ 999

キャンセル 初期値 OK

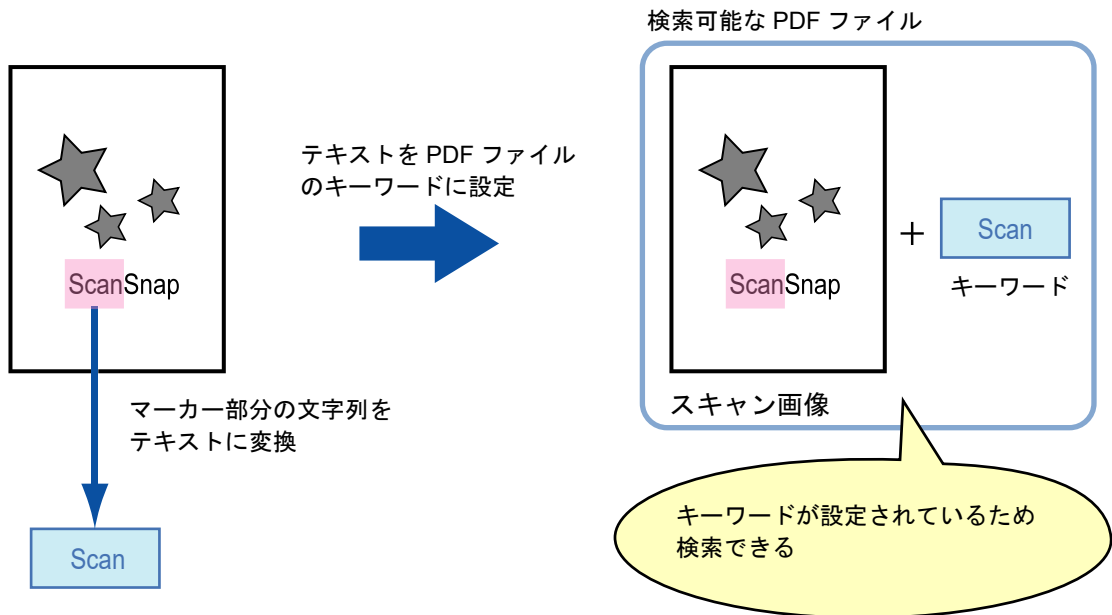
3. 「テキスト認識する言語」で、原稿の文字列をテキスト認識するときの言語を選択します。
4. 「テキスト認識するページ指定」で、検索可能にするページの範囲を選択します。
5. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.9 PDF ファイルにキーワードを設定する

ファイル形式が「PDF」または「PDF/A」の場合、白黒原稿のタイトルなどの文字列をPDFファイルのキーワードに設定して、PDFファイルの検索に利用できます。

キーワードにしたい文字列を覆うように半透明の水性蛍光ペンで線を引き、その原稿を読み取ると、線を引いた文字列がテキスト認識されて、PDFファイルのキーワードに設定されます。

以降、水性蛍光ペンで引いた線を「マーカー」、水性蛍光ペンを「マーカーペン」と表記します。



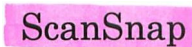
マーカーは、白黒原稿に以下のように引いてください。

- 半透明のマーカーペン（市販品で可）を使用してください。
- 推奨するマーカーの色と濃さは、以下のとおりです。

ピンク	イエロー	ブルー	グリーン
ScanSnap	ScanSnap	ScanSnap	ScanSnap

- 1つのマーカーは、1行（横書き）または1列（縦書き）の文字列に、まっすぐに引いてください。
- サポート範囲のマーカーのサイズは、以下のとおりです。
最小サイズ：短辺 3mm × 長辺 10mm
最大サイズ：短辺 20mm × 長辺 150mm
- 色の薄いマーカーペンを使用すると、マーカーが検出されない場合があります。
- 1ページに使用するマーカーの色は、1色にしてください。
- キーワードにする文字列の上下左右が、完全に覆われるようにマーカーを引いてください。

なお、マーカー全体の色が均一になるように引いてください。

良い例	悪い例 1 (塗り残しがある)	悪い例 2 (色が不均一)
		

- マーカーの数は、1 ページにつき 10 か所以下にしてください。

重要

- 以下の原稿に対しては、マーカー部分の文字列をキーワードとして設定できません。
 - カタログ、パンフレットなどのカラー原稿
 - 2 色以上のマーカーペンが使用されている原稿
 - マーカー以外の色が付いている原稿（マーカーペン以外のペンが使われている場合や、原稿がよごれている場合）
 - 1 ページに多数のマーカーが存在する原稿
- 以下に該当するマーカー部分の文字列は、キーワードとして設定できない場合があります。
 - マーカーのサイズがサポート範囲外の場合
 - 特殊なマーカーの引き方をした場合（斜めに引くなど）
 - 複数のマーカーが密集している場合
 - マーカーペンの色が薄い、または色がかすれている場合

ScanSnap

- 複数の文字列にマーカーを引く場合は、マーカー同士の間隔を 5mm 以上空けてください。マーカー同士の間隔が狭すぎると、複数のマーカーがつながって、1 つのマーカーとして検出される場合があります。
- 以下の場合、マーカー周辺の文字列がキーワードとして設定される場合があります。
 - マーカーが上下（横書きの場合）または左右（縦書きの場合）の行に重なっている場合
- 以下の場合、マーカーが引かれていない文字列が、キーワードとして設定される場合があります。
 - カタログ、パンフレットなどのカラー原稿
 - 文字 / 図 / 絵 / 表 / 線などに色が付いている原稿
 - キーワードにする文字列以外に、マーカーを引いた部分が存在する原稿
 - よごれている原稿
 - マーカーで囲まれた文字列が存在する原稿

ヒント

- 正しくキーワードを設定できないときは、解像度を上げて読み取ると、キーワードを設定できる場合があります。
- PDF ファイルに設定したキーワードは、Adobe Acrobat の文書のプロパティから確認できます。

PDF ファイルにキーワードを自動設定する場合は、以下の手順で設定を変更します。

重要

- 検索可能な PDF ファイルを出力する場合、処理に時間がかかります。
- 原稿内の複数箇所で、同じ文字列にマーカーが引かれている場合は、PDF ファイルに同じキーワードが複数追加されます。
- キーワードとして追加する文字数の上限は、複数のキーワード間の区切り文字を含め、255 文字です。
- Adobe Acrobat および Adobe Reader でキーワードを確認すると、追加されたキーワードの先頭と末尾に「"」が表示される場合があります。

1. 読み取り設定画面で「ファイル」の「テキスト認識」を選択します。
⇒「テキスト認識」画面が表示されます。
2. 「マーカー文字列認識」で、「先頭マーカーだけ」または「全マーカー」を選択します。

ファイル > テキスト認識

検索可能なPDF出力、およびマーカー文字列認識を指定します。

検索可能なPDF出力 ☐ しない

マーカー文字列認識 しない

マーカー文字列編集 ☐ しない

テキスト認識する言語 日本語

テキスト認識するページ指定 先頭ページだけ

開始ページ 終了ページ

1 ≤ 開始ページ ≤ 終了ページ ≤ 999

キャンセル 初期値 OK

ヒント

原稿のカラー白黒判定については、「5.8.2 画像タイプを設定する」(P.277) を参照してください。

3. 「マーカー文字列編集」で、認識したマーカー部分の文字列を、あとで編集できるようにするかを選択します。

管理者で非同期送信の場合、マーカー部分の文字列は編集できません。

ヒント

スキャン画像をメール送信 / FAX / 印刷 / 保存するときに、「表示&編集」画面が表示されてから、マーカー部分の文字列を編集するための画面が表示され、キーワードにする文字列を編集できるようになります。

4. 「テキスト認識する言語」で、原稿の文字列をテキスト認識するときの言語を選択します。
5. 「テキスト認識するページ指定」で、テキスト認識の対象とするページの範囲を選択します。
6. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.10 圧縮率を設定する

「5.8.2 画像タイプを設定する」(P.277) で「自動判別」、「グレースケール」、または「カラー」を選択した場合に、スキャン画像の圧縮率を設定できます。

写真や図などの原稿の場合は、圧縮率を高くすると、ファイルサイズを小さくできます。

スキャン画像は、圧縮率によって、以下のように変化します。

	圧縮率が高い場合	圧縮率が低い場合
品質	低品質	高品質
ファイルサイズ	小さい	大きい

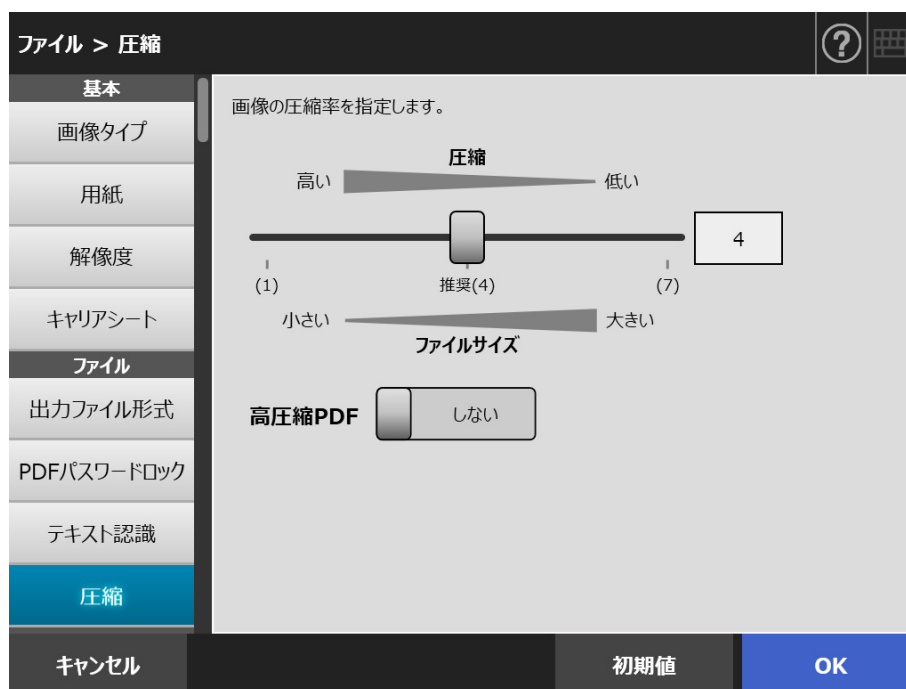
1. 読み取り設定画面で「ファイル」の「圧縮」を選択します。

⇒「圧縮」画面が表示されます。

2. 圧縮率を選択します。

圧縮率が低いほどファイルサイズが大きく、スキャン画像の品質が高くなります。

「5.8.6 ファイル形式を設定する」(P.281) で PDF を選択した場合に、「高圧縮 PDF」が有効になり、高圧縮できます。



3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

カラー原稿 1 枚を、片面で以下のように読み取ったときのファイルサイズの目安を示します。

原稿サイズ：A4（一般カタログ）

ファイル形式：PDF

用紙サイズ指定：A4

- 「カラー」の場合のファイルサイズ（バイト）の目安

解像度	圧縮率							
	1	2	3	4	5	6	7	高圧縮 PDF
50dpi	18.8K	24.8K	30.1K	41.5K	52.4K	80K	108K	35.7K
150dpi	101K	114K	139K	190K	253K	389K	538K	84K
200dpi	167K	180K	245K	336K	427K	679K	945K	117K
300dpi	339K	416K	580K	805K	1.04M	1.69M	2.36M	138K
600dpi	1.68M	1.97M	2.42M	3.68M	5.09M	9.06M	12.3M	176K

- 「グレースケール」の場合のファイルサイズ（バイト）の目安

解像度	圧縮率							
	1	2	3	4	5	6	7	高圧縮 PDF
50dpi	19.5K	23K	27.9K	37.2K	45.9K	65.2K	79.3K	—
150dpi	85.3K	100K	122K	164K	206K	297K	368K	—
200dpi	140K	171K	209K	285K	359K	524K	642K	—
300dpi	305K	418K	513K	717K	899K	1.28M	1.55M	—
600dpi	1.41M	1.68M	2.09M	3.08M	4.09M	6.21M	7.21M	—

- 「二値白黒」の場合のファイルサイズ（バイト）の目安

解像度	圧縮率は指定できません
50dpi	7.48K
150dpi	16.3K
200dpi	25.5K
300dpi	57.1K
600dpi	262K

5.8.11 二値化の方法を調整する

スキャン画像を二値白黒で出力するときの感度を設定できます。
背景の暗い原稿からクリアな画像を出力できます。

1. 読み取り設定画面で「画像」の「二値化の調整」を選択します。

⇒「二値化の調整」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。



3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.12 スキャン画像の画質を調整する（トーン調整）

スキャン画像の画質を調整します。

標準的、ソフト（やわらかめ）、シャープ（はっきり）、明るめといった画質に調整できます。

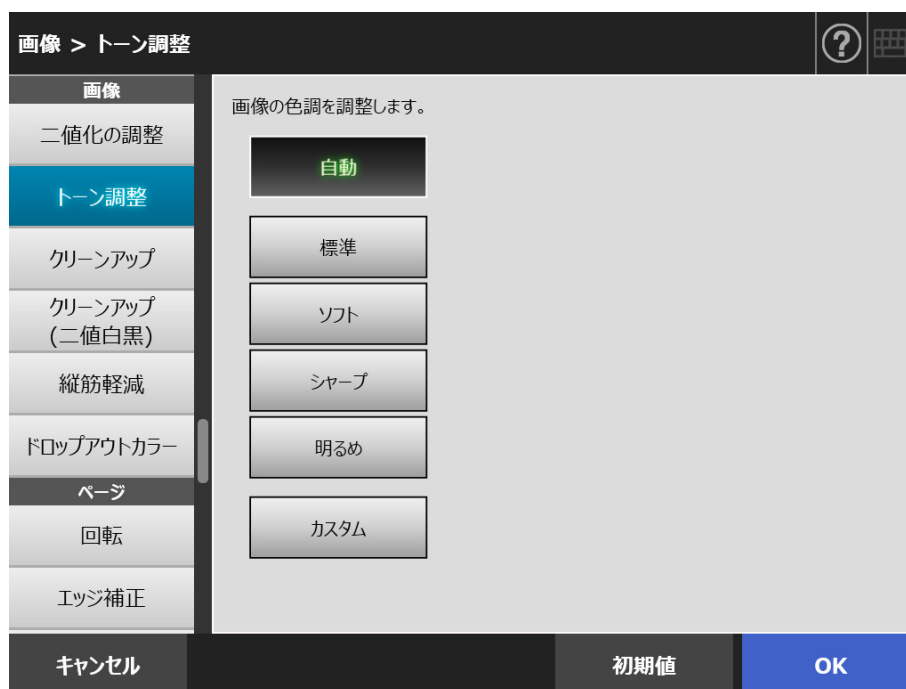
また、「カスタム」を選択することで、手動で以下の画質が調整できます。

- 明るさ
階調域全域にわたり、均等に明るさ（明度）を調整できる
- コントラスト
明暗をはっきりさせたり、やわらげたりできる
- シャドウ
薄い文字の原稿で文字を濃くできる
- ハイライト
白地の原稿の背景明度を調整できる
- ガンマ
階調中間域の明るさ（明度）を調整できる

1. 読み取り設定画面で「画像」の「トーン調整」を選択します。

⇒ 「トーン調整」画面が表示されます。

2. 画像の色調を選択します。



3. 手順2で「カスタム」を選択した場合は、表示された設定項目で「明るさ」、「コントラスト」、「シャドウ」、「ハイライト」、「ガンマ」を設定します。

4. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.13 スキャン画像を補正する（クリーンアップ）

画像処理により、スキャン画像の補正を行います。
画像タイプによって、設定項目が異なります。

■ 画像タイプが「カラー」および「グレースケール」の場合

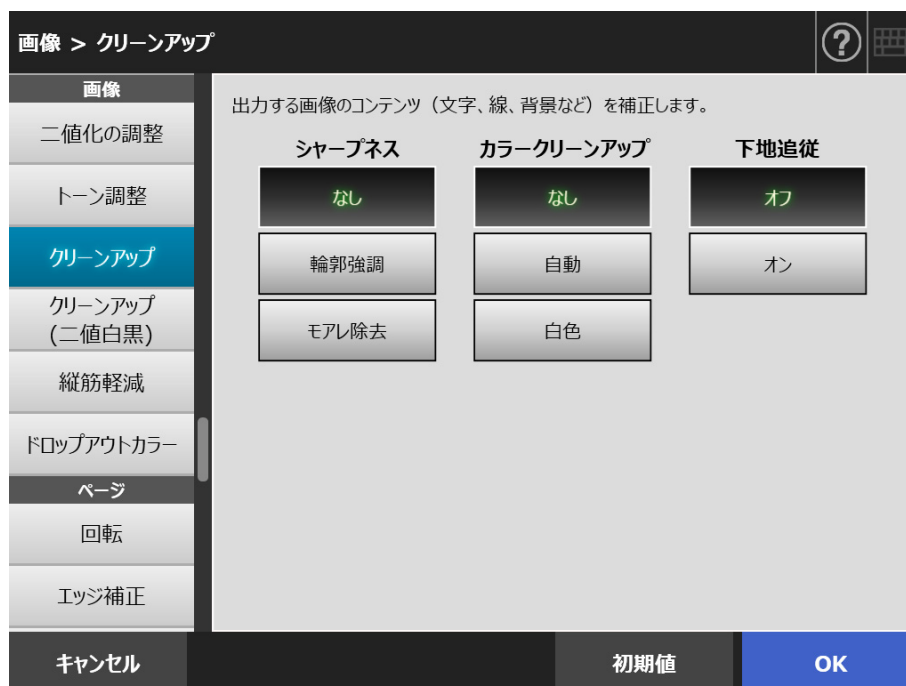
以下の画像処理を設定できます。

- シャープネス
文字や線画の輪郭を強調したり、モアレ（干渉縞）を低減できる
- カラークリーンアップ
画像の背景部を平滑化し、色ムラ、濃度ムラを抑える
- 下地追従
背景部が白になるようにスレッシュホールド（しきい値）を調整できる

1. 読み取り設定画面で「画像」の「クリーンアップ」を選択します。

⇒「クリーンアップ」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。



3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

■ 画像タイプが「二値白黒」の場合

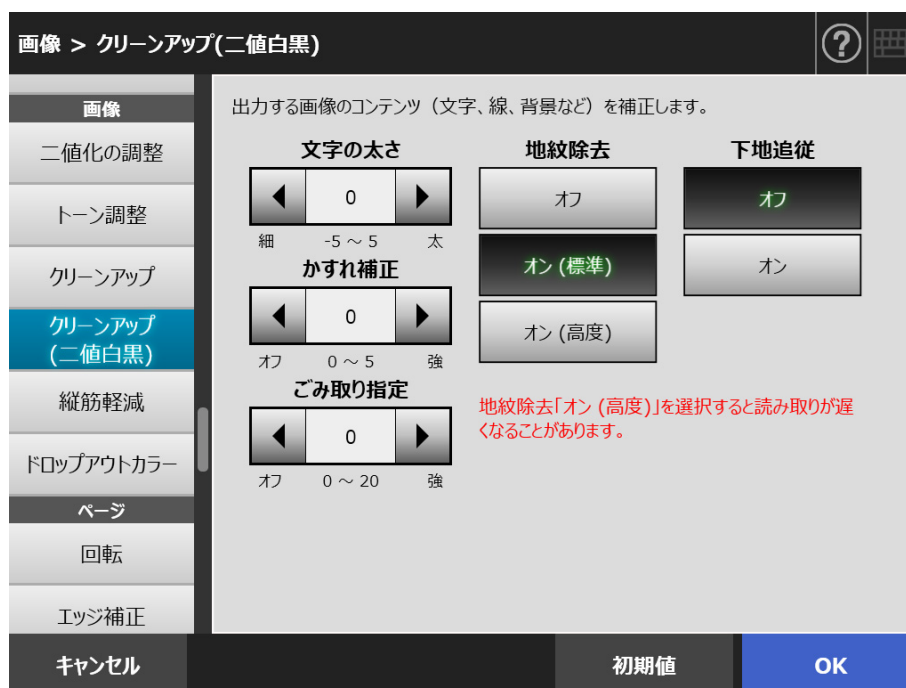
以下の画像処理を設定できます。

- 文字の太さ
文字や線画の太さを補正できる
- かすれ補正
かすれを補正できる
- ごみ取り指定
ノイズ（背景部のドット状のごみ）を取り除く
- 地紋除去
背景部に印刷された文字や模様などのパターン（地紋）を取り除く
- 下地追従
背景部が白になるようにスレッシュホールド（しきい値）を調整できる

1. 読み取り設定画面で「画像」の「クリーンアップ（二値白黒）」を選択します。

⇒「クリーンアップ（二値白黒）」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。



3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

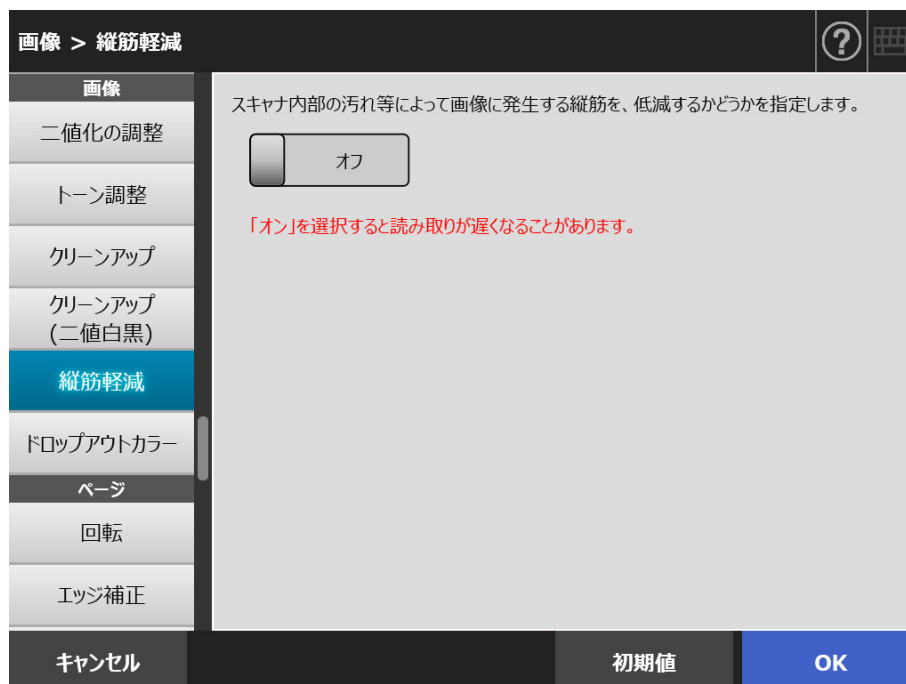
5.8.14 スキャン画像の縦筋を軽減する

スキャナ内部のよごれなどが原因で発生する、スキャン画像の縦筋を低減するかどうかを設定します。

1. 読み取り設定画面で「画像」の「縦筋軽減」を選択します。

⇒ 「縦筋軽減」画面が表示されます。

2. スキャン画像の縦筋を低減するかどうかを設定します。



3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

重要

本機能を有効にしてもスキャン画像の縦筋が目立つ場合は、スキャナの LCD カバーを開き、内部のガラスを清掃してください。詳細は、「[6.3 スキャナ内部を清掃する](#)」(P.338)を参照してください。

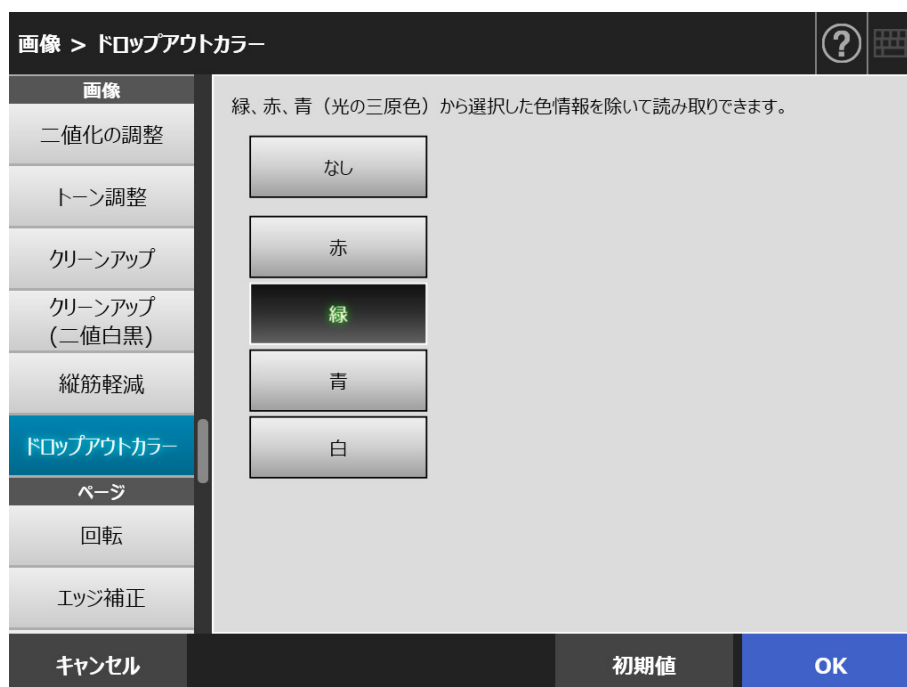
5.8.15 スキャン画像の色情報を取り除く（ドロップアウトカラー）

読み取り時に、赤、緑、青（光の3原色）の色情報を取り除きます。
例えば、原稿に黒い文字と緑色の枠がある場合、黒い文字だけを読み取ります。
ここでは、色情報を取り除くかどうかと、取り除く場合の取り除く色を設定します。

重要

暗い色（明度が低い色）の色情報は、取り除かれたいことがあります。

1. 読み取り設定画面で「画像」の「ドロップアウトカラー」を選択します。
⇒「ドロップアウトカラー」画面が表示されます。
2. 色情報を取り除くかどうかと、取り除く場合は取り除く色を選択します。



3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.16 スキャン画像の向きを補正する

自動的にスキャン画像を回転して、向きがバラバラの原稿の向きを補正できます。

1. 読み取り設定画面で「ページ」の「回転」を選択します。

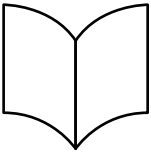
⇒「回転」画面が表示されます。

2. 読み取った画像の回転の向きと、とじ方向を選択します。



両面読み取りをする場合で、ページを回転する角度を設定したときは、とじ方向を設定できます。

以下に、とじ方向と読み取ったスキャン画像の出力結果について示します。

とじ方向	スキャン画像の出力結果
右 / 左とじ 	左右見開き（長辺を中心とした見開き）で書かれた原稿を、両面読み取りする場合に選択します。 読み取った原稿が、そのままの向きで出力されます。 原稿 表面 裏面 ABC DEF ↑ 原稿セット方向 → 出力結果 表面 裏面 ABC DEF
上 / 下とじ 	上下見開き（短辺を中心とした見開き）で書かれた原稿を、両面読み取りする場合に選択します。 読み取った原稿が、表面はそのままの向きで出力され、裏面は180度回転して出力されます。 原稿 表面 裏面 ABC DEF ↑ 原稿セット方向 → 出力結果 表面 裏面 ABC DEF ← 180度回転

3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

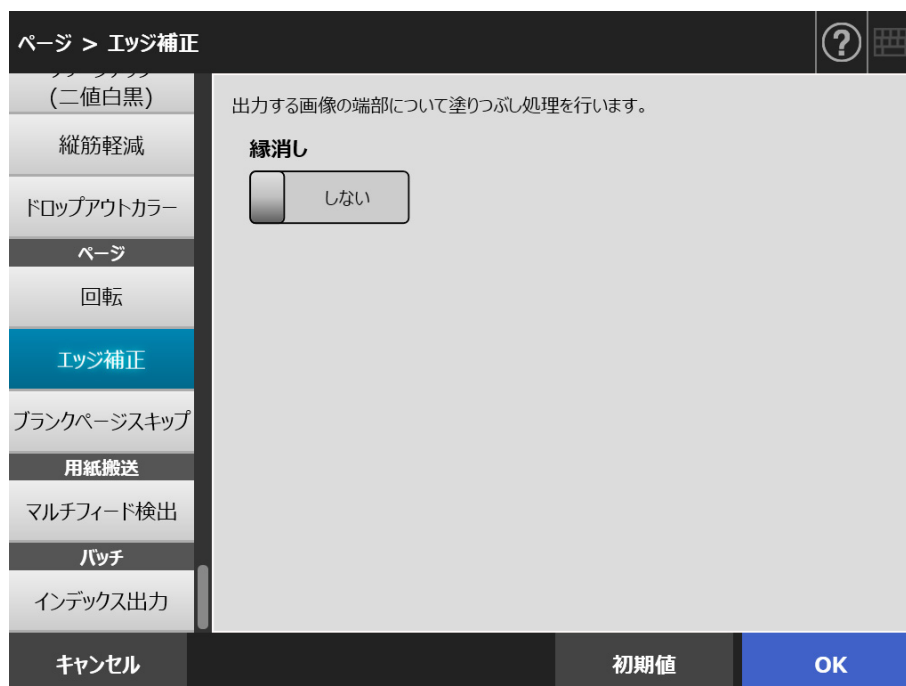
スキャン画像が誤って補正された場合は、表示&編集詳細画面で修正できます。
詳細は、「[5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する](#)」(P.309)を参照してください。

5.8.17 スキャン画像の縁消しをする（エッジ補正）

縁消し機能を利用して、読み取りたくない外側の不要な部分を指定した色で塗りつぶすことで、スキャン画像全体の見栄えをよくします。
ここでは、スキャン画像の縁消しをするかどうかと、縁消しをする場合の塗りつぶす色と領域を設定します。
なお、縁消しをする場合としない場合の原稿の読み取り範囲は、以下のとおりです。

縁消し	原稿の読み取り範囲
しない	原稿 スキャン画像
する	原稿 スキャン画像 原稿のふち 塗りつぶし幅 塗りつぶし幅

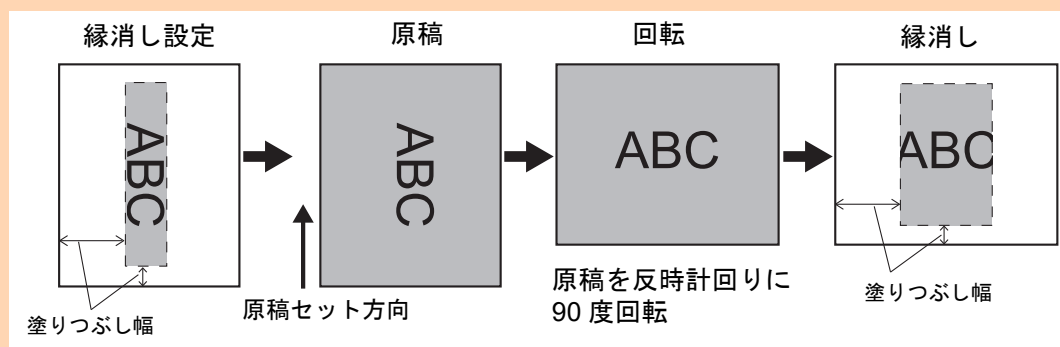
1. 読み取り設定画面で「ページ」の「エッジ補正」を選択します。
⇒「エッジ補正」画面が表示されます。
2. 縁消しをするかどうかと、縁消しをする場合は、表示された設定項目で塗りつぶす色と領域を設定します。



3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

重要

原稿を回転する設定になっている場合、原稿が回転したあとに、縁消しされます。以下に、「回転」画面で「自動」または「90度（反時計回り）」を選択した場合の例を示します。



5.8.18 スキャン画像から白紙ページを削除する

読み取ったスキャン画像から、不要な白紙ページを自動的に取り除きます。
例えば、両面原稿と片面原稿が混在した状態で、両面読み取りすると、片面原稿の裏面（白紙ページ）だけを取り除いて読み取られます。

1. 読み取り設定画面で「ページ」の「ブランクページスキップ」を選択します。
⇒「ブランクページスキップ」画面が表示されます。
2. 白紙ページを検出して削除するかどうかと、削除する場合は白紙ページを判定する「感度」を設定します。



3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.19 マルチフィードを検出する

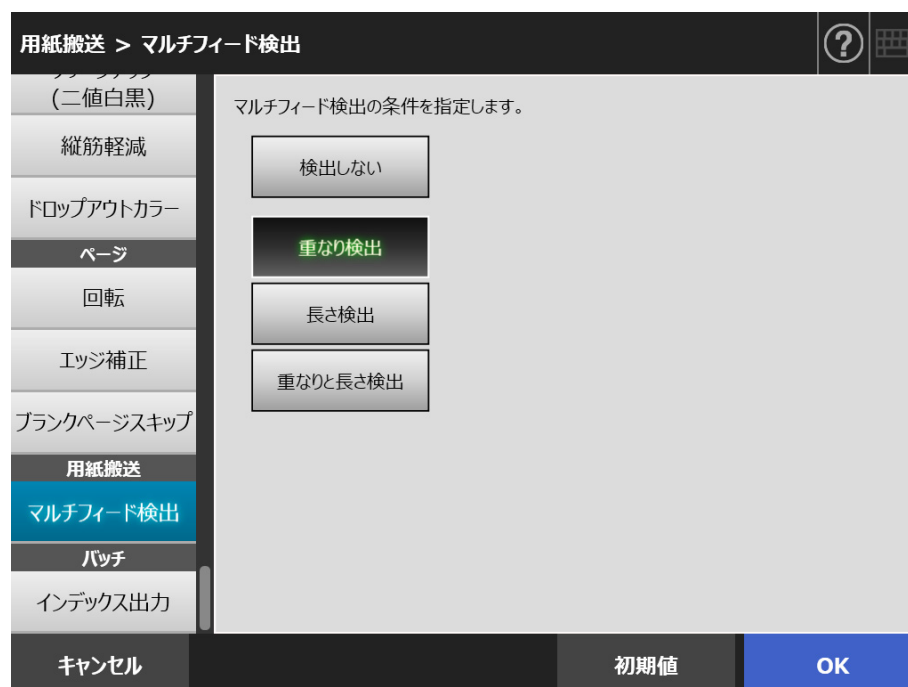
マルチフィードが検出された場合に、読み取りを中止して、エラーメッセージが表示されるように設定できます。

マルチフィードは、原稿の重なり、または長さで検出されます。

ここでは、マルチフィード検出をするかどうかと、検出する場合の検出方法を設定します。

マルチフィードを検出する原稿の条件については、「[A.5 マルチフィードの検出条件](#)」(P.398)を参照してください。

1. 読み取り設定画面で「用紙搬送」の「マルチフィード検出」を選択します。
⇒「マルチフィード検出」画面が表示されます。
2. マルチフィードを検出するかどうかと、検出する場合は検出方法を選択します。



3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 入力内容が設定されます。

5.8.20 インデックス情報を出力する

インデックス情報は、読み取り結果を出力したファイルです。

インデックス情報を出力するかどうかを設定します。

また、原稿上のバーコードを読み取って、その結果をインデックス情報ファイルに出力できます。

検出できるバーコードは、1 ページに 1 つです。複数のバーコードを検出する場合は、SDK（開発キット）を使用してアドインアプリケーションを作成してください。

使用できるバーコードの種類と検知条件については、「[D.5 バーコードの種類と検知条件](#)」（P.420）を参照してください。

1. 読み取り設定画面で「バッチ」の「インデックス出力」を選択します。

⇒「インデックス出力」画面が表示されます。

2. 各項目を設定します。

バッチ > インデックス出力

(二値白黒)

縦筋軽減

ドロップアウトカラー

ページ

回転

エッジ補正

ブランクページスキップ

用紙搬送

マルチフィード検出

バッチ

インデックス出力

キャンセル

初期値

OK

インデックス情報の出力を指定します。

しない

原稿上のバーコードを読み取って、その結果をインデックスファイルに出力します。

しない

変更時に影響する項目はヘルプを参照してください。

3. [OK] ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

■ インデックス情報ファイル形式

ファイル名

インデックス情報ファイルのファイル名は、以下のように作成されます。

ファイル名 . 画像タイプの拡張子 .index.xml

例) 読み取りファイル名が「a.pdf」の場合

a.pdf.index.xml

ファイル形式

ここでは、初期値の出力項目を例に説明します。

```
<?xml version = "1.0" encoding = "utf-8"?>
<root>
<page>
<item name = "Stream No." value = " ストリーム No." />
<item name = "Document No." value = " ドキュメント No." />
<item name = "Total pages in current document" value = " ドキュメント内総ページ数
"/>
<item name = "Page Number in Document" value = " ドキュメント内ページ番号 " />
<item name = "Page number" value = " ページ番号 " />
<item name = "Actual page number" value = " 実際のページ番号 " />
<item name = "Date&Time" value = " 日付と時刻 " />
<item name = "Scanner name" value=" スキャナ名 " />
<item name = "User name" value=" ユーザー名 " />
<item name = "Full Path" value = " ファイル名（フルパス） " />
<item name = "File name" value = " ファイル名 " />
<item name = "Device name" value=" 装置名 " />
<item name = "Barcode" value = " バーコード認識結果 " />
<item name = "Barcode type" value = " バーコード種類 " />
</page>
.
.
</root>
```

- UTF-8（8-bit UCS Transformation Format）で出力します。
- ページ単位の情報は「page」エレメントで区切られます。ページ内各項目情報は「item」エレメントで区切られます。「item」エレメントの「name」属性の内容は該当項目のXML項目名です。「value」属性に格納した内容が該当項目の値です。

出力項目と順序

以下の項目が、固定の順序で出力されます。

項目名	説明	XML 項目名
ストリーム No.	ストリーム番号 画像を出力したストリームの番号が出力されます。 常に「1」が出力されます。	Stream No.
ドキュメント No.	ドキュメント番号	Document No.
ドキュメント内 総ページ数	ドキュメント内の総ページ数が出力されます。	Total pages in current document
ドキュメント内 ページ番号	ドキュメント内のページ番号が出力されます。 ただし、シングルページ形式のファイルの場合は、常に「1」が出力されます。	Page Number in Document
ページ番号	先頭からのページ番号	Page number
実際のページ番号	ブランクページスキップで読み飛ばされたページを含めたページ番号が出力されます。 「追加読み取り」を行った場合、前回の最後のページ番号から継続せず、1 から振り直されます。 最終ページがブランクページの破棄によってスキップされ、その状態で「追加読み取り」を行った場合、スキップされたページは「実際のページ番号」にカウントされません。	Actual page number
日付と時刻	読み取った日付および時刻 書式は、以下の形式で出力します。 yyyy/mm/dd HH:mm:ss	Date&Time
スキャナ名	読み取ったスキャナのスキャナ名（「装置設定」の「スキャナ名」で設定したもの）	Scanner name
ユーザー名	読み取ったユーザーのユーザー名	User name
ファイル名（フルパス）	ファイル名（フルパス）	Full Path
ファイル名	ファイル名	File name
装置名	読み取ったスキャナの装置名（N7100 が固定で出力されます）	Device name
バーコード認識 結果	バーコード認識文字列。 先頭 128 バイト。	Barcode
バーコード種類	認識したバーコードの種類	Barcode type

5.9 「表示&編集」画面の表示を設定する

スキャン画像を確認する「表示&編集」画面を表示するかどうか設定します。
 「表示&編集」画面でスキャン画像を確認できます。スキャン画像を1枚選択して表示された表示&編集詳細画面で、スキャン画像を編集できます。詳細は、「[5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する](#)」(P.309)を参照してください。
 「表示&編集」画面を表示するかどうかは、以下の画面で設定できます。

- 「メール送信」画面
- 「FAX 送信」画面
- 「印刷」画面
- 「保存」画面
- 「ジョブメニュー」画面

重要

「ジョブメニュー」画面では、「表示&編集」の操作が無効の場合、「表示&編集」画面を表示するかどうかは設定できません。

ここでは、「メール送信」画面で設定する方法について説明します。

1. 「メール送信」画面の「表示&編集」の選択域を押します。

⇒ 選択域を押すたびに、「表示&編集」画面を表示する / しないが切り替わります。

「表示&編集」の「する」と「しない」では、操作の流れが異なります。
 メール送信を例に説明します。



アシストスキャンを実行すると、再度、原稿を読み取り、編集した画像に差し替えられます。



「表示&編集」画面で、[送信] ボタンを押します。

メールが送信されます。

重要

「表示&編集」を「しない」にしても、以下の場合は「表示&編集」画面が表示されます。

- 読み取り処理が正常に終了しなかった場合
- 「スキャン中」画面で[キャンセル] ボタンを押して、読み取り処理を中止した場合

5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する

読み取りするときに「表示&編集」画面を表示する設定になっている場合、スキャン画像を「表示&編集」画面で確認できます。スキャン画像を1枚選択して表示された表示&編集詳細画面で、スキャン画像を編集できます。

ファイル分割された場合は、「表示&編集」画面にファイル分割された位置にセパレータの情報が表示されます。

- ファイル分割されていない場合



- ファイル分割されている場合（セパレータが表示されている場合）



5.10.1 スキャン画像のページを並べ替える

原稿を2ページ以上読み取った場合に、「表示&編集」画面に表示されたスキャン画像のページを、降順 / 昇順に並べ替えられます。

ヒント

ファイル分割されたスキャン画像の場合（セパレータが表示されている場合）、スキャン画像のページの並べ替えはできません。

1. 「表示&編集」画面で、を押して、ページを降順に並べ替えます。
2. ページを降順にした状態でを押すと、ページが元の順序（昇順）に戻ります。

5.10.2 スキャン画像を確認する

表示&編集詳細画面で、スキャン画像を1枚ずつ確認できます。

1. 「表示&編集」画面で、スキャン画像を選択します。

⇒ 表示&編集詳細画面が表示されます。



2. もう一度、スキャン画像を押します。

⇒ 表示&編集詳細画面に、スキャン画像を確認、編集できるボタンが表示されます。

3. を押して、確認するページを表示します。

■ スキャン画像の表示を変更する

表示&編集詳細画面に表示されたスキャン画像を、原寸表示したり、表示領域に合わせて表示したりできます。

ヒント

タッチパネルでは、指での操作も可能です。スキャン画像を2本の指でタッチし、拡大する場合は指と指を広げ（ズームイン）、縮小する場合は指と指を狭めます（ズームアウト）。

1. 確認するページを表示します。

2. を押して、表示を変更します。

5.10.3 スキャン画像を表示&編集詳細画面で編集する

表示&編集詳細画面で、スキャン画像を1枚ずつ編集できます。

■ スキャン画像を回転する

表示&編集詳細画面に表示されたスキャン画像を、90度単位で回転できます。
回転したスキャン画像は、回転した状態のまま、メール送信、FAX送信、印刷、またはネットワーク共有フォルダー保存されます。

ヒント

- ページを回転した時点で、スキャン画像は編集された状態となります。
- タッチパネルでは、指での操作も可能です。スキャン画像を2本の指でタッチし、指を回転（時計回り / 反時計回り）させます。

1. 回転させるページを表示します。

2.   を押して、回転します。

■ スキャン画像を削除する

表示&編集詳細画面に表示されたスキャン画像から、特定のページを削除できます。
特定のページを削除したスキャン画像は、削除された状態のスキャン画像のまま、メール送信、FAX送信、印刷、またはネットワーク共有フォルダー保存されます。

1. 削除するページを表示します。

2.  を押します。
⇒ 削除の確認メッセージが表示されます。

3. [OK] ボタンを押します。
⇒ ページが削除されます。

5.10.4 スキャン画像を「アシストスキャン」画面で編集する

アシストスキャンとは、最適な画像が得られるように、スキャン画像の調整をアシストする機能です。

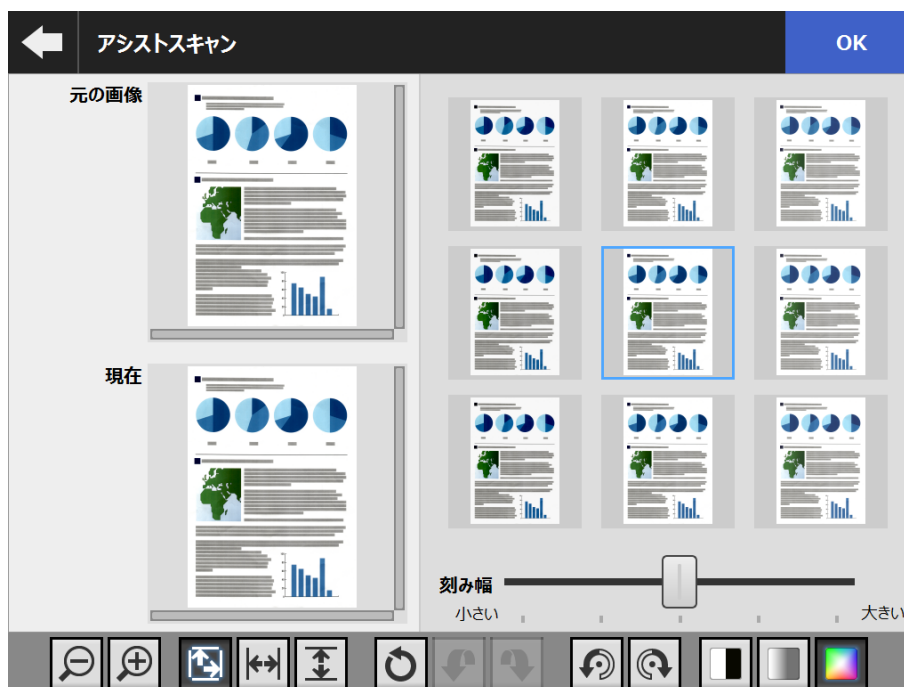
「アシストスキャン」画面を使って、新たに読み取った画像に画像処理を施しながら最適な状態に調整できます。

アシストスキャンでは、ADF 給紙シュートに複数枚原稿をセットしても、1枚ずつしか読み取れません。

ヒント

- 「アシストスキャン」画面で編集した時点で、スキャン画像は編集された状態となります。
- キャリアシートの設定が「オフ」以外の場合、アシストスキャンは実行できません。
- ファイル分割されたパッチコードシート画像の場合、アシストスキャンは実行できません。
- アシストスキャンでパッチコードシートを読み取っても、セパレータではなく、通常のスキャン画像として読み取られます。

1. 表示&編集詳細画面で、編集するページを表示します。
2.  を押します。
3. ADF 給紙シュートに画像を調整したい原稿をセットし、[OK] ボタンを押します。
 - ⇒ 読み取りが開始されます。
 - ⇒ 読み取りが完了したあと、「アシストスキャン」画面が表示されます。



4. 画像処理サンプルから最適な画像に近いサンプルを選択します。

⇒ 選択した画像が「現在」のスキャン画像に反映されます。

また、「現在」の画像を基準にして、画像処理サンプルも更新されます。

「刻み幅」を調整することで、画像処理サンプルの変化の度合いを変更できます。

ブランクページスキップを有効にしている場合、画像上にラベルが表示され、

白紙ページかどうかを確認できます。

画像タイプによって、調整できる項目が異なります。画像タイプが「二値白黒」

の場合は、「文字と線」タブおよび「背景」タブが表示されます。

⇒ 最適な画像になるまで、操作を繰り返します。

5. 最適な画像になったら、[OK] ボタンを押します。

⇒ スキャン画像を置換して、表示&編集詳細画面に戻ります。

■ スキャン画像の表示を変更する

「アシストスキャン」画面の「元の画像」および「現在」に表示されたスキャン画像を、拡大・縮小したり、表示領域に合わせて表示したりできます。

1.      を押して、表示を変更します。

■ スキャン画像を読み取り直後の状態に戻す

「アシストスキャン」画面に表示されたスキャン画像を、読み取り直後のスキャン画像に戻せます。

1.  を押して、読み取り直後の状態に戻します。

■ スキャン画像を 1 つ前の状態に戻す・やり直す

「アシストスキャン」画面に表示されたスキャン画像を、1 つ前の状態に戻したり、やり直したりできます。

1.   を押して、前の状態に戻したり、処理をやり直します。

■ スキャン画像を回転する

「アシストスキャン」画面に表示されたスキャン画像を、90 度単位で回転できます。

1.   を押して、回転します。

■ スキャン画像の画像タイプを変更する

画像タイプが「自動判別」の場合に、「アシストスキャン」画面に表示されたスキャン画像の画像タイプを変更できます。

本操作を行うと、スキャン画像は読み取り直後の状態に戻ります。

1.    を押して、画像タイプを変更します。

5.10.5 セパレータを編集する

「表示&編集」画面にセパレータが表示されている場合、分割するファイル名を編集できます。

1. 変更するセパレータの  を押します。
⇒「セパレータ文字列編集」画面が表示されます。



セパレータ文字列編集

ファイル名
[アクションファイル名] は各アクションで設定したファイル名
[アクションファイル名]-SEPARATOR0001-0001

ドキュメントカウンタ
0001

セパレータ文字列

キャンセル OK

2. セパレータ文字列の内容を変更します。
3. [OK] ボタンを押します。
⇒ セパレータ文字列が変更されます。

5.10.6 セパレータを削除する

「表示&編集」画面にセパレータが表示されている場合、セパレータを削除できます。

1. 削除するセパレータの  を押します。

⇒ 削除確認画面が表示されます。

2. [OK] ボタンを押します。

⇒ セパレータが削除されます。

5.10.7 原稿を追加して読み取る

「表示&編集」画面で、原稿を追加して読み取れます。

1. ADF 給紙シュートに原稿をセットします。

2. 「表示&編集」画面で、[追加読み取り] ボタンを押します。

⇒ 読み取りが開始されます。

読み取り中は、読み取り時の設定内容および読み取り状態（プレビュー）が切り替え表示できます。

表示されるページ数は、追加前のページ数から続きます。

読み取れる最大ページ数は、印刷の場合は 100 ページ、それ以外の場合は 999 ページです。

ブランクページスキップを有効にしている場合、白紙ページが削除されたページ数で表示されます。

白紙ページ削除された分は、最大ページ数まで追加読み取りができます。

⇒ 読み取りが完了すると、「表示&編集」画面に戻り、スキャン画像が追加されます。

ヒント

ファイル分割を設定している場合、追加読み取りは、追加読み取りのページ数分での分割ではなく、総ページ数で分割します。

例：2 ページずつで分割とし、3 ページ読み取った状態から 3 ページ追加読み取りした場合



5.10.8 キーワードとして設定するマーカ一部分の文字列を編集する

マーカ一部分の文字列を、PDF ファイルのキーワードとして設定されるように読み取った場合、テキスト認識されたマーカ一部分の文字列を編集できます。

ヒント

マーカ一部分の文字列を編集できるようにするかどうかの設定については、「[5.8.9 PDF ファイルにキーワードを設定する](#)」(P.285)を参照してください。

1. 「表示&編集」画面で、[送信] ボタンや[保存] ボタンなど、処理に応じたボタンを押します。
⇒ マーカ一部分の文字列を編集する画面が表示されます。
2. 画面に表示されているマーカ一部分の文字列を編集します。
3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 編集した文字列がPDF ファイルのキーワードとして設定されます。

5.11 送信動作を参照する

5.11.1 完了した送信動作（ユーザーログ）の詳細情報を参照する

ログインユーザーの送信動作が参照できます。

送信動作の一覧は操作順に表示されます。

「タイムゾーン」画面や「日付 / 時刻」画面で設定を変更しても、表示順は変わりません。

1. 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で、[送信動作] ボタンを押します。

ヒント

「ジョブメニュー」画面の [送信動作] ボタンは、 を押すと表示されます。

⇒ 「送信動作」画面が表示されます。

2. 「完了」タブを押します。



送信動作画面のスクリーンショット。タイトルバーには「送信動作」があり、右側にはヘルプアイコン（？）とメニューアイコン（≡）があります。タブバーには「完了」と「実行中」があり、「完了」タブが選択されています。メイン表示領域には、時刻、結果、コード、操作、ページという5つの列を持つテーブルが表示されています。テーブルの右側にはスクロールバーがあります。下部には「更新」ボタンと「OK」ボタンがあります。

3. 詳細を参照する送信動作を選択します。

⇒ 詳細情報が表示されます。

[OK] ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

送信動作の一覧は優先度順に表示されます。

「タイムゾーン」画面や「日付 / 時刻」画面で設定を変更しても、表示順は変わりません。

「ジョブメニュー」画面の「送信動作」ボタンは、を押すと表示されます。

「実行中」タブを押します。

「送信動作」画面の「実行中」タブは、管理者の「ログイン設定詳細」画面で「送信動作の待ち合わせ」を「しない」に設定すると選択できます。

- ⇒ 選択した送信動作が中止され、一覧が更新されます。

4. 送信動作でエラーが発生している場合は、エラーの内容を確認し、対処します。
再送信する送信動作を選択し、[再送信] ボタンを押します。

ヒント

[再送信] ボタンは、管理者の「ログイン設定詳細」画面で「再送信ボタンの表示」を「する」に設定すると表示されます。[再送信] ボタンの表示方法については、[「4.6.2 ログイン設定（詳細）をする」](#)（P.93）を参照してください。

⇒ 選択した送信動作が再送信され、一覧が更新されます。

5.12 メンテナンスする

以下のメンテナンスができます。

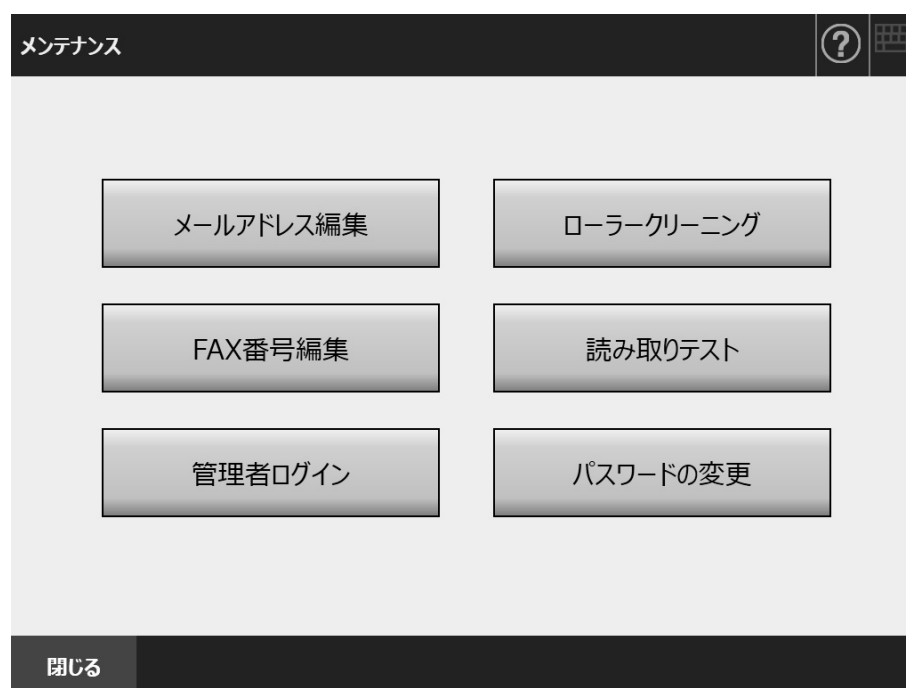
- メールアドレス台帳の編集
- FAX 番号台帳の編集
- ローラークリーニング
- 読み取りテスト
- 管理者ログイン（ログイン設定の自動ログインが有効な場合）
- パスワードの変更（ローカルアカウントでログインした場合）

1. 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で、[メンテナンス] ボタンを押します。

ヒント

「ジョブメニュー」画面の [メンテナンス] ボタンは、 を押すと表示されます。

⇒ 「メンテナンス」画面が表示されます。



2. 以下のボタンを押して、メンテナンスします。

- [メールアドレス編集] ボタン
「メールアドレス台帳」画面が表示されます。メールアドレスの追加、編集、および削除ができます。
詳細は、以下を参照してください。
[「5.4.2 メールアドレス台帳にメールアドレスを追加する」\(P.235\)](#)
[「5.4.3 メールアドレス台帳を編集する」\(P.239\)](#)
[「5.4.4 メールアドレス台帳からメールアドレスを削除する」\(P.241\)](#)

- [ローラークリーニング] ボタン
「ローラークリーニング」画面が表示されます。スキャナ内部を清掃するときのフィードローラーおよび排出ローラーの回転方法を確認できます。
詳細は、「[フィードローラー（2 か所） / 排出ローラー（2 か所）](#)」(P.341) を参照してください。
- [FAX 番号編集] ボタン
「FAX 番号台帳」画面が表示されます。FAX 番号の追加、編集、および削除ができます。
詳細は、以下を参照してください。
[「5.5.2 FAX 番号台帳に FAX 送信あて先を追加する」](#) (P.246)
[「5.5.3 FAX 番号台帳を編集する」](#) (P.248)
[「5.5.4 FAX 番号台帳から FAX 送信あて先を削除する」](#) (P.249)
- [読み取りテスト] ボタン
読み取りテストが実行されます。スキャン画像は「表示&編集」画面に表示され、確認できます。
正常に読み取られるかを確認したい場合に、読み取りテストをしてください。
詳細は、「[6.6 読み取りテストをする](#)」(P.355) を参照してください。
- [管理者ログイン] ボタン
管理者設定で自動ログインが有効になっている場合に表示されます。
「管理者ログイン」画面が表示され、管理者の画面にログインできます。
詳細は、「[4.2.1 管理者がスキャナからログインする](#)」(P.71) を参照してください。
- [パスワードの変更] ボタン
ローカルアカウントのユーザーでログインした場合に表示されます。
「パスワードの変更」画面が表示され、ログインしているユーザーのパスワードを変更できます。
詳細は、「[5.14 ユーザーのパスワードを変更する](#)」(P.333) を参照してください。

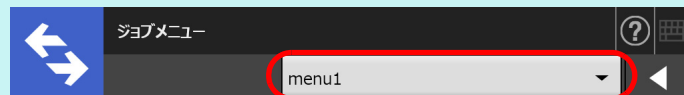
5.13 ジョブを実行する

ここでは、[Job1] ボタン～ [Job6] ボタンのジョブボタンを設定した場合の例を示します。

1. 「ジョブメニュー」画面でジョブボタンを押します。

ヒント

複数のジョブグループに属している場合、リストボタンを押して表示される「ジョブメニューリスト」画面でジョブメニューを選択すると、ジョブメニューを切り替えられます。



⇒ ジョブメッセージ画面が表示されます。

ヒント

- 「ジョブ詳細設定」画面の「メッセージ画面設定」に、タイトルおよびメッセージのどれも設定していない場合、「メッセージ表示」を「する」に設定しても「ジョブメッセージ」画面は表示されません。詳細は、「[ジョブを追加する](#)」(P.190)の[手順 5](#)を参照してください。
- 「メッセージ表示」が「しない」の場合は、「ジョブメッセージ」画面を表示せずに、読み取りが開始され、ジョブが実行されます。詳細は、「[5.13.1 「ジョブメッセージ」画面の表示を設定する](#)」(P.325)を参照してください。
- 「メッセージ表示」の操作が無効の場合は、管理者が設定した内容によって、「ジョブメッセージ」画面が表示されるかどうか異なります。

2. 「ジョブメッセージ」画面で「スキャン」ボタンを押します。

⇒ 読み取りが開始されます。

読み取りが完了すると「表示&編集」画面が表示されます。

ヒント

- 「表示&編集」が「しない」の場合、「表示&編集」画面は表示されません。
- ファイル名を変更できる設定になっている場合、読み取り開始前に「ファイル名入力」画面が表示されます。操作については、「[5.13.2 メール送信 / ファイル保存するときのファイル名を変更する](#)」(P.327)を参照してください。
- ジョブ設定で、読み取り枚数を変更する設定になっている場合、読み取り開始前に「読み取り枚数入力」画面が表示されます。操作については、「[5.13.3 読み取る枚数を確認する](#)」(P.328)を参照してください。

3. スキャン画像を確認・編集します。

「表示&編集」画面でスキャン画像を確認できます。スキャン画像を1枚選択して表示された表示&編集詳細画面で、スキャン画像を編集できます。

詳細は、「[5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する](#)」(P.309)を参照してください。

4. 「表示&編集」画面で「OK」ボタンを押します。

⇒ ジョブが実行されます。

ジョブ実行中は「実行状況」画面がリアルタイムで表示されます。

ヒント

- ジョブレポートを参照したい場合、「実行状況」画面で「ジョブレポート」ボタンを押します。ジョブレポートが表示されます。
- ジョブレポートの詳細情報を参照したい場合、「ジョブレポート」画面で機能名を選択するか、を押します。ジョブレポートの詳細が表示されます。

⇒ ジョブの実行が成功した場合、「ジョブメニュー」画面に戻ります。

ジョブの実行が失敗した場合、「実行状況」画面および「ジョブレポート」画面に「OK」ボタンが表示されます。「OK」ボタンを押して、「ジョブメニュー」画面に戻ってください。

5.13.1「ジョブメッセージ」画面の表示を設定する

ジョブの内容を確認する「ジョブメッセージ」画面を表示するかどうか設定します。

重要

「メッセージ表示」の操作が無効の場合、「ジョブメッセージ」画面を表示するかどうかは設定できません。

ここでは、[Job1] ボタン～ [Job6] ボタンのジョブボタンを設定した場合の例を示します。

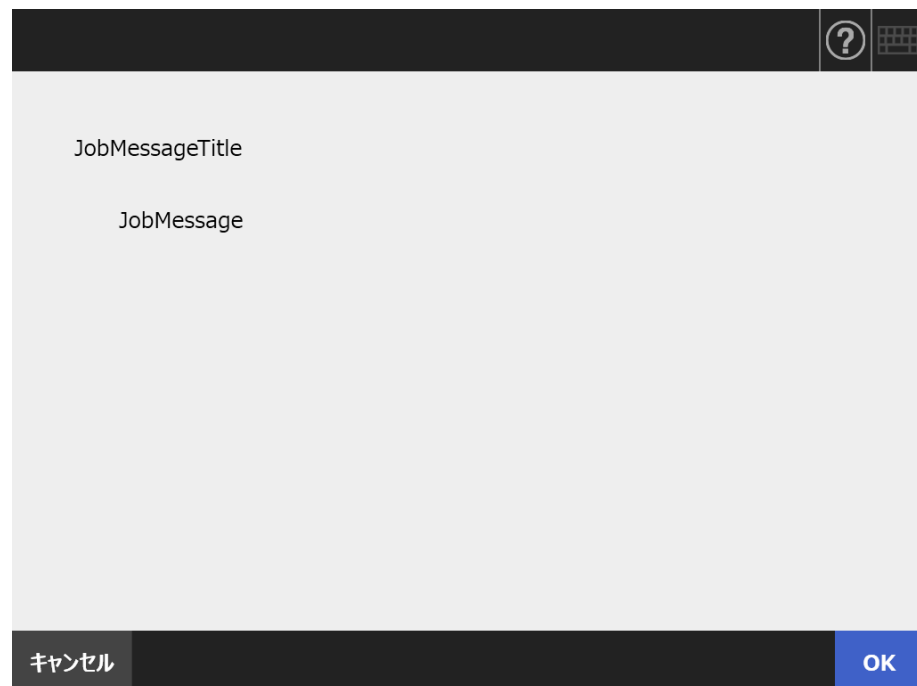
1. 「ジョブメニュー」画面で、「メッセージ表示」の選択域を押します。

⇒ 選択域を押すたびに、「ジョブメッセージ」画面を表示する / しないが切り替わります。



「メッセージ表示」の「する」と「しない」では、操作の流れが異なります。

- 「メッセージ表示」が「する」でジョブを実行する場合、「ジョブメッセージ」画面が表示されます。



ヒント

メッセージの確認後、次の処理がある場合、画面上の「OK」ボタンを押して処理を続けます。次の処理がない場合、「スキャン」ボタンを押して読み取りを開始します。

- 「メッセージ表示」が「しない」でジョブを実行する場合、「ジョブメッセージ」画面は表示されず、ジョブが実行されます。

5.13.2 メール送信 / ファイル保存するときのファイル名を変更する

ジョブ実行時に、スキャン画像をメール送信、またはファイル保存するときの名前を変更します。

ヒント

「ファイル名入力」画面を表示しない設定になっている場合はファイル名を変更できません。

1. 「ジョブメニュー」画面でジョブボタンを押します。
2. 「ファイル名入力」画面が表示されたら、スキャン画像をメール送信またはファイル保存するときの名前を入力します。

ファイル名入力

ファイル名を入力してください。

ファイル名入力

キャンセル OK

ヒント

- 連番の設定やファイル分割する設定がされている場合、初期表示されているファイル名のあとに連番が付与されます。また、画面には「ファイル名のうしろにドキュメントカウンタ / セパレータ文字列が付与されます。」や「ファイル名のうしろに連番が付与されます。」のガイダンスが表示されます。
- ファイル名を編集した場合、連番は付与されません。
- ファイル名の入力後、次の処理がある場合、画面上の [OK] ボタンを押して処理を続けます。次の処理がない場合、[スキャン] ボタンを押して読み取りを開始します。

5.13.3 読み取る枚数を確認する

ジョブ実行時に、読み取る原稿の枚数を指定して、読み取った枚数に誤りがないかを確認します。

ヒント

ジョブ設定で、以下のどれかの設定になっている場合、「読み取り枚数入力」画面は表示されません。

- 読み取り枚数をチェックしない
- 読み取り枚数をチェックするが、「読み取り枚数入力」画面を表示しない設定になっている（「ジョブ詳細設定」画面の「読み取り枚数チェック」の「ジョブごとに変更可能」チェックボックスにチェックが付いていない状態）

1. 「ジョブメニュー」画面でジョブボタンを押します。
2. 「読み取り枚数入力」画面が表示されたら、読み取る原稿の枚数を入力します。

読み取り枚数入力

スキャンする用紙枚数を入力してください。

読み取り枚数: 枚 (1-999)

キャンセル OK

3. [スキャン] ボタンを押します。

⇒ 読み取りが開始されます。

ヒント

読み取り完了後、「表示&編集」画面が表示される場合、「読み取り枚数入力」画面で指定した読み取り枚数と、実際に読み取った枚数が一致しているかどうかを、以下の部分で確認できます。



表示&編集詳細画面でページを削除した場合や、白紙ページ削除された場合でも、読み取った枚数は変更されません。

読み取り完了後、読み取り枚数を確認する設定になっている場合、以下の確認画面が表示されます。読み取り枚数を確認するかどうかを変更する場合は、管理者に連絡してください。詳細は、「[4.18.2 ジョブを設定する](#)」(P.190)を参照してください。

The screenshot shows a confirmation dialog box with a dark header bar. The main content area is light gray and contains the following text:

読み取った枚数は、以下のとおりです。

読み取り枚数： 2
指定枚数： 5

ジョブを継続する場合は"OK"、キャンセルする場合は"キャンセル"を押してください。また、追加して読み取る場合は"追加読み取り"を押してください。

At the bottom, there is a dark bar with three buttons: "キャンセル" (Cancel) on the left, "◀ 追加読み取り" (Add Reading) in the center, and "OK" on the right.

ヒント

「追加読み取り」ボタンが表示されている場合、継続して追加で原稿を読み取れます。

ジョブを実行する場合は、[OK] ボタンを押してください。

ジョブを中止してスキャン画像を削除する場合は、[キャンセル] ボタンを押してください。

5.13.4 パッチコードを使ってファイルを分割する

ジョブ機能で、パッチコードシートによるセパレーション機能をサポートしています。本機能を使用すると、複数枚の原稿の読み取りを中断しなくても、指定した原稿単位でファイルが分割されます。指定した原稿単位でファイルが分割された結果、読み取った画像がドキュメント（分割されたページごとのまとまり）として区切られます。

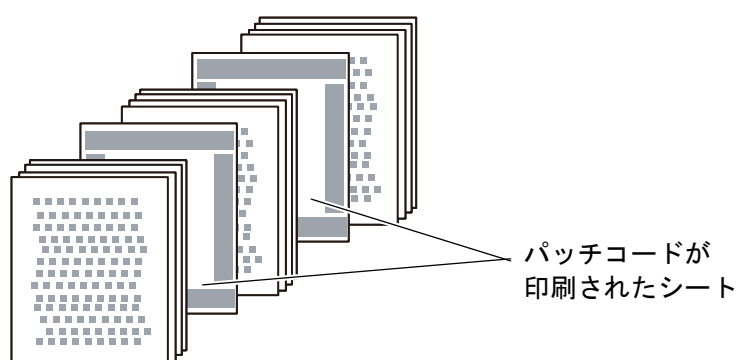
パッチコードを使ってファイルを分割するためのポイントを以下に示します。

1. 読み取り前の準備をします。

- パッチコードシートを準備します。
パッチコードシートは、A4 サイズおよびレターサイズの 2 種類の PDF ファイルが用意されています。
Admin Tool をインストールすると作成される「Network Scanner」フォルダーの「Patch Code」フォルダーから PDF ファイルを必要枚数だけ印刷してください。
Windows 10 の場合の格納先：
「スタート」メニュー → 「Network Scanner」 → 「Patch Code」 → 「A4」または「Letter」
- パッチコードを使ってファイルを分割するジョブを設定します。
ジョブの読み取り設定から、「ファイル」の「セパレーション方法」で「パッチコード」を選択します。
パッチコードシートの画像を保存しない場合は、「セパレータを破棄する」チェックボックスにチェックを付けます。

2. 原稿を読み取ります。

原稿を区切りたい位置にパッチコードシートを入れて、スキャナに原稿をセットします。



3. 原稿を読み取ったあと、読み取った画像の区切り位置が正しいかを確認します。

重要

- パッチコードシートを印刷する場合、以下のことに注意してください。
 - 白色無地の紙を使用してください。
 - 等倍で印刷してください。縮小印刷された場合、正しく認識できません。
 - トナー節約は行わないでください。印字が薄い場合、正しく認識できません。
 - 薄い紙を使用しないでください。裏写りしている場合、両面に印字されていると認識することがあります。
- 印刷したパッチコードシートを複写機でコピーする場合は、元のパッチコードシートと同じサイズ、同じ濃さでコピーしてください。
- 同一のパッチコードシートを複数回使用すると、紙のよごれにより認識精度が低下する場合があります。正しく認識しない場合や、紙がよごれた場合は、新しいパッチコードシートを印刷して使用してください。

5.14 ユーザーのパスワードを変更する

ローカルアカウントに登録されているユーザーでログインした場合に、ユーザーのパスワードを変更できます。

1. 「メンテナンス」画面の［パスワードの変更］ボタンを押します。

⇒ 「パスワードの変更」画面が表示されます。



パスワードの変更

現パスワード

新パスワード

確認パスワード

キャンセル OK

2. 現在のパスワードおよび新しいパスワードを入力します。

3. [OK] ボタンを押します。

⇒ ユーザーのパスワードが変更されます。

第 6 章

スキャナのお手入れ

管理者

利用者

スキャナの清掃方法、消耗品 / オプション品の交換時期と交換方法について説明しています。



清掃などの目的でエアスプレーおよびアルコールなどを含むスプレーは使用しないでください。スプレーから噴射される強い空気によって、ほこりなどがスキャナ内部に侵入し、故障やスキャナの異常の原因となる場合があります。
また、静電気などによるスパーク（火花）によって引火するおそれがあります。

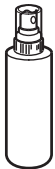
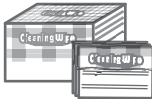


スキャナ使用時は ADF 内部のガラスは高温になります。
内部の清掃および消耗品を交換するときは、電源を切断し、電源ケーブルをコンセントから抜いて 15 分以上待って温度が下がってから行ってください。
フィードローラーと排出ローラーを清掃するときは、電源を投入した状態で行います。
また、消耗品の交換は、電源を切断し、電源ケーブルをコンセントから抜いて 15 分以上待って温度が下がってから行ってください。

6.1 清掃用品および清掃が必要な場所	335
6.2 スキャナ外部を清掃する	337
6.3 スキャナ内部を清掃する	338
6.4 A3 キャリアシートを清掃する	344
6.5 消耗品を交換する	345
6.6 読み取りテストをする	355
6.7 タッチパネルを調整する	358

6.1 清掃用品および清掃が必要な場所

■ 清掃用品

清掃用品	型名	備考
クリーナ F1 	FI-C100CF1	1 本 (100 ml) 布またはクリーニングペーパーにしみこませて使用します。 クリーナ F1 を大量に使用するとなかなか乾かない場合があります。少量を布またはクリーニングペーパーにしみこませて使用してください。また、清掃箇所にクリーナー液が残らないようによくふき取ってください。
クリーニングペーパー 	FI-C100CP	1 パック (10 枚入り) クリーナ F1 と共に使用します。
クリーニングワイプ 	FI-C100CW	1 箱 (24 袋入り) クリーナ F1 をしみこませたウェットティッシュタイプのクリーナーです。クリーナ F1 を布にしみこませる代わりに、本品を使用できます。
乾いた布	市販のもの	
ScanAid (*)	FI-N71SA	—

(*): ScanAid の詳細は、「[ScanAid の購入](#)」(P.469) を参照してください。

清掃用具の詳細は、「[サプライ用品の購入先](#)」(P.468) を参照してください。

■ 清掃箇所と清掃頻度

清掃箇所	清掃頻度
ブレーキローラー	1,000 枚の読み取りごとに清掃してください。
フィードローラー	
排出ローラー	
ピックアップローラー	
プラスチックローラー	
ガラス	
超音波センサー	

重要

原稿の状態によっては、清掃周期が短くなる場合があります。

また、以下のような原稿を読み取る場合は、頻繁に清掃する必要があります。

- コート紙のように表面が滑らかな原稿
- ほぼ全面に印刷されている原稿
- ノーカーボン紙のように特殊加工してある原稿
- カルシウムを多く含む原稿
- 鉛筆書きの原稿
- トナーが十分定着していない原稿

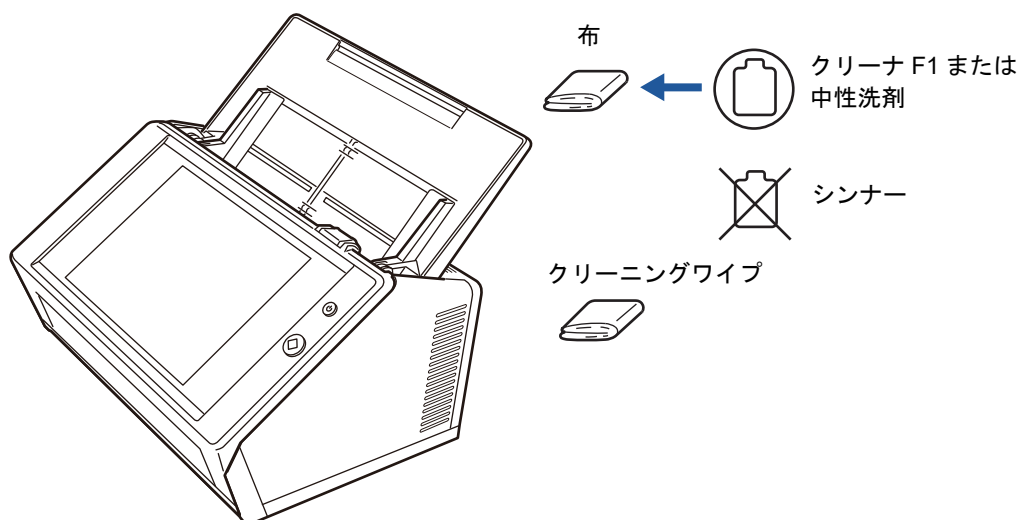
6.2 スキャナ外部を清掃する

■ スキャナ本体の清掃

スキャナ外部（タッチパネルを除く）、ADF 給紙シュート、およびスタッカーなどは、乾いた布や、少量のクリーナ F1 または中性洗剤をしみこませた布や、クリーニングワイプで清掃します。

重要

- シンナーなどの有機溶剤は、決して使用しないでください。変形、変色するおそれがあります。
- 清掃中に、内部に水分が入らないように注意してください。
- クリーナ F1 または中性洗剤を大量に使用するとなかなか乾かない場合があります。少量を布にしみこませて使用してください。また、清掃箇所にクリーナー液が残らないようによくふき取ってください。



■ タッチパネルの清掃

タッチパネルの表面に、ほこりやよごれがある場合は、乾いた柔らかい布で定期的に軽くふいてください。

タッチパネルは、慎重に取り扱ってください。表面は傷つきやすいので、硬いものでこすったり、たたいたりしないでください。

重要

水分を含んだ布などで、タッチパネルをふかないでください。タッチパネルと画面の境目に、タッチパネル表面に付着したほこりが固まって入り込み、タッチパネルが誤動作する原因となります。

6.3 スキャナ内部を清掃する

スキャナ内部は、少量のクリーナ F1 をしみこませた布やクリーニングワイプで清掃します。

原稿の読み取りを繰り返していると、スキャナ内部に、紙粉やほこりがたまり、読み取り不良の原因となります。

スキャナ内部は、目安として、原稿を 1,000 枚読み取るごとに清掃してください。ただし、この目安は読み取る原稿によって変わります。例えば、トナーが十分定着していない原稿の場合、より少ない枚数で清掃が必要となることがあります。



注意

スキャナ使用時は、ADF 内部のガラスは高温になります。
内部を清掃する場合は、電源を切断し、電源ケーブルをコンセントから抜き、15 分以上待ってから清掃してください。

重要

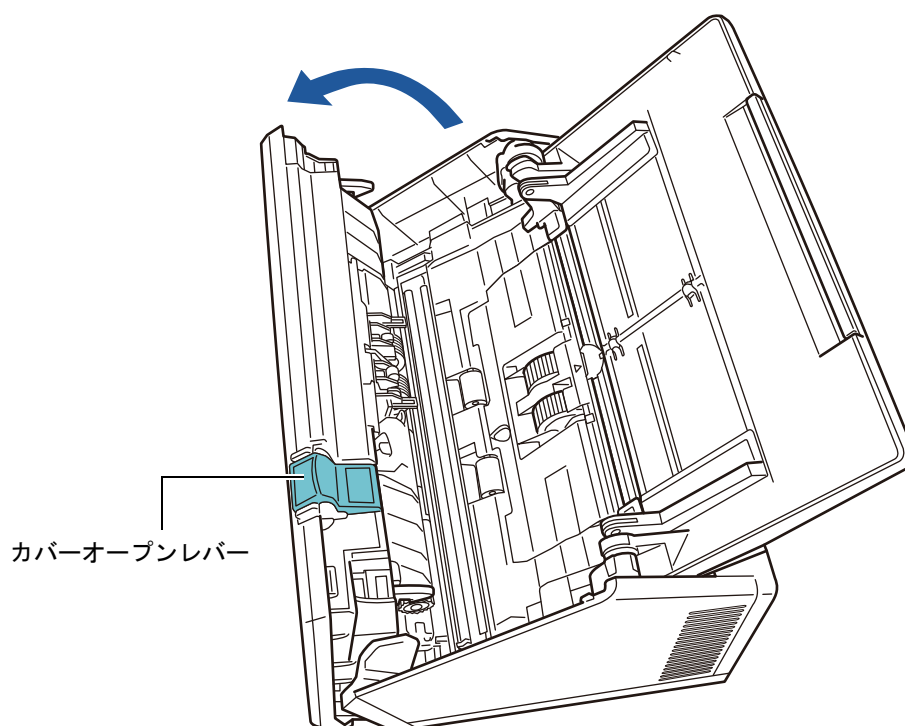
- スキャナ内部を清掃するときは、水や中性洗剤を使用しないでください。
- クリーナ F1 を大量に使用するとなかなか乾かない場合があります。少量を布にしみこませて使用してください。また、清掃箇所にクリーナー液が残らないようによくふき取ってください。

1. スキャナの電源を切断し、15 分以上待ちます。

詳細は、「[2.1 電源の投入 / 切断](#)」(P.50) を参照してください。

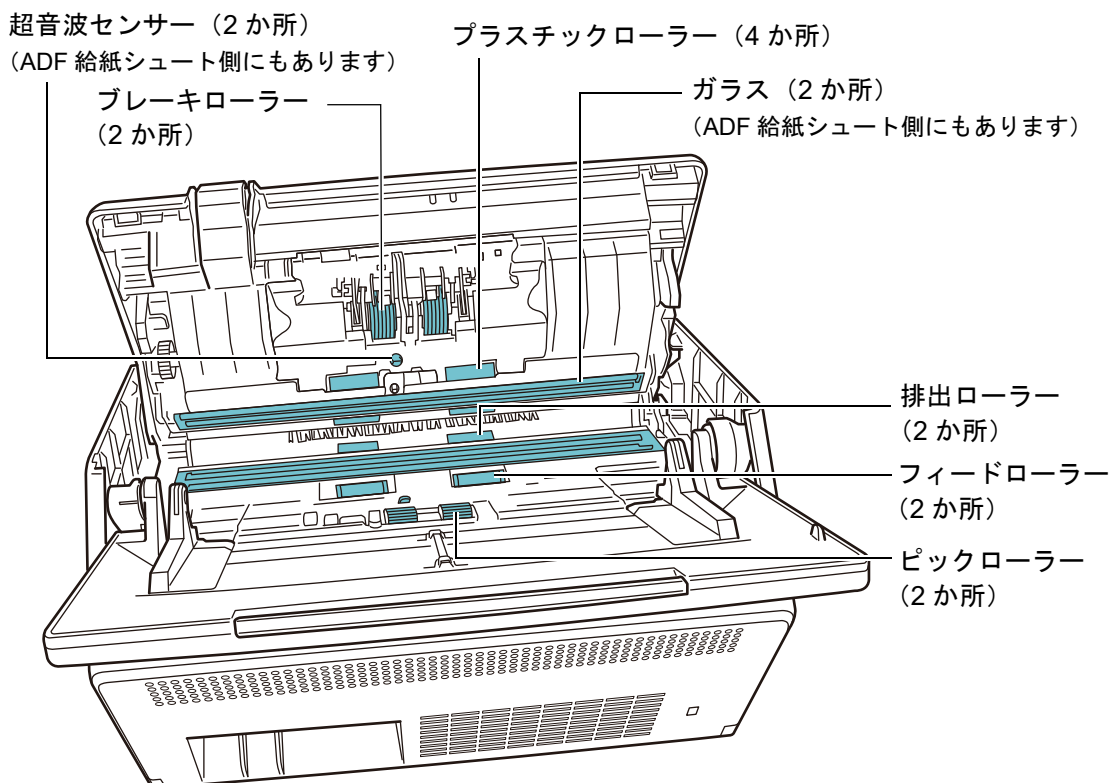
2. 電源ケーブルをコンセントから抜きます。

3. カバーオープンレバーを手前に引いて、LCD カバーを開きます。



LCD カバーが閉まり、指などをはさむおそれがあります。注意してください。

4. 少量のクリーナ F1 をしみこませた布やクリーニングワイプで、以下の場所を清掃します。



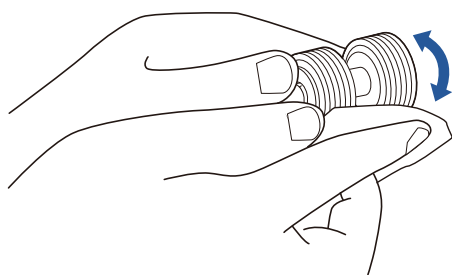
- ブレーキローラー (2 か所)

ブレーキローラーはスキャナから取り外して清掃します。

ブレーキローラーの取り外し方法は、「[6.5.3 ローラーセットを交換する](#)」

([P.347](#)) を参照してください。

ローラー表面の溝に沿って、よごれやほこりを軽くふき取ります。ローラーの表面をいためないように注意してください。

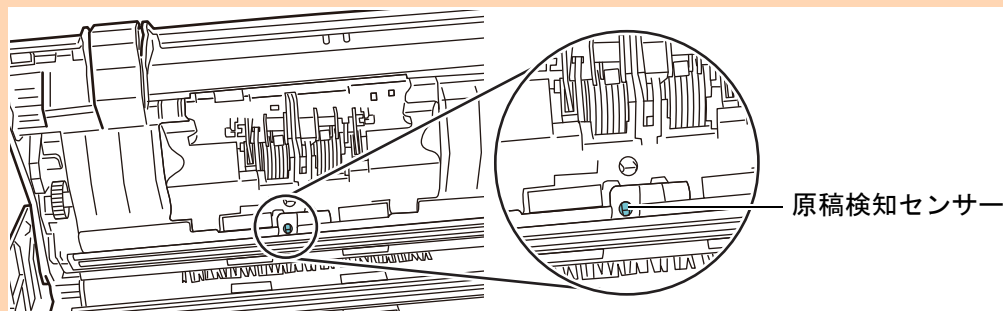


- 超音波センサー（2 か所）

超音波センサー表面に付着したよごれやほこりを、軽くふき取ります。ふき取りにくい場合は、綿棒を使って清掃してください。

重要

清掃するときは、布またはクリーニングワイプを原稿検知センサーに引っ掛けて破損しないように注意してください。



- プラスチックローラー（4 か所）

手で少しずつ回転させながら、よごれやほこりを軽くふき取ります。ローラーの表面をいためないように注意してください。異物が付着している場合、原稿づまりや原稿送り不良を起こすおそれがありますので、十分にふき取ってください。

- ガラス（2 か所）

ガラス表面に付着したよごれやほこりを、軽くふき取ります。

ヒント

ガラスがよごれていると、スキャン画像に縦線が出ることがあります。

- ピックローラー（2 か所）

手で上から下に向かって回転させながら、ローラー表面の溝に沿って、よごれやほこりを軽くふき取ります。ローラーの表面をいためないように注意してください。異物が付着している場合、原稿づまりや原稿送り不良を起こすおそれがありますので、十分にふき取ってください。

- フィードローラー（2 か所） / 排出ローラー（2 か所）

フィードローラー / 排出ローラーは、電源を投入して回転させながら清掃します。

- 1) 電源ケーブルをコンセントに接続し、スキャナの電源を投入します。
詳細は、「[2.1 電源の投入 / 切断](#)」(P.50) を参照してください。

重要

フィードローラーと排出ローラーの清掃のときだけ、スキャナの電源を投入してください。

- 2) 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で、[メンテナンス] ボタンを押します。

ヒント

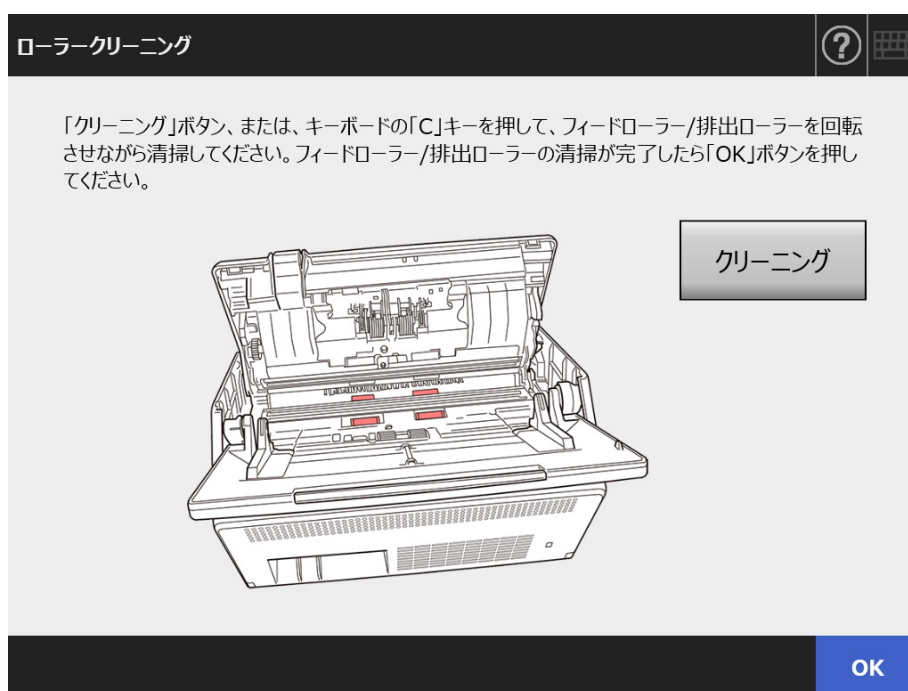
「ジョブメニュー」画面の [メンテナンス] ボタンは、 を押すと表示されます。

⇒「メンテナンス」画面が表示されます。

- 3) [ローラークリーニング] ボタンを押します。



⇒「ローラークリーニング」画面が表示されます。



- 4) LCD カバーを開きます。
- 5) 少量のクリーナ F1 をしみこませた布やクリーニングワイプを、ローラー表面に押し当てます。

- 6) 「ローラークリーニング」画面の〔クリーニング〕ボタンを押します。
ボタンを押すと、フィードローラー / 排出ローラーが少し動きます。
ボタンを押し続けると、フィードローラー / 排出ローラーが数秒おきに一定量回転します。
ローラーを回転させながら、ローラーの表面のよごれやほこりを軽くふき取ります。ローラーの表面をいためないように注意してください。
ボタンを押すのを止めると、回転が停止します。
特に黒い異物が付着している場合、原稿づまりや原稿送り不良を起こすおそれがありますので、十分にふき取ってください。

ヒント

- 目安として、ボタンを押し続けると、ローラーが少しずつ動き、7回の動作で、1周回転します。
- ヘルプを表示している場合は、ヘルプを閉じてからボタンを押してください。

- 7) ローラーの清掃が完了したら、〔OK〕ボタンを押して、「ローラークリーニング」画面を終了します。

重要

フィードローラーまたは 排出ローラーを清掃する場合、回転中のローラーに手が触れないように、注意してください。

5. LCD カバーを閉じます。

⇒ カチンという音がします。

重要

- LCD カバーを閉じるときに、手などをはさまないように注意してください。
- LCD カバーが完全に閉じていることを確認してください。完全に閉じられていないと、原稿づまりや読み込み不良を起こすおそれがあります。
- タッチパネルを押して LCD カバーを閉じないでください。タッチパネルが破損するおそれがあります。

6.4 A3 キャリアシートを清掃する

A3 キャリアシートは、乾いた柔らかい布や、少量のクリーナ F1 または中性洗剤をしみこませた布やクリーニングワイプで清掃します。

A3 キャリアシートの表面や内部のよごれやほこりを、軽くふき取ります。

A3 キャリアシートを繰り返し使用しているうちに、表面や内部によごれやほこりが付着する場合があります。

そのまま使い続けると、読み取り不良の原因となる場合がありますので、定期的に清掃してください。

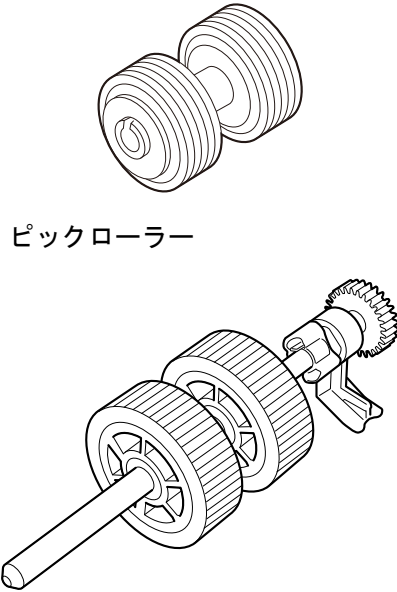
重要

- A3 キャリアシートに折り目が付かないように注意してください。
 - シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。変形、変色するおそれがあります。
 - 強くこすらないでください。A3 キャリアシートが傷ついたり、変形したりするおそれがあります。
 - A3 キャリアシートの内部を、クリーナ F1 または中性洗剤をしみこませた布やクリーニングワイプで清掃したあとは、十分乾かしてから A3 キャリアシートを閉じてください。
 - A3 キャリアシートは、目安として、500 回読み取るごとに交換することを推奨します。
- A3 キャリアシートのご購入については、「[6.5.4 A3 キャリアシートを購入する](#)」(P.354)を参照してください。

6.5 消耗品を交換する

6.5.1 消耗品の型名と交換周期

消耗品の型名と交換周期の目安は、以下のとおりです。

品名	型名	交換周期（目安）
ローラーセット ● ブレーキローラー  ● ピックローラー	FI-CN71R	読み取った原稿の枚数が 200,000 枚ごと
ScanAid (*)	FI-N71SA	—

(*): ScanAid の詳細は、「[ScanAid の購入](#)」(P.469) を参照してください。

交換周期は、A4 原稿 80g/m² (69kg/ 連) の上質紙または中質紙を使用した場合の目安であり、使用する原稿、お客様の使用頻度・環境、および清掃の頻度によって異なります。

重要

- 消耗品の状態が橙色または赤色になったら管理者に連絡して、消耗品を交換してください。
- 当社指定の消耗品以外は使用しないでください。

消耗品の状態を確認する方法については、「[6.5.2 消耗品の状態を確認する](#)」(P.346) を参照してください。

消耗品のご購入については、「[サプライ用品の購入先](#)」(P.468) を参照してください。

6.5.2 消耗品の状態を確認する

1. 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で、[消耗品状態] ボタンを押します。

ヒント

「ジョブメニュー」画面の [消耗品状態] ボタンは、 を押すと表示されます。

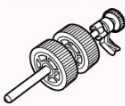
⇒「消耗品」画面が表示されます。

2. 交換部品を確認し、[OK] ボタンを押します。

「カウンター」が「交換の目安」を超えている部品は交換が必要です。

「カウンター」には、1枚単位で読み取り枚数が表示されます。

管理者の画面で交換部品の確認をする場合は、[「4.15.2 消耗品統計情報を参照する」\(P.159\)](#)を参照してください。

消耗品			
部品	カウンター	交換の目安	状態
プレーキローラー 	0	200,000	
ピックローラー 	0	200,000	

3. 部品を交換します。

以下を参照してください。

- ローラーセットの交換

[「6.5.3 ローラーセットを交換する」\(P.347\)](#)

6.5.3 ローラーセットを交換する

ローラーセットは、ブレーキローラーおよびピックアップローラーで構成されています。各ローラーの交換方法は、以下のとおりです。

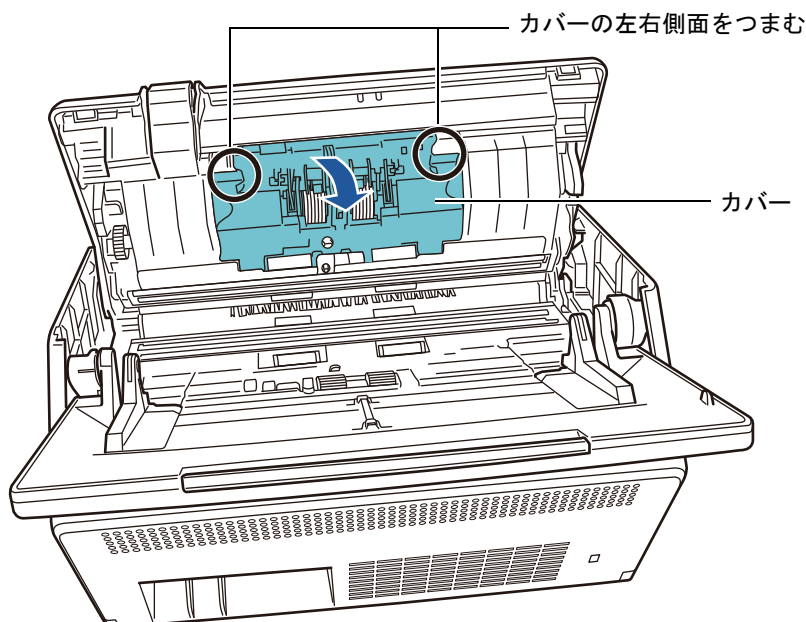
1. スキャナの電源を切断し、15 分以上待ちます。
詳細は、「2.1 電源の投入 / 切断」(P.50) を参照してください。
2. 電源ケーブルをコンセントから抜きます。
3. ADF 給紙シュートに原稿がある場合は、原稿を取り除きます。
4. カバーオープンレバーを手前に引いて、LCD カバーの側面に手を添えて、LCD カバーを開きます。

**注意**

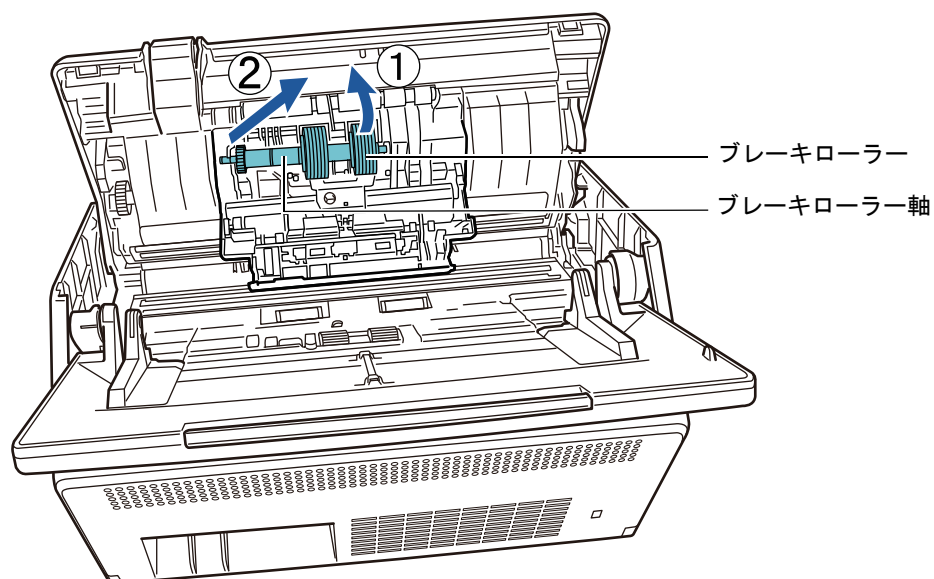
LCD カバーが閉まり、指などはさむおそれがあります。注意してください。

5. ブレーキローラーを交換します。

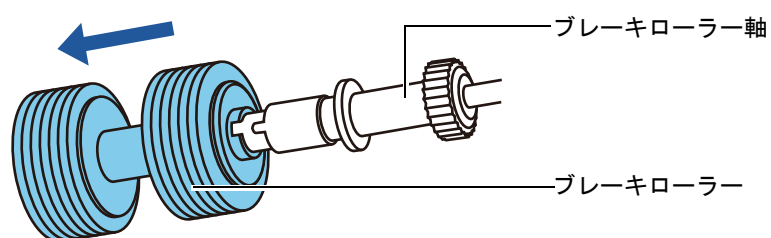
1. ブレーキローラーのカバーを開けます。
ブレーキローラーのカバーの左右側面をつまんで、矢印の方向に開けます。



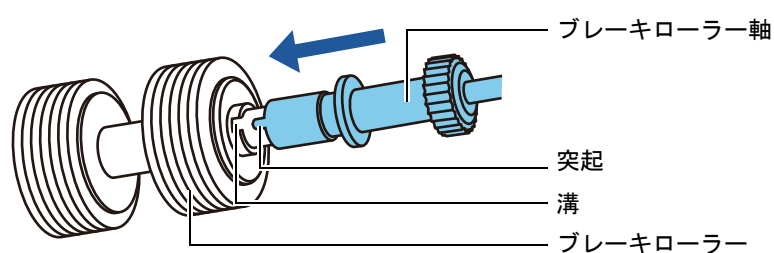
2. ブレーキローラー軸を取り外します。
ブレーキローラーを持ち上げて軸の右側を外し、軸の左側を穴から抜き取ります。



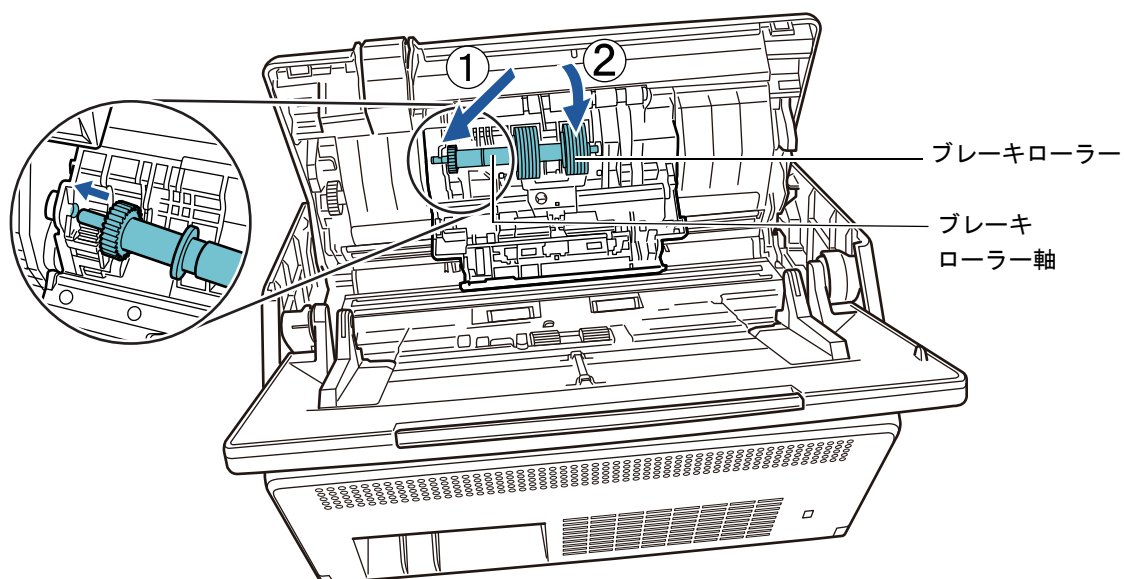
3. ブレーキローラーを、ブレーキローラー軸から取り外します。



4. 新しいブレーキローラーを、ブレーキローラー軸に取り付けます。
ブレーキローラー軸の突起部分とブレーキローラーの溝を合わせて差し込みます。



5. ブレーキローラー軸をスキャナに取り付けます。
ブレーキローラー軸の先端の形状を穴に合わせてはめ込んでから、軸の右側を取り付けます。



6. ブレーキローラーのカバーを閉じます。

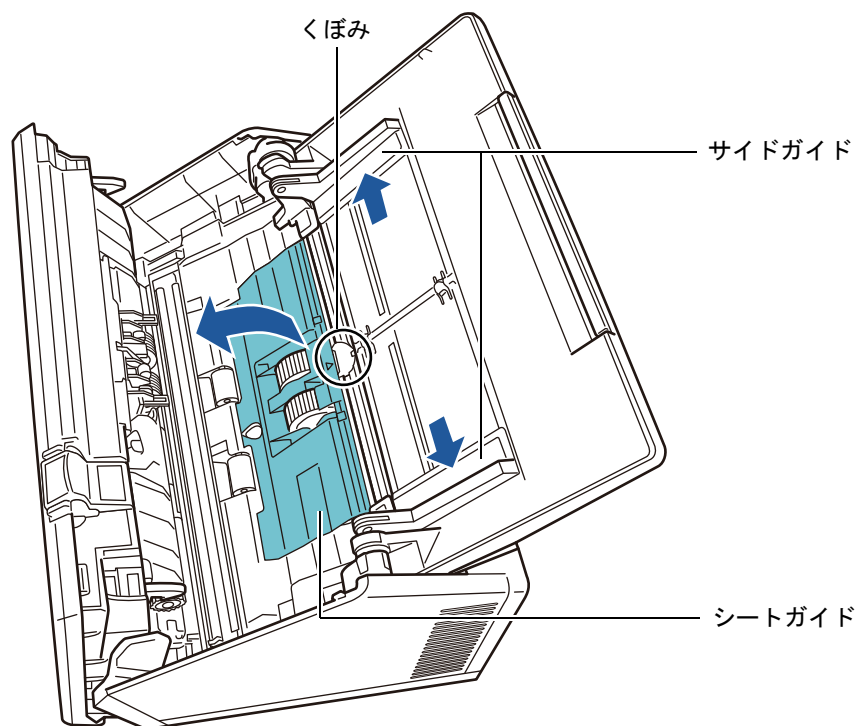
重要

ブレーキローラー軸がしっかりと取り付けられていることを確認してください。完全に取り付けられていないと、原稿づまりなどの給紙エラーを起こすおそれがあります。

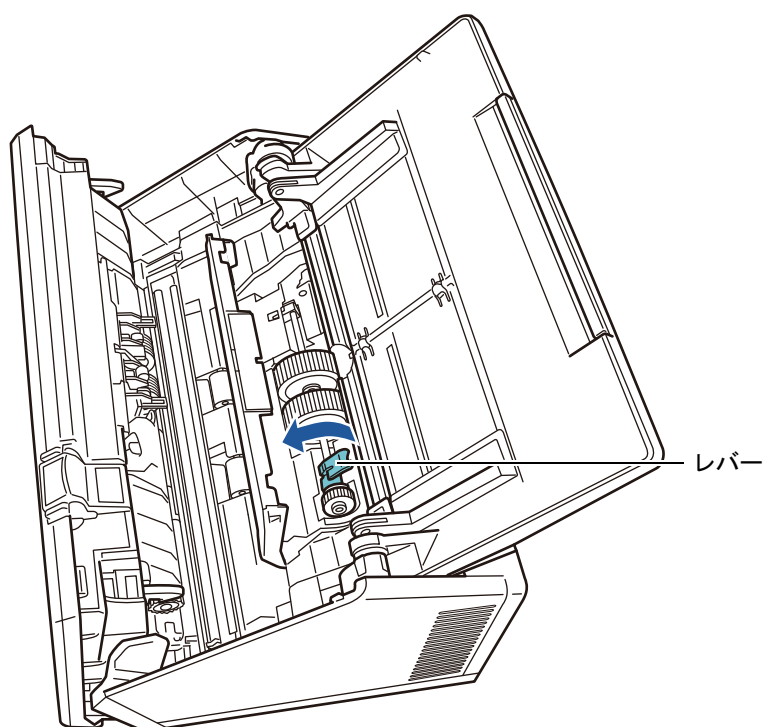
6. ピックローラーを交換します。

1. シートガイドを開けます。

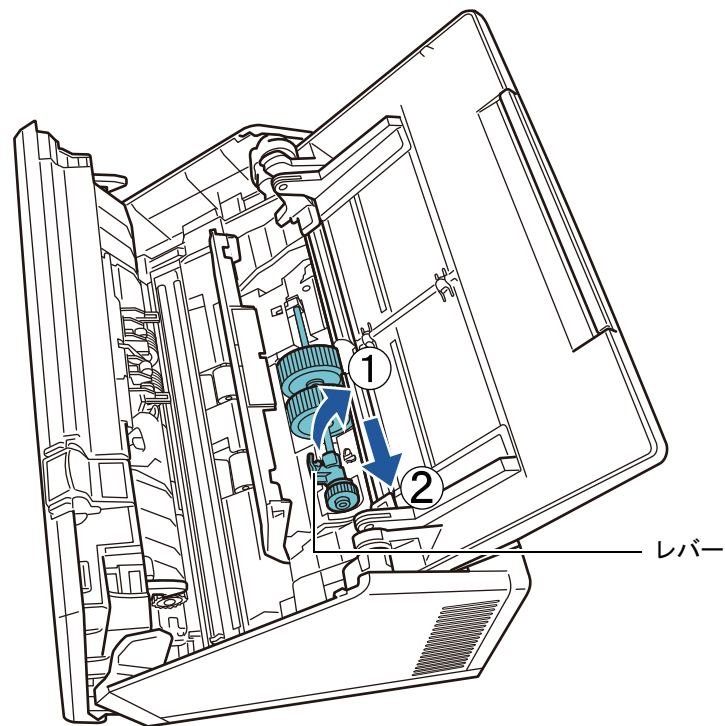
サイドガイドを左右いっぱいを開いてから、くぼみに指を入れて、シートガイドに引っ掛けて開けます。



2. ピックローラーのレバーを、矢印の方向に回転させます。

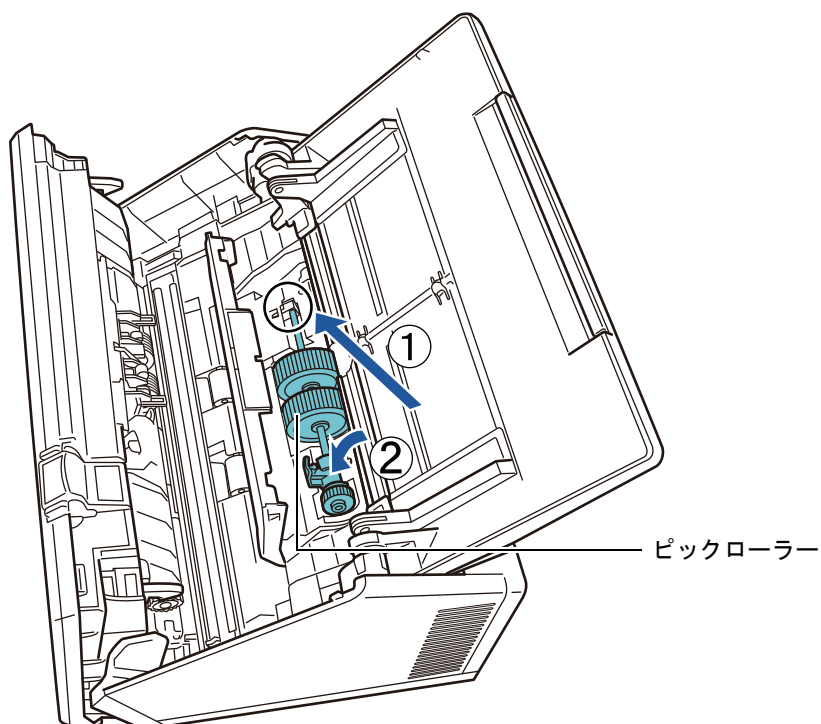


3. ピックローラーを取り外します。
ピックローラーのレバー側を軽く引き上げ（5mm 程度）、レバー側にずらし
てから、上に持ち上げて取り外します。

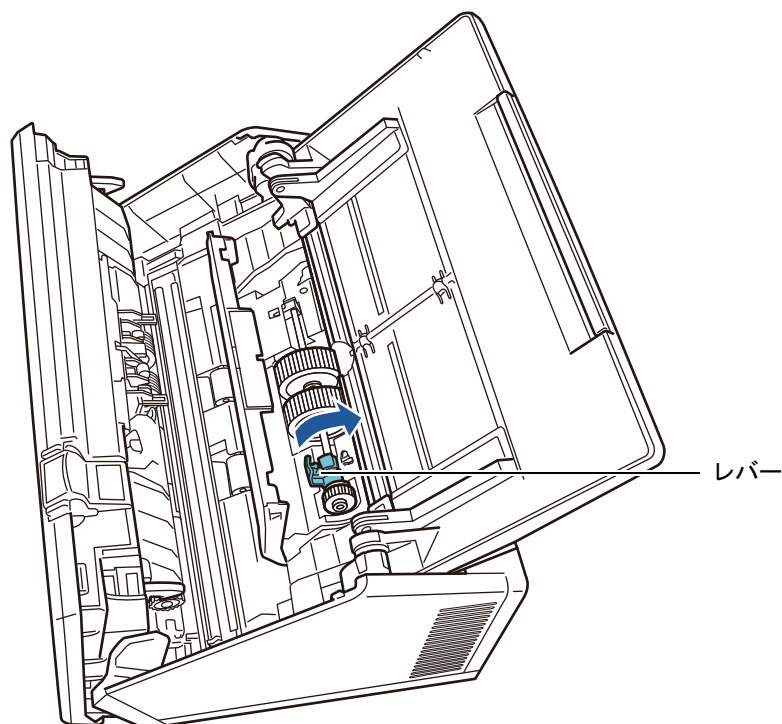
**重要**

ピックローラーのレバーのそばにあるギヤにはグリース（油）が付いていますので、触らないように注意してください。

4. 新しいピックアップローラーをスキャナに取り付けます。
スキャナの穴に斜め上方からピックアップローラーの軸の先端をはめ、ピックアップローラーを寝かせながら、徐々にはめ込みます。



5. ピックアップローラーのレバーを、矢印の方向に回転させます。

**重要**

ピックアップローラーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。完全に取り付けられていないと、原稿づまりや原稿送り不良を起こすおそれがあります。

6. シートガイドを閉じます。
シートガイドの両側が確実にロックされているか確認してください。

7. LCD カバーを閉じます。

⇒ カチンと音がします。



LCD カバーが閉まり、指などをはさむおそれがあります。注意してください。

8. 電源ケーブルをコンセントに接続し、スキャナの電源を投入します。

詳細は、「[2.1 電源の投入 / 切断](#)」(P.50) を参照してください。

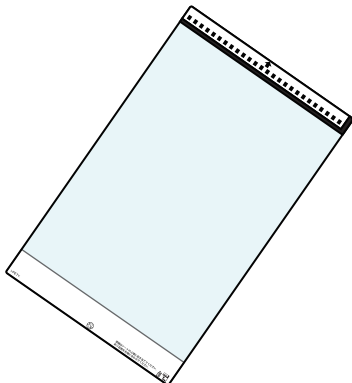
9. ローラーセットのカウンターをリセットします。

カウンターのリセットは管理者が行います。詳細は、「[カウンターをリセットする](#)」(P.159) を参照してください。

6.5.4 A3 キャリアシートを購入する

A3 キャリアシートは、目安として、500 回読み取るごとに交換することを推奨します。ただし、傷やよごれが目立つ場合は、必要に応じて交換してください。

A3 キャリアシート（別売）の品名と型名は、以下のとおりです。

品名	型名	数量
A3 キャリアシート 	FI-X15ES	5 枚

A3 キャリアシートのご購入については、本製品を購入された販社 / 販売店または株式会社 PFU PFU ダイレクトにお問い合わせください。

株式会社 PFU PFU ダイレクト

お問い合わせ先

ホームページ <https://www.pfu.ricoh.com/direct/>

6.6 読み取りテストをする タッチパネル

スキヤナの清掃や消耗品交換のあとに、スキヤナの読み取りテストをします。

■ 利用者の場合

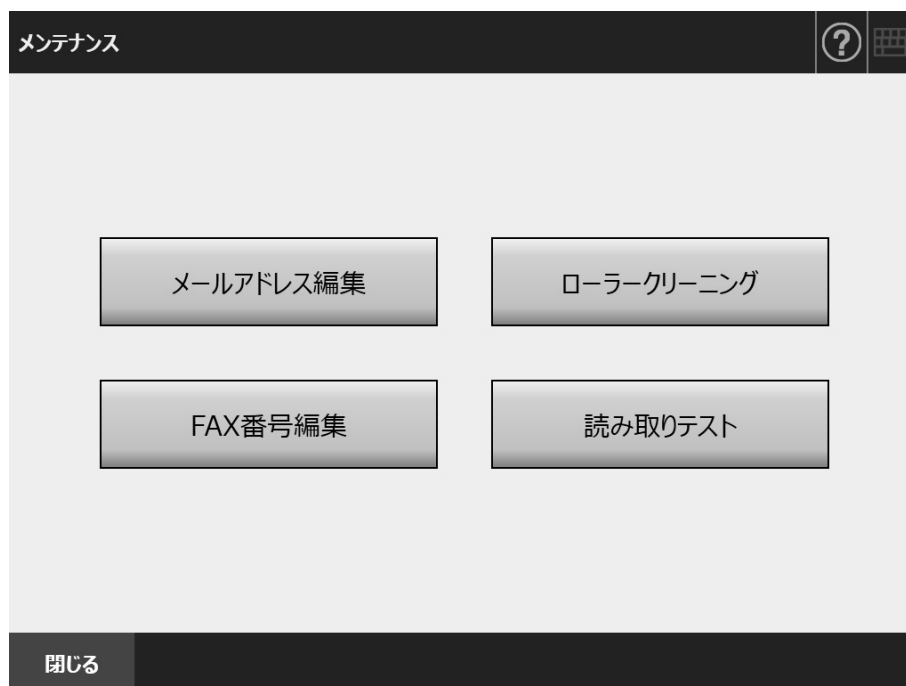
1. 「メインメニュー」画面または「ジョブメニュー」画面で、[メンテナンス] ボタンを押します。

ヒント

「ジョブメニュー」画面の [メンテナンス] ボタンは、 を押すと表示されます。

⇒「メンテナンス」画面が表示されます。

2. 「読み取りテスト」 ボタンを押します。



⇒「読み取りテスト」画面が表示されます。

3. 読み取りテストのための原稿を、ADF 給紙シュートにセットします。

4. [スキャン] ボタンを押します。

読み取りテスト  

用紙をセットして、「スキャン」ボタンを押してください。

項目	設定値	項目	設定値
画像タイプ	自動	クリーンアップ	しない
給紙	両面	縦筋軽減	オフ
解像度	200dpi	ドロップアウトカラー	なし
用紙サイズ	自動	回転	しない
圧縮	推奨	エッジ補正	しない
二値化の調整	標準	ブランクページスキップ	しない
トーン調整	自動	マルチフィード検出	重なり検出

キャンセル

◀ スキャン

⇒ 読み取りが開始されます。

⇒ 読み取りが完了すると、「表示&編集」画面が表示されます。

うまく読み取れなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。必要に応じて対処してください。

5. スキャン画像を確認します。

「表示&編集」画面については、以下を参照してください。

[「5.10 スキャン画像を「表示&編集」画面で確認する」\(P.309\)](#)

6. [OK] ボタンを押します。

⇒ 「メンテナンス」画面に戻ります。

■ 管理者の場合

1. 管理者の画面で、「装置診断」の「読み取りテスト」を選択します。
⇒「読み取りテスト」画面が表示されます。
2. [開始] ボタンを押します。
3. 読み取りテストのための原稿を、ADF 給紙シュートにセットします。
4. [スキャン] ボタンを押します。

読み取りテスト

?

用紙をセットして、「スキャン」ボタンを押してください。

項目	設定値	項目	設定値
画像タイプ	自動	クリーンアップ	しない
給紙	両面	縦筋軽減	オフ
解像度	200dpi	ドロップアウトカラー	なし
用紙サイズ	自動	回転	しない
圧縮	推奨	エッジ補正	しない
二値化の調整	標準	ブランクページスキップ	しない
トーン調整	自動	マルチフィード検出	重なり検出

キャンセル

スキャン

- ⇒ 読み取りが開始されます。
- ⇒ 読み取りが完了すると、「表示 & 編集」画面が表示されます。
うまく読み取れなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。必要に応じて対処してください。
5. スキャン画像を確認します。
「表示 & 編集」画面については、以下を参照してください。
[「5.10 スキャン画像を「表示 & 編集」画面で確認する」\(P.309\)](#)
 6. [OK] ボタンを押します。
⇒「管理メニュー」画面に戻ります。

6.7 タッチパネルを調整する タッチパネル

タッチパネルの押す位置がずれている場合は、タッチパネルを調整します。

1. 管理者の画面で、「装置診断」の「タッチパネル調整」を選択します。

⇒ 「タッチパネル調整」画面が表示されます。

2. 「開始」ボタンを押します。

⇒ 赤十字（補正点）が表示されます。

3. 赤十字（補正点）を指先などで押します。

押すと、+が移動します。止まったところで再度+を押します。



表示されている各補正点を入力して下さい。

[Esc]:補正中止 (←↑↓→):補正点移動

⇒ 以降は、画面の指示に従って操作を進めてください。

重要

タッチパネルの調整には 40 秒程度の時間がかかります。

第 7 章

困ったときには

管理者

利用者

原稿づまりの対処方法、トラブルの対処方法、サービスセンターに連絡する前にお調べいただきたい項目、およびスキナのラベル確認方法について説明します。

7.1 原稿づまりが発生したときは	360
7.2 ネットワーク通信ができないときには	363
7.3 スキナの使用中にトラブルが発生したときには	378
7.4 サービスセンターに連絡する前に	387
7.5 ラベルの確認	390
7.6 スキナを保守に出すときの処置	391

7.1 原稿づまりが発生したときは

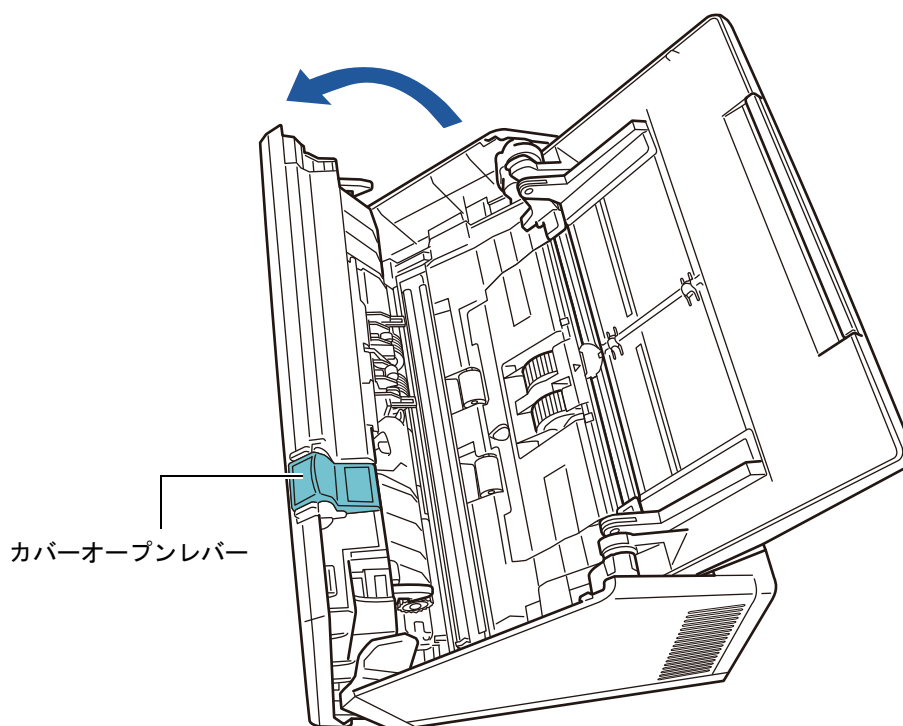
原稿がつまった場合は、以下の要領で原稿を取り除いてください。



警告

- つまった原稿は無理に引き抜かず、LCD カバーを開けてから取り除いてください。
- つまった原稿を取り除くときは、鋭利な部分に触れないように注意してください。けがをするおそれがあります。
- つまった原稿を取り除くときは、ネクタイ、ネックレス、または髪の毛などがスキャナ内部に巻き込まれないように注意してください。
- ガラスの表面が高温になっている場合があります。やけどに注意してください。

1. ADF 給紙シュートの上にある原稿を取り除きます。
2. カバーオープンレバーを手前に引いて、LCD カバーの側面に手を添えて、LCD カバーを開きます。



注意

LCD カバーが閉まり、指などをはさむおそれがあります。注意してください。

3. つまっている原稿を取り除きます。

重要

- ステープラーの針やクリップなどは原稿づまりの原因となりますので、原稿と搬送路をよく調べて必ず取り除いてください。
- ステープラーの針やクリップなどの付いた原稿を取り除くときに、ガラスやシートガイドを傷つけるおそれがありますので注意してください。

4. LCD カバーの側面に手を添えて、LCD カバーを閉じます。

重要

- LCD カバーを閉じるときに、手などをはさまないように注意してください。
- LCD カバーが完全に閉じていることを確認してください。完全に閉じられていないと、原稿づまりや読み込み不良を起こすおそれがあります。
- タッチパネルを押して LCD カバーを閉じないでください。タッチパネルが破損するおそれがあります。
- 読み取りを継続するときは、再開ページを確認のうえ、原稿を ADF 給紙シュートに再度セットしてください。

⇒ カチンという音がします。

ヒント

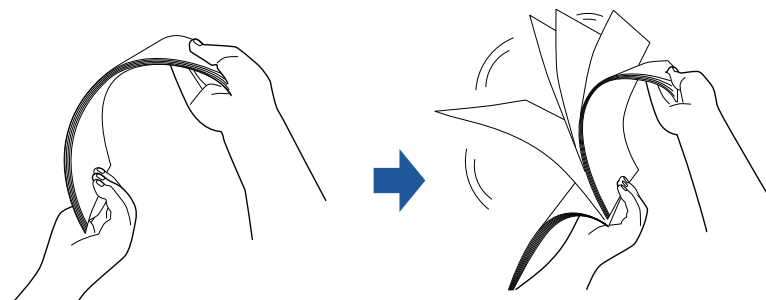
- 読み取り終了時または読み取りをキャンセルしたとき、エラーメッセージが表示されずに原稿が ADF 内部に残る場合があります。原稿が ADF 内部に残った場合は、上記の**手順 1 ～ 手順 4**に従って取り除いてください。
- 原稿がつまった場合、スキャン画像を確認してください。読み取りの途中で原稿がつまった場合、正しく読み取れなかったスキャン画像が残ることがあります。この場合は、表示&編集詳細画面ので、正しく読み取れなかったスキャン画像を削除してください。表示&編集詳細画面での削除操作については、「[5.10.3 スキャン画像を表示&編集詳細画面で編集する](#)」(P.312)を参照してください。

なお、原稿づまりやマルチフィードが多発する場合は、以下の手順で原稿をセットしてください。

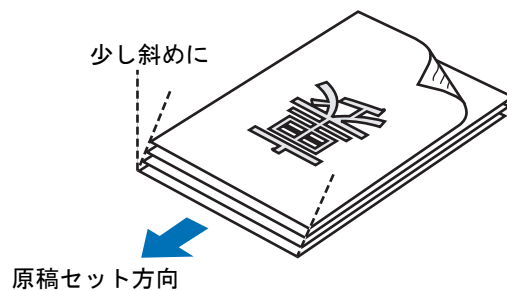
1. 原稿の先端をそろえます。

2. 原稿をさばきます。

1. 両手で原稿の両端を軽くつかみ、2 ～ 3 回さばきます。



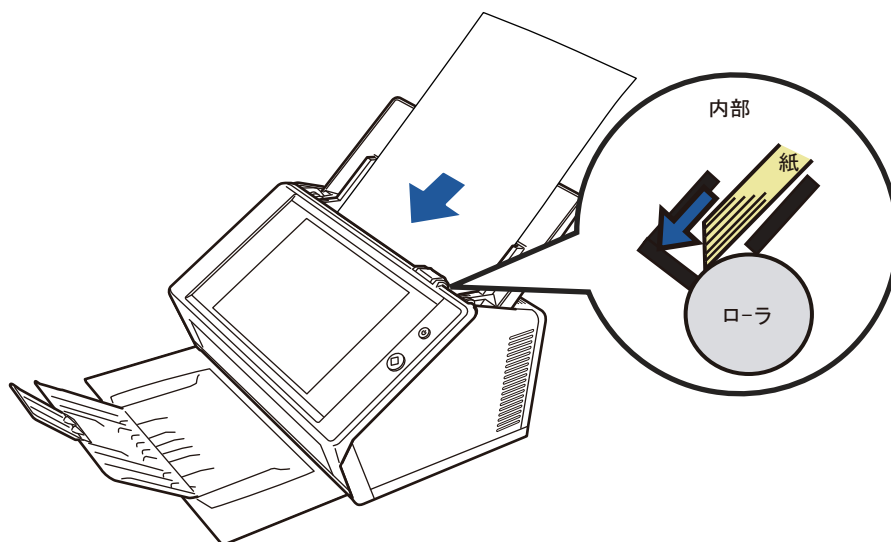
2. 原稿の向きを 90 度回転し、同じようにさばきます。
3. セットする原稿の両端をそろえて、原稿の先端を少し斜めにずらしします。



重要

原稿の両端をそろえずに読み取ると、原稿づまり、または原稿の破損の原因となります。

3. 図のように ADF 給紙シュートに原稿をセットします。



7.2 ネットワーク通信ができないときには

ネットワーク通信ができない場合は、スキャナの動作状況や環境設定内容を見直してください。

以下に、発生すると考えられる代表的なトラブルについて説明します。

原因の特定ができない場合や現象が解消されない場合は、[「7.4 サービスセンターに連絡する前に」\(P.387\)](#)の各項目を確認して、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス & サポートセンターに連絡してください。

7.2.1 ネットワーク動作テスト

ネットワーク設定が完了したら、管理者の画面で以下のネットワーク動作テストをしてください。

- Ping によるネットワークの基本動作確認
- ネットワーク動作状態の確認
- 時刻同期による NTP サーバ環境の確認（NTP サーバを使用する場合）
- テストメールによるメールサーバ環境の確認（スキャン画像のメール送信、FAX 送信、またはメールによる異常通知機能を使用する場合）

■ Ping によるネットワークの基本動作確認

ネットワーク連携を行う以下のサーバとコンピュータのネットワーク接続状態を確認します。

確認手順については、[「4.8.1 Ping でネットワークへの接続状態を確認する」\(P.108\)](#)を参照してください。

- Admin Tool をインストールしたコンピュータ
- Central Admin Console をインストールしたコンピュータ
- Central Admin Server をインストールしたコンピュータ
- User Editor をインストールしたコンピュータ
- DNS サーバ
- WINS サーバ
- NTP サーバ
- LDAP サーバ
- SMTP サーバ
- フォルダ保存を行うサーバ
- FTP サーバ
- プリントサーバ
- SharePoint サーバ
- ドメインコントローラー
- プロキシサーバ
- SNMP マネージャー

重要

サーバの設定によっては、Ping の応答を返さない場合があります。

Ping を使ってネットワーク接続状態を確認した場合は、以下の結果になります。
それぞれの対処に従ってください。

以下の Ping 応答結果が 4 行表示される。

IPv4 アドレスの場合：

(あて先の IPv4 アドレス) からの応答：バイト数 = 32 時間 < (時間) ms
TTL = (TTL 値)

IPv6 アドレスの場合：

(あて先の IPv6 アドレス) からの応答：時間 < (時間) ms

■ 表示例

IPv4 アドレスの場合：

XXX.XXX.XXX.XXX からの応答：バイト数 = 32 時間 < 1ms TTL = 128
XXX.XXX.XXX.XXX からの応答：バイト数 = 32 時間 < 1ms TTL = 128
XXX.XXX.XXX.XXX からの応答：バイト数 = 32 時間 < 1ms TTL = 128
XXX.XXX.XXX.XXX からの応答：バイト数 = 32 時間 < 1ms TTL = 128

IPv6 アドレスの場合：

XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX からの応答：時間 < 1ms
XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX からの応答：時間 < 1ms
XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX からの応答：時間 < 1ms
XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXX からの応答：時間 < 1ms

■ 意味

Ping のあて先アドレスからの応答は正常です。

「ping 統計」情報の損失値

「損失 = 4 (100% の損失)」

■ 意味

- Ping 先に指定した接続確認先との通信ができません。
- ハードウェア上の伝送路異常が発生した可能性があります。例えば、Ping 中に LAN ケーブルが抜けた場合を示しています。

■ 対処方法

- Ping 先が正しく指定されていない可能性があります。Ping 先に指定した IP アドレス、ホスト名、または FQDN 名が正しく指定されているかを確認してください。
存在しない IP アドレスを指定した場合は、以下のとおりです。
 - IPv4 アドレスの場合
指定した IP アドレスが同一セグメントのときは、「損失 = 0 (0% の損失)」になります。
指定した IP アドレスが異なるセグメントのときは、「損失 = 4 (100% の損失)」になります。
 - IPv6 アドレスの場合
「損失 = 4 (100% の損失)」になります。
- ネットワークの伝送方式が接続相手と一致していない可能性があります。「4.7.8 ネットワークの詳細設定をする」(P.107) で、「Link Speed/Duplex Mode」を「自動検出」から、固定の Link Speed / Duplex Mode に変更してください。
- Ping 先が正しく指定されていて、ネットワークの伝送方式も適切な場合は、「IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」(P.369) を参照して、対処してください。
- LAN ケーブルの接続状態を確認、または LAN ケーブルを交換して、再度実行してください。
- HUB に接続している場合は、LAN ケーブルの接続先ポートを変更して、再度実行してください。

**「ping 統計」情報の損失値
「損失 = N (1 ~ 99% の損失)」**

■ 意味

- Ping 先に指定した接続確認先との通信が安定していません。
- ハードウェア上の伝送路異常が発生した可能性があります。例えば、Ping 中に LAN ケーブルが抜けた場合を示しています。

■ 対処方法

- LAN ケーブルの接続状態を確認、または LAN ケーブルを交換して、再度実行してください。
- HUB に接続している場合は、LAN ケーブルの接続先ポートを変更して、再度実行してください。
- ネットワークの伝送方式が接続相手と一致していない可能性があります。[「4.7.8 ネットワークの詳細設定をする」\(P.107\)](#)で、「Link Speed/Duplex Mode」を「自動検出」から、固定の Link Speed/Duplex Mode に変更してください。

「ping 要求ではホスト xxxxxxxx が見つかりませんでした。ホスト名を確認してもう一度実行してください。」

■ 意味

Ping 先に指定された接続確認先の名前解決 / アドレス解決に失敗した可能性があります。

■ 対処方法

- Ping 先のホスト名または FQDN 名の指定が誤っていないかを確認してください。
- DNS サーバまたは WINS サーバの設定が誤っていないかを確認してください。
- Ping 先に指定したホスト名または FQDN 名が正しく指定されている場合は、[「ホスト名または FQDN 名指定で、スキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」\(P.371\)](#)を参照して、対処してください。

■ ネットワーク動作状態の確認

「ネットワーク状態」画面で、ネットワーク状態を確認します。
確認手順については、「[4.8.2 ネットワークの動作状態を確認する](#)」(P.109) または
「[G.3.5 ネットワークの動作状態を確認する](#)」(P.461) を参照してください。
それぞれの対処に従ってください。

各情報に妥当な値が表示されている。

■ 対処方法

正常に接続されています。

正常に接続されています。

■ 対処方法

正常に接続されています。

各情報に妥当な値が表示されていても、Ping によるネットワーク通信が正常に行えない。

■ 対処方法

「[4.7.8 ネットワークの詳細設定をする](#)」(P.107) で、「Link Speed/Duplex Mode」を「自動検出」から、固定の Link Speed/Duplex Mode に変更してください。
それでも解決しない場合は、「[IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない](#)」(P.369) を参照して、対処してください。

■ 時刻同期による NTP サーバ環境の確認

「NTP サーバ」画面の [今すぐ同期] ボタンを押して、NTP サーバと即時に時刻同期ができるか確認してください。

[今すぐ同期] ボタンを押したあとに表示されるメッセージごとに、それぞれの対処に従ってください。

メッセージとその対処方法は、以下のとおりです。

正常に時刻同期を完了しました。

■ 対処方法

正常に接続されています。

時刻同期に失敗しました。

■ 対処方法

以下のどれかの対処をしてください。

- NTP サーバの IP アドレス、ホスト名、または FQDN 名の指定に誤りがないか見直してください。
- スキャナと NTP サーバとのネットワーク経路に問題があり、NTP サーバまでネットワーク通信が到達できません。ネットワーク環境を確認してください。
- NTP サーバが混みあっています。時間をおいてから、再度時刻同期を行ってください。それでも発生する場合は、指定したサーバは NTP サーバとして動作していません。違う NTP サーバを指定してください。
- 指定した NTP サーバの日付時刻が信頼できる時刻を保持していないため、NTP サーバが上位階層の NTP サーバに時刻同期を試みましたが、失敗しました。違う NTP サーバを指定するか、ネットワーク管理者に調査してもらってください。
- 時間が大きくずれていないか確認してください。時間が大きくずれている場合は、本システムの日付時刻を大まかに合わせてから、再度時刻同期を行ってください。
- [「4.4.3 日時を設定する」\(P.82\)](#) で本システムの日付時刻を大まかに合わせてから、再度時刻同期を行ってください。

■ テストメールによるメールサーバ環境の確認

「異常通知先」画面の「テスト送信」ボタンを押して、指定したメールアドレスにメールが送信されているかを確認してください。

「テスト送信」ボタンを押したあとに表示されるメッセージごとに、それぞれの対処に従ってください。

メッセージとその対処方法は、以下のとおりです。

テスト実行中

■ 対処方法

エラーメッセージが何も表示されずにインジケータ表示が消えた場合は、テストメールがメールサーバに正常に送信されています。

通知先メールアドレスにテストメールが届いていることを確認してください。通知先メールアドレスにテストメールが届かない場合は、通知先のメールアドレスの @ の前の文字列が誤っていないかを確認してください。

テストメールの送信に失敗しました。

■ 対処方法

- メールサーバ側のコンピュータが動作しているかを確認してください。
- 別のコンピュータから、通知先メールアドレスにメール送信できるかを確認してください。
- SMTP サーバに対して Ping によるネットワーク通信を行い、SMTP サーバが正常に動作しているか、または SMTP サーバまでのネットワーク経路が正常に動作しているかを確認してください。
- SMTP サーバから Ping の応答がない場合は、Ping で SMTP サーバ以外のコンピュータにネットワーク通信の確認を行い、本システムのネットワークが正常に動作していることを確認してください。
- 本システムのネットワークが正常に動作していない場合は、「[IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない](#)」(P.369)を参照して、対処してください。
- SMTP サーバに対するネットワーク通信だけができない場合は、SMTP サーバが正常に動作しているか、または SMTP サーバまでのネットワーク経路が正常に動作しているかを、ネットワーク管理者に調査してもらってください。
- 「[4.11.1 SMTP サーバを設定する](#)」(P.124)で設定した、スキャナと SMTP サーバとの通信に使用するポート番号が正しいか確認してください。

7.2.2 ネットワーク通信トラブル現象ごとの対処方法

通信ができない場合、現象によって様々な原因が考えられます。

以下に、発生すると考えられる代表的なトラブルについて説明します。

それでも原因の特定ができない場合や現象が解消されない場合は、「[7.4 サービスセンターに連絡する前に](#)」(P.387)の各項目を確認して、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス & サポートセンターに連絡してください。

■ IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない

スキャナから各サーバへ IP アドレスを指定しても接続できない場合、またはスキャナから Ping を使って、IP アドレスを指定してネットワーク通信テストをしても、各サーバから応答がない場合は、以下の対処をしてください。

各サーバとスキャナとの接続に誤りがある。または LAN ケーブルに問題がある。

■ 対処方法

スキャナまたは各サーバに、LAN ケーブルが正しく差し込まれているかを確認してください。また、各サーバとの接続にストレート仕様の LAN ケーブルを使用している場合は、Auto MDI/MDI-X (自動選択) 未サポートのため、スキャナと各サーバとの間に、クロス LAN ケーブル、スイッチ機器、またはルータ機器のどれかが介在している必要があります。上記のどれでもない場合は、LAN ケーブルの不良が考えられます。正常に動作した実績がある LAN ケーブルで再度確認してください。

「IP アドレス」画面、または IPv6 機能が有効な場合は「IPv4 アドレス」画面 / 「IPv6 アドレス」画面で設定した内容が間違っている。

■ 対処方法

「[4.7.1 IP アドレス /DHCP を設定する](#)」(P.99)、または、IPv6 機能が有効な場合は「[G.3.1 IPv4 アドレスを設定する](#)」(P.456) / 「[G.3.2 IPv6 アドレスを設定する](#)」(P.457)で、IP アドレスやサブネットマスク (IPv6 アドレスの場合は、サブネットプレフィックス長) などの設定内容が正しいかを確認してください。

DHCP を使用する場合に、DHCP サーバが正常に動作していない。または、DHCP サーバ側の設定に問題がある。

■ 対処方法

DHCP を使用する場合は、スキャナの「[4.8.2 ネットワークの動作状態を確認する](#)」(P.109)または「[G.3.5 ネットワークの動作状態を確認する](#)」(P.461)で、IP アドレス、サブネットマスク (IPv6 アドレスの場合は、サブネットプレフィックス長)、デフォルトゲートウェイが正しい値になっているかを確認してください。

これらの値が正しく表示されていない場合は、DHCP サーバが正常に動作していない、または DHCP サーバ側の設定 (リース数制限や MAC アドレス認証など) により正しく IP アドレスが割り当てられていないことが考えられます。

DHCP サーバの接続状態と DHCP サーバの設定内容を確認してください。

スキャナと同じ IP アドレスを持つホストまたは通信機器が接続されている。

■ 対処方法

スキャナと同じ IP アドレスを持つホストまたは通信機器と通信した直後に、各サーバの電源を切断しないままスキャナへ接続し、環境設定を変更した場合は、通信できなくなります。各サーバを再起動してください。

スキャナと IP アドレスが重複しているホストまたは通信機器が LAN 上に存在すると正しく通信できません。

存在している場合は、重複しているホストまたは通信機器の LAN ケーブルを外し、各サーバを再起動してください。

各サーバとスキャナの上にファイアーウォール装置が設置され、アクセスが禁止されている。

■ 対処方法

各サーバとスキャナの上にファイアーウォール装置が設置されている場合は、ファイアーウォール装置でアクセスが禁止されていないか確認してください。

スキャナと各サーバとのネットワークの「Link Speed/Duplex Mode」が異なっている。または、各サーバ側が自動検出に対応していない。

■ 対処方法

スキャナの「[4.7.8 ネットワークの詳細設定をする](#)」(P.107)で、「Link Speed/Duplex Mode」が、初期値の「自動検出」になっています。

「自動検出」で正しく動作しない場合は、スキャナと各サーバの Link Speed/Duplex Mode を固定にして再度確認してください。

■ ホスト名または FQDN 名指定で、スキャナから各サーバにネットワーク通信ができない

ホスト名または FQDN 名指定でスキャナから各サーバに、ネットワーク通信しても接続できない場合、またはスキャナから Ping を使って、ホスト名または FQDN 名指定でテストしても各サーバから応答がない場合は、以下の対処をしてください。

「IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」(P.369) と同じ原因。

■ 対処方法

「IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」(P.369) と同じ対処で、ネットワークの通信が可能になっているかを確認してください。

スキャナの DNS サーバまたは WINS サーバの設定が誤っている。

■ 対処方法

スキャナの DNS サーバまたは WINS サーバが正しく設定されているかを確認してください。

DNS サーバまたは WINS サーバが正常に動作していない。または、DNS サーバまたは WINS サーバまでのネットワーク経路に異常が発生した。

■ 対処方法

DNS サーバまたは WINS サーバが正常に動作しているかを、Ping で確認してください。

DNS サーバまたは WINS サーバが動作していない場合は、ネットワーク管理者にサーバの状況を確認してください。

■ ドメインに参加できない、またはドメインへのログインに失敗する

スキャナをドメインに参加させるときに、権限エラーとなり追加できない。

■ 対処方法

- スキャナをドメインに参加させる場合は、ドメインの管理者権限を持つユーザー、またはドメインへコンピュータを追加する権限を持ったユーザーで認証してください。
ユーザー名およびパスワードがわからない場合は、ドメインのシステム管理者に問い合わせてください。
- LAN Manager 認証レベルがドメインのサーバの設定値と一致しているかを確認してください。

administrator 権限を持つユーザーでドメインにスキャナを登録したあと、スキャナ名を変更しようとして administrator 権限を持たないドメインユーザーで認証すると、ドメインへのログインに失敗する。

■ 対処方法

administrator 権限でドメインにスキャナを登録した場合、次回の認証も administrator 権限を持つユーザーで行ってください。

■ ネットワーク共有プリンターが追加できない

スキャナからネットワーク共有プリンターの追加ができない場合は、以下の対処をしてください。また、プリンターの設定方法、ネットワーク共有プリンターの追加方法や留意事項が書かれているプリンターのマニュアルを事前によくお読みください。

プリントサーバに Windows 10 用のプリンタードライバがインストールされていない。

■ 対処方法

プリントサーバに Windows 10 用のプリンタードライバをインストールしてください。
プリントサーバに Windows 10 用のプリンタードライバがインストールされていることを確認してください。確認方法については、「[4.14 ネットワーク共有プリンターを設定する](#)」(P.145)を参照してください。

ネットワーク共有プリンターの共有名が変更された。

■ 対処方法

プリントサーバで、ネットワーク共有プリンターの共有名を確認してください。

直接入力で指定したネットワーク共有プリンターのパス名に誤りがある。

■ 対処方法

直接入力で指定したネットワーク共有プリンターのパス名を確認してください。

ネットワーク共有プリンターの共有名に「|」(パイプ)文字を使用している。

■ 対処方法

プリントサーバ側で、共有名に「|」(パイプ)文字を使用しない共有プリンターを作成して、再度ネットワーク共有プリンターを登録してください。

LAN Manager 認証レベルがネットワーク共用プリンターのサーバの設定値と一致していない。

■ 対処方法

LAN Manager 認証レベルは、ネットワーク共用プリンターのサーバの設定値と一致させてください。

■ ネットワーク共有プリンターから印刷できない

スキャナで設定したネットワーク共有プリンターから印刷できない場合は、以下の対処をしてください。また、プリンターの設定方法、ネットワーク共有プリンターの追加方法や留意事項が書かれているプリンターのマニュアルを事前によくお読みください。

「IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」(P.369) と同じ原因。

■ 対処方法

「IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」(P.369) と同じ対処で、ネットワークの通信が可能になっているかを確認してください。

用紙切れ、用紙づまりなどの原因で、プリンターが印刷可能な状態ではない。

■ 対処方法

プリンターが印刷可能な状態になっているかを確認し、プリンターのエラー要因を取り除いてください。

ネットワーク共有プリンターへの印刷権限がない。

■ 対処方法

ネットワーク管理者にネットワーク共有プリンターへの印刷権限を確認してください。

プリンター本体またはスプーラの異常で印刷できない。

■ 対処方法

以下のどれかの対処をしてください。

- プリントサーバ上のアプリケーションから印刷できることを確認してください。
- プリントサーバのスプーラが正常に動作しているかを確認してください。

■ ネットワーク共有フォルダーが追加できない

スキャナからネットワーク共有フォルダーの追加ができない場合は、以下の対処をしてください。

ネットワーク共有フォルダーの共有名が変更された。

■ 対処方法

サーバ側で、ネットワーク共有フォルダーの共有名を確認してください。

直接入力で指定したネットワーク共有フォルダーのパス名に誤りがある。

■ 対処方法

直接入力で指定したネットワーク共有フォルダーのパス名を確認してください。

LAN Manager 認証レベルがネットワーク共有フォルダーのサーバと一致していない。

■ 対処方法

LAN Manager 認証レベルは、ネットワーク共有フォルダーのサーバの設定値と一致させてください。

■ ネットワーク共有フォルダーに保存できない

FTP フォルダーまたはネットワーク共有フォルダーにスキャン画像を保存するときに、「ネットワークがビジー状態です。時間をおいてから再実行してください。」のメッセージが表示されて保存できない。

■ 対処方法

ネットワーク共有フォルダーが一時的に使用できない状態になっている場合があります。しばらく時間（3分程度）をおいてから、再度実行してください。

また、FTP サーバの空きポート番号が一時的になくなると発生する場合があります。しばらく時間（3分程度）をおいてから、再度実行するか、またはFTPの設定をパッシブモードに変更してください。

FTP プロキシを使用して大容量サイズのデータをFTPフォルダーに保存するときに、途中でエラーとなり保存できない。

■ 対処方法

プロキシサーバに DeleGate を使用している環境で、データの転送時間が10分以上かかる場合、保存処理に失敗する場合があります。この場合は、DeleGateの設定に「TIMEOUT io=0」を追加すると、正常に保存できる場合があります。

FTP/FTPS による保存を繰り返していると、「ネットワーク共有フォルダーへの保存処理でエラーが発生しました。」のメッセージが表示されることがある。

■ 対処方法

FTP サーバ側の空きポート番号が枯渇した場合に、この現象が発生することがあります。しばらく時間（3分程度）をおいてから、再度保存処理を実行してください。

7.2.3 Internet Explorer・Admin Tool・Central Admin Server・User Editor からスキャナにアクセスできない場合の対処方法

Internet Explorer・Admin Tool・Central Admin Server・User Editor からスキャナにアクセスできない場合は、以下の対処をしてください。

「IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」(P.369) と同じ原因。

■ 対処方法

「IP アドレス指定でスキャナから各サーバにネットワーク通信ができない」(P.369) と同じ対処で、ネットワークの通信が可能になっているかを確認してください。

DNS サーバ、WINS サーバが正常に動作していない。または、DNS サーバや WINS サーバにスキャナのスキャナ名が登録されていない。

■ 対処方法

IP アドレスを指定して接続確認してください。

IP アドレスを指定してネットワーク接続できた場合は、スキャナのスキャナ名の IP アドレスを DNS サーバ、または WINS サーバに登録してください。

スキャナの管理者設定で、DNS サーバおよび WINS サーバが正しく設定されているかを確認してください。

Internet Explorer、Admin Tool、または User Editor がインストールされたコンピュータと、スキャナの間にファイアウォール装置が設置され、HTTP/HTTPS プロトコルでのスキャナへのアクセスが禁止されている。

■ 対処方法

Internet Explorer、Admin Tool、または User Editor がインストールされたコンピュータと、スキャナの間にファイアウォール装置が設置されている場合は、ファイアウォール装置でアクセスが禁止されていないかを確認してください。

対象スキャナの URL が信頼済みサイトに設定されてない。

■ 対処方法

Internet Explorer の信頼済みサイトに、対象スキャナの URL を設定してください。

1. Internet Explorer で、「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択します。
2. 「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」を選択して、[サイト] ボタンを押します。
3. 「この Web サイトをゾーンに追加する」に対象スキャナの URL を入力して、[追加] ボタンを押します。

Internet Explorer で、「ツール」メニューの「インターネットオプション」にある「セキュリティ」タブで、該当するゾーンのセキュリティレベルが「高」に設定されている。
または、「レベルのカスタマイズ」で「設定」の「スクリプト」の「アクティブスクリプト」が「ダイアログを表示する」または「無効にする」に設定されている。

■ 対処方法

スキャナ名で接続した場合は、イントラネットゾーンでの接続になります。また、IP アドレスで接続した場合は、インターネットゾーンでの接続になります。

以下の方法で、対象のゾーンを設定してください。

1. Internet Explorer で、「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択します。
2. 以下のどれかの方法で、アクティブスクリプトを有効にします。
 - 「セキュリティ」タブの「既定のレベル」ボタンを押して、「このゾーンのセキュリティのレベル」を「中」にします。
 - 「セキュリティ」タブの「レベルのカスタマイズ」ボタンを押して、「設定」の「スクリプト」の「アクティブスクリプト」を「有効にする」にします。
3. インターネットゾーンの場合は、「プライバシー」タブで、設定を「中 - 高」以下にします。
4. インターネット一時ファイルを削除します。
詳細は、Internet Explorer のヘルプを参照してください。

スキャナが省電力モードになっている。

■ 対処方法

電源ボタンを押して、スキャナを起動してください。

プロキシサーバを使用している。

■ 対処方法

プロキシサーバを使用しない設定にしてください。

1. Internet Explorer で、「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択します。
2. 「接続」タブの「LAN の設定」ボタンを押します。
3. 「LAN にプロキシサーバを使用する（これらの設定はダイヤルアップまたは VPN 接続には適用されません）」チェックボックスのチェックを外します。

接続プロトコルの指定に誤りがある。

■ 対処方法（本体）

「接続設定」画面で SSL 通信の使用の有無を確認してください。

詳細は、「[4.9.1 接続設定をする](#)」(P.110) を参照してください。

■ 対処方法（Internet Explorer、Admin Tool、または User Editor がインストールされたコンピュータ）

1. Internet Explorer で、「ツール」メニュー → 「インターネットオプション」を選択します。
2. 「詳細設定」タブを押します。
3. 「設定」の「セキュリティ」で、以下の項目のチェックボックスを「[4.9.1 接続設定をする](#)」（P.110）の[手順 2](#)の設定に合わせてチェックを付けます。
 - 「SSL 3.0 を使用する」
 - 「TLS 1.0 を使用する」
 - 「TLS 1.1 の使用」
 - 「TLS 1.2 の使用」

ポート番号の指定に誤りがある。

■ 対処方法

「接続設定」画面で指定したポート番号を指定してください。
詳細は、「[4.9.1 接続設定をする](#)」（P.110）を参照してください。

7.3 スキャナの使用中にトラブルが発生したときには

スキャナの使用中に発生するトラブルとその対処方法について説明します。修理を依頼される前に、以下の項目を点検してください。

項目を点検しても直らない場合は、「[7.4 サービスセンターに連絡する前に](#)」(P.387)の各項目を確認して、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFI イメージング サービス&サポートセンターに連絡してください。

発生するトラブル事例は以下のとおりです。

症状一覧

■ 電源が入らない

- 「電源が入らない。」(P.379)

■ スキャナが起動しない

- 「画面に「The last attempt to restart ...」のメッセージが表示されて、スキャナが起動しない。」(P.379)
- 「省電力モードから復帰しない。」(P.379)
- 「「起動時にスキャナの初期化に失敗しました」のメッセージが表示され、起動しない。」(P.380)

■ スキャナを初期状態に戻したい

- 「スキャナの設定を初期状態に戻したい。」(P.380)
- 「管理者のログインパスワードを忘れた。」(P.380)

■ 読み取りがうまくできない

- 「読み取りが開始されない。」(P.380)
- 「Scan ボタンを押しても読み取りが開始されない。」(P.381)
- 「マルチフィードが頻繁に検出される。」(P.381)
- 「原稿が送り込まれない (ピックアップが頻繁に発生する、または原稿が途中で止まる)。」(P.382)
- 「A3 キャリアシートの読み取りで、「原稿ジャムが発生しました。ADF から残っている原稿を取り除いてください。」のメッセージが表示されてエラーが発生する。」(P.383)

■ 読み取り結果がおかしい

- 「スキャン画像が間延びする。」(P.383)
- 「スキャン画像の先端に影がある。」(P.383)
- 「スキャン画像に縦線が出る。」(P.383)
- 「スキャン画像の出力結果がずれる、またはゆがむ。」(P.384)
- 「読み取り結果が良くない。」(P.384)
- 「スキャン画像の一部が切れる。」(P.384)
- 「スキャン画像が傾く。」(P.384)

■ ログインできない

- 「管理者パスワードでログインできない。」(P.385)
- 「ネットワーク経由で接続した場合に「ログイン」画面が表示されない。」(P.385)

■ 操作がうまくできない

- 「文字の入力域にキーボードで入力した内容が反映されない。」(P.385)
- 「「ファイルのダウンロード」画面で「保存」ボタンを押しても、保存できない。」(P.386)
- 「「XXX へ印刷しています。」画面の状態で止まってしまう。」(P.386)
- 「Admin Tool をインストールしようとすると、エラーになる。」(P.386)
- 「FAX 送信時に、スキャン中画面が表示された状態で止まってしまう。」(P.386)

■ 電源が入らない

電源が入らない。

■ 確認事項

電源ボタンを押しましたか？

■ 対処方法

電源ボタンを押してください。

■ 確認事項

AC アダプターおよび AC ケーブルが正しく接続されていますか？

■ 対処方法

- AC アダプターおよび AC ケーブルを正しく接続してください。
- AC ケーブルを抜いて一度電源を切断し、再び AC ケーブルを接続してください。電源を切断したあと、電源を入れる場合は、10 秒以上時間を空けてください。
この方法を試しても電源が入らない場合は、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス&サポートセンターに連絡してください。

■ スキャナが起動しない

画面に「The last attempt to restart ...」のメッセージが表示されて、スキャナが起動しない。

■ 確認事項

電源投入後、すぐに電源を切っていませんか？

■ 対処方法

- 電源ボタンを押してください。
- AC ケーブルを抜いて一度電源を切断し、再び AC ケーブルを接続してください。電源を切断したあと、電源を入れる場合は、10 秒以上時間を空けてください。
この方法を試しても電源が入らない場合は、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス&サポートセンターに連絡してください。

省電力モードから復帰しない。

■ 確認事項

電源を切断したあと、すぐに電源を入れていませんか？

■ 対処方法

電源ボタンを押してください。

「起動時にスキャナの初期化に失敗しました」のメッセージが表示され、起動しない。

■ 確認事項

スキャナの電源を切断してから、再度電源を入れても同じ現状ですか？

■ 対処方法

AC ケーブルを抜いて一度電源を切断し、再び AC ケーブルを接続してください。電源を切断したあと、電源を入れる場合は、10 秒以上時間を空けてください。

この方法を試しても電源が入らない場合は、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス&サポートセンターに連絡してください。

■ スキャナを初期状態に戻したい

スキャナの設定を初期状態に戻したい。

■ 対処方法

「工場出荷時の状態に戻す」(P.172) を参照して、スキャナを初期化してください。

管理者のログインパスワードを忘れた。

■ 対処方法

スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス&サポートセンターに連絡してください。

■ 読み取りがうまくできない

読み取りが開始されない。

■ 確認事項

原稿は ADF 給紙シュートに正しくセットされていますか？

■ 対処方法

原稿を ADF 給紙シュートに正しくセットしてください。

■ 確認事項

LCD カバーは完全に閉まっていますか？

■ 対処方法

LCD カバーを完全に閉めてください。

■ 確認事項

スキャナの電源を切ってから再び電源を入れ、ログインし直しても、同じ症状が出ますか？

■ 対処方法

AC ケーブルを抜いて一度電源を切断し、再び AC ケーブルを接続してください。電源を切断したあと、電源を入れる場合は、10 秒以上時間を空けてください。

この方法を試しても電源が入らない場合は、スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス & サポートセンターに連絡してください。

Scan ボタンを押しても読み取りが開始されない。

■ 確認事項



が付いたボタンが表示されていますか？

■ 対処方法

Scan ボタンが有効なのは、以下の画面がタッチパネルに表示されている場合です。

- 「メール送信」画面
- 「FAX 送信」画面
- 「印刷」画面
- 「保存」画面
- 「表示 & 編集」画面
- 「読み取りテスト」画面
- 「ジョブメッセージ」画面
- 「読み取り枚数入力」画面
- 読み取りが完了したときの読み取り枚数確認画面
- 「ファイル名入力」画面

マルチフィードが頻繁に検出される。

■ 確認事項

「[A.2 原稿の紙質](#)」(P.394) の条件を満たしていますか？

■ 対処方法

「[A.2 原稿の紙質](#)」(P.394) を満たしている原稿を使用してください。

■ 確認事項

原稿は ADF 給紙シュートに正しくセットされていますか？

■ 対処方法

読み取りの前に原稿の束をさばいて、きちんと端をそろえてから ADF 給紙シュートにセットしてください。

■ 確認事項

原稿の束の厚さが 5mm を超えていませんか？

■ 対処方法

原稿の束の厚さを 5mm まで減らしてください。

■ 確認事項

ブレーキローラーおよびピックアップローラーがよごれていませんか？

■ 対処方法

ブレーキローラーおよびピックアップローラーを清掃してください。

詳細は、「[6.3 スキャナ内部を清掃する](#)」(P.338)を参照してください。

■ 確認事項

ブレーキローラーおよびピックアップローラーが磨耗していませんか？

■ 対処方法

ブレーキローラーおよびピックアップローラーを交換してください。

詳細は、「[6.5 消耗品を交換する](#)」(P.345)を参照してください。

■ 確認事項

標高 2,000m 以上の高地でスキャナを使用していますか？

■ 対処方法

管理者設定の「マルチフィード検出設定」画面で「高地モード」を「有効」にしてください。

詳細は、「[4.5.1 マルチフィードの検出条件を設定する](#)」(P.86)を参照してください。

原稿が送り込まれない（ピックアップエラーが頻繁に発生する、または原稿が途中で止まる）。

■ 確認事項

「[A.2 原稿の紙質](#)」(P.394)の条件を満たしていますか？

■ 対処方法

「[A.2 原稿の紙質](#)」(P.394)を満たしている原稿を使用してください。

■ 確認事項

ブレーキローラーおよびピックアップローラーがよごれていませんか？

■ 対処方法

ブレーキローラーおよびピックアップローラーを清掃してください。

詳細は、「[6.3 スキャナ内部を清掃する](#)」(P.338)を参照してください。

■ 確認事項

ブレーキローラーおよびピックアップローラーが磨耗していませんか？

■ 対処方法

ブレーキローラーおよびピックアップローラーを交換してください。

詳細は、「[6.5 消耗品を交換する](#)」(P.345)を参照してください。

■ 確認事項

搬送路に異物が入り込んでいませんか？

■ 対処方法

搬送路から異物を取り除いてください。

A3 キャリアシートの読み取りで、「原稿ジャムが発生しました。ADF から残っている原稿を取り除いてください。」のメッセージが表示されてエラーが発生する。

■ 確認事項

A3 キャリアシートの読み取りに失敗した場合、「キャリアシートの読み取りに失敗しました。原稿の折り目側を、太い縦線のある方の端へぴったりと合わせて、再度読み取りを行ってください。」のメッセージが表示されたあと、「原稿ジャムが発生しました。ADF から残っている原稿を取り除いてください。」のメッセージが表示され、エラーとなる場合があります。

■ 対処方法

メッセージに応答してから、再度読み取ってください。

■ 読み取り結果がおかしい

スキャン画像が間延びする。

■ 確認事項

フィードローラーがよごれていませんか？

■ 対処方法

フィードローラーを清掃してください。
詳細は、「[6.3 スキャナ内部を清掃する](#)」(P.338) を参照してください。

スキャン画像の先端に影がある。

■ 確認事項

フィードローラーがよごれていませんか？

■ 対処方法

フィードローラーを清掃してください。
詳細は、「[6.3 スキャナ内部を清掃する](#)」(P.338) を参照してください。

スキャン画像に縦線が出る。

■ 確認事項

ガラス部がよごれていませんか？

■ 対処方法

「[第6章 スキャナのお手入れ](#)」(P.334) を参考にして、ガラス部を清掃してください。

スキャン画像の出力結果がずれる、またはゆがむ。

- 確認事項
原稿は正しくセットされていますか？
- 対処方法
原稿を正しくセットしてください。

読み取り結果が良くない。

- 確認事項
ガラス部がよごれていませんか？
- 対処方法
よごれている箇所を清掃してください。

スキャン画像が一部が切れる。

- 確認事項
用紙の色によっては、用紙の境界線が正しく読み取れず、画像の一部が切り取られる場合があります。
- 対処方法
用紙サイズ設定を定型サイズにして、読み取ってください。

-
- 確認事項
用紙が正しくセットされていますか？
 - 対処方法
用紙を正しくセットしてください。

スキャン画像が傾く。

- 確認事項
サイドガイドが用紙幅にありますか？
- 対処方法
サイドガイドを用紙幅に合わせてください。
また、ブレーキローラーおよびピックアップローラーが原因の場合もあります。「[原稿が送り込まれない（ピックアップエラーが頻繁に発生する、または原稿が途中で止まる）](#)。」（P.382）の確認事項および対処方法も確認してください。

■ ログインできない

管理者パスワードでログインできない。

■ 確認事項

パスワード入力時に Caps Lock がかかっていませんか？

■ 対処方法

Caps Lock を解除してもう一度ログインしてください。

■ 確認事項

パスワードを変更しましたか？

■ 対処方法

パスワードの初期値は「password」です。

変更したパスワードを紛失したり、忘れたりすると、ログインできなくなります。

その場合は、修理対応となります。

スキャナを購入された販社 / 販売店または PFU イメージング サービス&サポートセンターに連絡してください。

ネットワーク経由で接続した場合に「ログイン」画面が表示されない。

■ 確認事項

SSL 通信の設定は正しいですか？

■ 対処方法

画面を終了し、設定を見直してから再度接続してください。

■ 確認事項

HTTPS 接続時に表示される「セキュリティの警告」画面で [はい] ボタンを押しましたか？

■ 対処方法

画面を終了させてから再度接続してください。接続時に表示される「セキュリティの警告」画面では [はい] ボタンを押してください。

■ 操作がうまくできない

文字の入力域にキーボードで入力した内容が反映されない。

■ 確認事項

文字の入力域が選択されていますか？

■ 対処方法

- 再度入力域を選択してください。
- [キャンセル] ボタンを押して、再入力してください。
- タッチパネルの場合は、画面の入力域を直接触ってから再入力してください。

「ファイルのダウンロード」画面で［保存］ボタンを押しても、保存できない。

■ 確認事項

保存先のパス長がファイル名を含めて 259 文字以上になっていませんか？

■ 対処方法

保存先のパス長が短くなるよう保存先を変更してください。

「XXX へ印刷しています。」画面の状態で止まってしまう。

■ 確認事項

プリントサーバのスプールフォルダーが存在するドライブに空き容量がありますか？

■ 対処方法

プリントサーバのスプールフォルダーが存在するドライブに十分空き容量を確保してください。

Admin Tool をインストールしようとする、エラーになる。

■ 確認事項

オペレーティングシステムの言語と異なる言語の Admin Tool がインストールされていませんか？

■ 対処方法

すでにインストールされている Admin Tool をアンインストールしてください。そのあとで、オペレーティングシステムの言語と同じ言語の Admin Tool を再度インストールしてください。

FAX 送信時に、スキャン中画面が表示された状態で止まってしまう。

■ 確認事項

読み取り中に、スキャナの Scan ボタンを何度も押していませんか？

読み取りが終わる直前にスキャナの Scan ボタンを押さないでください。

■ 対処方法

AC ケーブルを抜いて一度電源を切断し、再び AC ケーブルを接続してください。電源を切断したあと、電源を入れる場合は、10 秒以上時間を空けてください。

この方法を試しても同じ現象が発生する場合は、スキャナを購入された弊社 / 販売店または PFU イメージング サービス & サポートセンターに連絡してください。

7.4 サービスセンターに連絡する前に

当社のサービスセンター（PFU イメージング サービス&サポートセンター）に連絡する前に、以下の項目をお調べください。

7.4.1 概要

調べる項目	調査結果
装置名（MODEL）	Image Scanner N7100E
製造番号 （SER. NO.）	例：***** 詳細は、「7.5 ラベルの確認」（P.390）を参照してください。
製造年月 （DATE）	年 月 例：20xx-01（20xx 年 1 月） 詳細は、「7.5 ラベルの確認」（P.390）を参照してください。
購入年月日	年 月 日
システムバージョン	
症状	
故障頻度	
総読み取りページ数 （ADF）	
保証書の有無	該当するものに丸を付けてください。 有 ・ 無

7.4.2 エラー状況

■ コンピュータ接続時の問題

調べる項目	調査結果
OS（Windows）の種類	
Internet Explorer のバージョン	
Admin Tool のバージョン	
画面のエラーメッセージ	

■ 搬送系の問題

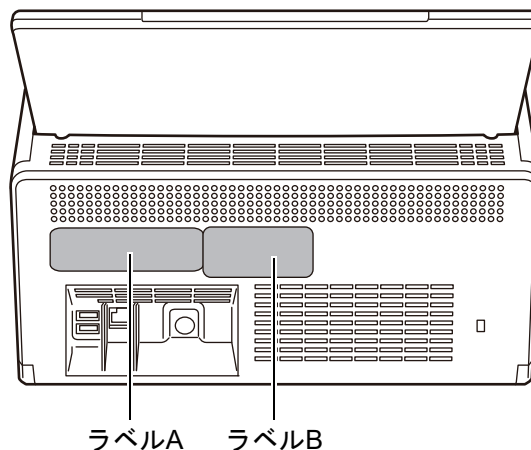
調べる項目	調査結果
原稿の種類	
主な使用目的	
最新の清掃年月日	年 月 日
消耗品の交換年月日	年 月 日
エラーメッセージの内容	

■ 原稿と出力結果の送付

調べる項目	調査結果
原稿と出力結果の両方を、メールまたはFAXで送信することは可能ですか？	該当するものに丸を付けてください。 可能 不可能

7.5 ラベルの確認

ラベルの位置を以下に示します。
ラベルは、スキャナの背面にあります。



以下に、ラベルの例を示します。

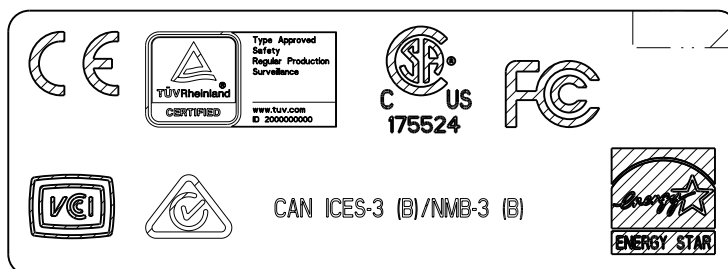
- ラベル A

例：スキャナの情報を示しています。

型 名	FI-N7100E		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
MODEL	N7100E		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
PART NO.	PA03706-B***											
SER. NO.	*****											
DATE	YYYY-MM											
		* X X X X X X X X X X *										
		V --- *A ***kg										
PFU Limited		PFU MADE IN *****										

- ラベル B

例：スキャナが適合する規格について示しています。



7.6 スキャナを保守に出すときの処置

スキャナを保守に出すときは、以下を参照してユーザー情報とシステム設定情報を退避してください。

- 「4.16.1 ユーザー情報をメンテナンスする」(P.165) の「ユーザー情報を退避する」(P.167)
- 「4.16.2 システム設定情報の保守を行う」(P.169)

退避後、以下を参照してユーザー情報とシステム設定情報を削除してください。
ハードディスク (SSD) を交換すると、設定は出荷時の状態になります。

- 「4.16.1 ユーザー情報をメンテナンスする」(P.165) の「ユーザー情報をすべて削除する」(P.168)
- 「4.16.2 システム設定情報の保守を行う」(P.169) の「工場出荷時の状態に戻す」(P.172)

重要

ユーザー情報には、メール送信元や FAX 番号などの個人情報のデータが含まれます。取り扱いには十分注意してください。

付録 A

読み取りできる原稿

管理者

利用者

原稿を正しく読み取るために必要な原稿のサイズと原稿の紙質について説明します。

A.1 原稿のサイズ	393
A.2 原稿の紙質	394
A.3 セットできる原稿の枚数	396
A.4 穴を開けてはいけない領域・原稿を貼り付けてはいけない領域	397
A.5 マルチフィードの検出条件	398
A.6 A3 キャリアシートを使用する場合の条件	399

A.1 原稿のサイズ

読み取り可能な原稿のサイズは以下のとおりです。

幅 : 50.8 ~ 216mm (2 ~ 8.5 インチ)

長さ : 50.8 ~ 355.6mm (2 ~ 14 インチ) (*)

(*): 読み取りできる最大の長さは、3,048mm (120 インチ) です。863mm より長い原稿を読み取る場合は、解像度を 200dpi 以下にしてください。

A.2 原稿の紙質

原稿の種類

推奨される原稿の種類は以下のとおりです。

- 上質紙
- 中質紙
- PPC 用紙（再生紙）
- プラスチックカード

上記以外の種類の原稿を読み取る場合には、読み取り操作を実行する前に、読み取りできるかどうかを同質の原稿で確認してください。

原稿の厚さ

使用可能な原稿の厚さは以下のとおりです。

- 40 ～ 209 g/m² (34.4 ～ 180kg/ 連)
- A8 サイズは 127 ～ 209 g/m² (110 ～ 180kg/ 連)
- プラスチックカード（横送りだけ）は 0.76mm 以下（エンボス有カード可）

事前の注意

以下の原稿は、うまく読み取れない場合があります。

- 厚さが一定していない原稿（封筒、写真を貼り付けた原稿など）
- しわが寄っているまたはカールしている原稿（次ページのヒントを参照）
- 折れたり、裂けたりしている原稿
- トレーシングペーパー
- コート紙
- カーボン紙
- 感光紙
- 端にミシン目や穴が開いている原稿
- 四角形ではない原稿
- 非常に薄い（40 g/m² 未満）原稿
- 写真（印画紙）

また、以下の原稿は読み取らないでください。

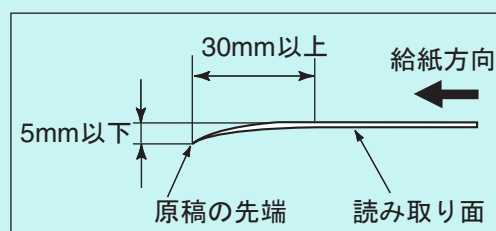
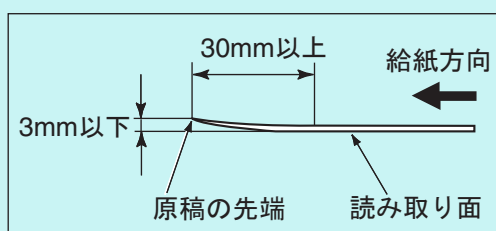
- クリップまたはステープラーの針が付いた原稿
- インクが乾いていない原稿
- A8 サイズより小さい原稿
- 幅が 216mm（8.5 インチ）より大きい原稿
- 紙 / プラスチックカード以外のもの：布地、金属シート、OHP シートなど
- 傷ついたり、よごれたりしてはならない重要書類

重要

- ノーカーボン紙は、ブレーキローラーや原稿を送るローラー類（ピックローラーなど）を損なうような化学物質を含んでいるため、以下のことに注意してください。
 - 清掃
原稿づまりが頻繁に起きるときは、ブレーキローラーとピックローラーを清掃してください。清掃方法については、「第6章 スキャナのお手入れ」(P.334)を参照してください。
 - 部品の交換
ブレーキローラーとピックローラーの寿命は、中質紙の原稿を読み取る場合に比べて短くなる可能性があります。
- 中質紙の原稿を読み取った場合、ブレーキローラーとピックローラーの寿命は、上質紙の原稿を読み取った場合に比べて短くなる場合があります。
- 写真などの光沢紙を読み取った場合、原稿の表面が傷つく可能性があります。
- プラスチックカードを読み取る場合は、以下のことに注意してください。
 - 以下の仕様のプラスチックカードを使用してください。
ISO7810 ID-1 タイプに準拠したプラスチックカード
サイズ : 85.6 × 53.98mm
厚さ : 0.76mm 以下
素材 : ポリ塩化ビニル (PVC) またはポリ塩化酢酸ビニル (PVCA)
事前に搬送できることを確認してから、ご使用ください。
 - 硬くて曲がりにくいプラスチックカードは、うまく搬送されない場合があります。
 - プラスチックカードの表面が油（手の脂）などでよごれている場合は、よごれをふき取ってから読み取ってください。
 - 光沢の強いプラスチックカードを読み取ると、イメージデータの一部の色が明るくなったり、暗くなったりする場合があります。例：ゴールドのクレジットカード
 - エンボス有カードを読み取る場合は、エンボス面を下にして、横向きにセットしてください。
 - プラスチックカードのような厚い原稿を読み取ると、常にマルチフィードと誤検出されてしまいます。このような場合は、インテリジェントマルチフィード検出機能の使用、またはマルチフィード検出の設定を「無効」にすることで読み取りできます。

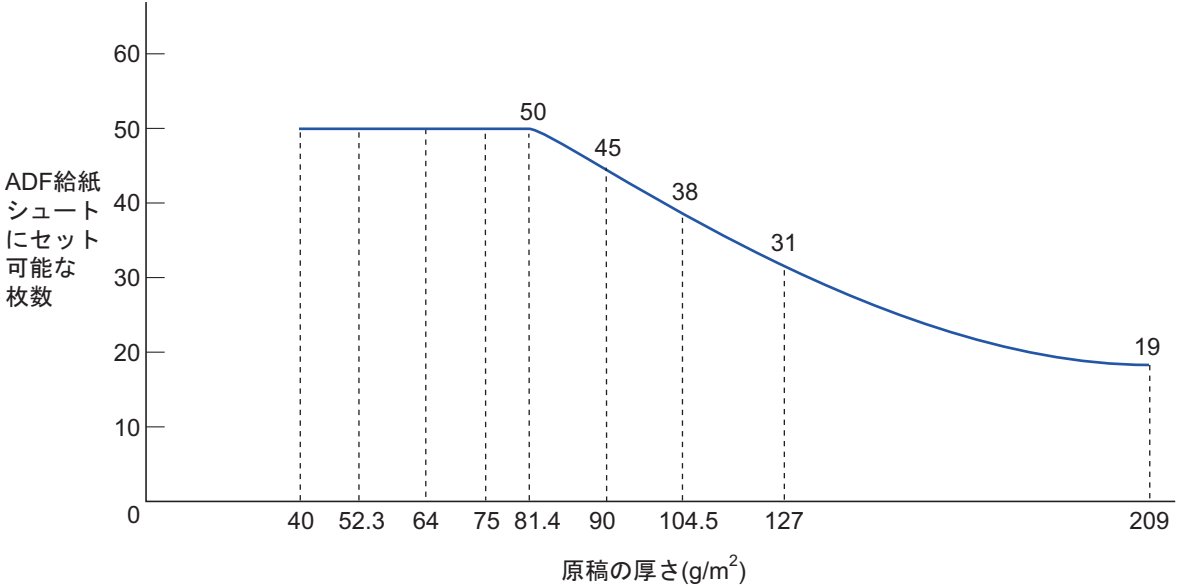
ヒント

- 半透明の原稿を読み取るときは、裏写りを防止するために「明るさ」を明るめに設定してください。
- 鉛筆書きの原稿を読み取るときは、原稿に黒い跡が転写される可能性があるため、できる限り頻繁にローラーを清掃してください。ローラー類のよごれ、原稿送り不良の原因となります。
清掃方法については、「第6章 スキャナのお手入れ」(P.334)を参照してください。
- ADF で原稿を読み取る場合、すべての原稿は先端が平らでなければなりません。原稿先端のカーブは、以下の数値を満たしている必要があります。



A.3 セットできる原稿の枚数

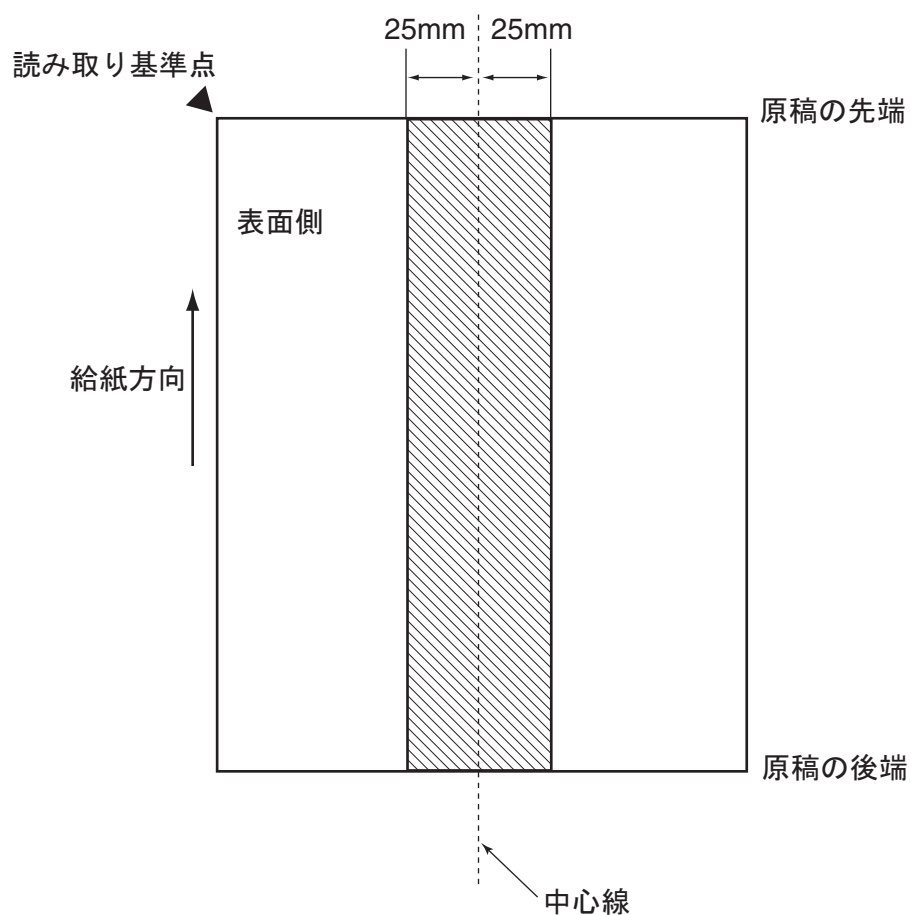
ADF 給紙シュートにセットできる原稿の枚数は、原稿のサイズと厚さで決まります。
以下のグラフを参照してください。



厚さの単位	変換表								
lb	11	14	17	20	22	24	28	34	56
g/m ² (坪量)	40	52.3	64	75	81.4	90	104.5	127	209

A.4 穴を開けてはいけない領域・原稿を貼り付けてはいけない領域

下図の斜線の領域に穴が開いている、またはほかの原稿が貼り付けられていると、エラーの原因になることがあります。



A.5 マルチフィードの検出条件

マルチフィード検出は、原稿の重なり、原稿の長さ、または原稿の重なりと長さの両方をチェックして検出します。

検出を正しく行うには、以下の条件が必要です。

原稿の重なりを検出する場合

- ADF 給紙シュートにセットして一度に読み取る原稿の厚さは、同じものを使用してください。
- 原稿の厚さ：40 ～ 209g/m² (34.4 ～ 180kg/ 連)
- 原稿の中心線から両側に幅 25mm の領域には、穴を開けないでください。(*)
- 原稿の中心線から両側に幅 25mm の領域には、のりなどの接着剤で、ほかの原稿を貼り付けしないでください。(*)

(*)：「A.4 穴を開けてはいけない領域・原稿を貼り付けてはいけない領域」(P.397)を参照してください。

原稿の長さを検出する場合

- ADF 給紙シュートにセットして一度に読み取る原稿の長さは、同じものを使用してください。
- 原稿の長さのばらつき：1% またはそれ以下
- 原稿の中心線から両側に幅 25mm の領域には、穴を開けないでください。(*)

(*)：「A.4 穴を開けてはいけない領域・原稿を貼り付けてはいけない領域」(P.397)を参照してください。

原稿の重なりと長さの両方を検出する場合

- ADF 給紙シュートにセットして一度に読み取る原稿の厚さ、および長さは同じものを使用してください。
- 原稿の厚さ：40 ～ 209g/m² (34.4 ～ 180kg/ 連)
- 原稿の長さのばらつき：1% またはそれ以下
- 原稿の中心線から両側に幅 25mm の領域には、穴を開けないでください。(*)
- 原稿の中心線から両側に幅 25mm の領域には、のりなどの接着剤で、ほかの原稿を貼り付けしないでください。(*)

(*)：「A.4 穴を開けてはいけない領域・原稿を貼り付けてはいけない領域」(P.397)を参照してください。

重要

- 原稿の重なりを検出する場合、厚い原稿を使用すると、常にマルチフィードと誤検出されてしまいます。このような場合は、インテリジェントマルチフィード検出機能の使用、またはマルチフィード検出の設定を「無効」にすることで読み取りできます。
- 原稿によっては、マルチフィードの検出率が低下する場合があります。
- 原稿の先端および後端から 30mm は、マルチフィードを検出できない場合があります。

A.6 A3 キャリアシートを使用する場合の条件

A.6.1 原稿のサイズ

読み取り可能な原稿のサイズは以下のとおりです。

- A3 (297 × 420mm) (*)
- B4 (JIS) (257 × 364mm) (*)
- ダブルレター (279.4 × 431.8mm/11 × 17 インチ) (*)

(*):2 つ折りにして読み取ります。

A.6.2 原稿の紙質

原稿の種類

推奨される原稿の種類は以下のとおりです。
一般的なオフィス用紙

原稿の厚さ

使用可能な原稿の厚さは以下のとおりです。

- 209g/m² (180kg/ 連) まで
- 2 つ折りにして読み取る場合、104.5g/m² (90kg/ 連) まで

事前の注意

以下のことに注意してください。

- A3 キャリアシートは同時に最大 10 枚までセットできます。
- A3 キャリアシート先端に印刷された白黒のパターン部分に、文字を書いたり、色を塗ったり、よごしたり、切り取ったりしないでください。A3 キャリアシートが正しく認識できなくなります。
- A3 キャリアシートの上下を逆向きにして、スキャナにセットしないでください。原稿づまりが発生して、A3 キャリアシートおよび A3 キャリアシート内の原稿が破損するおそれがあります。
- 原稿を、A3 キャリアシートに入れたまま長期間放置しないでください。印刷が A3 キャリアシートに転写する場合があります。
- A3 キャリアシートを、直射日光の当たる場所や暖房機の近くなど、高温になる場所に長時間放置しないでください。また、高温環境下で A3 キャリアシートを使用しないでください。A3 キャリアシートが変形するおそれがあります。
- A3 キャリアシートを折り曲げたり、無理に引っ張ったりしないでください。
- 破損した A3 キャリアシートは使用しないでください。スキャナが破損、または故障する可能性があります。
- A3 キャリアシートは、変形を避けるため、できるだけ水平な場所で、重量のかからない状態で保管してください。
- A3 キャリアシートの端を、指で勢いよくこすらないでください。指を切るおそれがあります。

- 原稿づまりが頻繁に発生するときは、PPC 用紙（再生紙）を 50 枚ほど連続給紙したあとに、A3 キャリアシートの読み取りを行ってください。
PPC 用紙（再生紙）は、印刷済みのものでも無地のものでも構いません。
- A3 キャリアシートに小型原稿（写真・はがきなど）を複数枚並べて読み取ると、原稿づまりが発生する可能性があります。A3 キャリアシートには、1 枚ずつ原稿をセットして読み取することを推奨します。

付録 B

設定値と上限値

管理者

利用者

メールアドレスの設定値および設定項目の上限値について説明します。

B.1 メールアドレスの設定値..... 402

B.2 設定項目の上限値..... 403

B.1 メールアドレスの設定値

1 メールアドレスの最大文字数は、半角 256 文字です。
設定できるメールアドレスの書式は、以下のとおりです。

- XXXXXXX@IP アドレス
- XXXXXXX@ホスト名
- XXXXXXX@ドメイン名

XXXXXXXX	使用可能な文字は、半角英数字と以下の記号です。 !#\$%&'*+,-/=^_`{ }~. ただし、以下の場合には「.」を使用できません。 ● 先頭に「.」がある場合 ● 後方に「.」がある場合 ● 連続した「.」がある場合
IP アドレス	使用可能な文字は、半角数字と「.」です。 入力できる IP アドレスの範囲は以下のとおりです。 1.0.0.1 ~ 126.255.255.254 128.0.0.1 ~ 191.255.255.254 192.0.0.1 ~ 223.255.255.254 なお、IPv6 アドレスは指定できません。
ホスト名	使用可能な文字は、半角英数字と「-」です。ただし、ホスト名の先頭には「-」を使用できません。
ドメイン名	使用可能な文字は、半角英数字と以下の記号です。 -. 「.」で区切った各要素の最大文字数は半角 63 文字です。ただし、最後の要素には英字だけ使用できます。

B.2 設定項目の上限値

分類		上限値
メール	送信先とするメールアドレスの数	最大 30 件 (あて先、Cc、Bcc のそれぞれ)
	メール分割サイズ	64 ～ 10,240 KB (分割したメール 1 件分のメールサイズ上限)
	添付ファイル最大サイズ	1 ～ 20 MB
	警告表示アドレス数	2 ～ 1,000 件
	メールアドレス台帳への登録件数	● メールアドレスだけの場合 最大 10,000 件 ● メールアドレス、グループ、および同報リストの場合 合計で最大 5,000 件
	同報リストへのメールアドレス登録件数	最大 100 件
FAX	FAX 番号台帳への登録件数	最大 1,000 件
	FAX 送信先	1 回の送信につき 1 件
保存	フォルダーの登録件数	最大 100 件 (ネットワーク共有フォルダー、FTP フォルダー、SharePoint フォルダーの合計)
	フォルダーおよびツリーの表示件数	最大 10,000 件 (ドメイン、コンピュータ、ネットワーク共有フォルダーの合計)
印刷	プリンター登録件数	最大 100 件
	プリンターおよびツリーの表示件数	最大 10,000 件 (ドメイン、コンピュータ、ネットワーク共有プリンターの合計)

分類		上限値
ジョブ管理	ジョブ登録件数	最大 1,000 件 (1 つのジョブに登録できるアクションは最大 10 個)
	ジョブメニュー登録件数	最大 100 件
	ジョブグループ登録件数	最大 100 件
	ジョブグループへのメンバー登録件数	最大 1,000 件 (ユーザー、LDAP グループの合計)
	LDAP グループの有効範囲	5 階層以内のユーザー
ユーザー管理	ユーザー情報の登録件数	最大 1,000 件
	ローカルユーザー件数	最大 100 件
集中管理	スキャナ管理台数	最大 1,000 台
ログ管理	ユーザーログ件数	最大 1,000 件
	システムログ件数	最大 1,000 件
装置保守	異常通知先のメールアドレス数	最大 5 件
	Add-in 登録件数	最大 6 件 (「メインメニュー」画面には、Add-in および Add-in 以外の機能を併せて、最大 6 件のボタンを表示できる)
	インポートできる証明書の件数	最大 100 件
	SNMP 連携のトラップ通知先	最大 5 件

付録 C

互換性と接続性

管理者

利用者

スキャナのリソース / プログラムの互換性と接続性について説明します。

C.1 互換性..... 406

C.2 接続性..... 410

C.1 互換性

C.1.1 アドイン動作

アドイン動作の互換性は、以下のとおりです。

以下の表では、「.NET Framework」を「.NET」と表記します。

なお、各アドインの詳細は、SDK リファレンスガイドを参照してください。

アドイン動作の互換性		インストール先		
		N7100/N7100E SDK 7.0.0 以降 .NET 4.5	N1800 SDK 6.0.0 ~ 6.1.0 .NET 3.5	fi-6010N SDK 4.0.0 ~ 6.1.0 .NET 2.x
N7100/ N7100E SDK 7.0.0 以降	SDK アドイン (WPF)	○	—	—
	WEB-SDK アドイン	○	○	—
	SDK アドイン (Windows Form)	○	○	○
N1800 SDK 6.0.0 ~ 6.1.0	SDK アドイン (WPF)	—	—	—
	WEB-SDK アドイン	○	○	—
	SDK アドイン (Windows Form)	○	○	○
fi-6010N SDK 4.0.0 ~ 6.1.0	SDK アドイン (WPF)	—	—	—
	WEB-SDK アドイン	—	—	—
	SDK アドイン (Windows Form)	○	○	○

○：互換性あります。 —：互換性ありません。

C.1.2 システム設定情報の持ち回り

退避されたシステム設定情報の復元可否は、以下のとおりです。

退避 / 復元 (機種、版数)			復元先				
			N7100E	N7100	N1800		fi-6010N
			初版以降	初版以降	01.02.01 以降	初版～ 01.02.01 未満	初版以降
退 避 元	N7100E	初版以降	○	—	—	—	—
	N7100	初版以降	○	○	—	—	—
	N1800	01.02.01 以降	○ (*)	○ (*)	○	—	—
		初版～ 01.02.01 未満	○ (*)	○ (*)	○	○	—
	fi-6010N	初版以降	○ (*)	○ (*)	○	○	○

○：復元できます。 —：復元できません。

(*)： ジョブメニュー設定の「読み取り設定」は装置の初期値が使用されます。

C.1.3 ユーザー情報の持ち回り

退避されたユーザー情報の復元可否は、以下のとおりです。

退避 / 復元 (機種)		復元先			
		N7100E	N7100	N1800	fi-6010N
退 避 元	N7100E	○	○	—	—
	N7100	○	○	—	—
	N1800	○	○	○	—
	fi-6010N	○	○	○	○

○：復元できます。 —：復元できません。

C.1.4 ユーザー情報の共有

Central Admin Server でユーザー情報の共有を有効にした場合、異なるスキャナ間でのユーザー情報の共有可否は、以下のとおりです。

共有 (機種)		共有先			
		N7100E	N7100	N1800	fi-6010N
共有元	N7100E	○	○ (*1)	—	—
	N7100	○ (*2)	○	—	—
	N1800	○ (*3)	○ (*3)	○	—
	fi-6010N	○ (*3)	○ (*3)	○	○

○ : 共有できます。 — : 共有できません。

(*1): N7100E の「保存」の「SharePoint フォルダー」は N7100 では利用できません。

(*2): N7100 の SharePoint オプションは N7100E では利用できません。

(*3): 「読み取り設定」は各装置の初期値が使用されます。それ以外の情報は共有可能です。

C.1.5 ジョブ設定情報の共有

Central Admin Server でジョブ設定情報の共有を有効にした場合、異なるスキャナ間でのジョブ設定情報の共有可否は、以下のとおりです。

共有 (機種)		共有先		
		N7100/ N7100E	N1800	fi-6010N
共有元	N7100/N7100E	○	—	—
	N1800	○ (*)	○	—
	fi-6010N	○ (*)	○	○

○ : 共有できます。 — : 共有できません。

(*) : 「読み取り設定」は各装置の初期値が使用されます。それ以外の情報は共有可能です。

C.1.6 Central Admin Server からの配信

Central Admin Server からの配信可否は、以下のとおりです。

Central Admin Server からの 配信			接続先			
			N7100E	N7100	N1800	fi-6010N
提 供 元	5.2 以降 (*)	アップデート	○	○	○	○
		アドイン	○	○	○	○
		システム設定	○	○	○	○
		ジョブ設定	○	○	○	○
	4.6 ～ 5.0 (*)	アップデート	—	○	○	○
		アドイン	—	○	○	○
		システム設定	—	○	○	○
		ジョブ設定	—	○	○	○
	3.0 ～ 4.5 (*)	アップデート	—	—	○	○
		アドイン	—	—	○	○
		システム設定	—	—	○	○
		ジョブ設定	—	—	○	○
	2.0 ～ 2.6 (*)	アップデート	—	—	—	○
		アドイン	—	—	—	○
		システム設定	—	—	—	○
		ジョブ設定	—	—	—	○

○：配信できます。 —：配信できません。

(*)： Central Admin Server の版数

C.2 接続性

C.2.1 Admin Tool との接続性

Admin Tool との接続性は、以下のとおりです。

接続性 (機種、版数)			接続先		
			N7100/ N7100E	N1800	fi-6010N
提供元	N7100/ N7100E	03.01~04.01	○	○	○
	N1800	02.02 ~ 02.04	—	○	○
	fi-6010N	02.01 ~ 02.02	—	—	○

○：接続できます。 —：接続できません。

C.2.2 User Editor (AddressBookEditor) との接続性

User Editor (AddressBookEditor) との接続性は、以下のとおりです。

接続性 (機種、版数)			接続先		
			N7100/ N7100E	N1800	fi-6010N
提供元	N7100/ N7100E	03.01~04.01	○	○	○
	N1800	01.01 ~ 02.01	—	○	○
	fi-6010N(*)	01.01 ~ 02.02	—	—	○

○：接続できます。 —：接続できません。

(*): AddressBookEditor

C.2.3 Central Admin Server との接続性

Central Admin Server との接続性は、以下のとおりです。

Central Admin Server との 接続性		接続先			
		N7100E	N7100	N1800	fi-6010N
提 供 元	5.2 以降 (*)	○	○	○	○
	4.6 ～ 5.0 (*)	—	○	○	○
	3.0 ～ 4.5 (*)	—	—	○	○
	2.0 ～ 2.6 (*)	—	—	—	○

○：接続できます。 —：接続できません。

(*)： Central Admin Server の版数

C.2.4 ルート証明機関一覧

本スキャナは、ユーザー認証や、FTP サーバへの保存および SharePoint フォルダへの保存を行う場合、SSL（Secure Socket Layer）を使用した暗号通信ができます。SSL では通信相手を認証し、正当性を確認するために電子証明書を交換しています。スキャナには、以下のルート証明機関が登録されています。また、ルート証明書はインポートすることもできます。証明書のインポート方法については、「[4.4.5 証明書を管理する](#)」(P.84) を参照してください。

発行者	有効期限
AddTrust External CA Root	2020/05/30
Baltimore CyberTrust Root	2025/05/13
Class 3 Public Primary Certification Authority	2028/08/02
GeoTrust Global CA	2022/05/21
Hotspot 2.0 Trust Root CA - 03	2043/12/08
Microsoft ECC Product Root Certificate Authority 2018	2043/02/28
Microsoft ECC TS Root Certificate Authority 2018	2043/02/28
Microsoft Root Authority	2020/12/31
Microsoft Root Certificate Authority	2021/05/10
Microsoft Root Certificate Authority 2010	2035/06/24
Microsoft Root Certificate Authority 2011	2036/03/23
QuoVadis Root Certification Authority	2021/03/18

発行者	有効期限
Starfield Services Root Certificate Authority	2030/01/01
Symantec Enterprise Mobile Root for Microsoft	2032/03/15
Thawte Timestamping CA	2021/01/01
VeriSign Class 3 Public Primary Certification Authority - G5	2036/07/17
VeriSign Universal Root Certification Authority	2037/12/02

重要

- ルート証明機関の有効期限を過ぎた場合は、SSL 接続はできなくなります。
有効期限が切れた証明書は、必要があれば更新してください。
- 証明書は自動インストールされません。
一覧に存在しない証明書を使用する場合は、証明書をインポートしてください。
- SharePoint フォルダーの設定で SharePoint Online の追加に失敗する場合は、証明書「Digicert Global Root CA」をスキャナにインポートしてください。

C.2.5 Web メールを使用する場合の SMTP サーバの設定

メール送信時に Web メールを使用する場合、使用する Web メールに応じて、以下のよう
に SMTP サーバを設定します。

Web メール	サーバ アドレス (*1)	ポート番号	SSL 通信	SMTP 認証	認証方式 (*2)
Gmail	smtp.gmail.co m	587	有効 (STARTTLS)	選択	AUTH LOGIN, AUTH PLAIN
Yahoo! メール	smtp.mail.yah oo.com	465	有効 (SSL)	自動選択	AUTH LOGIN, AUTH PLAIN
AOL メール	smtp.aol.com	587	有効 (STARTTLS)	自動選択	AUTH LOGIN, AUTH PLAIN
Outlook.com	smtp.live.com	587	有効 (STARTTLS)	選択	AUTH LOGIN, AUTH PLAIN

(*1): 「.com」の部分は、各国のドメインに従って設定します。

(*2): OAuth2.0 認証は利用できません。

SMTP サーバの設定方法については、「[4.11.1 SMTP サーバを設定する](#)」(P.124)を参
照してください。

付録 D

本製品の仕様

管理者

利用者

本製品の仕様について説明します。

D.1 設置諸元	414
D.2 スキャナ基本仕様.....	415
D.3 ソフトウェア機能一覧	416
D.4 ソフトキーボードの入力方法の変更.....	418
D.5 バーコードの種類と検知条件.....	420

D.1 設置諸元

項目		仕様
外形寸法（幅 × 奥行き × 高さ）		300 × 232 × 172mm （ADF 給紙シュート、突起部を除く）
質量		6.0kg
LCD		8.4 インチ XGA TFT LCD モニタ
タッチパネル		アナログ抵抗膜方式タッチパネル
キーボード		ソフトキーボード
インターフェース	ネットワーク	LAN（1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T）×1
	USB	USB 2.0 × 2（キーボード、マウス用）
入力電圧	電圧	100-240V ± 10%
	周波数	50/60Hz
消費電力（AC）	動作時	38W 以下
	省エネ時	ラベルに記載されている「PART NO.」によって、消費電力が異なります（*）。 PA03706-Bxx1/Bxx3：2.0W 以下 PA03706-Bxx5：8.8W 以下
	電源オフ時	0.3W 以下
操作環境	温度	動作時：5 ～ 35℃、非使用時：-20 ～ 60℃
	湿度	動作時：20 ～ 80%、非使用時：8 ～ 95%
発熱量	動作時	33kcal/h 以下
	省エネ時	ラベルに記載されている「PART NO.」によって、発熱量が異なります（*）。 PA03706-Bxx1/Bxx3：1.72kcal/h 以下 PA03706-Bxx5：7.57kcal/h 以下
	電源オフ時	0.26kcal/h 以下

（*）： ラベルの詳細は、「[7.5 ラベルの確認](#)」（P.390）を参照してください。

ヒント

スキャナには、Wake On LAN 対応の LAN カードを標準装備しています。なお、Wake On LAN 機能は、前回の電源切断時に停電などの理由で異常な電源切断が行われた場合には機能しません。

D.2 スキャナ基本仕様

項目		仕様	備考
スキャナタイプ		ADF（自動給紙機構）	
イメージセンサー		カラー CIS × 2	表面 × 1、裏面 × 1
光源		RGB3 色 LED	
読み取り可能 原稿サイズ	最小	50.8 × 50.8mm	(*1)
	最大	216 × 355.6mm	
原稿の厚さ		0.049 ~ 0.257mm (40 ~ 209g/m ² 、34.4 ~ 180kg/ 連) A8 サイズは、0.157 ~ 0.257mm (127 ~ 209g/m ² 、110 ~ 180kg/ 連)	プラスチックカード (横送りだけ) は 0.76mm 以下 (エンボ ス有カード可)
読み取り速度 (A4、縦) (*2)	二値白黒	片面 25 枚 / 分、両面 50 面 / 分	200/300dpi
	グレースケール		
	カラー		
原稿搭載容量		50 枚 (A4、80g/m ²)	原稿の総厚みが 5mm 以下
光学解像度		600 dpi	
出力解像度		150dpi、200dpi、300dpi、600dpi	
画像処理	自動化機能	原稿サイズ自動検出 (クロップ)、ブランク ページスキップ、二値白黒 / グレース ケール / カラー自動検出、ドロップアウト カラー、トーン調整、クリーンアップ、 文字強調、モアレ除去、地紋除去、背景 平準化、タブ付きクロップ、マルチイ メージ、自動二値、正立補正、OCR、 マーカー OCR	

(*1): 給紙方向 (長さ方向) に最大 3,048mm (120 インチ) まで読み取り可能です。
863mm より長い原稿を読み取る場合は、解像度を 200dpi 以下にしてください。

(*2): 読み取り速度は、ハードウェアの最大速度であり、実際の読み取り時間にはデータ転
送時間などのソフトウェアの処理時間が付加されます。

D.3 ソフトウェア機能一覧

項目			仕様
システム	認証	ユーザー種別	あり
		サーバ	Active Directory、OpenLDAP
		サーバレス	可
		認証方式	LAN Manager、Kerberos (ローカルアカウントも利用可能)
ネットワーク	プロトコル		IPv4、TCP、UDP、ICMP、DNS、DHCP、WINS、NTP、SNMP
			IPv6、ICMPv6、DNSv6、DHCPv6、WSD、LLMNR、Neighbor Discovery、Router Discovery/Advertisement
			LDAP、HTTP、SMTP、FTP、NetBIOS
			SSL (LDAPS、HTTPS、FTPS)
オフィス機能	メール	メールサーバ	Windows IIS、Exchange サーバ
		ファイル分割	可
		分割ファイル指定	可
		一括メール送信	可
		送達確認	可
		アドレス台帳	利用者ごと
	保存	保存先	共有フォルダー、FTP フォルダー、SharePoint フォルダー
		共有フォルダー	CIFS
		FTP フォルダー	FTP、FTPS
		SharePoint フォル ダー	HTTP、HTTPS
	FAX	FAX サーバ	RightFax、Kofax Communication Server、インターネット FAX
	印刷	プリントサーバ	可

項目		仕様
業務機能	ジョブ（簡易カスタマイズ）	可
	SDK アドイン（WPF）	可
	WEB-SDK アドイン	可
	SDK アドイン（Windows Form）	可
操作性	プレビュー（「表示&編集」画面）	サムネイル / ページ表示切り替え
	ジェスチャー（表示&編集詳細画面だけ対応）	タップ、ズームイン、ズームアウト、回転
運用管理	設定方法	タッチパネル、リモート
	遠隔管理	可（Central Admin Console）
	一括管理	可（Central Admin Console）

D.4 ソフトキーボードの入力方法の変更

スキャナでは、ソフトキーボードを使用して、文字を入力します。
ソフトキーボードの表示方法については、「[2.4 ソフトキーボードの使い方](#)」(P.56)を参照してください。

D.4.1 キーの配列の変更

ソフトキーボードのキーの配列には、英字配列、および数字記号配列があります。
キーの配列は、以下のように変更できます。

キーの配列	変更方法
数字記号配列	 を押します。 ⇒  に変わります。
英字配列	 を押します。 ⇒  に変わります。
英字配列の英大文字と英小文字の切り替え	● 1文字入力するごとに、切り替えを解除する を押します。 ⇒ に変わります。 ● 切り替えを解除せず、連続して文字を入力する を二度押し（ダブルタップ）します。 ⇒ に変わります（英字配列の場合）。
記号配列の切り替え	 /  を押すたびに、記号配列が切り替わります。

D.4.2 入力モードの変更

IME（Input Method Editor）が有効な場合、ソフトキーボードでは、半角英数、全角英数の入力モードがあります。

入力モードは、以下のように変更できます。

- 数字記号配列の場合

入力モード	変更方法
全角数字記号	 を押します。 ⇒  に変わります。
半角数字記号	 を押します。 ⇒  に変わります。

- 英字配列の場合

入力モード	変更方法
全角英字（ローマ字入力）	 を押します。 ⇒  に変わります。
半角英字	 を押します。 ⇒  に変わります。

D.5 バーコードの種類と検知条件

使用できるバーコードの種類と検知条件を示します。
検知条件を満たさないバーコードは、正しく認識されない場合があります。

■ 1次元バーコード

コード	キャラクタセット	桁数
UPC	数字	12（UPC-A だけ、チェックデジットを含む）
EAN/JAN	数字	8 または 13（チェックデジットを含む）
CODE39 Full ASCII	フルアスキー	1 ～ 32（スタート・ストップコードを含まない）
CODE128/ EAN128	フルアスキー	1 ～ 32（チェックキャラクタを含まない）
Codabar(NW7)	4 種類のスタート・ストップキャラクタ、数字、6 種類の記号	1 ～ 32（スタート・ストップコードを含まない）
ITF	数字	2 ～ 32（必ず偶数桁）

■ 1次元バーコードの検知条件

項目	条件
バーコードの縦幅	10 ～ 30mm
バーコードの横幅（長さ）	300mm 以下
バーコードの余白	バーコードの周囲 5mm 以上 （ITF の左端および右端は、5mm 以上か、細エレメント幅の 6 倍以上のどちらか大きい方）
バーコードの色	黒色
バーコードの下地色	白色
解像度	200 ～ 600dpi
バーコードの角度	水平、垂直

項目	条件
細エレメント幅 / モジュール幅	● UPC-A/EAN/JAN 300dpi 以上の場合 : 0.264mm 以上 300dpi 未満の場合 : 0.30mm 以上 ● CODE39/CODE128/EAN128/Codabar(NW7) 300dpi 以上の場合 : 0.20mm 以上 300dpi 未満の場合 : 0.30mm 以上 ● ITF 300dpi 以上の場合 : 0.254mm 以上 300dpi 未満の場合 : 0.30mm 以上
太エレメント幅	14mm 以下 (UPC-A/EAN/JAN/CODE128/EAN128 では、最も太い (4 モジュール相当の) エレメント幅です)
キャラクタ間ギャップ	● UPC-A/EAN/JAN/CODE128/EAN128/ITF キャラクタ間ギャップは存在しません。 ● CODE39/Codabar(NW7) 細エレメント幅以上で、1.52mm または細エレメント幅の 3 倍のどちらか大きい方以下

重要

- バーコードが傾いている場合は正しく認識されない場合があります。
- 同じシートを複数回使用すると、紙のよごれによって認識精度が低下する場合があります。正しく認識されない場合や紙がよごれた場合は、新しいシートに交換してください。
- 制御コードの認識が失敗した場合、認識結果が以下になることがあります。
 - 制御コードが数値として認識される
 - 制御コードだけでなく、それ以外の文字の一部も全く認識されず、無視される
- バーコード内に制御コード [NUL] が含まれていた場合は、" " (スペース) に置換されます。
- 読み取り原稿が傾いている場合や、バーコードの印刷状態によっては正しく認識できない場合があるため、事前に正しく認識されることを確認したあと、運用してください。
- 認識領域に複数のバーコードが存在する場合、どのバーコードが有効になるかは不定となります。
- 認識領域に複数のバーコードが存在した場合、バーコードが認識される順番は不定です。
- バーコードの下地色、およびバーコードの色が白、黒以外の色の場合でも、認識が可能になる場合があります。カラーのバーコードを認識させる場合には、事前にカラー原稿の読み取り条件を調整して正しく認識されることを確認したあと、運用してください。

ヒント

- 画像の解像度は、200 ~ 600dpi を推奨します。
- バーコードを使用し、読み取り速度が低下した場合は、検知するバーコードの種類を少なくすることによって、読み取り速度が改善することがあります。

付録 E

SNMP 連携

管理者

利用者

SNMP 連携の機能について説明します。

SNMP 連携は、SNMP マネージャーからの SNMP 情報取得、SNMP マネージャーへの SNMP トラップ通知を行う機能です。

E.1 対応 MIB	423
E.2 MIB 情報	424
E.3 SNMP トラップ通知	426

E.1 対応 MIB

対応する MIB を、以下に示します。

- PC MIB
 - .iso.org.internet.mgmt.mib-2
 - system(1)
 - interfaces(2)
 - ip(4)
 - icmp(5)
 - tcp(6)
 - udp(7)
- PFU ネットスキャナ MIB
 - PFU 独自

E.2 MIB 情報

MIB 通知で取得される MIB 情報について説明します。

■ ScannerInfo

キー名	キー値の説明	対応する MIB・OID
ModelName	スキャナの機種名 N7100（固定）	modelName 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.1
SerialNo	スキャナのシリアル番号 例：A6RCA12345	serialNo 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.2
OperatingStatus	スキャナの電源状態 1：電源 OFF 2：電源 ON	operatingStatus 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.4
AdfTotalThroughput	ADF 総読み取り枚数	adfTotalThroughput 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.6
FirmwareVersion	スキャナのファームウェア バージョン 例：0B08	firmwareVersion 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.8
ErrorStatus	スキャナのエラー状態 0：エラー発生なし 1：エラー発生あり	errorStatus 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.5
Vendor	ベンダー名 PFU（固定）	Vendor 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.9

■ BrakeRoller

キー名	キー値の説明	対応する MIB・OID
Status	ブレーキローラーの状態 1：交換不要 2：交換時期間近 3：交換時期を過ぎた	componentInfoStatus 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.4.1

キー名	キー値の説明	対応する MIB・OID
Descr	Status の説明 1 : BRAKE ROLLER Normal 2 : BRAKE ROLLER Replace soon 3 : BRAKE ROLLER Replace now	componentInfoDescr 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.7.1

■ PickRoller

キー名	キー値の説明	対応する MIB・OID
Status	ピックローラーの状態 1 : 交換不要 2 : 交換時期間近 3 : 交換時期を過ぎた	componentInfoStatus 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.4.2
Descr	Status の説明 1 : PICK ROLLER Normal 2 : PICK ROLLER Replace soon 3 : PICK ROLLER Replace now	componentInfoDescr 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.7.2

■ TrapEvent

エラーがない場合は、TrapEvent セクションはありません。

キー名	キー値の説明	対応する MIB・OID
Status	ハードエラーの状態 3 : エラー	componentInfoStatus 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.4.3
Datetime	ハードエラーの発生日時 例 : 20xx/04/10 12:45:29	componentInfoDatetime 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.5.3
DetailCode	ハードエラーの詳細コード 例 : 8F060001	componentInfoDatailCode 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.6.3
Descr	ハードエラー情報を示す文字列 (最大文字数は 91 文字) 例 : Scanner parts replacement notification was detected. [044400, 00:EEPROM error]	componentInfoDatailDescr 1.3.6.1.4.1.18886.1.2.2.3.1.1.7.3

E.3 SNMP トラップ通知

SNMP トラップの OID は、以下のとおりです。

1.3.6.1.4.1.18886.1.2.1

SNMP トラップの形式は、以下のとおりです。

発生日時, 発生元, IP アドレス, 機種名, シリアル番号, イベント種別, メッセージ
コード, メッセージ

発生日時 : メッセージ通知日時
(形式 : MM.DD.YYYY hh:mm:ss AM または PM)

発生元 : メッセージ通知したコンピュータ名

IP アドレス : メッセージ通知したコンピュータの IP アドレス

機種名 : メッセージ通知が発生したスキャナの機種名

シリアル番号 : メッセージ通知が発生したスキャナのシリアル番号 (10 桁)

イベント種別 : メッセージのタイプ (*1)

メッセージコード : メッセージのコード (*2)(*3)

メッセージ : メッセージの内容 (*2)(*4)

(*1): イベント種別は、以下のとおりです。

Information : 情報の場合

Error : エラーの場合

Warning : 警告の場合

Test : テストの場合

(*2): メッセージコード、メッセージの詳細は、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。なお、メッセージは英語で表示されるため、メッセージコードを参考にしてメッセージの内容を確認してください。

(*3): テスト送信の場合は、「0F090000」となります。

(*4): テスト送信の場合は、「This is a test message from Network Scanner」となります。

付録 F

User Editor で編集する

管理者

利用者

User Editor を使用してメールアドレス台帳およびローカルアカウントを編集する方法を説明します。

利用者が操作する場合、設定内容などわからないことがありましたら、管理者に連絡してください。

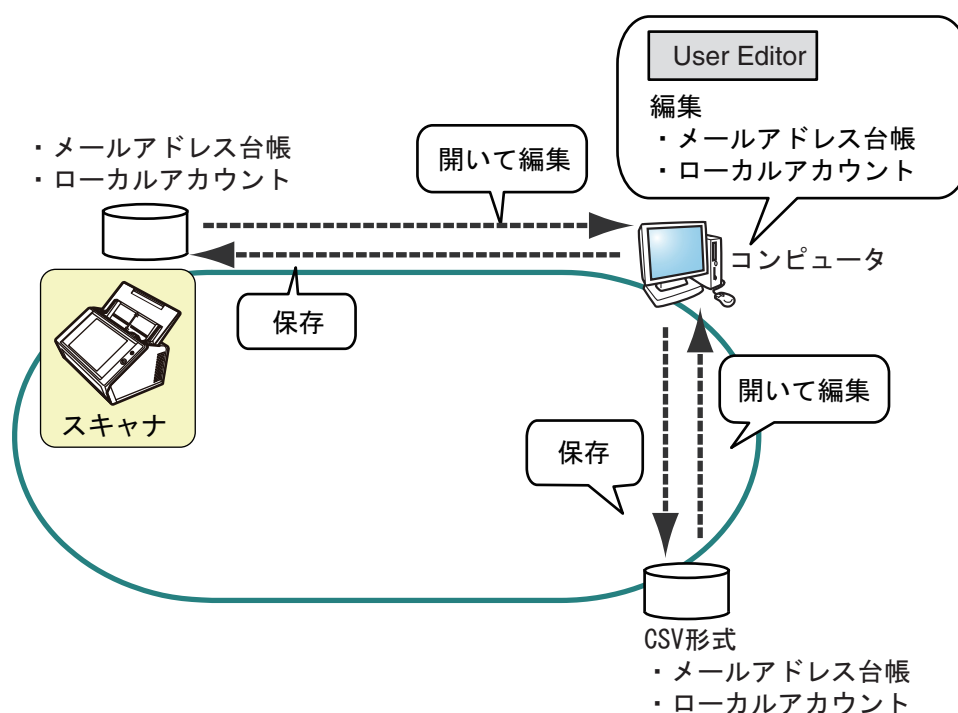
F.1 User Editor とは	428
F.2 事前設定	429
F.3 User Editor の画面	431
F.4 User Editor の起動 / 終了	433
F.5 メールアドレス台帳 / ローカルアカウントを開く	435
F.6 メールアドレス台帳を編集する	438
F.7 ローカルアカウントを編集する	444
F.8 編集内容を破棄する	446
F.9 メールアドレス台帳 / ローカルアカウントを保存する	447
F.10 ユーザーログに表示される User Editor の詳細情報	449
F.11 システムログに表示される User Editor の詳細情報	450

F.1 User Editor とは

User Editor とは、スキャナのメールアドレス台帳（My List）およびローカルアカウントを編集するためのアプリケーションです。

User Editor をインストールしたコンピュータからネットワーク経由でスキャナに接続することで、スキャナのメールアドレス台帳またはローカルアカウントを、コンピュータ上で編集できます。

また、スキャナのメールアドレス台帳またはローカルアカウントをファイル（CSV 形式）に出力したり、ファイル（CSV 形式）から大量のメールアドレスやローカルアカウントをスキャナに取り込んで保存する、といった操作が簡単にできます。



- メールアドレス台帳の編集

利用者は User Editor を使用して、メールアドレス台帳（My List）を編集できます。User Editor では、メールアドレス台帳にグループを作成できるため、グループごとに、メールアドレスを目的別に分類して、管理できます。

- ローカルアカウントの編集

管理者は User Editor を使用して、スキャナに保持するローカルアカウントを作成し、スキャナに保存できます。ローカルアカウントは、スキャナへの認証時に使用できます。

F.2 事前設定

User Editor を使用するために必要な動作環境については、「[1.5.1 Admin Tool・User Editor の動作環境](#)」(P.40) を参照してください。

使用するポート番号については、「[1.5.3 使用するポート番号一覧](#)」(P.47) を参照してください。

F.2.1 User Editor をインストールする

ネットワーク経由でスキャナのメールアドレス台帳またはローカルアカウントを編集するには、User Editor をコンピュータにインストールします。

1. 「[3.2 ソフトウェアのダウンロード画面を表示する](#)」(P.61) を参照し、ダウンロード画面を表示します。
⇒ ダウンロード画面が表示されます。
2. 「**Network Scanner User Editor のダウンロード**」の[次へ]ボタンを押します。
⇒ Network Scanner User Editor のダウンロード画面が表示されます。
3. [ダウンロード] ボタンを押します。

重要

- 管理者または利用者がスキャナで操作中の場合、ダウンロードできません。
- フォルダーのパス長がファイル名を含めて 259 文字以上の場合、正常にインストールできません。パス長が短くなるようインストールするフォルダーを指定してください。

ヒント

.NET Framework がインストールされていない場合は、.NET Framework のインストールを確認する画面が表示されます。

[はい] ボタンを押して、.NET Framework をインストール後、再度[手順 1](#)から操作してください。

⇒ 以降は、画面の指示に従って操作を進めてください。

「インストールが完了しました。」と表示されればインストール終了です。[閉じる] ボタンを押してください。

⇒ インストールが完了すると、User Editor を起動できます。

User Editor の起動方法については、「[F.4 User Editor の起動 / 終了](#)」(P.433) を参照してください。

F.2.2 User Editor をアンインストールする

User Editor のアンインストールは、インストールしたコンピュータの「コントロールパネル」から「プログラム」の「プログラムと機能」を選択して行います。

重要

アンインストールする前に、User Editor を終了してください。

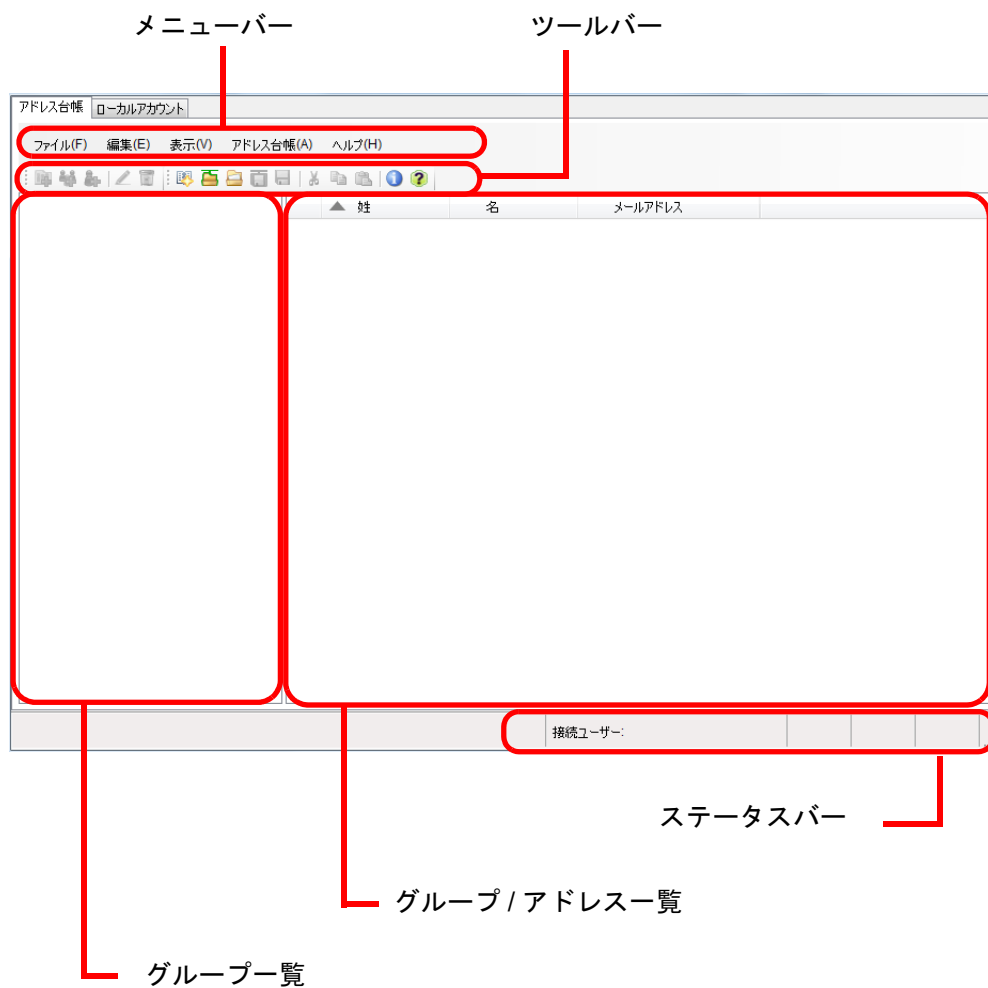
User Editor を起動したままアンインストール処理を完了した場合、起動されている User Editor の動作は保証できません。

F.3 User Editor の画面

User Editor の画面には、「アドレス台帳」タブと「ローカルアカウント」タブがあります。
各画面の詳細は、以下のとおりです。

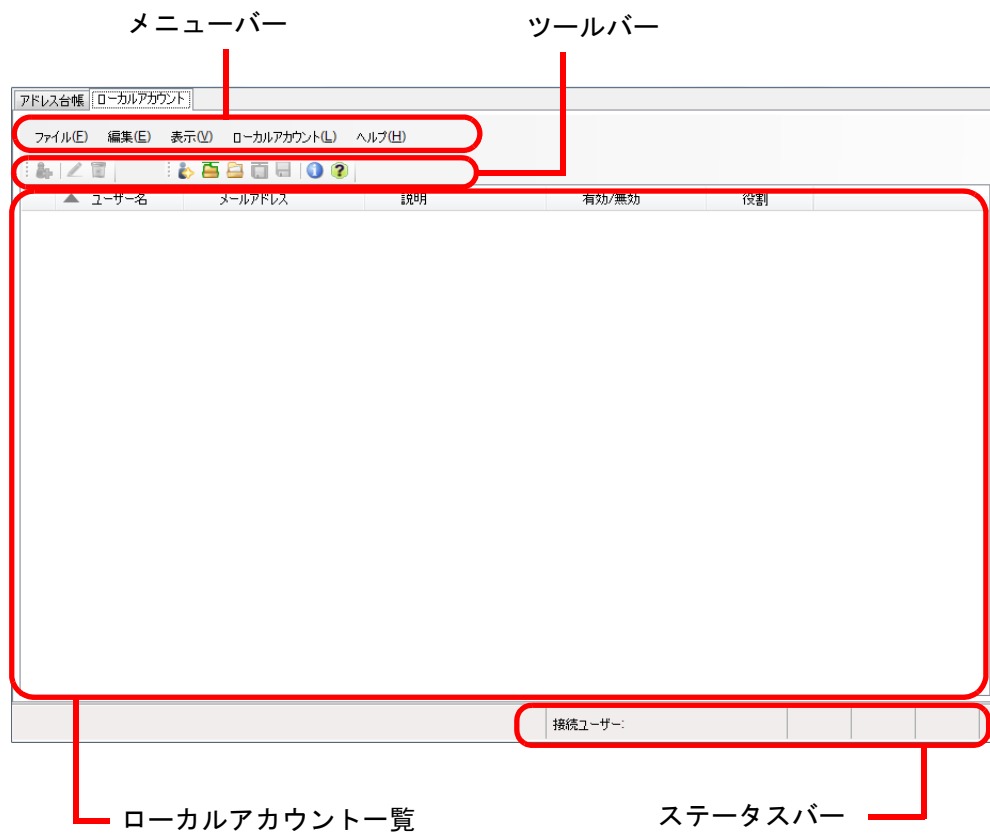
- 「アドレス台帳」タブ

メールアドレス台帳を編集します。



● 「ローカルアカウント」 タブ

スキャナに保持するローカルアカウントを編集します。

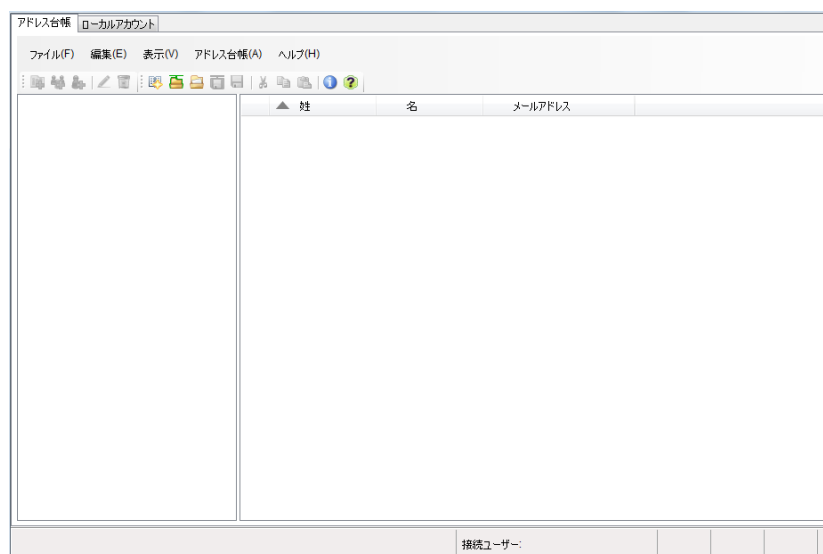


F.4 User Editor の起動 / 終了

■ User Editor を起動する

1. User Editor を起動します。

- Windows Server 2012
スタート画面を右クリックし、アプリバーの「すべてのアプリ」→「Network Scanner」の「Network Scanner User Editor」を選択します。
 - Windows Server 2012 R2
スタート画面左下にある「↓」→「Network Scanner」の「Network Scanner User Editor」を選択します。
「↓」はマウスを動かすと表示されます。
 - Windows 10/Windows Server 2016/Windows Server 2019/Windows Server 2022
「スタート」メニュー→「Network Scanner」→「Network Scanner User Editor」を選択します。
 - Windows 11/Windows Server 2025
「スタート」メニュー→「すべてのアプリ」→「Network Scanner」→「Network Scanner User Editor」を選択します。
- ⇒ User Editor の画面が表示されます。



■ User Editor を終了する

1. 「ファイル」メニュー → 「終了」を選択します。

⇒ 終了確認の画面が表示されます。

2. [OK] ボタンを押します。

⇒ User Editor が終了します。

F.5 メールアドレス台帳 / ローカルアカウントを開く

メールアドレス台帳またはローカルアカウントを開いて、表示します。

■ スキャナから開く

スキャナから、メールアドレス台帳またはローカルアカウントを開きます。

1. メールアドレス台帳を開く場合、「アドレス台帳」タブを選択します。
ローカルアカウントを開く場合、「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「ファイル」メニュー → 「スキャナから開く」を選択します。
 - ツールバーの「スキャナから開く」ボタンを押します。⇒ 「スキャナから開く」画面が表示されます。
3. スキャナに接続するための情報を入力します。

- 「接続先」に、スキャナの IP アドレス、ホスト名、または FQDN 名を入力します。
 - IP アドレスを入力する場合、「xxx.xxx.xxx.xxx」(xxx は 0 ～ 255 の値) の形式で入力します。
 - ホスト名または FQDN 名を入力する場合、最大文字数は半角 255 文字です。
- 「接続先ポート番号」に、スキャナとの通信に使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で入力します。初期値は 80 です。
また、スキャナからの通信で HTTPS を使用する場合に、「https」チェックボックスにチェックを付けます。
- 「ユーザー名」に、スキャナにログインするユーザー名を指定します。
- 「パスワード」に、スキャナにログインするユーザーのパスワードを入力します。

ヒント

スキャナにログインできるユーザーで接続してください。

- メールアドレス台帳を編集する場合、利用者権限のユーザーで接続します。
- ローカルアカウントを編集する場合、管理者 (admin) または User Editor で作成したローカルアカウントの管理者で接続します。なお、新規作成の場合は、管理者 (admin) で接続します。

4. 「開く」ボタンを押します。
⇒ メールアドレス台帳またはローカルアカウントが表示されます。

■ ファイルから開く

ファイルから、メールアドレス台帳またはローカルアカウントを開きます。

1. メールアドレス台帳を開く場合、「アドレス台帳」タブを選択します。
ローカルアカウントを開く場合、「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「ファイル」メニュー→「ファイルから開く」を選択します。
 - ツールバーの「ファイルから開く」ボタンを押します。
 ⇨ ファイルを開くための画面が表示されます。
3. ファイルを選択して、「開く」ボタンを押します。
 - ⇨ メールアドレス台帳またはローカルアカウントが表示されます。

■ ファイルから開けるメールアドレス台帳のファイル形式

ファイルから開けるメールアドレス台帳のファイル形式について説明します。
User Editor では、CSV 形式のメールアドレス台帳を開いて編集できます。

- ファイルの文字コードはシフト JIS (Shift_JIS) です。
- CSV 形式で以下のように記述してください。
" ユーザー名 "," グループ "," 同報リスト名 "," 名 "," 姓 "," メールアドレス "
各項目の内容は、以下のとおりです。

項目名	値の形式
ユーザー名	ユーザー名を指定します。
グループ	グループ名を指定します。(*) グループ名の先頭には「¥」を指定します (例 : ¥group01)。 グループの階層を指定する場合「¥」で区切ります (例 : ¥group01¥group02)。 「;」 および 「@」 は、「_」に置き換えられます。
同報リスト名	同報リスト名を指定します。(*) メールアドレスを複数指定する場合、「;」で区切ります。 「;」 および 「@」 は、「_」に置き換えられます。
名	名を指定します。(*)
姓	姓を指定します。(*)
メールアドレス	「メールアドレス」の設定値については、 「B.1 メールアドレスの設定値」(P.402) を参照してください。 同報リストには、最大 100 件のメールアドレスを設定できます。

- (*): 指定できる最大文字数は 64 文字です。
語頭および語尾の空白は省略されます。

■ ファイルから開けるローカルアカウントのファイル形式

ファイルから開けるローカルアカウントのファイル形式について説明します。
User Editor では、CSV 形式のローカルアカウントを開いて編集できます。

- ファイルの文字コードはシフト JIS (Shift_JIS) です。
- CSV 形式で以下のように記述してください。
"ユーザー名","パスワード","メールアドレス","説明","有効 / 無効","役割"
各項目の内容は、以下のとおりです。

項目名	値の形式
ユーザー名	ユーザー名を指定します。
パスワード	パスワードを指定します。
説明	アカウントの説明を指定します。
メールアドレス	「メールアドレス」の設定値については、 「B.1 メールアドレスの設定値」(P.402) を参照してください。
有効 / 無効	ローカルアカウントが有効かどうかを指定します。 「0」: ローカルアカウントが無効であることを示します。 「1」: ローカルアカウントが有効であることを示します。
役割	ローカルアカウントに管理者権限があるかどうかを指定します。 「0」: 管理者権限がない標準ユーザーを示します。 「1」: 管理者権限があるユーザーを示します。

F.6 メールアドレス台帳を編集する

メールアドレス台帳を編集します。

メールアドレス台帳には、最大 5,000 件のグループ、同報リスト、およびメールアドレスを登録できます。

F.6.1 グループを設定する

メールアドレス台帳にグループを設定します。

グループには、同報リストおよびメールアドレスを複数登録できるため、メールの送信先を目的別に分類して管理できます。グループの配下にグループを作成することもできます。

また、メールの送信先にグループを指定すると、グループに登録されているすべての同報リストおよびメールアドレスに、同じ内容のメールを同時に送信できます。

グループは 5 階層まで作成できます。

■ グループを追加する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. グループ一覧で、追加先のグループを選択します。
3. 以下のどちらかの方法で、「グループ追加」画面を表示します。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「グループ追加」を選択します。
 - ツールバーの「グループ追加」ボタンを押します。
4. 「グループ名」を入力します。
最大文字数は 64 文字です。以下の文字は使用できません。
¥ ; @

場所 ¥

グループ名

OK キャンセル

5. [OK] ボタンを押します。
⇒ グループが追加されます。

■ グループ名を変更する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. グループ一覧で、変更するグループ名を選択します。
3. 以下のどちらかの方法で、「グループ編集」画面を表示します。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「プロパティ」を選択します。
 - ツールバーの「プロパティ」ボタンを押します。
4. 「グループ名」を入力します。
5. 「OK」ボタンを押します。
⇒ グループ名が変更されます。

■ グループを削除する

重要

グループを削除すると、グループに属している配下のグループおよびメールアドレスも削除されます。

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. グループ一覧で、削除するグループを選択します。
3. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「削除」を選択します。
 - ツールバーの「削除」ボタンを押します。⇒ 削除確認の画面が表示されます。
4. 「OK」ボタンを押します。
⇒ グループが削除されます。

F.6.2 同報リストを設定する

メールアドレス台帳に同報リストを設定します。
同報リストには、複数のメールアドレスを登録できます。
また、メールの送信先に同報リストを指定すると、同報リストに登録されているすべてのメールアドレスに、同じ内容のメールを同時に送信できます。

■ 同報リストを追加する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. 追加先のグループを選択します。
3. 以下のどちらかの方法で、「同報リスト追加」画面を表示します。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「同報リスト追加」を選択します。
 - ツールバーの「同報リスト追加」ボタンを押します。

4. 追加する同報リストの情報を入力します。

「同報リスト名」および同報リストに含める「メールアドレス」を入力します。
「同報リスト名」の最大文字数は 64 文字です。半角および全角文字が使用できます。以下の文字は使用できません。

；@

「メールアドレス」の設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。

同報リストには、最大 100 件のメールアドレスを設定できます。メールアドレスを複数指定する場合、「;」で区切ります。

5. 「OK」ボタンを押します。
⇒ 同報リストが追加されます。

■ 同報リストを変更する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. 変更する同報リストを選択します。
3. 以下のどちらかの方法で、「アドレス編集」画面を表示します。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「プロパティ」を選択します。
 - ツールバーの「プロパティ」ボタンを押します。
4. 変更する内容に書き換えます。
5. 「OK」ボタンを押します。
⇒ 同報リストの内容が変更されます。

■ 同報リストを削除する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. 削除する同報リストを選択します。
3. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「削除」を選択します。
 - ツールバーの「削除」ボタンを押します。⇒ 削除確認の画面が表示されます。
4. 「OK」ボタンを押します。
⇒ 同報リストが削除されます。

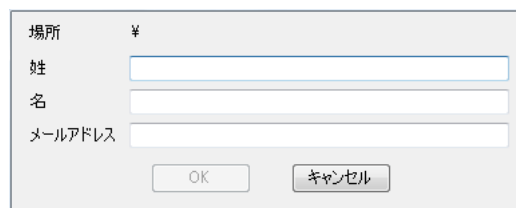
F.6.3 メールアドレスを設定する

メールアドレス台帳にメールアドレスを設定します。

■ メールアドレスを追加する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. 追加先のグループを選択します。
3. 以下のどちらかの方法で、「アドレス追加」画面を表示します。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「アドレス追加」を選択します。
 - ツールバーの「アドレス追加」ボタンを押します。
4. 追加するメールアドレスの情報を入力します。

「姓」および「名」の最大文字数は 64 文字です。半角および全角文字が使用できます。なお、「姓」、「名」は省略できます。
「メールアドレス」の設定値については、「[B.1 メールアドレスの設定値](#)」(P.402)を参照してください。



場所	¥
姓	
名	
メールアドレス	
OK キャンセル	

5. 「OK」ボタンを押します。
⇒ メールアドレスが追加されます。

■ メールアドレスを変更する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. 変更するメールアドレスを選択します。
3. 以下のどちらかの方法で、「アドレス編集」画面を表示します。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「プロパティ」を選択します。
 - ツールバーの「プロパティ」ボタンを押します。
4. 変更する内容に書き換えます。
5. 「OK」ボタンを押します。
⇒ メールアドレスの情報が変更されます。

■ メールアドレスを削除する

1. 「アドレス台帳」タブを選択します。
2. 削除するメールアドレスを選択します。
3. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「アドレス台帳」メニュー → 「削除」を選択します。
 - ツールバーの「削除」ボタンを押します。⇒ 削除確認の画面が表示されます。
4. 「OK」ボタンを押します。
⇒ メールアドレスが削除されます。

F.7 ローカルアカウントを編集する

スキャナ内部に保持するローカルアカウントを編集します。
ローカルアカウントは、最大 100 件登録できます。

F.7.1 ローカルアカウントを追加する

1. 「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 以下のどちらかの方法で、「アカウント追加」画面を表示します。
 - 「ローカルアカウント」メニュー → 「アカウント追加」を選択します。
 - ツールバーの「アカウント追加」ボタンを押します。
3. 追加するローカルアカウントの情報を入力します。

- 「ユーザー名」、「パスワード」、および「確認パスワード」の最大文字数は 64 文字です。半角および全角文字が使用できます。なお、パスワードの英大文字と英小文字は区別されます。
- 「メールアドレス」の設定値については、[「B.1 メールアドレスの設定値」\(P.402\)](#) を参照してください。
- 「説明」に、アカウントの説明を入力します。最大文字数は 256 文字です。英大文字と英小文字は区別されます。
- 「有効/無効」で、アカウントを有効にするかどうかを選択します。「無効」にした場合、そのユーザーでログインできません。
- 「役割」で、利用者にする場合は「標準ユーザー」を選択し、管理者にする場合は「管理者」を選択します。

重要

- 以下のユーザー名は使用できません。
guest、admin、fi-maintenance、fi-maintenance-ad、scanner、scanner-ad
- ユーザー名の先頭および末尾に空白を入れた場合、削除されます。
- パスワードおよび説明は、空白を使用できます。

4. [OK] ボタンを押します。
⇒ ローカルアカウントが追加されます。

F.7.2 ローカルアカウントを変更する

1. 「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 変更するローカルアカウントを選択します。
3. 以下のどちらかの方法で、「アカウント編集」画面を表示します。
 - 「ローカルアカウント」メニュー → 「プロパティ」を選択します。
 - ツールバーの「プロパティ」ボタンを押します。
4. 変更する内容に書き換えます。
5. 「OK」ボタンを押します。
 - ⇒ ローカルアカウントの内容が変更されます。

F.7.3 ローカルアカウントを削除する

1. 「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 削除するローカルアカウントを選択します。
3. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「ローカルアカウント」メニュー → 「削除」を選択します。
 - ツールバーの「削除」ボタンを押します。
 - ⇒ 削除確認の画面が表示されます。
4. 「OK」ボタンを押します。
 - ⇒ ローカルアカウントが削除されます。

F.8 編集内容を破棄する

編集中のメールアドレス台帳またはローカルアカウントの編集内容を破棄して、起動時の状態にします。

1. メールアドレス台帳の編集内容を破棄する場合、「アドレス台帳」タブを選択し
ローカルアカウントの編集内容を破棄する場合、「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 「ファイル」メニュー → 「編集を破棄」を選択します。
⇒ 破棄確認の画面が表示されます。
3. [OK] ボタンを押します。
⇒ 編集内容が破棄され、起動時の状態になります。

F.9 メールアドレス台帳 / ローカルアカウントを保存する

編集したメールアドレス台帳またはローカルアカウントを保存します。

■ スキャナに保存する

編集したメールアドレス台帳を、スキャナに保存します。

メールアドレス台帳をスキャナに保存すると、編集内容が My List に反映されます。

1. メールアドレス台帳を保存する場合、「アドレス台帳」タブを選択します。
ローカルアカウントを保存する場合、「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「ファイル」メニュー → 「スキャナへ保存」を選択します。
 - ツールバーの「スキャナへ保存」ボタンを押します。
⇒ 「スキャナへ保存」画面が表示されます。
3. スキャナに接続するための情報を入力します。



- 「接続先」に、スキャナの IP アドレス、ホスト名、または FQDN 名を入力します。
 - IP アドレスを入力する場合、「xxx.xxx.xxx.xxx」(xxx は 0 ～ 255 の値) の形式で入力します。
 - ホスト名または FQDN 名を入力する場合、最大文字数は半角 255 文字です。
- 「接続先ポート番号」に、スキャナとの通信に使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で入力します。初期値は 80 です。
また、スキャナからの通信で HTTPS を使用する場合に、「https」チェックボックスにチェックを付けます。
- 「ユーザー名」に、スキャナにログインするユーザー名を指定します。
- 「パスワード」に、スキャナにログインするユーザーのパスワードを入力します。

ヒント

スキャナにログインできるユーザーで接続してください。

- メールアドレス台帳を編集する場合、利用者権限のユーザーで接続します。
- ローカルアカウントを編集する場合、管理者権限のユーザーで接続します。

4. 「保存」ボタンを押します。
⇒ メールアドレス台帳またはローカルアカウントがスキャナに保存されます。

■ ファイルに保存する

編集したメールアドレス台帳を、ファイル（CSV 形式）に保存します。

1. メールアドレス台帳を保存する場合、「アドレス台帳」タブを選択します。
ローカルアカウントを保存する場合、「ローカルアカウント」タブを選択します。
2. 以下のどちらかの操作をします。
 - 「ファイル」メニュー → 「ファイルへ保存」を選択します。
 - ツールバーの「ファイルへ保存」ボタンを押します。⇒ ファイルを保存するための画面が表示されます。
3. 保存先やファイル名を指定して、「保存」ボタンを押します。
⇒ メールアドレス台帳またはローカルアカウントが CSV 形式で保存されます。

F.10 ユーザーログに表示される User Editor の詳細情報

管理者の画面および利用者の画面の「ユーザーログ」画面では、User Editor のユーザーログを参照できます。

ユーザーログに表示される User Editor の項目は、以下のとおりです。

項目名	表示形式	説明
操作	Remote	User Editor からメールアドレス台帳が取得されました。または、User Editor からメールアドレス台帳を更新しました。
ページ	0	必ず、0 が表示されます。

上記以外の項目やユーザーログの詳細情報を参照する方法については、以下を参照してください。

- 管理者が「ユーザーログ」画面で参照する場合
「[ユーザーログの詳細情報を参照する](#)」(P.161)
- 利用者が「ユーザーログ」画面で参照する場合
「[5.11.1 完了した送信動作（ユーザーログ）の詳細情報を参照する](#)」(P.318)

F.11 システムログに表示される User Editor の詳細情報

管理者の画面の「システムログ」画面では、User Editor のシステムログを参照できます。

システムログに表示される User Editor の項目は、以下のとおりです。

項目名	表示形式	説明
種別	情報	User Editor からローカルアカウント情報が取得されました。または、User Editor からローカルアカウント情報を更新しました。

上記以外の項目やシステムログの詳細情報を参照する方法については、「[システムログの詳細情報を参照する](#)」(P.163) を参照してください

付録 G

IPv6 環境設定

管理者

利用者

IPv6 環境設定について説明します。

G.1 本スキャナでの IPv6 対応について	452
G.2 本スキャナでの IPv6 環境設定手順	453
G.3 IPv6 通信環境を設定する.....	456
G.4 IPv6 機能の設定情報の持ち回り	462

G.1 本スキャナでの IPv6 対応について

設定項目の IPv6 対応については、「[G.2.2 連携サーバ](#)」(P.454) を参照してください。

■ IPv6 対応されないソフトウェア

- User Editor

IPv6 アドレスは未サポートです。

IPv4 または IPv4/IPv6 デュアルスタックのネットワーク環境から、IPv4 アドレスで接続してください。

- Central Admin Server/Central Admin Console

IPv6 アドレスは未サポートです。

IPv4 または IPv4/IPv6 デュアルスタックのネットワーク環境から、IPv4 アドレスで接続してください。

G.2 本スキャナでの IPv6 環境設定手順

G.2.1 IPv6 機能の導入手順

以下の手順で、IPv6 機能を導入します。

■ IPv6 機能を有効にする

1. 管理者がタッチパネルまたは Admin Tool からスキャナにログインします。
詳細は、「[4.2 ログインする](#)」(P.71) を参照してください。
2. タッチパネルを使用する場合は「管理メニュー」画面で、動作モードを「Advanced」に設定します。
詳細は、「[4.3.1 動作モードを設定する](#)」(P.76) を参照してください。
3. 「ネットワーク設定」の「ネットワーク詳細設定」画面で、IPv6 機能を「有効」に設定します。
詳細は、「[4.7.8 ネットワークの詳細設定をする](#)」(P.107) を参照してください。

■ IPv6 通信環境を設定する

1. 管理者がタッチパネルまたは Admin Tool からスキャナにログインします。
詳細は、「[4.2 ログインする](#)」(P.71) を参照してください。
2. 各種ネットワークの設定をします。
3. 設定がすべて完了したら、[ログアウト] ボタンを押します。

■ IPv6 でオフィス機能を利用する

1. 利用者がタッチパネルからスキャナにログインします。
詳細は、「[5.3 利用者モードでログインする](#)」(P.225) を参照してください。
2. IPv6 通信環境で設定した送信先を指定して、スキャン操作を実行します。

G.2.2 連携サーバ

IPv6 機能有効時の連携サーバ設定、接続先における IPv6 アドレスの使用可否は、以下のとおりです。

項目		IPv4 アドレス	IPv6 アドレス	備考
管理者設定	IPv4 アドレス	○	対象外	「IP アドレス」画面が「IPv4 アドレス」画面に切り替わります。
	IPv6 アドレス	対象外	○	「IPv6 アドレス」画面が追加されます。
	DNS サーバ (IPv4)	○	対象外	「DNS サーバ」画面が「DNS サーバ (IPv4)」画面に切り替わります。
	DNS サーバ (IPv6)	対象外	○	「DNS サーバ (IPv6)」画面が追加されます。
	NTP サーバ	○	—	
	プロキシサーバ	○	○	
	SNMP 連携	○	—	
	Ping	○	○	
	ネットワーク状態	○	○	IPv6 関連の情報が追加されます。
	Scanner Central Admin Server	○	—	
	ログイン LDAP サーバ	○	○	
	メールアドレス LDAP サーバ	○	○	
	SMTP サーバ	○	○	

項目		IPv4 アドレス	IPv6 アドレス	備考
管理者設定	FAX サーバ	○	○	FAX サーバのメールアドレスの @ 以降に IPv6 に対応したフルドメイン名を指定可能 ただし、メールアドレスの @ 以降に IPv6 アドレスは指定不可
	ネットワーク共有フォルダー	○	○	直接入力時に IPv6 アドレスを指定可能
	FTP フォルダー	○	○	FTP フォルダーのパス名に IPv6 アドレスを指定可能
	SharePoint フォルダー	○	○	URL に IPv6 アドレスを指定可能
	ネットワーク共有プリンター	○	○	直接入力時に IPv6 アドレスを指定可能
	異常通知先	○	○	メールアドレスの @ 以降に IPv6 に対応したフルドメイン名を指定可能 ただし、メールアドレスの @ 以降に IPv6 アドレスは指定不可
Admin Tool	ログイン画面	○	○	
User Editor	ログイン画面	○	—	
Internet Explorer	N7100E に接続時のログイン画面	○	○	

○：使用できます。 —：使用できません。

G.2.3 使用するポート番号一覧

機能	接続方向	ポート番号	プロトコル番号
DHCP（アドレス自動構成）	スキャナ ⇄ DHCP サーバ	546 (DHCPv6)	17 (UDP)
Ping	スキャナ ⇄ サーバまたはコンピュータ	なし	58 (IPv6-ICMP)

G.3 IPv6 通信環境を設定する

「ネットワーク設定」の「ネットワーク詳細設定」画面で、IPv6 機能を「有効」に設定すると、IPv6 機能有効時のメニューに切り替わり、IPv6 関連の設定が可能になります。ここでは、IPv6 機能を有効にした場合に変更になる画面について説明します。

- 「G.3.1 IPv4 アドレスを設定する」(P.456)
- 「G.3.2 IPv6 アドレスを設定する」(P.457)
- 「G.3.3 DNS サーバ (IPv4) を設定する」(P.459)
- 「G.3.4 DNS サーバ (IPv6) を設定する」(P.460)
- 「G.3.5 ネットワークの動作状態を確認する」(P.461)

G.3.1 IPv4 アドレスを設定する タッチパネル AdminTool

ネットワークに接続するためにスキヤナの IPv4 アドレスを指定します。

1. 「ネットワーク設定」の「IPv4 アドレス」を選択します。

⇒ 「IPv4 アドレス」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > IPv4アドレス

IPv4アドレスを設定します。

設定方法
DHCP

IPアドレス

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

- IP アドレスが重複した場合、正しく通信できません。その場合は以下の対処をしてください。
 1. LAN ケーブルを抜きます。
 2. タッチパネルの「電源切断」ボタンを押して、スキャナの電源を切断します。
 3. LAN ケーブルを抜いたままの状態、電源ボタンを押してスキャナを起動します。
 4. 重複しない IP アドレスを設定します。
 5. LAN ケーブルを接続します。
- Admin Tool から IP アドレスを変更した場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、Admin Tool を一度切断し、再接続してください。IP アドレスで再接続する場合は、新しく設定した IP アドレスで接続してください。

G.3.2 IPv6 アドレスを設定する タッチパネル AdminTool

ネットワークに接続するためにスキャナの IPv6 アドレスを指定します。

1. 「ネットワーク設定」の「IPv6 アドレス」を選択します。

⇒ 「IPv6 アドレス」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > IPv6アドレス

IPv6アドレスを設定します。

設定方法: 自動

RA受信: する

IPアドレス:

サブネット プレフィックス長: 64

デフォルトゲートウェイ:

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。**3. 「設定」ボタンを押します。**

⇒ 入力内容が設定されます。

ヒント

- IP アドレスが重複した場合、正しく通信できません。その場合は以下の対処をしてください。
 1. LAN ケーブルを抜きます。
 2. タッチパネルの「電源切断」ボタンを押して、スキャナの電源を切断します。
 3. LAN ケーブルを抜いたままの状態、電源ボタンを押してスキャナを起動します。
 4. 重複しない IP アドレスを設定します。
 5. LAN ケーブルを接続します。
- Admin Tool から IP アドレスを変更した場合、スキャナとの接続が切れます。設定を継続する場合は、Admin Tool を一度切断し、再接続してください。IP アドレスで再接続する場合は、新しく設定した IP アドレスで接続してください。
- IPv6 アドレスの設定方法が「自動」、または、IPv6 アドレスの設定方法が「手動」で RA 受信が「する」のときに配布される情報は、以下になります。
 - DHCP
 - IP アドレス
 - DNS
 - DNS サフィックス
 - RA
 - サブネット プレフィックス長
 - デフォルトゲートウェイ

G.3.3 DNS サーバ (IPv4) を設定する タッチパネル AdminTool

優先 DNS および代替 DNS を指定します。

1. 「ネットワーク設定」の「DNS サーバ (IPv4)」を選択します。

⇒ 「DNS サーバ (IPv4)」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > DNSサーバ(IPv4)

ネットワーク設定

- IPv4アドレス
- IPv6アドレス
- DNSサーバ(IPv4)**
- DNSサーバ(IPv6)
- WINSサーバ
- NTPサーバ
- プロキシサーバ
- SNMP連携
- SMB 1.0/CIFS

DNSサーバ(IPv4)を設定します。

優先DNS: 0 . 0 . 0 . 0

代替DNS: 0 . 0 . 0 . 0

DNS動的更新:

DNSサフィックス:

完全修飾ドメイン名:

優先順位設定: IPv4

ログアウト 設定

2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

G.3.4 DNS サーバ (IPv6) を設定する タッチパネル AdminTool

優先 DNS および代替 DNS を指定します。

1. 「ネットワーク設定」の「DNS サーバ (IPv6)」を選択します。

⇒ 「DNS サーバ (IPv6)」画面が表示されます。

ネットワーク設定 > DNSサーバ(IPv6)

ネットワーク設定

IPv4アドレス

IPv6アドレス

DNSサーバ(IPv4)

DNSサーバ(IPv6)

WINSサーバ

NTPサーバ

プロキシサーバ

SNMP連携

SMB 1.0/CIFS

DNSサーバ(IPv6)を設定します。

優先DNS

代替DNS

DNS動的更新

☐ しない

DNSサフィックス

完全修飾ドメイン名

優先順位設定

IPv4

ログアウト

設定

2. 各項目を設定します。

3. 「設定」ボタンを押します。

⇒ 入力内容が設定されます。

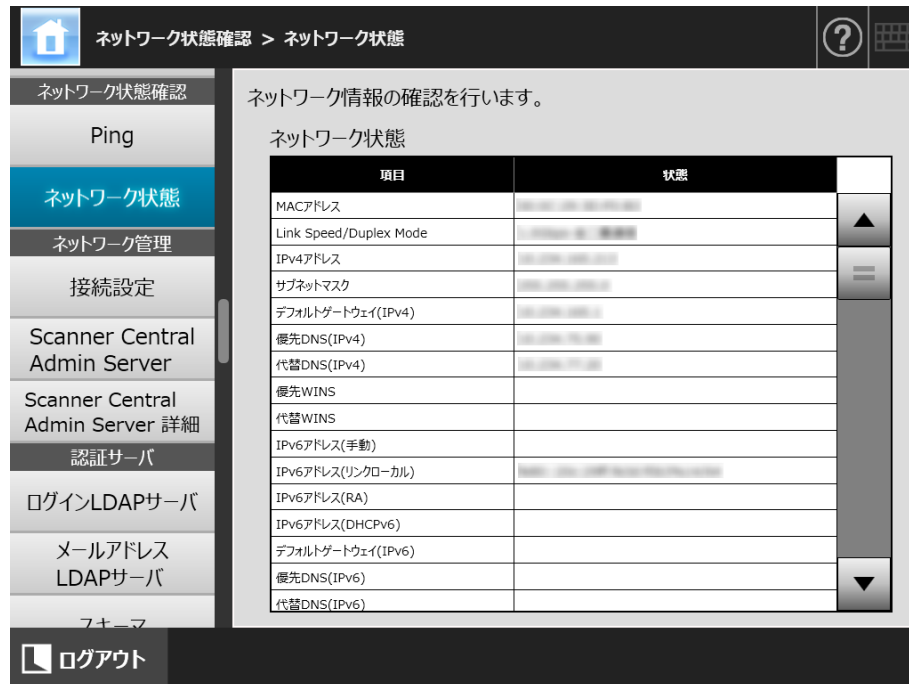
G.3.5 ネットワークの動作状態を確認する タッチパネル AdminTool

ネットワークの動作状態を参照できます。

値が表示されていない場合は、ネットワークが正常に動作していません。[「7.2 ネットワーク通信ができないときには」](#) (P.363) を参照して、設定を確認してください。

1. 「ネットワーク状態確認」の「ネットワーク状態」を選択します。

⇒「ネットワーク状態」画面に、現在動作しているネットワーク状態が表示されます。



ヒント

- LDAP サーバなどに接続できない場合は、以下の対処をしてください。
 1. LAN ケーブルを抜きます。
 2. タッチパネルの「電源切断」ボタンを押して、スキャナの電源を切断します。
 3. LAN ケーブルを抜いたままの状態、電源ボタンを押してスキャナを起動します。
 4. 重複しない IP アドレスを設定します。
 5. LAN ケーブルを接続します。
- IP アドレスの設定方法によって、DHCP サーバと接続できない場合の表示は、以下になります。
 - IPv4 アドレスの設定方法が「DHCP」のとき、IPv4 アドレスは「169.254.X.X」(Xは0～255までの任意の数字)が表示されます。
 - IPv6 アドレスの設定方法が「自動」のとき、または、IPv6 アドレスの設定方法が「手動」で RA 受信が「する」のとき、IPv6 アドレス (DHCPv6) の「状態」は表示されません。RA がない場合は、IPv6 アドレス (RA) の「状態」は表示されません。

G.4 IPv6 機能の設定情報の持ち回り

G.4.1 Central Admin Server からの配信

Central Admin Server からのシステム設定情報を、N7100E に配信した場合、各設定項目の状態は以下のとおりです。

	N7100E
IPv6 機能	—
DNS サーバ (IPv4)	○
DNS サーバ (IPv6)	—
その他の設定項目	○ (*)

○ : 適用します。 — : 適用しません。

(*) : IPv6 アドレスは直接設定できません。FQDN 名またはホスト名で設定してください。

G.4.2 システム設定情報の退避・復元

IPv6 未対応装置（N7100（01.07.01 未満）、N1800、fi-6010N）からの退避 / 復元可否は、以下のとおりです。

退避データ	IPv6 未対応 N7100/N1800/fi-6010N	
復元先	N7100E	
	IPv6 機能：有効	IPv6 機能：無効
IPv6 機能	無効	無効
IP アドレス（IPv4）	○	○
IP アドレス（IPv6）	—	—
DNS サーバ（IPv4）	○	○
DNS サーバ（IPv6）	—	—
その他の設定項目	○	○

○：復元できます。 —：復元できません。

重要

N7100E から退避したシステム情報は、N7100、N1800、fi-6010N へ復元できません。

用語解説

明るさ

読み取った画像の明るさを指します。

インターフェース

コンピュータとスキャナの通信に使用される接続規格です。

片面読み取り

原稿の指定面（片面）だけ読み取るモード（⇔両面読み取り）です。

ガンマ

画像の明るさの変化を示す単位です。機器（スキャナ、ディスプレイなど）への入力電圧と画像の明るさの関数として与えられます。ガンマレートを1以上に設定されている場合、画像は明るくなり、1以下の場合は暗くなります。原稿そのものの明るさを再現する場合は、通常ガンマレートを1に設定します。

原稿検知センサー

原稿の通過を監視して、マルチフィード、原稿づまりなどの搬送異常を検知します。

原稿づまり

搬送路内で原稿がつまった場合、または紙すべりにより給紙が中断された場合に表示されるエラーのことです。

しきい値

ある色を黒または白と判定するために使用される値です。グレースケールのグラデーションを持つ画像を読み取るときは、設定が必要となります。設定したしきい値に従って、各ピクセルは黒または白に変換されます。

縦向き

原稿の長辺を給紙方向と平行にセットする方法です。
原稿が縦にセットされ、画像が縦に表示されます。

超音波センサー

超音波によりマルチフィードを検出するセンサーです。原稿を透過する超音波の差異を監視し、マルチフィードを検出します。

ノイズ

白い（黒い）領域に黒い（白い）点として表示される孤立点です。

排出ローラー

ADF からスタッカーへ原稿を搬送するローラーです。

ピックローラー

ADF 給紙シュートに置かれた原稿をスタッカーへ搬送するローラーです。

フィードローラー

ADF 内で原稿を搬送するローラーです。

プラスチックローラー

ADF 内で原稿を搬送するローラーです。

ブレーキローラー

ADF 給紙シュートの原稿から 1 枚だけ分離させるローラーです。

マルチフィード検出

ADF で読み取る場合に、原稿が複数枚重なった状態で搬送されてしまうのを防止するための機能です。マルチフィード検出する / しないの設定が可能です。

モアレ

格子などの規則的な濃淡がある模様の画像を読み込んだときに発生する可能性がある干渉縞です。

両面読み取り

原稿の両面を一度に読み取るモード（⇔片面読み取りモード）です。

横向き

原稿の短辺を給紙方向と平行にセットする方法です。

A3 キャリアシート

原稿搬送用シートです。

ADF（自動給紙機構）

ADF（Automatic Document Feeder）です。

複数枚の原稿を、自動的に 1 枚ずつ搬送しながら読み取るための搬送機構です。

MMR

ITU-T(CCITT) T.6 圧縮方式です。

読み取り設定画面で画像タイプを「二値白黒」にした場合に使用される圧縮方式です。

修理・お問い合わせ

■修理サービスのご案内

当社では、お客様に安心して本製品をご使用いただけるよう、万全のサポート体制を整えています。

購入時にご加入いただく契約サービスと、必要なときにその都度ご利用いただけるスポットサービスにより、お客様を強力にバックアップいたします。

契約サービス

事前に契約を結んでいただくことで、ご購入後も万全のサポートを提供いたします。

- 定額定期保守サービス
年に1度予防保守を行います。万一の障害発生時には、サービスエンジニアがお客様のものにおうかがいして保守修理作業を実施します。
- 定額訪問修理サービス
万一の障害発生時には、サービスエンジニアがお客様のものにおうかがいして保守修理作業を実施します。

スポットサービス

必要なときに、その都度ご利用いただけます。

- 訪問修理（有償）(*1)
本製品の故障発生時にご連絡いただくと、その後、サービスエンジニアが直接修理にうかがいます。
- 持込 / センドバック修理（有償）(*2) (*3)
本製品の故障発生時にお客様の製品を当社の修理センターで修理します。
- 付加サービス
センドバック修理には、次の付加サービスがあります。
 - (1) 引き取り修理サービス（有償）(*1)
 - (2) 代替機サービス（有償）(*1) (*4)

*1：保証期間中の場合も有償となります。

*2：保証期間内に正常な使用状態で故障した場合は、無償で修理いたします。

*3：センドバック修理で診断を行い交換部品が高額などの理由で修理をキャンセルされた場合は診断料が必要になりますので注意してください。

*4：代替機サービスは、引き取り修理サービスとの併用でご利用できます。代替機サービスだけではご利用いただけません。

詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.pfu.ricoh.com/imaging/contact.html>

本サービスは、予告なく変更される場合があります。詳細は、当社ホームページでご確認いただくか、株式会社 PFU イメージング サービス&サポートセンターまでお問い合わせください。

重要

- 本製品の修理はお客様自身で行わないでください。
- 本製品の保証条件は同梱の当社の保証書の規定をご覧ください。
- 本製品の修理部品の供給期間は販売終了後 5 年間です。

ヒント

保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無償で修理いたします。
保証期間については、保証書を参照してください。

■お問い合わせ窓口

お客様からの本製品全般に関する操作や故障・トラブルのお問い合わせに迅速に対応いたします。

故障・トラブルのお問い合わせのときは、「[7.4 サービスセンターに連絡する前に](#)」(P.387)を参考に必要事項を確認してください。

株式会社 PFU イメージング サービス&サポートセンター

ホームページ <https://www.pfu.ricoh.com/imaging/contact.html>

■サプライ用品の購入先

スキヤナの清掃方法と消耗品の交換方法については、「[第 6 章 スキヤナのお手入れ](#)」(P.334)を参照してください。

清掃用品や消耗品のお問い合わせやご購入については、本製品を購入された販社 / 販売店または株式会社 PFU PFU ダイレクトにお問い合わせください。

株式会社 PFU PFU ダイレクト

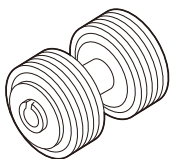
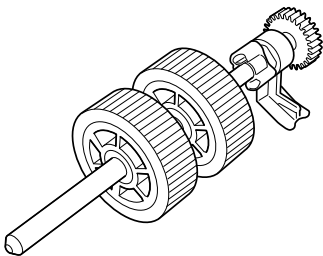
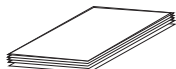
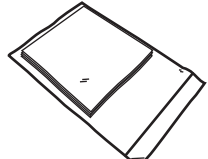
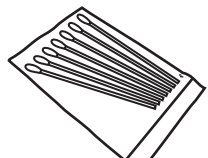
ホームページ <https://www.pfu.ricoh.com/direct/>

ScanAid の購入

ScanAid は、スキャナに必要な消耗品・清掃用品（ローラーセット、クリーナーなど）をまとめた製品です。ScanAid を購入することで、必要な消耗品・清掃用品が一度にそろいます。ScanAid の品名および型名は、以下のとおりです。

品 名	型名
ScanAid	FI-N71SA

ScanAid の梱包品の品名は、以下のとおりです。

清掃用品		消耗品	
品名	備考	品名	備考
クリーナ F1（1本） 	容量：50ml	ローラーセット ● ブレーキローラー  ● ピックローラー 	20 万枚ごとに交換
クリーニングペーパー （1 パック） 	10 枚入り / 1 パック		
クリーニングクロス （1 パック） 	20 枚入り / 1 パック		
綿棒（2 パック） 	50 本入り / 1 パック		

ScanAid のご購入については、「[サプライ用品の購入先](#)」（P.468）を参照してください。

コピーライト

WinPcap

Copyright© 1999 - 2005 NetGroup, Politecnico di Torino (Italy).
Copyright© 2005 - 2010 CACE Technologies, Davis (California).
Copyright© 2010 - 2013 Riverbed Technology, San Francisco (California).
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) Neither the name of the Politecnico di Torino, CACE Technologies, Riverbed Technology nor the names of their contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.

This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Högskolan and its contributors.

This product includes software developed by Yen Yen Lim and North Dakota State University.

Portions Copyright© 1990, 1991, 1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997 The Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors."
- 4) Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright© 1983 Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by the University of California, Berkeley. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Portions Copyright© 1995, 1996, 1997 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden).
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- 3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Högskolan and its contributors."
- 4) Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright© 1997 Yen Yen Lim and North Dakota State University.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes software developed by Yen Yen Lim and North Dakota State University"
- 4) The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright© 1993 by Digital Equipment Corporation.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies, and that the name of Digital Equipment Corporation not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the document or software without specific, written prior permission.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND DIGITAL EQUIPMENT CORP. DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL DIGITAL EQUIPMENT CORPORATION BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Portions Copyright© 1995, 1996, 1997, 1998, and 1999 WIDE Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright© 1996 Juniper Networks, Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that: (1) source code distributions retain the above copyright notice and this paragraph in its entirety, (2) distributions including binary code include the above copyright notice and this paragraph in its entirety in the documentation or other materials provided with the distribution.

The name of Juniper Networks may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Portions Copyright© 2001 Daniel Hartmeier
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright 1989 by Carnegie Mellon.

Permission to use, copy, modify, and distribute this program for any purpose and without fee is hereby granted, provided that this copyright and permission notice appear on all copies and supporting documentation, the name of Carnegie Mellon not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the program without specific prior permission, and notice be given in supporting documentation that copying and distribution is by permission of Carnegie Mellon and Stanford University. Carnegie Mellon makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

WinDump

Copyright© 1999 - 2005 NetGroup, Politecnico di Torino (Italy).
Copyright© 2005 - 2006 CACE Technologies, Davis (California).
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) Neither the name of the Politecnico di Torino, CACE Technologies nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.

Secure iNetSuite

Copyright© 2008 - 2013 Dart Communications

OpenCV/OpenCvSharp

Copyright (c) 2017, shimat
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- 3) Neither the name of the copyright holder nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

OpenSSL

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

Licensing conditions: <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Tesseract

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

Licensing conditions: <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

OpenCV 4.5.x

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

Licensing conditions: <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

jbig2ec

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

Licensing conditions: <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Adobe XMP Toolkit SDK 2014.12

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

The BSD License

Copyright© 1999 - 2014, Adobe Systems Incorporated All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) Neither the name of Adobe Systems Incorporated, nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

OpenJPEG

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

The copyright in this software is being made available under the 2-clauses BSD License, included below. This software may be subject to other third party and contributor rights, including patent rights, and no such rights are granted under this license.

Copyright© 2002-2014, Universite catholique de Louvain (UCL), Belgium
Copyright© 2002-2014, Professor Benoit Macq
Copyright© 2003-2014, Antonin Descampe
Copyright© 2003-2009, Francois-Olivier Devaux
Copyright© 2005, Herve Drolon, FreeImage Team
Copyright© 2002-2003, Yannick Verschueren
Copyright© 2001-2003, David Janssens
Copyright© 2011-2012, Centre National d'Etudes Spatiales (CNES), France
Copyright© 2012, CS Systemes d'Information, France

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS 'AS IS' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Libtiff 3.4-3.9.4

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

Use and Copyright

Copyright© 1988-1997 Sam Leffler
Copyright© 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Zlib

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

ZLIB DATA COMPRESSION LIBRARY

zlib 1.2.12 is a general purpose data compression library. All the code is thread safe. The data format used by the zlib library is described by RFCs (Request for Comments) 1950 to 1952 in the files <http://tools.ietf.org/html/rfc1950> (zlib format), [rfc1951](http://tools.ietf.org/html/rfc1951) (deflate format) and [rfc1952](http://tools.ietf.org/html/rfc1952) (gzip format).

All functions of the compression library are documented in the file `zlib.h` (volunteer to write man pages welcome, contact zlib@gzip.org). A usage example of the library is given in the file `test/example.c` which also tests that the library is working correctly. Another example is given in the file `test/minigzip.c`. The compression library itself is composed of all source files in the root directory.

To compile all files and run the test program, follow the instructions given at the top of `Makefile.in`. In short `./configure; make test`, and if that goes well, `make install` should work for most flavors of Unix. For Windows, use one of the special makefiles in `win32/` or `contrib/vstudio/`. For VMS, use `make_vms.com`.

Questions about zlib should be sent to [<zlib@gzip.org>](mailto:zlib@gzip.org), or to Gilles Vollant [<info@winimage.com>](mailto:info@winimage.com) for the Windows DLL version. The zlib home page is <http://zlib.net/>. Before reporting a problem, please check this site to verify that you have the latest version of zlib; otherwise get the latest version and check whether the problem still exists or not.

PLEASE read the zlib FAQ http://zlib.net/zlib_faq.html before asking for help.

Mark Nelson [<markn@ieee.org>](mailto:markn@ieee.org) wrote an article about zlib for the Jan. 1997 issue of Dr. Dobbs's Journal; a copy of the article is available at <http://marknelson.us/1997/01/01/zlib-engine/>.

The changes made in version 1.2.12 are documented in the file `ChangeLog`.

Unsupported third party contributions are provided in directory `contrib/`.

zlib is available in Java using the `java.util.zip` package, documented at <http://java.sun.com/developer/technicalArticles/Programming/compression/>.

A Perl interface to zlib written by Paul Marquess [<pmqs@cpan.org>](mailto:pmqs@cpan.org) is available at CPAN (Comprehensive Perl Archive Network) sites, including <http://search.cpan.org/~pmqs/IO-Compress-Zlib/>.

A Python interface to zlib written by A.M. Kuchling [<amk@amk.ca>](mailto:amk@amk.ca) is available in Python 1.5 and later versions, see <http://docs.python.org/library/zlib.html>.

zlib is built into tcl: <http://wiki.tcl.tk/4610>.

An experimental package to read and write files in .zip format, written on top of zlib by Gilles Vollant [<info@winimage.com>](mailto:info@winimage.com), is available in the `contrib/minizip` directory of zlib.

Notes for some targets:

- For Windows DLL versions, please see `win32/DLL_FAQ.txt`

- For 64-bit Irix, deflate.c must be compiled without any optimization. With -O, one libpng test fails. The test works in 32 bit mode (with the -n32 compiler flag). The compiler bug has been reported to SGI.
- zlib doesn't work with gcc 2.6.3 on a DEC 3000/300LX under OSF/1 2.1 it works when compiled with cc.
- On Digital Unix 4.0D (formely OSF/1) on AlphaServer, the cc option -std1 is necessary to get gzprintf working correctly. This is done by configure.
- zlib doesn't work on HP-UX 9.05 with some versions of /bin/cc. It works with other compilers. Use "make test" to check your compiler.
- gzdopen is not supported on RISCOS or BEOS.
- For PalmOs, see <http://palmzlib.sourceforge.net/>

Acknowledgments:

The deflate format used by zlib was defined by Phil Katz. The deflate and zlib specifications were written by L. Peter Deutsch. Thanks to all the people who reported problems and suggested various improvements in zlib; they are too numerous to cite here.

Copyright notice:

©1995-2022 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

- 1) The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
- 2) Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
- 3) This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly	Mark Adler
jloup@gzip.org	madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code. We make all contributions to and distributions of this project solely in our personal capacity, and are not conveying any rights to any intellectual property of any third parties.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes. Please read the FAQ for more information on the distribution of modified source versions.

libjpeg-turbo

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

libjpeg-turbo is covered by three compatible BSD-style open source licenses:

The IJG (Independent JPEG Group) License:

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated.

GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated.

The Modified (3-clause) BSD License:

Copyright© 2009-2022 D. R. Commander. All Rights Reserved.

Copyright© 2015 Viktor Szathm  ry. All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of the libjpeg-turbo Project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS", AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE RE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The zlib License:

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

- 1) The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
- 2) Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
- 3) This notice may not be removed or altered from any source distribution.

QRCoder

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

The MIT License (MIT)

Copyright© 2013-2025 Raffael Herrmann
Copyright© 2024-2025 Shane Krueger

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Windows classic samples

In accordance with the license terms of the above software, it shows the licensing statement below.

The MIT License (MIT)

Copyright© Microsoft Corporation

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the right to use, copy, modify, merge, publish,

distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Portions of this repo are provided under the SIL Open Font License.
See the LICENSE file in individual samples for additional details.

Third Party Notices

<https://origin.pfultd.com/downloads/IMAGE/manual/n7100e/ThirdPartyNotices.pdf>

索引

あ

アシストスキャン	313
圧縮	281
圧縮率の設定	289
アップデート	173
アップデート公開チェック	175
アップロード（Add-in 設定情報）	179
穴を開けてはいけない領域	397
アンインストール（Add-in）	178
アンインストール（Admin Tool）	65
アンインストール（User Editor）	430

い

異常通知先の設定	182
印刷	250
印刷位置の設定	258
印刷比率の設定	254
印刷面の設定	260
インストールウィザードの設定	77
インストール（Add-in）	177
インストール（Admin Tool）	63
インストール（Central Admin Console）	66
インストール（Central Admin Server）	66
インストール（User Editor）	429
インデックス情報の出力	303

え

エクステンション	26
エッジ補正	299

お

お手入れ	334
オプション機能の適用状況	160
オフセット	88

か

解像度の設定	279
回転	297
カウンターのリセット	159
カスタム	264
画像タイプの設定	277
カバーオープンレバー	26
画面（管理者）	68
画面（利用者）	222
画面（Admin Tool）	69
画面（User Editor）	431
ガラス	341
環境設定	67
管理者	29
管理者権限	29
管理者パスワード	97

き

機能一覧	416
機能別の設定項目	35
基本仕様	415
キャリアシートの設定	280
キーの配列の変更	418
キーボードの設定	83
キーワード	285

く

クリーンアップ（カラー・グレースケール）	293
クリーンアップ（二値白黒）	294

け

原稿の厚さ	394
原稿のサイズ	393
原稿の種類	394
原稿のセット	215
原稿のセット（A3 キャリアシート）	219
原稿の枚数	396
原稿を貼り付けてはいけない領域	397

こ

交換周期	345
工場出荷時の状態に戻す	172
互換性	406
困ったときには	359

さ

サイドガイド	26
--------	----

し

システム設定	79
システム設定情報の退避	170
システム設定情報の復元	171
システム設定情報の保守	169
システム設定情報の保存	169
システムログの管理	163
システムログの削除	164
システムログの詳細情報の参照	163
システムログのダウンロード	164
事前設定（Admin Tool）	73
事前設定（User Editor）	429

自動ログアウト	95
自動ログアウトの設定	95
修理・お問い合わせ	467
出力ファイルの分割	199
省電力モード	95
省電力モードの設定	95
証明書管理	84
消耗品の交換	345
消耗品の状態	159, 346
初期値	264
ジョブグループに属さないユーザーのジョブメニュー設定	210
ジョブグループの削除	209
ジョブグループの参照追加	208
ジョブグループの詳細設定の参照	209
ジョブグループの設定	205
ジョブグループの追加	205
ジョブグループの編集	208
ジョブ設定	186
ジョブ設定の流れ	188
ジョブ設定メニュー	70
ジョブの削除	197
ジョブの参照追加	196
ジョブの実行	323
ジョブの絞り込み	197
ジョブの設定	190
ジョブの追加	190
ジョブの編集	196
ジョブメニュー	223
ジョブメニューの削除	204
ジョブメニューの参照追加	203
ジョブメニューの詳細設定の参照	204
ジョブメニューの設定	200
ジョブメニューの追加	200
ジョブメニューの編集	203

す

スキャナ詳細設定	89
スキャナ調整	88
スキャナ名の設定	79
スキャン画像の回転	312, 314
スキャン画像の確認	310
スキャン画像の画像タイプの変更	315
スキャン画像の削除	312
スキャン画像の追加	316
スキャン画像の表示	311, 314
スキャン画像を読み取り直後の状態に戻す	314
スキーマの設定	121
スタッカー	26
スタッカーエクステンション 1	27
スタッカーエクステンション 2	27

せ

清掃	335
清掃箇所	336
清掃頻度	336
清掃用品	335
清掃（スキャナ外部）	337
清掃（スキャナ内部）	338
清掃（タッチパネル）	337
清掃（A3 キャリアシート）	344
セキュリティケーブルスロット	27
接続性	410
接続設定	110
設置諸元	414
設定項目の上限値	403
セパレータの削除	316
セパレータの編集	315

そ

操作一覧	29
送信動作（完了）の詳細情報の参照	318
送信動作（実行中）の詳細情報の参照	319
装置情報の参照	158
ソフトキーボード	56

た

対応 MIB	423
タイムゾーンの設定	81
ダウンロード画面の表示	61
タッチパネル	23, 26, 55
タッチパネル調整	358
タッチパネルに表示されている画面の採取	184
縦筋軽減	295

ち

中質紙	395
超音波センサー	341

つ

通気孔	27
-----------	----

て

テキスト認識	281, 284, 287
電源コネクタ	27
電源切断時間	95
電源の切断	51
電源の投入	50
電源ボタン	26, 52
添付ファイル名の設定	127

と

動作環境（連携するサーバ）	42
動作環境（Admin Tool）	40
動作環境（User Editor）	40
動作モード	23
動作モードの設定	76
同報リストの設定	440
特長	22
ドロップアウトカラー	296
トーン調整	292

に

二値化の調整	291
日時の設定	82
入力モードの変更	419

ね

ネットワーク共有フォルダーに保存	261
ネットワーク共有フォルダーの削除	133
ネットワーク共有フォルダーの詳細情報の参照	134
ネットワーク共有フォルダーの登録（直接入力）	132
ネットワーク共有フォルダーの登録（ツリー選択）	130
ネットワーク共有フォルダー名の変更	133
ネットワーク共有プリンターの削除	156
ネットワーク共有プリンターの詳細情報の参照	157
ネットワーク共有プリンターの設定変更	155
ネットワーク共有プリンターの登録（直接入力）	154
ネットワーク共有プリンターの登録（ツリー選択）	152

ネットワーク状態（IPv4）の確認	109
ネットワーク状態（IPv6）の確認	461
ネットワーク設定	99
ネットワークの詳細設定	107

の

ノーカーボン紙	395
---------	-----

は

排出ローラー	341
倍率	88
白紙ページの削除	301
パスワードの変更	97, 333
パッチコードを使ったファイルの分割	331
半透明の原稿	395
バーコード	420

ひ

ピックアップローラー	28, 341, 345
表示&編集	309, 310
表示&編集詳細	312

ふ

ファイル形式の設定	281
ファイルサーバ	44
フィードローラー	341
フォルダー一覧	261
フォルダーに保存	261
プラスチックローラー	341
ブランクページスキップ	301
プリンター一覧	250
プリントサーバ	45
ブレーキローラー	28, 340, 345
プロキシサーバの設定	104

へ

ページの並べ替え310

ほ

保守情報の採取181
 保守情報の採取レベルの設定180
 保存261
 保存ファイル名の設定143
 ポート番号一覧 47, 455

ま

マルチフィード86
 マルチフィードの検出条件398
 マルチフィードの検出設定 86, 302
 マーカー部分の文字列の編集317

め

名称26
 メインメニュー222
 メッセージ表示325
 メニュー 68, 69
 メンテナンス321
 メールアドレス台帳231, 235, 239, 241
 メールアドレス台帳のグループの設定 ...438
 メールアドレス台帳の編集239
 メールアドレス台帳の編集内容の破棄 ...446
 メールアドレス台帳の保存447
 メールアドレス台帳を開く435
 メールアドレスの削除241
 メールアドレスの設定442
 メールアドレスの設定値402
 メールアドレスの追加235
 メールアドレスの入力231
 メールアドレス LDAP サーバの設定120
 メール送信228

メール送信時の動作設定 126
 メール送信 / ファイル保存するときの
 ファイル名 327

も

文字が検索できる PDF 284

ゆ

ユーザー情報 165
 ユーザー情報の削除 168
 ユーザー情報の退避 167
 ユーザー情報の復元 168
 ユーザープリンシパル 119
 ユーザーログ一覧 161
 ユーザーログの管理 161
 ユーザーログの削除 162
 ユーザーログの詳細情報の参照 161, 318
 ユーザーログのダウンロード 162

よ

用語解説 464
 用紙の設定 278
 読み取り設定 264
 読み取りテスト 355
 読み取り枚数の確認 328

り

利用者 29
 利用者権限 29
 利用者ごとの設定 224

る

ルート証明機関一覧 411

ろ

ログイン設定	90
ログイン設定（詳細）	93
ログインLDAPサーバの設定	114
ログイン（管理者）	71
ログイン（利用者）	225
ログイン（Admin Tool）	73
ローラーセット	345
ローラーセットの交換	347

A

Add-in	177
Add-in 情報の参照	178
ADF 給紙シュート	26
Admin Tool	24
Advanced モード	23
A3 キャリアシートの購入	354

B

Basic モード	23
-----------	----

C

Central Admin Console	24
Central Admin Server の設定	111
Central Admin Server（詳細）の設定	113

D

DHCP サーバ	46
DNS サーバ	45
DNS サーバ（IPv4）の設定	101, 459
DNS サーバ（IPv6）の設定	460

F

FAX サーバ	45
---------	----

FAX サーバの設定	128
FAX 送信	242
FAX 送信あて先の削除	249
FAX 送信あて先の追加	246
FAX 送信あて先の入力	244
FAX 番号台帳	244, 246, 249
FAX 番号台帳の編集	248
FTP サーバ	44
FTP フォルダーに保存	261
FTP フォルダーの削除	137
FTP フォルダーの詳細情報の参照	138
FTP フォルダーの設定変更	137
FTP フォルダーの登録	136
FTPS サーバ	44

I

IP アドレス（IPv4）の設定	99, 456
IP アドレス（IPv6）の設定	457
IPv6 機能の導入手順	453

L

LAN Manager 認証レベルの設定	98
LAN コネクター	27
LCD カバー	26
LDAP List	231
LDAP 一覧の絞り込み	198, 211
LDAP 検索条件の設定	122
LDAP サーバ	44, 225
LDAPS サーバ	44
Link Speed/Duplex Mode の設定	107

M

MIB 情報	424
My List	231

N

NTP サーバ	46
NTP サーバの設定	103

P

PDF パスワードロック	281
PDF パスワードロックの設定	283
Ping	108

S

SAM アカウント	119
Scan ボタン	26, 54
ScanAid の購入	469
SharePoint サーバ	45
SharePoint フォルダーに保存	261
SharePoint フォルダーの削除	141
SharePoint フォルダーの詳細情報の参照	142
SharePoint フォルダーの設定	139
SharePoint フォルダーの設定変更	141
SharePoint フォルダーの登録	139
SMB 1.0/CIFS の設定	106
SMTP サーバ	44
SMTP サーバの設定	124
SMTP サーバ（拡張）の設定	125
SNMP トラップ	426
SNMP マネージャー	46
SNMP 連携	422
SNMP 連携の設定	105

U

URL	61, 184
USB コネクタ	27
User Editor	428
User Editor の起動	433

User Editor の終了	434
-----------------	-----

W

Wake On LAN の設定	107
WINS サーバ	45
WINS サーバの設定	102

N7100E オペレーターガイド

P3PC-6702-06Z0

発行日 2026 年 6 月

発行責任 株式会社 PFU

- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社は一切その責任を負いません。
- 無断転載を禁じます。